知識集約型社会を支える人材育成事業
（文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム）

新潟大学
全学分野横断創生プログラム
（NICEプログラム）

自己評価報告書

新潟大学教育基盤機構
令和6年10月

目次

はじめに ····· 1

令和５年度事業の自己評価 ····· 2

資料編 ····· 27

令和６年度外部評価結果 ····· 220

おわりに ····· 235

はじめに

本事業もいよいよ支援期間の最終年度を迎えました。内容向上の支援をしていただいた現地調査委員の先生方、事業の補助金交付等の支援を下さった文部科学省関係者の皆さん、さらには外部評価委員として貴重なお時間を費やしてくださった先生方、そのほかの多くの皆様のお力添えをいただき、新潟大学は本格的なメジャー・マイナー制の大学としての土台を築くことができました。まずは、この場を借りて御礼申し上げます。

さて、我々事業スタッフの今後の役割は、本学のメジャー・マイナー制を支える体制を維持・強化し、さらに発展させることと心得ております。その一環として、我々の取組を知っていただき、普及につなげられるような書籍作りも進めておりますが、その原稿には、毎年度発行してきた自己評価報告書の内容が存分に反映されております。

今回は、最終年度の自己評価報告書ではありますが、今後も事業は継続しますので、これまでと同様の編集方針として、特別にまとめのような形を取っておりません。どのスタッフも本事業の体制の維持・発展のため真摯に資料作成をしておりますので、他大学での教育改革の際にも参考にしていただければ幸いでございます。

高等教育の在り方、とりわけ国立大学における教育課程の編成は、変化の激しい時代に対応するための我が国の枢要となるものでございます。この新潟の地から日本全国に向けて本学の変貌をお伝えし、さらには世界に向けて日本の高等教育が変貌しつつあることを発信できるようスタッフ一同今後も尽力する所存です。

令和６年 10 月

全学分野横断創生プログラム　プロジェクト実施責任者
教育基盤機構　教学マネジメント部門長　福島治

知識集約型社会を支える人材育成事業（文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム）

新潟大学　全学分野横断創生プログラム（NICE プログラム）

令和５年度事業の自己評価

目次

１．事業基盤
（１）事業設計（２）教育プログラムの内容（３）改善点 ..... p 4～ p 10

２．学修成果の評価
教学 IR・学修成果の可視化 ..... p 11～ p 15

３．学修支援
アカデミック・アドバイジングと学修デザイン相談 ..... p 16～ p 19

４．教育制度（授業内容）
学修創生型マイナー支援科目の開設と実施 ..... p 20～ p 21

５．企業・社会との接続
大学教育と社会・仕事との接続 ..... p 22～ p 24

６．高大接続
高等学校、高校生、保護者等への広報 ..... p 25～ p 26

資料編

資料１ ..... p 28～ p 42
資料２ ..... p 43～ p 69
資料３ ..... p 70～ p 93
資料４ ..... p 94～ p 108
資料５ ..... p 109～ p 126
資料６ ..... p 127～ p 136
科目リスト　学修創生型 ..... p 137～ p 138
パッケージ型マイナー ..... p 139～ p 189
オナーズ型マイナー ..... p 190～ p 218
（参考）ロードマップ ..... p 219

１．事業基盤

項目：（１）事業設計（事業実施体制、プログラム設計）、（２）教育プログラムの内容、（３）改善点

担当者：福島　治

＊評価は、以下の４段階の区分により行う。

区分	評　価
1	所期の計画以上の取り組みが行われている
2	所期の計画と同等の取り組みが行われている
3	所期の計画に比べ、全体の取り組みが遅れているが、一部は同等の取り組みが行われている
4	所期の計画に比べ、取り組みが遅れている

評　　価	2

理由）

事業基盤については、これまで同様に、事業実施体制、教育プログラムの内容、改善点の観点からみています。実施体制に関して、令和４年 10 月から「未来教育開発部門」が発足し、事業の実施・推進体制が強化されるとともに、NICE プログラム事業をメジャー・マイナー制として継続的に運用するための規程等の整備が進みました。NICE オフィス（NICE 学修デザイン相談室）は学生の利便性のため移転し、学生利用スペースの拡大も図ってきました。

教育プログラムについて、オナーズ型マイナー・プログラムの授業科目を再編成してパッケージ型へ移行しました。特に言語系プログラムは、段階的学びが必要であるとの観点から、例えば「ドイツ語」、「ドイツ語（発展）」という形に分割し、令和６年度４月から運用しています。

改善点に関して、本事業は文科省による中間評価では最高の「S」であった一方、令和５年度の現地調査では、さらなる向上のために、１）NICE プログラムの目標と DP の整合性をはかること、２）学生自身が成長を可視化する仕組みの検討・整備、３）NICE 学修相談室のスペース拡張、４）後続の参考のため本事業を順調に進めている教職員の人的側面の重要性やポイントを明らかにしておくことが課題・意見として出されました。このうち、１）については、まず全学のカリキュラム・ポリシーの改訂を行いました。２）については、ディプロマサプリメントにマイナー・プログラムの学修内容を示すことで対応し、３）は現在、オフィス什器等の設置方法の工夫によって利用面積拡大を図っています。４）は書籍発刊の出版社が決まり、原稿の執筆が始まっています。そこで人的側面について記述することとしています。

【取組の現状】

1. 進捗状況

（１）事業設計（事業実施体制と事業内容としてのプログラムの設計）

１）事業実施体制

本事業プログラム「全学分野横断創生プログラム」は、新潟大学がメジャー・マイナー制に移行するための充実したマイナー・プログラム（副専攻）の展開を目的としています。

この事業の実施体制は、図１の通りです。令和４年度 10 月に全学的な教育関連組織の改編があり、本事業実施体制も機能的に強化されました。改組では、全学の教育関連業務を統括する組織として「教育基盤機構」が設置され、「教育戦略統括室」と「教育・学生支援機構」の機能が一つの組織内に統合されました。大学全体の教育戦略の方針と現場の教育実践のセクションが同一組織内に配置されることにより、これまで以上に密なコミュニケーションが可能となり、学長のリーダーシップのもとでの迅速な意思決定と現場への反映を円滑に行える体制となりました。また、合わせて全学的な管理体制人員の強化として、学務担当副学長に加えて、新たに教育改革担当副学長が配置され、本事業の運営・実施にも加わっており、事業推進力の強化につながっています。この体制は、令和５年度以降も同様です。

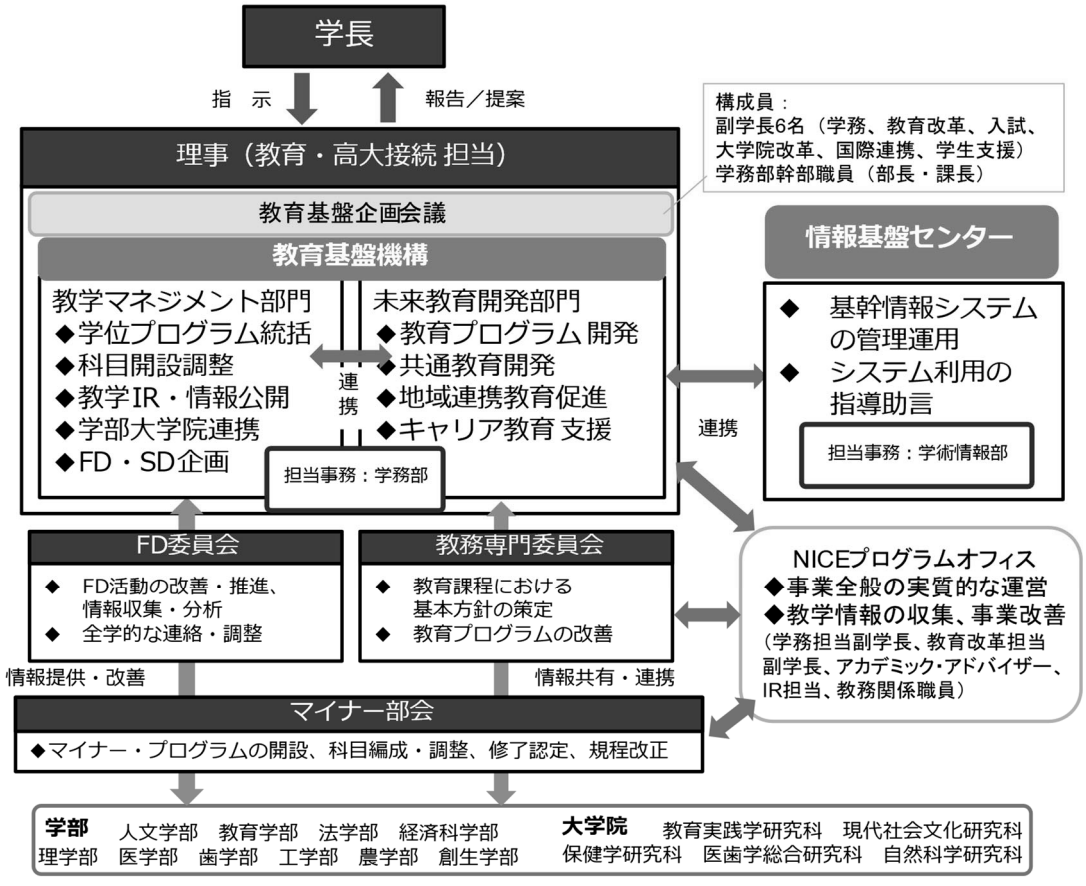


図１　全学分野横断創生プログラムの事業実施体制（令和４年度改組後）

また、副専攻部会がすべてのマイナー・プログラムの代表教員から成る部会編成になった後、部会長の教育改革担当副学長のもと、本事業の終了後を見据え、学内規程やマイナー・プログラムとして認定する科目の範囲の取り扱いなど細部についても議論と整備が進んでいます。

事業開始の令和２年度は全学の教育の重要事項を審議する大学教育委員会のもとに、「教育

基本問題検討作業委員会」を設置し、メジャー・マイナー制を含む本学の教育改革の将来方向と全体的な制度設計を行いました。この内容は各学部の情報共有の場である「教務専門委員会」を通じて各学部と共有し、全学的にメジャー・マイナー制を導入することが承認され、今に至っております。「教育基本問題検討作業委員会」は、必要に応じて委員召集される集まりであったため、現在は、「教育基盤企画会議」が学長・理事のリーダーシップの下で教育に関する具体的な企画立案や施策を担っております。

本事業の実務的な運営を担うのは「NICE プログラムオフィス」です。これは学務担当副学長を中心として、副専攻、教育評価、FD、IR、学術情報、アカデミック・アドバイザー等を担当する教員、事務職員という多彩なメンバーで構成されるプロジェクトチームであり、本事業の実質的な運営、情報収集および事業改善を行っています。令和４年度１月からは、学生の往来がもっとも多い講義棟の学生玄関を通る通路に面した場所へオフィスが移転され、学生にとっての利便性が高まりました。このオフィスにおける NICE プログラミーティングで事業実施に必要な事項がまず検討され、次に要件に応じて、各学部の代表者で構成される教務専門委員会または副専攻部会での議論を通してオーソライズし、すべての学位プログラムやマイナー・プログラムに浸透させる体制を整えています。

２）プログラムの設計

プログラムの設計図となるメジャー・マイナー制の基本構造は、図２の通りです。オナーズ型マイナーは令和６年度からパッケージ型マイナーへ移行したので、この図には描かれていません。旧オナーズ型のうち、言語系プログラムは、学習段階を考慮したカリキュラムを内包していたことから、その理念を活かすため、「○○語」、「○○語（発展）」というよう形で分割し、段階的学びができるように工夫してパッケージ型へ移行しました。これにより、本学のマイナー・プログラムに関する制度設計の特徴であった、卒業要件単位数（124 単位）の中でマイナー履修が可能になっているということがすべてのマイナー・プログラムに該当することになりました。例えば、人文学部の学生は、35 単位の自由選択科目を履修する必要があります。これまでは、学生が任意にその時々の興味や時間割の都合等でこれらの科目選択をしていました。しかし、その科目選択にマイナー・プログラムとしての体系性を持たせることにより学修効果が高まると考えました。

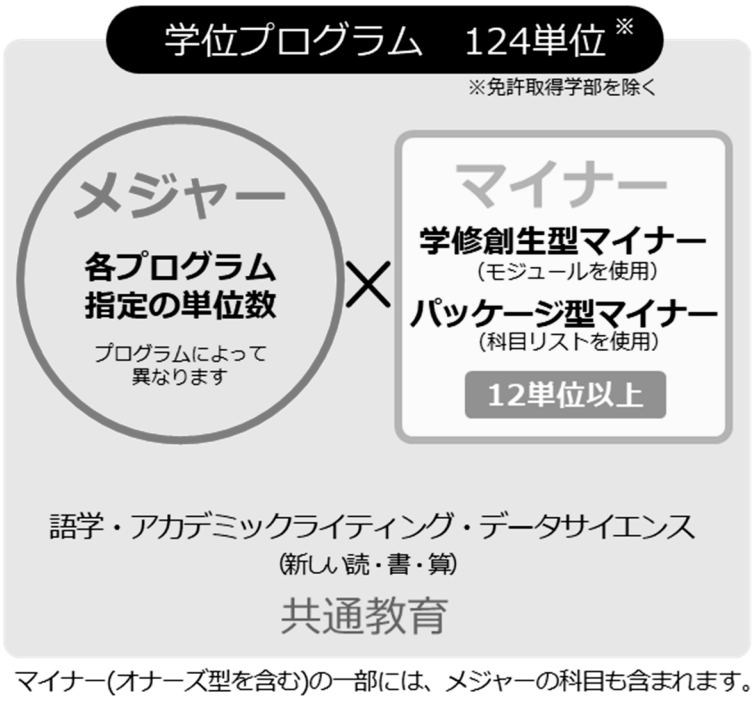


図２　新潟大学のメジャー・マイナー制

この図において「メジャー」とは、各主専攻プログラムで開設されている主専攻の科目群のことを表しています。「学士リテラシー」とは、共通教育の科目群を指します。この中には教養教育としての哲学や物理学などは含まれていません。設計上、それらはマイナーとして履修することが可能となるためです。

以下では、図中の a)マイナー・プログラムの構成と各々の履修方法、b)履修支援のしくみ、c)プログラムの質保証体制、d)学修成果の可視化について述べます。

ａ）マイナー・プログラムの構成と履修方法

マイナー・プログラムは、履修方法（どのように科目選択をするか）が異なる次の２つの型があります（令和６年度からオナーズ型の新規履修受付は停止しました)。

・学修創生型マイナー

これは知る限り海外にも例のない非常にユニークな学び方です。学修創生型のマイナー・プログラムでは、学生は、アカデミック・アドバイザーとともに自分の目指す進路や問題意識・関心に即して、大学全体で提供している数千科目の中からその学びに必要な科目を選択し、自分のマイナーとしてデザインします。科目選択にあたっては、個々の科目を１つ１つ選ぶことも、３～５科目程度の同種の専門科目をセットにしたモジュールと呼ぶ科目セットを選ぶこともできます。

修了までの単位数は 12 単位+２単位の 14 単位です。２単位が別に加わっているのは、「分野横断デザイン」（１年次１単位）と「分野横断リフレクション」（４年次１単位）が必修となっているためです。これらの科目は、１年次の学生が教員のアドバイスを受けながらマイナーをデザインし、４年次にマイナー学修を振り返ってメジャーとの掛け合わせで得られた学修成果をレポートにまとめるという形で、単に科目編成をするだけでなく、その意味についても学生が主体的に考えられるような授業にしています。

・パッケージ型マイナー

各専門分野の科目リストをパッケージとして提供するプログラムです。科目リストの中から選択して学ぶ方式であり、あらかじめマイナーとして学びたい分野が明確である場合に適しています。科目リストのほとんどは、メジャーの科目群から基礎的な科目が選定されています。アメリカの大学でよくみられるマイナー・プログラムと同様のしくみです。修了までに必要な単位数は 12 単位です。

パッケージ型マイナーには、令和５年度までオナーズ(honors)型としていたマイナー・プログラムを学修への取り組みやすさを重視して再編成したプログラムが移行されています。移行の方法としては、科目リストを再編成して履修要件を縮小したプログラムと、段階的学びで構成されていた言語系は、「○○語」と「○○語（発展)」という形で２つのマイナー・プログラムとしました。

また、マイナー・プログラムの開設数が増大してきたことから、学生の履修選択の利便性を考慮して、「学修創生型」、「人文・社会科学分野」、「自然科学分野」、「保健学分野」、「学際分野」に分類するとともに（資料 1-①)、メジャーとマイナーの学びが重複する恐れもあることから、重複可否の一覧表（資料 1-②）を作成し公表しました。

ｂ）履修支援のしくみ

次に、履修支援のしくみとして、NICE オフィスにアカデミック・アドバイザーを配置し、メジャーとマイナーの組み合わせ方や具体的な履修科目の相談ができる体制を整えています。特に、自由選択科目の枠の中で学生が体系的な科目選択をしようとする際、学生個人の視野や発想の範囲では、成り行き任せになりがちな従来の科目選択と変わらないということが考

えられます。また、各学部の履修要件は様々で、そのうちどの科目区分でマイナーとする科目を履修することができるのかがわからないというケースもあり得ます。

そこで、各学生の課題意識や目的に即してどのようなマイナー・プログラムを履修するとよいのか、またどの科目区分でどのような科目編成をするとよいのか等について、学生へのアドバイスを行う教員をアカデミック・アドバイザー（AA）として２名配置しています。「学修デザイン相談タイム」として、週３日、昼休み（11:45-12:45）、３限（12：55-14：25）、４限（14：40-16：10）を設定し、問い合わせフォームによる相談や特定の日時の予約面談もできるようにしています。具体的な相談の実施状況については資料 3-③をご覧ください。ここでは、年度毎のデータを示しています。特に学期の開始時期には相談の受容が高くなっています。今後、マイナー・プログラムの履修者が増加すると、相談件数も増えることが考えられます。現在、AA には、学修の目的や意義を考えることを勧めたり参考図書等の案内をするなどの高度な相談対応をしていただいています。今後は、そのアドバイジングの質を落とさずに、ある程度の件数増に応じられる体制作りを目指します。

また、「分野横断デザイン」という授業では、学生の学修目標やメジャーとの相乗効果を考慮しながら科目編成を行う意義について学びます。授業の一部には企業等の社会人を招いた講義もあり、大学での学びが社会にどのようにつながるかなど、学ぶ意味を徹底的に考え、仲間とディスカッションします。この科目は学修創生型マイナーでは必修となっています。

また、「分野横断リフレクション」は、マイナー・プログラムでの学びの振り返りを行います。その学修成果の一部は資料 5-③の通りです。このような形で学生自身が学びとその成果を形にすることは、これまで見られなかった試みで、実質の伴った学びとなっていることがうかがえます。

さらに、こうした授業科目で経験を得た学生が、スチューデント・アシスタント（SA）として活躍する機会が増えてきました。授業のサポートや学生コミュニティの活用などの実績が出てきています（資料 4-①）。

ｃ）プログラムの質保証体制

プログラムの設計においては、プログラムの質保証のしくみを整えることも重要です。教育基盤機構として再編後は、機構内の教育マネジメント部門「学位プログラム統括室」が、メジャーの質保証にかかわる「学位プログラム評価」を令和３年度から６年を１サイクルとして実施しております。令和６年度には中間フォローアップを行いますが、これに備えて令和５年度末に測定可能なプログラム評価指標の確認作業を完了したところです。

マイナー・プログラムの質保証については、教学マネジメント部門「学位プログラム統括室」によりプランを提示し、先述の副専攻部会での協議において具体的な実施方法を策定していきます。また、新しい副専攻の制度として学則への反映や規程については、未来教育開発部門および担当事務係において検討しており、例えば令和６年度４月からは「マイナー・プログラムに関する規則」（資料 1-③）を運用できるように整備しました。

ｄ）学修成果の可視化

学修成果を可視化するための新潟大学学士力アセスメントシステム（NBAS）のシステム改修のほか、ディプロマサプリメントを整備しました。ディプロマサプリメントには、マイナー履修に関する学修成果をも表示・印刷する仕様としています（資料 2-①）。

（２）教育プログラムの内容

ここでは、現在展開されているマイナー・プログラムの内容を示します。学修創生型は、学生自身が科目編成をするため具体的な学修内容は様々ですがプログラムとしては１種類です。パッケージ型は 45 種類です。このうち５つの言語系パッケージは、発展的なプログラム

へと進むこともできます。オナーズ型は履修申請を停止しました。
プログラムの内容に関する資料は多くなりますので、別冊（科目リスト参照）にまとめました。
なお、マイナー・プログラムの提供が開始された令和３年度から現在までのマイナー学修プログラム履修登録者数（延べ人数）および履修者数は資料 1-④の通りです。

（３）改善点

ここでは、既に開始している本事業を成功に導くために必要な改善点として、どのような課題があるか、またそれらの課題にどのように対応しているかを示します。
本学のメジャー・マイナー制は、文科省の事業として補助金を受けており、令和４年度 11 月は中間評価のための現地訪問を受けました。評価結果は最高の「S」をいただくことができましたが、なお改善の余地はございます。令和５年度の現地調査では、１）NICE プログラムの目標と DP の整合性をはかること、２）学生自身が成長を可視化する仕組みの検討・整備、３）NICE 学修相談室のスペース拡張、４）後続の参考のため本事業を順調に進めている教職員の人的側面の重要性やポイントを明らかにしておくことが課題・意見として出されました。
このうち、１）については、まず全学のカリキュラム・ポリシーの改訂を行いました。２）については、ディプロマサプリメントにマイナー・プログラムの学修内容を示すことで対応し、３）は現在、オフィス什器等の設置方法の工夫によって利用面積拡大を図っています。４）は書籍発刊の出版社が決まり、原稿の執筆が始まっています。そこで人的側面について記述することになっております。
大学院との接続については、中間評価時点での指摘以来、大学院の再編が進行中であるため、足踏みが続いている状況です。大学院は令和８年度に２つの研究科を統合し、融合分野の学位プログラムを含む新研究科として開設される予定です。
昨年度に各研究科スタッフ内で出されていた「大学院進学時に単位認定されるような先取履修をマイナー・プログラムの科目リストに含められないか」といった具体的な議論は、今後、カリキュラム策定をする中で、再び取り上げるよう本事業の関係教員が関わる大学院改編の関係委員会で働きかけを行います。

２．成果と課題

事業実施体制に関しては、当初の計画通りの体制とすることができました。今回の外部評価に関する業務もそうですが、NICE オフィスは十分に機能しております。履修支援のしくみも順調に進んでいます。マイナー・プログラムの質保証についても、組織改編による「学位プログラム統括室」において、学位プログラムの質保証サイクルに合わせた具体的なしくみづくりの検討を始めました。学修成果を可視化するためのシステム（NBAS）改修とディプロマサプリメントの発行は大きな前進です。
各学部で実質的な履修管理を行っている「学務係」においても、本事業の関係教員の尽力により事業の趣旨とマイナー・プログラムの履修方法、特に学修創生型について理解が深まりました。今後も、実際の履修登録等の管理を行う教職員との連絡体制づくりが必要と考えています。
メジャー・マイナー制による履修を初年次から意識させることが履修者増につながるという観点から、令和６年度入学式の学長祝辞において言及していただき、入学式終了後に同会場でマイナー・プログラムの説明会も開きました。これが功を奏し、令和６年度の第１学期のマイナー・プログラム履修者数は、一挙に 1,488 名となりました。また学修成果の可視化システム（NBAS）は今後も改修を行いますが、改修前には必ずしもすべての学生が頻繁に利用するというものではありませんでした。そこで、ディプロマサプリメントの一部としてレーダーチャートを利用する形をとりました。ディプロマサプリメントは、新しい学修成果の

表し方であり、本学ではメジャーとマイナーと双方の成果をみることができます。就職活動の場面等において真に有効なものとなるよう学生にとっての利用法の周知も課題です。

教育プログラムに関して、既存の教育改革の成果を援用し、プログラムとしては、令和４年度に本事業の目標提供数を達成できました。課題としては、更に各プログラムの質を高めることと、魅力的なプログラム開設であると捉えています。令和５年度の「核エネルギー・災害科学」と「農学から始める DX と GX」の開設に加えて、令和６年度には、オナーズ型マイナーの中でも語学系のものは基礎的科目群と発展的科目群に分け、それぞれをパッケージ型マイナーとして段階的な学びができるようにしました。他のオナーズ型プログラムは科目を整理してパッケージ型へ移行しました。豊かなプログラムが揃い、他大学にはない学びの提供ができております。

改善点に関して、問題が生じたときには２週間に１回開く NICE オフィスミーティングで報告され、多くの場合、その場で対応案が示されたり、協議が行われたりすることで迅速な解決に向けて動くようにしています。課題としては、改善方法を即時に案出できなかったとき、改善の着手までに時間を要することがある点です。これは前回の本報告から変わっていないことですが、改善に向けたスタッフの余力確保のため、事業関連業務の遂行にあたり、効率を意識して管理・運用を進めたいと考えています。

３．今後の方針

事業実施体制に関して、組織改編後、本事業の実施体制は強化されました。メジャー・マイナー制を担うのは、「未来教育開発部門」となり、この部門長（教育改革担当副学長）が副専攻部会の長も務め、マイナー・プログラムの管理・運営にあたっています。当該部門は本学の中期目標中期計画の達成に向けて全学教育改革の旗印となっており、NICE オフィスとともに全学的なメジャー・マイナー制による履修を強力に進めています。

また、学生にとって利便性の高い場所に移転された NICE オフィスは、学務部の連携教育支援室とともに業務をしていますが、事務を担う職員は当該支援室にデスクごと移り、NICE オフィスは、AA の通常業務と学生アシスタントのミーティングなどに広く使えるようにする計画を進めています。さらに、全学的に分野横断・産学横断・グローカルの統合による社会創生教育と生成 AI・データサイエンス教育を併せた「未来教育」を実施することにより、社会の変革・地域の問題解決を担う人材の育成を進める計画があり、これを推進する「未来教育推進コア」という組織の開設計画が進んでいます。これには、本事業を継続的に発展させるための計画を含んでいます。

教育プログラムに関して、マイナー・プログラムの質を高めることが課題となっていました。マイナー・プログラムは、それ自体で学位を与えるものではないため独自の質保証の仕組みが必要ではないかといった議論があります。教学マネジメント部門の学位プログラム統括室と未来教育開発部門との間で協議をしており、事業期間終了までに学内におけるマイナー・プログラムの質保証のしくみを構築する方針です。特に、マイナー・プログラムの人材育成目標が明確であるか、その目標の達成状況をどのように評価するのかなどについて検討することが課題です。

改善点に関しては、引き続き PDCA サイクルを効果的に回していくことが方針となります。NICE オフィスが「未来教育開発部門」のもとに位置づけられ、当該部門長及びスタッフも事業に関わる体制となり、当初の事業目的の達成と補助期間終了後の事業継続を目指します。中期的な全学の教育改革方針に沿う形を作ることも重要ですので、改善への着手が遅れることのないよう、主担当者が改善計画を立て着実に実行する体制を作ります。令和５年の「現地調査」の際の委員からのコメント等を踏まえて、既に一部は改善を行っており、今後もさらに改善が続きます。

２．学修成果の評価

項　目：教学 IR・学修成果の可視化

担当者：上畠 洋佑、斎藤 有吾

＊評価は、以下の４段階の区分により行う。

区分	評　価
1	所期の計画以上の取り組みが行われている
2	所期の計画と同等の取り組みが行われている
3	所期の計画に比べ、全体の取り組みが遅れているが、一部は同等の取り組みが行われている
4	所期の計画に比べ、取り組みが遅れている

評　　価	2

理由）

教学 IR・学修成果の可視化について、以下の事項から「２所期の計画と同等の取り組みが行われている」と考えます。

①　学務情報システム（新 NBAS 含む）のシステム改修

増加するマイナー履修者の認定作業と新潟大学版ディプロマ・サプリメントとの連携を実現するため、「マイナー修了認定申請システム」を構築し、さらに改修を進めました。このシステムは、学生が複数のマイナー・プログラムの認定申請を簡単に行えるようにし、教員や職員が効率的に管理できるような機能を搭載しています。さらに、新潟大学版ディプロマ・サプリメントの改修も進め、各学生の学修内容と成果を詳細に表示する機能を拡張しました。

②　教学マネジメント体制・教学 IR 体制の再編

全学的な連携体制を強化してメジャー・マイナー制の企画・実施、評価・改善を行うため、全学組織の教育・学生支援機構と教育戦略統括室の再編を進めました。令和６年度は第１回学位プログラム評価（総合点検）の中間フォローアップを行い、メジャーの質保証の取り組みを進めます。教学 IR に関しては、他部署と連携して学修成果の評価を支援する「アセスメント・サポートシステム」を開発し、生成 AI を活用してプログラムレベルの学修成果を評価するシステムの機能を強化しました。

③　学修成果の可視化にかかる調査・分析

全学の学生に対するアンケート調査や、マイナー修了者対象のアンケート調査、マイナー支援科目の「分野横断デザイン」「分野横断リフレクション」履修者対象の汎用的能力に関する標準テスト（GPS-Academic）の実施・分析を進め、学修成果の可視化に向けて有用な情報を収集しています。これらの調査の一部の分析結果は、全学 FD・SD や高等教育関連の学会・フォーラムにて報告しています。GPS-Academic の結果から、学修創生型マイナー履修者の創造的思考力が他の学生より高い水準であることが示されました。さらに、アンケート調査からマイナーを履修する学生同士のコミュニティの必要性やアカデミック・アドバイジングの重要性が明らかになり、これらのニーズに応えるための支援体制の強化の必要性が示されました。

【取組の現況】

１．進捗状況

評価の理由に挙げた事項について、それぞれ進捗状況を具体的に述べます。

①　学務情報システム（新 NBAS 含む）のシステム改修

令和５年度に増加するマイナー履修者の認定作業への対応や、新潟大学版ディプロマ・サプリメントとの連携が実行できるよう、学務情報システム内に「マイナー修了認定申請システム」を

構築し、令和６年度も安定的な運営を実現しています。一方で、運用していく中で明らかとなる改善点を本事業 NICE プログラム関係者で収集し、学務情報システムを主管する「教学情報管理分析室」と共有し、システムのより一層の充実とマイナー制運用の持続可能性を高めています。

まず、令和４年度にマイナー学修履修者の増加への認定作業の対応や、新潟大学版ディプロマ・サプリメントとの連携が実行できるよう、「マイナー修了認定申請システム」を構築しました。ここでは、これまで紙ベースやメールベースで行っていたオナーズ型の認定申請を、他のパッケージ型・学修創生型も合わせて同じシステムで学生自身が行えるようにしました。学生がこのシステムにてマイナー学修の修了認定申請を行うことで、マイナーの情報を新潟大学版ディプロマ・サプリメント上に自動的に表示することが可能になりました。令和５年度はさらに、学生が複数のマイナー・プログラムの認定申請をする際に（それぞれのプログラムで）同じ授業科目を重複して申請する場合や、マイナー・プログラム開設以前に単位修得した授業科目を認定のために遡って申請する場合において、それぞれ申請可能な上限単位数を設定するとともに学生の申請画面上で制御する機能を追加しました。また、教員の履修者名簿（履修許可設定）画面に掲載されている学生が履修しているマイナー・プログラムを表示するようにしたほか、教員のシラバス登録画面にマイナー・プログラムの担当（当該授業科目がマイナー・プログラムの科目リストに掲載されること）の可否を選択する欄を追加しました。加えて、学務担当職員がマイナーの認定を一括して登録したり、データ出力したりできるようにするための機能についても実装の検討を行いました。これらはいずれも、メジャー・マイナー制の今後の展開を見据え、円滑な運用を実現し、持続可能な運営を図ることを主な目的として行っています。

次に、メジャー・マイナーごとの学生の成績・単位数・GPA、学修成果、修得科目等を表示して発行する「新潟大学版ディプロマ・サプリメント」を実装しました（資料 2-①）。ディプロマ・サプリメントとは、学位に添付される補足書類で、取得学位・資格の内容、授与機関等について追加情報が記載されたものを指します。本学においては、各学位プログラムにおける学修の内容や学修成果に加えて、メジャー・マイナー制に基づき、マイナーの学修に関しても同様の情報を示す新潟大学版ディプロマ・サプリメントの導入の必要性が検討されてきました。そこで、学務情報システム上に、様々な教学データと紐づけて新潟大学版ディプロマ・サプリメントを表示する機能を令和４年度に構築しました。新潟大学の学位プログラム（主専攻プログラム）は、教養教育と専門教育が融合したプログラムを展開しています。そのため、「メジャーのみ」を取り出すかたちにはなっていないという都合から、厳密には、各学生の学位プログラム全体とマイナーを別々に表示できるようにしています。また、複数のマイナー学修が認定された学生のため、それぞれのマイナーで表示されるようになっています。令和５年度はさらに、新潟大学版ディプロマ・サプリメントの表示対象を大学院にまで拡張し、さらにカリキュラム・マップに基づいて成績情報を集約し、レーダーチャートで表示する機能を搭載しました。レーダーチャートの機能は旧 NBAS を引き継ぐものであり、新潟大学版ディプロマ・サプリメントと紐づけることにより、当該学生の学修内容と成果を一体として確認できるようになったことが特徴です。これらの検証をすすめるため、各学位プログラムに対して新潟大学版ディプロマ・サプリメントの使用の意向調査を実施し、希望したプログラムの情報入力、表示内容の検証等の作業を進めました。

② 本学の教学 IR・教学マネジメント体制の現状

令和４年度 10 月に教育・学生支援機構から「教育基盤機構」に改組され、その部門の一つである「教学マネジメント部門」の中に、メジャー・マイナーを含む学位プログラム全般の質保証を所掌する「学位プログラム統括室」と、教学システムや教学 IR を所掌する「教学情報管理分析室」、他２室が発足しました。

まず、メジャー・マイナーを含む学位プログラム全般の質保証について進捗状況を述べます。本学では学位プログラム評価を制度化し、学位プログラム評価指針（点検の基準と項目をプログラム毎に定めたもの）に基づく総合点検を６年毎に行うとともに、その終了から３年後に総合点検時に作成した改善計画の進捗確認等を目的として中間フォローアップを行うこととしています。令和６年度は、令和２年度から３年度にかけて実施した第１回学位プログラム評価（総合点検）の終了から３年目にあたるため、中間フォローアップを行っています。第１回学位プログラム評価（総合点検）では、「学部別の報告書」と「プログラム別の報告書」が作成されており、いずれ

も点検で見出された課題に対する改善計画が作成されました。中間フォローアップでは、この改善計画の進捗状況報告（改善計画の達成状況、未達の場合はその理由と見通し、新たな課題があればその状況と見通し等）の作成を学部に依頼しています。メジャー・マイナーを含む学位プログラム全般の質保証に関する取り組みとしては、令和６年度にメジャーを、令和７年度にマイナーを対象に行っていきます。

次に教学 IR に関しては、教学マネジメント部門の「教学情報管理分析室」が、「経営戦略本部」の評価センターの認証評価担当者や、UA 室の統合 IR 担当者と連携し、全学的な質保証のためのデータ収集や統合データベース作成などの議論を進めています。その成果として、プログラムレベルの学修成果の可視化を行うことをサポートする「アセスメント・サポートシステム」の開発が挙げられます（資料 2-②）。学生のプログラムレベルの学修成果を評価し、教育活動の見直しや改善に活用するためには、ディプロマ・ポリシーに基づく適切な評価が前提となります。プログラムレベルの学修成果を直接評価する方法として、アセスメントテストがあり、代表例には PROG や GPS-academic があります。これらは多くの学生を対象に実施でき、他機関との比較や同一学生の変容を評価できますが、分野固有の知識やスキルの評価には限界があります。また、標準テストで測定できる汎用的スキルと大学の掲げる汎用的スキルに齟齬が生じる場合があります。とはいえ、学位プログラムやマイナー・プログラムで独自のアセスメントテストを作成、実施、フィードバックすることはかなりの業務負担を生じさせます。そこで生成 AI を活用し、プログラムレベルの学修成果を評価するサポートシステムを開発しました。このシステムは、大学の教育目標に即したテストを作成、実施、採点、評価情報の集約をサポートするものであり、生成 AI は特に問題生成に利用されます。具体的には、プログラムレベルの教育目標を基に問題を生成し、評価担当者が編集・保存する仕様です。既存の問題や資料を参考にすることで、問題作成の負担を軽減する機能も搭載しています。令和５年度は問題作成に関する機能の開発が完了しました。令和６年度はさらに実施、採点、評価情報の集約に関する機能を追加し、検証を進めていく予定です。

③ 学修成果の可視化にかかる調査・分析

マイナー修了者対象のアンケート調査（令和６年３月）、マイナー支援科目の「分野横断デザイン」「分野横断リフレクション」履修者対象の汎用的能力に関する標準テスト（GPS-Academic）を実施し、学修成果の可視化に向けて有用な情報を収集しています。GPS-Academic の実施状況は下表の通りです。収集したデータを分析し、本事業 NICE プログラムを通した学生の学びの成果を明らかにすることを試みています。

令和６年度は実施中であるため、令和５年度の結果をまとめて報告します。GPS-Academic は大学生の汎用的な課題解決力や大学教育への考えを測定するための標準テストであり、独自の構成概念の定義と枠組みに基づいて複数の問題や項目によって構成されています。構成概念の大枠と形式は「思考力」（多肢選択式問題、記述式問題）、「姿勢・態度」（アンケート形式）、「経験」（アンケート形式）です。これらはさらに細かい下位のカテゴリに分けられ、例えば「思考力」は「批判的思考力」「協働的思考力」「創造的思考力」で構成されています。学修創生型マイナーの学修成果として注目するのは「創造的思考力」であり、複数の学問分野あるいはテーマを体系的に学ぶことによってこれらが向上することが期待されていました。その結果、「分野横断リフレクション」受講者（3,4 年生）のポイントの平均値は 57.8 でした。学修創生型の学修を始めるタイミングにあたる「分野横断デザイン」の受講学生（多くが 1 年生）のポイントの平均値は 49.3 であり、「創造的思考力」はかなりの高水準であったといえると考えます。さらに、新潟大学と同レベルあるいはそれ以上の偏差値（入試偏差値 60 以上）の３年生全受験者の平均値は 49.1 であり、それと比較すると、「分野横断リフレクション」受講学生の「創造的思考力」はやはり高水準であると判断されました。

表　GPS-Academic 受験者数まとめ

年度	分野横断デザイン 受講者	分野横断リフレクション受講者	分野横断デザイン・リフレクション未受講者 （３年）
令和５年度	97	12	48
令和６年度	121	16（※）	R6 年度第２学期実施
計	218	28（※）	48（※）

（※）令和６年度第２学期に実施するため本数値は未確定

２．成果と課題

評価の理由に挙げた事項について、それぞれ成果と課題を具体的に述べます。

①　学務情報システム（新 NBAS 含む）のシステム改修

令和６年３月 25 日に変更認可を受けた新潟大学第４期中期目標・計画により、マイナー・プログラム履修者数を、令和９年度末時点で入学定員の３分の１以上（約 750 名以上）とすることが掲げられました。これにより、今後マイナー履修者の増加が進むことを想定した場合、認定作業の対応にはかなりの時間を要することが想定されます。そこで、「マイナー学修（副専攻）認定申請システム」の導入により、その作業の簡易化が見込まれ、メジャー・マイナー制の持続可能な運用の道筋がある程度見えてきました。

②　本学の教学 IR・教学マネジメント体制の現状

メジャー・マイナーにかかわる教学情報をどの部署が収集し、それをどのように集約して分析していくのかに関して、その素地は整ったといえます。後述します③の調査の一部についてはすでに学内へのフィードバックを実施しており、教学マネジメントサイクルの試験的な運用に取り掛かっています。メジャーの質保証の取り組みである「学位プログラム評価」で得られた知見を、マイナーの質保証に活用していく予定です。その際、マイナーの学修は、学生によって多種多様であり、そのプロセスや成果を捉えるために、より一層教学 IR による調査や支援体制が必要になると考えられます。どのような調査や支援が必要になるのかを精査した上で、それをどのように教学マネジメントサイクル運用に活かしていくのかを検討することが課題です。

③　学修成果の可視化にかかる調査・分析

マイナー修了者対象のアンケート調査（n=28、オナーズ型）では、総合的な満足度の項目に関してポジティブな回答が 96.4%でした。また「今後，新潟大学副専攻（マイナー）プログラムがより充実するにはどのようなことが必要だと思いますか。経験等から感じたことがあれば教えてください。」という設問における自由記述回答から、アカデミック・アドバイジングの必要性や、マイナーを履修する学生同士のコミュニティの必要性をマイナー修了者が感じていることが明らかになりました。

GPS-Academic の結果から、本学のマイナーの学修、特に学修創生型マイナーの効果が示唆されました。ただし、昨年度収集した対象者数ではまだ十分とはいえず、今年度収集するデータと組み合わせて引き続き検証していきます。

３．今後の方針

①　学務情報システム（新 NBAS 含む）のシステム改修

システムの運用を進めていく中で、より一層の内容の充実や、持続可能性を高めていくための工夫を検討していきます。

②　本学の教学 IR・教学マネジメント体制の現状

メジャー・マイナーを含む学位プログラム全般の質保証に関する取り組みとして、令和６年度にメジャーを、令和７年度にマイナーを対象に行っていきます。

③ 学修成果の可視化にかかる調査・分析

マイナー支援科目の「分野横断デザイン」「分野横断リフレクション」履修者、その他比較対象者の汎用的能力を測定する標準テスト（GPS-Academic、現時点で n=294、これからさらに増加する見込み）の実施・分析を進めています。これは今後、マイナー学修を進めることにより汎用的能力やエージェンシーといった変数に対してどのような効果を持つのかを検証するために使用していきます。また、引き続き「分野横断リフレクション」科目におけるパフォーマンス評価による直接評価（令和５年度分 19 名、令和６年度第１学期分 32 名（予定：成績評価中）との結果を組み合わせて検討していきます。

３．学修支援

項　目：アカデミック・アドバイジングと学修デザイン相談

担当者：柿原 豪、橋本 紘史

＊評価は、以下の４段階の区分により行う。

区分	評　価
1	所期の計画以上の取り組みが行われている
2	所期の計画と同等の取り組みが行われている
3	所期の計画に比べ、全体の取り組みが遅れているが、一部は同等の取り組みが行われている
4	所期の計画に比べ、取り組みが遅れている

評　　価	2

理由）

対話とホワイトボードでの可視化を中心としたアドバイジング手法を継続し、個々の学生が有する「資源」の言語化や可視化、価値づけを支援するアカデミック・アドバイジングが提供されています。

マイナーの履修者増加にともなう学修相談の件数増加に対応して、学修相談受付のしくみの改修や学修相談アンケートの結果をもとにした実践の改善、学修相談室のレイアウト改善による安心かつ安全な場所の提供など、既存の体制を土台として、さらなるアドバイジングの質的向上が図られています。

これまで実施してきた学修相談のデータベースの質的分析が実践報告として学術誌で公開され、これをもとに、メジャー・マイナー制における汎用性を意識した「アカデミック・アドバイジングマニュアル」が作成されました。

学修相談のデータベースについても、学術研究をもとにしたアドバイジングの向上というサイクルを円滑に回していくために、収集方法・保存方法の改善が行われています。

【取組の現況】

１．進捗状況

NICE プログラムでの学修支援は、アカデミック・アドバイザー（AA）が中心となり、マイナー履修支援科目「分野横断デザイン」を起点に実施しています。学修支援の目的は、マイナー履修者の目標達成を、主にマイナーの履修指導を通じて支援することです。また、学生がマイナーの学修を開始してから修了するまで、継続的に支援する体制を整備しています。令和３年度より「分野横断デザイン」履修者を主な対象として、「学修相談（学修デザイン相談）」を実施しています。

令和６年度の相談日時は、学期期間中の火・木・金曜日の昼休み〔11:55-12:45〕、３限〔12:55-14:25〕、４限〔14:40-16:10〕とし、１回あたりの相談時間は 30 分としています（資料 3-①）。

また、本学では、本事業終了後も第４期中期目標・中期計画にもとづきマイナーの履修者の増加に向けた取り組みを進めていくことから、マイナー・プログラムメニュー増設に伴うマイナー履修相談者の増加に対応するため、通常の AA２名体制による学修相談に加えて、令和５年度より「NICE プログラム履修ガイダンス」や「マイナー履修相談会」を全学開催しています（詳細は「１．事業基盤」参照のこと）。

①AA による学修相談

学修相談の予約は、Microsoft Forms（資料 3-②）や WEB サイトによる受け付けを中心に、「分

野横断デザイン」の授業においても受け付けています。現況は予約を優先していますが、飛び込みの相談も可能な限り対応しています。Forms による予約では、学生に学部・学年等の基本情報をはじめ、相談希望日時、相談内容、個人情報の扱いに関する同意の可否等を入力してもらっています。そのねらいは、AA が相談者のニーズをとらえて、事前に準備できる体制を整えることにあります。

令和６年度第１学期（４月-７月）の相談件数は、令和５年度同時期の 79 件から 84 件へと増加しています（資料 3-③）。相談内容は、前年度と同様にマイナー自体の履修やマイナーとして履修する科目に関するもの（59.5%）と、メジャーとマイナーのかけ合わせに関するもの（33.3%）が、主な内容となっています。相談者は分野横断デザイン履修者による件数が多いことと関連して、１年生が 75.0%を占める結果となっています。

今年度はタームにおける分野横断リフレクションを開講し、その受講生による相談も想定していました。しかし、第１学期を終えた時点で当該学生による相談はありませんでした。その理由として以下の２点が考えられます。ひとつは、授業定員を 10 名としたことで教員の指導が行き届き、授業内で学生の課題を解消できたからという点です。もうひとつは、学生が学修創生型マイナーの履修過程で分野横断的な思考や学びを俯瞰する視点、あるいは自ら学びに向かう力を獲得してきたからという点です。

実際の学修相談の場面では、対話とホワイトボードを用いて、学生の考えを言語化・可視化し、さらに価値づけしていく手法を継続しています（資料 3-④）。AA は学生との対話を通じてかれらの知識、技能、経験、興味・関心、問題意識、思考、表現、人間関係などを「資源」と捉えて言語化や可視化を行い、自分自身で障壁を乗り越えていけるための足場かけを提供する支援に取り組んでいます。

学修相談終了時には、学生の任意で「学修相談満足度アンケート」（資料 3-⑤）に協力をお願いしており、令和６年７月末までに 79 件の回答が集まっています。本アンケートでは質問を４項目（相談時間の適切さ、AA の対応、学修相談に関する自由記述、総合的な満足度）を設定しており、学修相談に関する自由記述を除く３項目は５段階評価で回答してもらっています。３項目の平均評価はいずれも 4.9 を上回っており、回答者における満足度は非常に高いといえます。一方、課題はすべての相談においてアンケートを回収できていないことです。アンケートを回収できていない理由としては、学修相談後に学生予定のため回答時間がない、あるいは単純な入力し忘れなど様々です。アンケート実施の目的と意義について理解を促し、さらに協力を得られるようにしていきます。

２．成果と課題

①アカデミック・アドバイジングマニュアルの作成と改訂

令和６年３月には「新潟大学 アカデミック・アドバイジングマニュアル」を作成しました。（資料 3-⑥）。このマニュアルは、本事業終了後も拡大を目指すメジャー・マイナー制の展開において、アカデミック・アドバイジングにおける属人性を脱して汎用性をもたせ、質的な保証をしていく上で鍵になるものといえます。令和６年度は、令和７年度以降のマニュアルの本格的運用に向けて、相談実践から得られるフィードバックを手がかりに、改訂作業を進めています。これと

関連して、学修相談のデータベースの情報の質と利便性の向上を目指し、データの収集方法・保存方法についても AA で相談しながら改善を図っています。

②AA によるアカデミック・アドバイジングの理論的・実践的な研究

令和５年度は７月に「学修デザイン相談」のデータベースを構築し、11 月にはそこに蓄積された相談事例 456 件のデータを分析した論考を、日本アカデミック・アドバイジング協会の協会誌『アカデミック・アドバイジング研究』第２号に投稿しました（資料 3-⑦）。これまでの相談事例の分析結果から、学生が自ら探究課題を設定し、学びをデザインすることに困難や障壁を感じていることが明らかとなりました。本研究は学修相談の質的データから類型を創出した上で、それらの特徴を考察した実践報告として令和６年３月に掲載されました。こちらはアドバイジングマニュアル作成に向けた基礎部分を成しています。

令和６年１月には、AA の資質向上を目的として、日本アカデミック・アドバイジング協会が主催する第３回研修会に参加し、アメリカにおけるアカデミック・アドバイジングの実践に関する知見を深めるとともに、これを実施している他大学の教職員と交流機会をもつことができました。また、令和６年７月には日本アカデミック・アドバイジング協会が主催のもと、アカデミック・アドバイジングに新たに携わる教職員を対象とした 2024 年度第１回アカデミック・アドバイジング・サロンに参加し、「ビギナーのためのアカデミック・アドバイジング・サロン」というテーマでアドバイジングに関する疑問の共有や意見交換を行うことができました。他大学の取り組みと本学の運用方針を参加者間で比較することで、アドバイジングに関する新たな知見が生まれました。

令和６年８月に開催される日本アカデミック・アドバイジング協会第４回年次大会では、大会シンポジウムに AA が登壇し、アカデミックアドバイジングの組織化をテーマに議論する予定です。また、同大会の自由研究・実践報告発表では、新任の AA がアカデミック・アドバイジングの習熟に向けて取り組んできた手段や OJT を用いた手法について発表する予定です。この発表や他会員との交流を通して、新任の AA から見た視点や更に改善が期待される点をアドバイジングマニュアルに還元していきます。

３．今後の方針

本事業終了後もメジャー・マイナー制が拡大していくために、アドバイジングマニュアルの作成および改訂の知見を蓄積し、アドバイジングを継続的に発展させるためのサイクルを確立していくことが重要であると考えています。そのために、以下の４点を目指していくこととしています。

①学修相談データベース運用に関する収集方法・保存方法の改善
・令和６年度は、学修相談の事例を分類してきた既存の類型を見直します。
・AA による議論を通じて、相談内容のより適切な記述方法を追究します。

②「学修相談満足度アンケート」データの分析と研究成果の発表
・これまでのアンケート結果を集計・分析して研究成果にまとめるとともに、そこからアドバイジングの改善に向けたフィードバックを得ます。

・そのためにデータ収集における課題を改善し、適切なデータ収集方法を確立していきます。

③「アカデミック・アドバイジングマニュアル」の改訂・実装
・上記①・②の作業の他、AA の実践からの気づき、また関係教職員からの意見をふまえてマニュアルを改訂し、次年度以降の実装に向けた取り組みを進めていきます。

④学修相談の日時や予約方法の調整・周知
・AA の授業日等を考慮して、学修相談の日時を各学期で調整します。
・学修相談の予約方法の周知を図り、予約優先で学生の相談を受け付けることによって、学生がより安心感をもてるしくみを構築します。

４．教育制度（授業内容）
項　目：学修創生型マイナー支援科目の開設と実施
担当者：上畠 洋佑、柿原 豪、橋本 紘史

＊評価は、以下の４段階の区分により行う。

区分	評　価
1	所期の計画以上の取り組みが行われている
2	所期の計画と同等の取り組みが行われている
3	所期の計画に比べ、全体の取り組みが遅れているが、一部は同等の取り組みが行われている
4	所期の計画に比べ、取り組みが遅れている。

評　　価	2

理由）
本事業で掲げる「分野横断デザイン」履修者数の数値目標（表１）について、令和５年度は目標値を達成するとともに、令和６年度は第１学期時点で達成できました。

表１　本事業プログラムとして設定する検証可能かつ明確な目標
（「知識集約型社会を支える人材育成事業」計画調書より一部抜粋）

項目	目標値
「分野横断デザイン」履修者数	令和 5 年度：200 人 令和 6 年度：240 人
「分野横断リフレクション」履修者数	令和 5 年度：設定なし 令和 6 年度：120 人

令和５年度の「分野横断リフレクション」は、履修申請者 24 名のうち、19 名が単位を取得しました。また、令和６年度第１学期に 36 名が履修しており、第２学期は開講数８コマ（定員 90 名）であることから、「分野横断リフレクション」履修者数の数値目標達成可能性が見込まれます。

【取組の現況】
１．進捗状況

令和５年度第１学期・第２学期「分野横断デザイン」履修者は 293 名で、その内単位を取得した者は 266 人でした。また、令和６年度第１学期「分野横断デザイン」履修者は 301 名でした（成績は令和６年度８月末確定予定）。

令和３年度第２学期から、「分野横断デザイン」修了生から SA（Student Assistant）を雇用し、SA による授業中のグループ学習のファシリテーションや修了生ならではのアドバイス等の授業・学修支援を行っています。令和５、６年度もこの取組を継続し、本事業 NICE プログラムにおいて運用しています。

また、令和５年度から６名の SA が中心となって運営しているピア・コミュニティ「NICE プレイス」は、NICE プログラムオフィス等を拠点に現在も活動を続けています。当コミュニティが開催する「S-CAFE」には、令和６年度第１学期の「分野横断デザイン」受講生が参加し、本学におけるピアサポート・学修コミュニティ文化の醸成に貢献しています（資料 4-①）。

令和６年度第１学期に雇用していている SA は 13 名で、令和６年度第２学期から 14 名を追加し、計 27 名となります。また、令和６年度から先進的なピアチューター制度を取り入れている京都産業大学教育支援研究開発センターＦ工房とネットワークを形成しました。F 工房主催の学生ファシリテーター研修（令和６年９、11、12 月）に、本事業関係教員と SA 数名が参加し、研修ノウハウ

を学び、今後のNICEプログラムにおけるSA活動をブラッシュアップしていきます。

令和６年度事業計画を前倒して令和５年度にNICEプログラム集大成科目「分野横断リフレクション」（当授業シラバスは資料 4-②）を新設しました。令和５年度は第１学期と第２学期に集中講義として開講し、履修者24名中19名が単位を取得しました。令和６年度の開講状況は下表の通りで、令和６年度第１学期の履修者数は36名でした（成績は令和６年度８月末確定予定）。

表１　令和６年度「分野横断リフレクション」開講状況

	第１学期		第２学期	
	第１ターム	第２ターム	第３ターム	第４ターム
ターム版（定員10名）	柿原（水６限）	斎藤（月３限）	柿原（月５限）	柿原（月５限）
	樋口（木５限）	柿原（水４限）	橋本（水３限）	橋本（水４限）
	―	―	上畠（木３限）	橋本（水５限）
	―	―	橋本（木４限）	上畠（木２限）
集中講義版（定員各10名）	上畠 A日程：8月5日（月）2～5限 B日程：8月6日（火）2～5限		柿原 A日程：2月12日（水）2～5限 B日程：2月14日（金）2～5限	

令和５年２月に示された「知識集約型社会を支える人材育成事業委員会」による中間評価結果コメントにおいて、「分野横断デザイン」「分野横断リフレクション」で使用するルーブリックの妥当性についての再検討の必要性が示されました。この結果を踏まえ、「分野横断デザイン」「分野横断リフレクション」ルーブリック（資料 4-③）の改訂を行い、令和５年度「分野横断デザイン」から改訂版ルーブリック（資料 4-④）を使用しています。また、令和６年度「分野横断リフレクション」から改訂版ルーブリック（資料 4-⑤）を使用しています。

２．成果と課題

令和５年度第２学期から令和６年度第１学期にかけての、本事業における「４．教育制度（授業内容）」の成果は３つあります。

第一に、本事業で掲げる「分野横断デザイン」履修者数の数値目標について、令和５年度、令和６年度ともに目標値を大幅に超えて達成できた点です。

第二に、入門科目「分野横断デザイン」の満足度が高かった点です。令和５年度第１学期・第２学期「分野横断デザイン」の授業評価アンケートの設問「14：あなたはこの授業を履修して総合的に満足していますか」において、「満足している」と「ある程度満足している」と回答した学生の割合が97.4%（156名中152名）であったことから、令和５年度は履修者数約300名という規模になっても、「分野横断デザイン」に対する受講生の満足度は非常に高く、その授業内容の充実が継続的になされているものと考えます。

第三に、令和５年２月に示された「知識集約型社会を支える人材育成事業委員会」による中間評価結果コメントを踏まえ、令和６年５月に「分野横断リフレクション」の改訂版ルーブリックを作成できた点も達成した成果としてあげられます。

令和５年度第２学期から令和６年度第１学期にかけての、本事業における「４．教育制度（授業内容）」の課題は１つです。それは、本事業申請時に「本事業プログラムとして設定する検証可能かつ明確な目標」として掲げた集大成科目「分野横断リフレクション」の履修者数120名の達成です。

３．今後の方針

（1）令和６年度第２学期の集大成科目「分野横断リフレクション」履修促進

「本事業プログラムとして設定する検証可能かつ明確な目標」における「分野横断リフレクション」履修者数120名を達成するために、令和６年度第２学期の履修登録前・登録期間中に、３年次以上への「分野横断リフレクション」開講情報の周知と履修促進活動の実施を方針として掲げます。

５．企業・社会との接続

項　目：大学教育と社会・仕事との接続

担当者：福島 治、上畠 洋佑、斎藤 有吾、柿原 豪、橋本 紘史

＊評価は、以下の４段階の区分により行う。

区分	評　価
1	所期の計画以上の取り組みが行われている
2	所期の計画と同等の取り組みが行われている
3	所期の計画に比べ、全体の取り組みが遅れているが、一部は同等の取り組みが行われている
4	所期の計画に比べ、取り組みが遅れている。

評　　価	2

理由）

NICE プログラム事業公開シンポジウムへの NPO 法人、民間企業、自治体勤務者の参加がありました。また企業・社会との接続を企図した「マイキャリアスクール」に受講生から高い満足度が得られています。また、「文部科学教育通信」における連載や愛媛大学のヒアリングが行われ、広範な高等教育関係者に対して NICE プログラムの成果を伝える基盤が構築されています。一方で、地域社会や企業に対する周知活動の方法については改善の余地があります。

以上の点を総合し「２．所期の計画と同等の取り組みが行われている」と評価しました。

【取組の現況】

１．進捗状況

①令和５年度新潟大学 NICE プログラム事業公開シンポジウムによる社会への発信

本学卒業生が勤務する約 300 の企業・団体を対象に、本事業 NICE プログラムの成果を発信する機会を周知するために、令和５年９月開催「新潟大学『全学分野横断創生プログラム（NICE プログラム)』事業シンポジウム・新潟大学全学 FD・SD：分野横断的学習を支援するためのアカデミック・アドバイジングと教職協働」の広報物を郵送しました。その結果、142 名の申込者の内、NPO 法人、民間企業、自治体で勤務される方から 12 名から申し込みがありました。

②株式会社マイナビとの連携による「マイキャリアスクール」の実施

令和５年度第２学期第４ターム、令和６年度第１学期第１・２タームの「分野横断デザイン」全８回授業のうち１回、株式会社マイナビとの連携による「マイキャリアスクール」を受講生向けに提供しました。この取り組みのねらいは、「分野横断デザイン」の受講生に興味・関心にもとづいた探究課題の立てかたを学ぶ機会や、「企業からの問い」にもとづいてグループ・ディスカッションする機会を提供し、当授業における受講生のグループワークの活性化・充実化をはかるものです。この「マイキャリアスクール」では、就職活動の成功を大学生活のゴールとして前景化するのではなく、卒業後の職業的キャリアにとどまらない将来をどうデザインするのか，それを踏まえた上で大学生活やメジャー・マイナーの学びをどうかたちづくるのかに焦点を当てました。

令和６年度第１学期第１ターム「分野横断デザイン」において、「マイキャリアスクール」受講生 69 名を対象にアンケートを実施し 67 名が回答をしました。回答者 67 名全員が「とても満足」または「どちらかといえば満足」という回答結果でした。また、アンケートでは自由記述による受講者の感想も聞いており、次のような感想が寄せられました。

・今回のグループワークを通じて、多様な視点からの意見を知り、自分の考えを深める良い機会となりました。
・企業の具体的な取り組みや目標について話し合う中で、自分が普段考えないような視点や価値観に触れることができました。

・異なる学部や経歴を持つメンバーとの意見交換を通じて、問題解決に向けた多角的なアプローチ方法を学び、視野が広がりました。
・地元の課題についても考える機会を得られ、自分の地元の魅力を再確認し、将来的に地域の発展に貢献できる方法を考えるきっかけとなりました。
・プレゼンテーションや司会進行の役割を通じて、主体的に行動する力や意見をまとめる力も身につけることができました。
・この講義で得た知識や経験を活かし、今後も積極的にグループワークに参加し、様々な考え方を持つ人たちと関わりたいと考えています。

③ジアース教育新社「文部科学教育通信」による社会への発信

ジアース教育新社が発行する「文部科学教育通信（発行部数 2,200 部：媒体社発表）」において、NICE プログラム事業の成果を計８回の連載「新潟大学における知識集約型社会を支える人材育成―メジャー・マイナー制の開発と戦略的展開」（No.575：2024 年３月 11 日号～No.582（2024 年６月 24 日号）で発信しました。（資料 5-①）。「文部科学教育通信」の主な購入者は文部科学省内各部署、国立大学法人各部署で、それぞれの組織内で回覧閲覧しています。文部科学省本省職員は約 1,700 名、国立大学職員（事務系）は約 30,000 人であることから、多くの高等教育関係者に本事業成果が読まれているものと考えられます。

また、本連載をベースに令和６年度中の本事業成果の書籍化をジアース教育新社と進めています。ジアース教育新社は幅広い販路を持っています。具体的には、大手取次会社（日販、トーハン）等を通じて全国の主要書店に配本販売されるほか、Amazon 等インターネット書店での販売、「文部科学教育通信」購読層（全国の大学、短大、高専等、関係省庁、自治体関係部署、企業）への広報による販促等が行われます。このような書籍化の取り組みにより、本事業の成果を幅広く社会に発信できるものと考えています。

④学生のキャリア支援

本自己評価報告書「２．学修成果の評価」で前述しましたが、昨年度に引き続き「分野横断デザイン」「分野横断リフレクション」履修者を対象に、汎用的能力に関する標準テスト「GPS-Academic」の実施・分析を進め、学修成果の可視化に向けて有用な情報を収集しています。当テストは本プログラムにおける学修成果の可視化に活用するだけでなく、当テスト受検者はベネッセ i-キャリアが提供するダイレクトリクルーティングサービス「doda キャンパス」に任意で登録することができ、学生のキャリア支援につながる機会も提供できています（資料 5-②）。

⑤NICE プログラムウェブサイトにおける「マイナーの学修成果」による社会への発信

「分野横断リフレクション」では、マイナーの学修成果の一つとして NICE カリキュラムマップを作成しています。これを、NICE プログラムウェブサイトの「マイナーの学修成果」で一般公開（掲載可の許諾をした学生のみ）しています（資料 5-③）。

⑥その他

令和６年７月に、愛媛大学（教育担当理事、教育担当学長特別補佐、教育学生支援職員）が本事業 NICE プログラムのヒアリングに本学を訪れました。なお、愛媛大学は「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」（SPOD）を事務局として運営しています。SPOD は、四国地区の 35 の国公私立大学・専門職大学・短期大学（四国地区に一部の学部等を置く大学を含む）及び高等専門学校によって構成されており、毎年８月に開催される SPOD フォーラムには全国の高等教育関係者約 400 名が参加します。以上のような高等教育に関する全国的な取り組みの責任を担う愛媛大学の理事等に、本事業 NICE プログラムの成果や価値が認識されたことにより、SPOD 等を通した高等教育関連組織や社会への今後の発信可能性が期待されます。

２．成果と課題

令和５年度第２学期から令和６年度第１学期にかけての、本事業における「５．企業・社会との

接続」の成果は次の通りです。まず、シンポジウムを通じて本事業NICEプログラムの成果をNPO法人、民間企業、自治体で勤務される方にも関心を持って聞いていただくことができました。また、株式会社マイナビとの連携で「マイキャリアスクール」を実施し、大学卒業後の将来を踏まえた大学生活とメジャー・マイナーの学びについてデザインできた受講生から高い満足度を得ることができました。さらには、「文部科学教育通信」での連載と愛媛大学のヒアリングを通して、高等教育関係者に向けての本事業の成果発信の基盤を構築することができました。

令和５年度第２学期から令和６年度第１学期にかけての、本事業における「５．企業・社会との接続」の課題は、地域社会や企業等に対しては、そのニーズを汲み取るとともに、本事業の意義や目的、学生がどのような学びを行っているのかなど周知の内容や方法をより一層検討していくことです。

３．今後の方針

令和５年度中に予定していた本学から徳武委員への企業・社会との連携について具体的な提案ができませんでした。本事業の最終年度にあたり、NICEプログラムでマイナーを履修した学生が出てきています。今後は、マイナーを履修した学生自らの言葉で、企業や社会に向けて社会発信していく機会創出等について、徳武委員を含めた外部評価委員の皆様に相談・提案していきます。

また、「知識集約型社会を支える人材育成事業」が最終年度を迎え、文部科学省からの要望を踏まえながら、採択校が連携して社会に向けた成果発信をしっかりと行うこととなりました。ここでは、学生の学修成果、成長実感を社会に伝えるとともに、企業や地域を巻き込んだ成果発信に努めることとしています。具体的には、８月28日に「未来思考型ワークショップ2024（アイデアソン）～「知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）」が創造する大学教育の未来～」が東京都市大学で開催されます。このイベントでは、採択校である金沢大学（幹事校）、東京都市大学、新潟大学、信州大学、大正大学、麻布大学、千葉大学、早稲田大学、名古屋商科大学の各事業に関連した教職員・学生、企業・自治体等の関係者、学校教育関係者、60名程度が参加し、DP事業の最終到達点や事業終了後の新しい大学教育の未来イメージを描く機会となっています。また、令和６年度第３四半期に「DP事業共通テーマ成果発信セミナー（教学マネジメントセミナー2024）」、令和６年度末に「DP事業最終成果発信シンポジウム」する計画が進められています。

６．高大接続

項　目：高等学校、高校生、保護者等への広報

担当者：上畠 洋佑、柿原 豪

＊評価は、以下の４段階の区分により行う。

区分	評　価
1	所期の計画以上の取り組みが行われている
2	所期の計画と同等の取り組みが行われている
3	所期の計画に比べ、全体の取り組みが遅れているが、一部は同等の取り組みが行われている
4	所期の計画に比べ、取り組みが遅れている

評　　価	2

理由）

本プログラムの高等学校・高校生に対する周知の手段を多様化しました。高等学校、高校生（保護者）に対して直接的な接点をもてる機会としてのオープンキャンパスに加え、新大 WeeK への参加、出前講義、SSH を通して、多角的に高大接続を進めました。

「大学案内」「六花」のように、大学が発行する媒体におけるプログラム紹介に加え、本プログラムの SA(Student Assistant)による学生目線の広報活動（WEB サイトの記事執筆、オープンキャンパスにおけるポスター発表）やソーシャルメディア（X、Instagram）を通した発信を継続していくことで、高校生に対する本プログラムの認知度向上を目指しています。

【取組の現況】

１．進捗状況

高等学校、高校生、保護者等に NICE プログラム（以下「本プログラム」）の周知を図ることと、本学メジャー・マイナー制について理解を深めてもらうことを目的として、以下のような活動を展開しています。

①高等学校に対する本プログラムの周知

本学入試課と連携し、「大学案内 2025」に本プログラム紹介を掲載しました（資料 6-①）。「大学案内 2025」では、学長がメジャー・マイナー制の推進について発信しています。大学案内は、志望学部にかかわらず、全国の高校生が目を通す可能性があるため、本プログラムの周知に対して大きな効果が期待されます。

令和５年度は教育基盤機構として新潟大学の出前講義を開始し、本プログラムの周知につながるチャネルを加えました。出前講義は、高等学校の「総合的な探究の時間」「特別活動」における活用を主に想定して設計されており、令和６年度は新たな出前講義を追加し、選択肢を広げています（資料 6-②）。

本プログラム関係教員が千葉県立木更津高等学校の SSH 運営指導協議会委員を令和４年度から務めています。当該高校は、理数科のみならず、普通科においても SSH の取り組みを広げ、SDGs への科学的な取り組みを探究学習に取り入れています。そこでは文理を横断して特定の探究課題に科学的にアプローチしており、文理や分野の架橋を目指す本プログラムの方向性と合致するものといえます。特定の学部に限定せず、探究したいテーマや課題から文理や分野の横断を意識して接続を図る新たな高大接続のあり方として、本プログラムの取組の紹介、出前講義の案内を行うなどしたうえで、情報交換及び議論を行っています。

②WEB サイト、ソーシャルメディア、学内広報誌による広報活動

本プログラム WEB サイト（以下「当 WEB サイト」）では、令和２年度の開設以来、プログラムの履修方法やマイナー学修パッケージの一覧、分野横断型学修の解説動画を掲載し、令和３年度には新設ページの追加（「よくある質問（FAQ)」「高校生・受験生のみなさんへ」）や「X（旧 Twitter)」

アカウント（@Niigata_u_NICE）の開設を進めてきました。
令和４年度には「Instagram」アカウント（nice_niigata_univ）も開設し、より高校生の利用が多いメディアでも情報を発信しています。令和５年度以降は、SA をつとめる学生が定期的に広報会議を開いて学内外に向けた企画を議論し、執筆した記事を当 WEB サイトに掲載し、高校生への認知度向上につとめています。また、これらの活動とソーシャルメディアを連携させ、高校生の閲覧につながるハッシュタグをつけて発信するようにしています。
令和６年４月には本学広報事務室より取材を受け、本プログラムの特集記事が季刊広報誌「六花」に掲載されることとなっております。

③オープンキャンパス、新大 WeeK におけるイベント実施

本プログラムでは、オープンキャンパスを高校生や保護者、あるいは高校教員に「学部＋α の学び」を一覧的に提示し、その意義を伝える機会として捉えています。前年度から引き続き、令和６年度は８月８日（木）、９日(金)の２日間、新潟大学を特徴づける３つの教育プログラム（NICE プログラム、ダブルホーム〔新潟県内を中心に地域の人々との交流や課題解決などを目的とした実践的活動〕、長期学外学修プログラム〔地域、産業、海外など多様な学外フィールドにおける現場実践〕）と連携し、「学部を越えたみらい教育～地域とつながる、分野をつなげる～」と題したイベントを開催しました（資料 6-③）。
NICE プログラムでは、合同説明会（各日開催、ハイフレックスで実施）、ポスター展示「わたしの学修デザイン」（終日開催：ポスターセッション、来場者と SA の交流タイム含む）、アカデミック・アドバイザーとの相談会（1 人 30 分×各日４セッション、計８セッション開設）を実施しました。ポスター展示では、SA４名（学修創生型３名、パッケージ型/オナーズ型１名）がポスターを作成し、自分のマイナーの学修について発表する他、２日間でのべ 15 名の SA が来場者との交流や、パンフレット配布等のイベント広報を担当しました（資料 6-④）。今年度は訪問者の動線上に位置する中央図書館を会場にしたところ、前回以上の集客を得ることができました。来場者に実施したアンケートでは、回答者全員（52 名）から「興味を持った」（「興味を持った」75%「少し興味を持った」25%）との回答を得ました（資料 6-⑤）。
また、令和５年 11 月には本学の広報イベントである「新大 WeeK」に NICE プログラムとして２日間参加しました（資料 6-⑥）。令和６年度は２日間のうち１日を学園祭（「新大祭」）の日程と合わせることにより、昨年度以上に集客が伸びることを見込んでおります。

④学内広報

令和５年度および令和６年度は今後のマイナー履修者増加に向けて積極的な働きかけを行っています。令和６年２月と３月には、それぞれ推薦入試と一般入試による入学予定者を対象とした本プログラムの説明会をオンライン（Zoom）で実施し、約 230 名が参加しました（資料 6-⑦）。
令和６年度入学式で学長がメジャー・マイナー制をアピールした上で、「NICE プログラム履修ガイダンス」を２日間実施し、約 900 名が参加しました（資料 6-⑧）。この他、教育基盤機構の教員が学部（理学部、工学部）のガイダンスに出向き、本プログラムの履修に向けた告知を行いました。

２．成果と課題

令和６年度には、オープンキャンパスのアカデミック・アドバイザーとの相談会参加者や、新大 WeeK 参加者が入学し、現在マイナーを履修しています。なかには 10 月から SA として活動する学生もいるように、イベントにおけるきめ細かな対応が成果につながったと考えています。それゆえ、今後も高校生向けのイベントにおける動員数増加に向けて周知を広めていくことが課題となっています。

３．今後の方針

学部との連携は、ガイダンスへの参加を中心に一部にとどまっていますが、地道な連携を継続しながら関係を構築し、本プログラムへの理解を醸成していきます。高校生の情報収集が学部中心であることをふまえ、学部の提供する入試情報にメジャー・マイナー制や本プログラムが掲載されるような連携のあり方についても引き続き探っていきます。

資料編

マイナー・プログラム分類表

No.	マイナー・プログラム名	分類
1	学修創生型	学修創生型
2	心理・人間学	人文・社会科学分野
3	社会文化学	人文・社会科学分野
4	言語文化学	人文・社会科学分野
5	法学	人文・社会科学分野
6	政治学	人文・社会科学分野
7	経済学	人文・社会科学分野
8	ビジネス・アントレプレナーシップ	人文・社会科学分野
9	ドイツ語	人文・社会科学分野
10	ドイツ語〈発展〉	人文・社会科学分野
11	英語	人文・社会科学分野
12	フランス語	人文・社会科学分野
13	フランス語〈発展〉	人文・社会科学分野
14	コリア	人文・社会科学分野
15	ロシア語	人文・社会科学分野
16	ロシア語〈発展〉	人文・社会科学分野
17	中国語	人文・社会科学分野
18	中国語〈発展〉	人文・社会科学分野
19	数学	自然科学分野
20	物理学	自然科学分野
21	化学	自然科学分野
22	生物学	自然科学分野
23	自然環境科学	自然科学分野
24	機械システム工学	自然科学分野
25	社会基盤工学	自然科学分野
26	電子情報通信	自然科学分野
27	知能情報システム	自然科学分野
28	化学システム工学	自然科学分野
29	材料科学	自然科学分野
30	建築学	自然科学分野
31	生物資源科学・流域環境学	自然科学分野
32	応用生命科学・食品科学	自然科学分野
33	ヘルス・マネジメント	保健学分野
34	アグロ・フードアソシエーツ	学際分野
35	ことつくり・マネジメント	学際分野
36	コミュニティ・マネジメント	学際分野
37	データサイエンスリテラシー	学際分野
38	ジオパーク	学際分野
39	地域災害環境システム	学際分野
40	ふるさと共創学	学際分野
41	MOT基礎	学際分野
42	農学から始めるDXとGX	学際分野
43	GIS（地理情報システム）	学際分野
44	医学物理学基礎	学際分野
45	医学物理学基礎〈発展〉	学際分野
46	核エネルギー・災害科学	学際分野

メジャー・マイナー重複可否一覧表

学部名	学位プログラム名	マイナー・プログラム名 学修創生	心理・人間学	社会文化学	言語文化学	法学	政治学	経済学	ビジネス・アントレプレナーシップ	ドイツ語	ドイツ語〈発展〉	英語	フランス語	フランス語〈発展〉	コリア	ロシア語	ロシア語〈発展〉	中国語	中国語〈発展〉	数学	物理学	化学	生物学	自然環境科学	機械システム工学	社会基盤工学	電子情報通信	知能情報システム	化学システム工学	材料科学	建築学	生物資源科学・流域環境学	応用生命科学・食品科学	ヘルス・マネジメント	アグロ・フードアソシエーツ	ことつくり・マネジメント	コミュニティ・マネジメント	データサイエンスリテラシー	ジオパーク	地域災害環境システム	ふるさと共創学	MOT基礎	農学から始めるDXとGX	GIS（地理情報システム）	医学物理学基礎	医学物理学基礎〈発展〉	核エネルギー・災害科学
人文学部	心理・人間学プログラム	A	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人文学部	社会文化学プログラム	A	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人文学部	言語文化学プログラム	A	○	○	×	○	○	○	○	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
教育学部	学校教員養成プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
法学部	法学プログラム	A	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
法学部	法曹養成プログラム	A	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
経済科学部	経済学プログラム	A	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
経済科学部	経営学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
経済科学部	学際日本学プログラム	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
経済科学部	地域リーダープログラム	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理学部	数学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理学部	物理学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理学部	化学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理学部	生物学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理学部	地質科学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理学部	自然環境科学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理学部	フィールド科学人材育成プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
医学部	医学教育プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
医学部	看護学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
医学部	放射線技術科学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
医学部	検査技術科学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
歯学部	歯学教育プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
歯学部	口腔保健福祉学教育プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工学部	機械システム工学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工学部	社会基盤工学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工学部	電子情報通信プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工学部	知能情報システムプログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工学部	化学システム工学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工学部	材料科学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工学部	建築学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工学部	人間支援感性科学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工学部	協創経営プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
農学部	応用生命科学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
農学部	食品科学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
農学部	生物資源科学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
農学部	流域環境学プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○
農学部	フィールド科学人材育成プログラム	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
創生学部	創生学修プログラム	A	C	C	C	C	C	C	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

A：学修創生型マイナー履修者は教育基盤機構アカデミック・アドバイザー等と相談しながら、自らの学修創生型マイナーを作り上げる。
経済科学部の学際日本学プログラム及び地域リーダープログラムを専攻する学生は教育基盤機構アカデミック・アドバイザー等と相談の上、マイナー・プログラムの選択を行う。
B：修了申請の際、学位プログラムが言語文化学プログラムの学生、および創生学部において領域学修科目パッケージとして言語文化学パッケージを選択している学生は、マイナー・プログラム代表教員に了承を得る。
C：創生学部生は選択した領域学修科目パッケージと分野が重複するマイナー・プログラムは修了認定申請ができないため、教育基盤機構アカデミック・アドバイザー等と相談の上、マイナー・プログラムの選択を行う。

【資料1-③】

○新潟大学マイナー・プログラムに関する規則

（令和６年３月 29 日規則第８号）

（趣旨）

第１条　この規則は、新潟大学におけるマイナー・プログラムに関し、必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第２条　マイナー・プログラムは、学問分野を超えた複眼的な視点を持ちながら多様な他者と協働して課題解決のために活躍できる人材を育成することを目的とする。

（マイナー・プログラムの種類）

第３条　マイナー・プログラムは、編成方法等により、学修創生型マイナー及びパッケージ型マイナーに区分する。

２　学修創生型マイナーは、分野横断デザインの履修を通して、学生自らがマイナー・プログラムの名称、到達目標、履修計画等（以下「マイナー学修デザイン」という。）を設定した上で、マイナー学修デザインに応じた授業科目を履修し、分野横断リフレクションの履修を通して、学生自らがマイナー・プログラムとしての学修成果を示し、マイナー・プログラム担当教員から認定を受けるものをいう。

３　パッケージ型マイナーは、新潟大学の教育理念に基づき、予めマイナー・プログラムを担当する教員集団が設定する学修内容や到達目標に則り作成された授業科目のリスト（以下「パッケージ」という。）から、学生自らが学修を希望するパッケージを選択し、履修を行うものをいう。

（対象学生）

第４条　マイナー・プログラムの履修対象は、本学の学部に在学する学生とする。ただし、パッケージ型マイナーの場合、各パッケージにおいて履修資格を定めることができるものとする。

（授業科目、履修方法等）

第５条　マイナー・プログラムにおいて開設する授業科目、履修方法等は、教育基盤機構（以下「機構」という。）が公示するマイナー・プログラム一覧に定める。

（履修申請）

第６条　マイナー・プログラムの履修を希望する者は、所定の期日までに学務情報システムから希望するマイナー・プログラムを登録するものとする。

（修了認定要件）

第7条　学修創生型マイナーの修了認定を希望する学生は、次に掲げる要件をすべて満たすものとする。

(1)　分野横断デザイン及び分野横断リフレクションの単位を修得していること。

(2)　その他機構が公示する授業科目を12単位以上修得していること。

(3)　前2号の修得単位の合計が14単位以上であること。

2　パッケージ型マイナーの修了認定を希望する学生は、次に掲げる要件をすべて満たすものとする。

(1)　当該パッケージに示された授業科目を12単位以上修得していること。

(2)　その他当該パッケージが定める修了要件をすべて満たしていること。

(修了認定申請)

第8条　マイナー・プログラムの修了認定を希望する学生は、第2年次第2学期以降の所定の期日までに修了認定に係る申請を行わなければならない。

(修了認定)

第9条　マイナー・プログラムの修了認定は、各学期末において、教育基盤機構運営会議の議を経て、教育基盤機構長(以下「機構長」という。)が行う。

2　機構長は、前項により修了認定を行ったときは、大学教育委員会に報告するものとする。

(マイナー・プログラムの修了証)

第10条　機構長は、前条に基づきマイナー・プログラムの修了認定を受けた者にマイナー・プログラム修了証(別記様式1)を授与する。

(パッケージ型マイナーの開設、変更及び廃止)

第11条　パッケージ型マイナーを開設し、変更し又は廃止しようとするパッケージ型マイナー代表教員は、別に定めるところにより機構長に開設、変更又は廃止の審査を申請するものとする。

2　機構長は、前項の申請があったときは、パッケージ型マイナー審査委員会(以下「審査委員会」という。)において審査し、その審査結果について、教育基盤機構運営会議の議を経て決定するものとする。

(パッケージ型マイナー審査委員会)

第12条　審査委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1)　機構長

(2)　教育基盤機構未来教育開発部門長

(3)　教育基盤機構未来教育開発部門副部門長

(4)　教育基盤機構専任教員のうち機構長が指名した者

(5)　その他機構長が必要と認めた者

2　審査委員会に委員長及び副委員長を置く。

3　委員長は、第1項第1号の委員をもって充てる。

4　副委員長は、第1項第2号の委員をもって充てる。

5　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

6　委員会は、委員の過半数の出席により成立する。

7　議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

8　委員長が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(運営)

第13条　マイナー・プログラムの運営は、教育基盤機構未来教育開発部門において行う。

(雑則)

第14条　この規則に定めるもののほか、マイナー・プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

附　則

1　この規則は，令和6年4月1日から施行する。

2　新潟大学副専攻の認定に関する規則(平成17年規則第7号)、新潟大学におけるマイナー学修パッケージに関する要項(令和4年9月29日学長裁定)及び新潟大学における学修創生型マイナーに関する要項(令和5年10月30日学長裁定)は、廃止する。

3　令和5年度以前に入学した学生の副専攻の認定、マイナー学修パッケージ及び学修創生型マイナーに関する取扱いについては、なお従前の例による。ただし、マイナー学修パッケージ及び学修創生型マイナーに係る修了証については、別記様式1を用いるものとする。

【資料1-③】

別記様式１（第 10 条関係）

マイナー・プログラム修了証

○○学部○○学科・課程
氏　名
　　年　月　日生

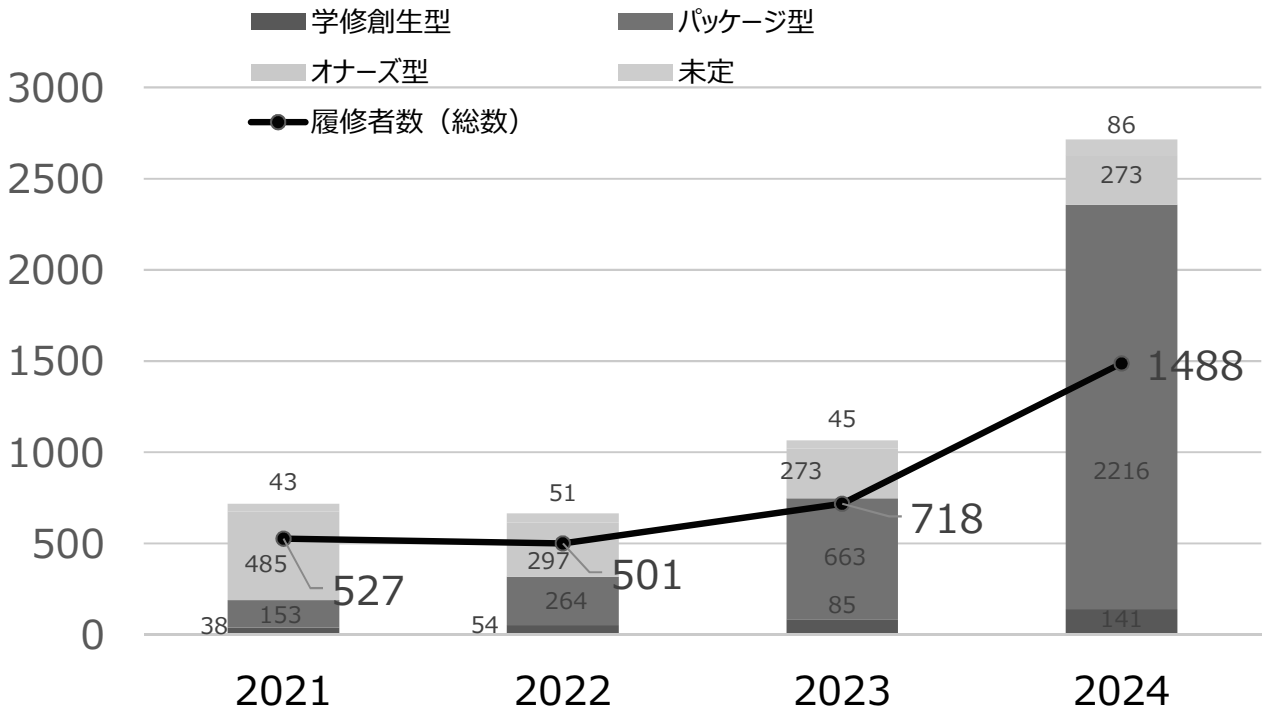
本学において，マイナー・プログラム「（名　称）」を修了したことを証する。

年　　月　　日

新潟大学教育基盤機構長
○　○　○　○　印

【資料1−④】

マイナープログラム履修登録者数および
履修者数（総数）の推移



2023年　一年:229人　二年:228人　三年:166人　四年:95人
2024年　一年:716人　二年:360人　三年:276人　四年:136人
2027年　入学者のうち733人以上が履修（中期計画）

【資料1-④】

令和３年度　マイナー・プログラム履修者数（総数）

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	留年	総計
人文学部	15	43	31	20	1	110
教育学部	4	6	3	2	0	15
法学部	14	13	8	7	0	42
経済科学部	38	30	9	6	0	83
理学部	28	31	14	4	0	77
医学部医学科	0	0	2	2	0	4
医学部保健学科	3	6	3	1	1	14
歯学部	0	0	0	0	0	0
工学部	45	45	16	4	1	111
農学部	15	25	12	10	0	62
創生学部	0	4	3	2	0	9
総計	162	203	101	58	3	527

注）マイナー・プログラム履修者数とは、マイナー・プログラムのいずれかに履修登録した学生のうち、複数のマイナー・プログラムを履修登録した学生の重複を除いた人数。

令和３年度　マイナー・プログラム履修登録者数（総数）

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	留年	総計
人文学部	20	63	32	21	1	137
教育学部	4	6	5	3	0	18
法学部	15	24	9	7	0	55
経済科学部	52	44	13	8	0	117
理学部	37	54	16	4	0	111
医学部医学科	0	0	2	2	0	4
医学部保健学科	4	6	3	1	1	15
歯学部	0	0	0	0	0	0
工学部	62	66	21	7	3	159
農学部	21	43	16	10	0	90
創生学部	0	4	7	2	0	13
総計	215	310	124	65	5	719

注）マイナー・プログラム履修登録者数とは、マイナー・プログラムのいずれかに履修登録した学生数。ひとりの学生が複数登録した数を含む。

【資料1-④】

令和３年度　マイナー・プログラム履修者数

プログラム名：学修創生型

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	総計
人文学部	2	4	0	0	6
教育学部	1	0	1	0	2
法学部	0	3	0	0	3
経済科学部	9	1	0	0	10
理学部	8	0	0	0	8
医学部医学科	0	0	0	0	0
医学部保健学科	1	0	0	0	1
歯学部	0	0	0	0	0
工学部	3	1	0	0	4
農学部	2	1	0	0	3
創生学部	0	1	0	0	1
総計	26	11	1	0	38

プログラム名：オナーズ型

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	留年	総計
人文学部	12	45	32	21	1	111
教育学部	2	6	4	2	0	14
法学部	8	15	8	7	0	38
経済科学部	27	21	12	6	0	66
理学部	18	43	10	4	0	75
医学部医学科	0	0	0	0	0	0
医学部保健学科	2	6	3	1	1	13
歯学部	0	0	0	0	0	0
工学部	38	42	16	3	3	102
農学部	14	27	10	10	0	61
創生学部	0	1	3	1	0	5
総計	121	206	98	55	5	485

プログラム名：パッケージ型

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	総計
人文学部	2	11	0	0	13
教育学部	0	0	0	1	1
法学部	4	4	0	0	8
経済科学部	10	18	1	2	31
理学部	7	11	6	0	24
医学部医学科	0	0	2	2	4
医学部保健学科	0	0	0	0	0
歯学部	0	0	0	0	0
工学部	13	21	5	4	43
農学部	3	13	6	0	22
創生学部	0	2	4	1	7
総計	39	80	24	10	153

プログラム名：未定

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	総計
人文学部	4	3	0	0	7
教育学部	1	0	0	0	1
法学部	3	2	1	0	6
経済科学部	6	4	0	0	10
理学部	4	0	0	0	4
医学部医学科	0	0	0	0	0
医学部保健学科	1	0	0	0	1
歯学部	0	0	0	0	0
工学部	8	2	0	0	10
農学部	2	2	0	0	4
創生学部	0	0	0	0	0
総計	29	13	1	0	43

【資料1-④】

令和４年度　マイナー・プログラム履修者数（総数）

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	総計
人文学部	19	26	28	22	95
教育学部	9	8	3	3	23
法学部	17	10	9	3	39
経済科学部	35	29	20	11	95
理学部	20	22	20	11	73
医学部医学科	1	0	0	0	1
医学部保健学科	10	2	2	2	16
歯学部	0	0	0	0	0
工学部	18	27	21	8	74
農学部	27	19	15	7	68
創生学部	3	6	7	1	17
総計	159	149	125	68	501

注）マイナー・プログラム履修者数とは、マイナー・プログラムのいずれかに履修登録した学生のうち、複数のマイナー・プログラムを履修登録した学生の重複を除いた人数。

令和４年度　マイナー・プログラム履修登録者数（総数）

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	総計
人文学部	32	33	32	23	120
教育学部	13	8	3	3	27
法学部	21	11	13	3	48
経済科学部	41	35	26	16	118
理学部	29	26	28	13	96
医学部医学科	3	0	0	0	3
医学部保健学科	10	2	2	2	16
歯学部	0	0	0	0	0
工学部	27	47	28	8	110
農学部	33	29	19	12	93
創生学部	6	9	19	1	35
総計	215	200	170	81	666

注）マイナー・プログラム履修登録者数とは、マイナー・プログラムのいずれかに履修登録した学生数。ひとりの学生が複数登録した数を含む。

【資料1-④】

令和４年度　マイナー・プログラム履修者数

プログラム名：学修創生型

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	総計
人文学部	3	5	2	0	10
教育学部	1	4	0	0	5
法学部	7	2	1	0	10
経済科学部	4	2	1	0	7
理学部	2	2	1	0	5
医学部医学科	0	0	0	0	0
医学部保健学科	1	0	0	0	1
歯学部	0	0	0	0	0
工学部	3	3	0	0	6
農学部	5	3	0	0	8
創生学部	0	0	2	0	2
総計	26	21	7	0	54

プログラム名：オナーズ型

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	総計
人文学部	11	16	22	22	71
教育学部	1	3	2	2	8
法学部	6	4	6	3	19
経済科学部	6	17	7	10	40
理学部	7	15	17	9	48
医学部医学科	1	0	0	0	1
医学部保健学科	7	2	2	2	13
歯学部	0	0	0	0	0
工学部	8	14	15	8	45
農学部	9	15	11	8	43
創生学部	3	2	3	1	9
総計	59	88	85	65	297

プログラム名：パッケージ型

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	総計
人文学部	11	11	8	1	31
教育学部	8	1	1	1	11
法学部	3	5	6	0	14
経済科学部	21	15	18	6	60
理学部	15	9	10	4	38
医学部医学科	2	0	0	0	2
医学部保健学科	1	0	0	0	1
歯学部	0	0	0	0	0
工学部	12	29	13	0	54
農学部	10	10	8	4	32
創生学部	1	7	13	0	21
総計	84	87	77	16	264

プログラム名：未定

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	総計
人文学部	7	1	0	0	8
教育学部	3	0	0	0	3
法学部	5	0	0	0	5
経済科学部	10	1	0	0	11
理学部	5	0	0	0	5
医学部医学科	0	0	0	0	0
医学部保健学科	1	0	0	0	1
歯学部	0	0	0	0	0
工学部	4	1	0	0	5
農学部	9	1	0	0	10
創生学部	2	0	1	0	3
総計	46	4	1	0	51

【資料1-④】

令和５年度　マイナー・プログラム履修者数（総数）

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	総計
人文学部	34	33	18	18	103
教育学部	5	8	2	3	18
法学部	46	30	7	6	89
経済科学部	36	16	17	5	74
理学部	32	38	61	18	149
医学部医学科	0	0	0	0	0
医学部保健学科	14	7	7	2	30
歯学部	1	0	0	0	1
工学部	25	60	33	31	149
農学部	27	32	15	10	84
創生学部	9	4	6	2	21
総計	229	228	166	95	718

注）マイナー・プログラム履修者数とは、マイナー・プログラムのいずれかに履修登録した学生のうち、複数のマイナー・プログラムを履修登録した学生の重複を除いた人数。

令和５年度　マイナー・プログラム履修登録者数（総数）

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	総計
人文学部	44	56	18	20	138
教育学部	7	8	2	3	20
法学部	61	41	8	9	119
経済科学部	46	17	24	5	92
理学部	45	63	80	24	212
医学部医学科	0	0	0	0	0
医学部保健学科	14	7	10	2	33
歯学部	1	0	0	0	1
工学部	28	132	55	37	252
農学部	46	70	27	16	159
創生学部	24	5	9	2	40
総計	316	399	233	118	1,066

注）マイナー・プログラム履修登録者数とは、マイナー・プログラムのいずれかに履修登録した学生数。ひとりの学生が複数登録した数を含む。

【資料1-④】

令和５年度　マイナー・プログラム履修者数

プログラム名：学修創生型

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	総計
人文学部	7	6	3	1	17
教育学部	2	1	1	0	4
法学部	6	9	1	1	17
経済科学部	3	1	3	1	8
理学部	1	3	2	1	7
医学部医学科	0	0	0	0	0
医学部保健学科	5	0	2	0	7
歯学部	0	0	0	0	0
工学部	4	2	2	0	8
農学部	7	5	0	0	12
創生学部	1	3	0	1	5
総計	36	30	14	5	85

プログラム名：オナーズ型

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	総計
人文学部	9	17	10	14	50
教育学部	0	4	1	1	6
法学部	7	7	4	4	22
経済科学部	17	3	10	3	33
理学部	15	10	16	9	50
医学部医学科	0	0	0	0	0
医学部保健学科	7	7	4	2	20
歯学部	1	0	0	0	1
工学部	4	30	10	5	49
農学部	11	10	8	6	35
創生学部	4	0	2	1	7
総計	75	88	65	45	273

プログラム名：パッケージ型

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	総計
人文学部	22	31	5	5	63
教育学部	4	3	0	2	9
法学部	43	22	3	4	72
経済科学部	20	12	11	1	44
理学部	27	50	60	14	151
医学部医学科	0	0	0	0	0
医学部保健学科	2	0	3	0	5
歯学部	0	0	0	0	0
工学部	15	98	43	32	188
農学部	21	55	19	10	105
創生学部	17	2	7	0	26
総計	171	273	151	68	663

プログラム名：未定

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	総計
人文学部	6	2	0	0	8
教育学部	1	0	0	0	1
法学部	5	3	0	0	8
経済科学部	6	1	0	0	7
理学部	2	0	2	0	4
医学部医学科	0	0	0	0	0
医学部保健学科	0	0	1	0	1
歯学部	0	0	0	0	0
工学部	5	2	0	0	7
農学部	7	0	0	0	7
創生学部	2	0	0	0	2
総計	34	8	3	0	45

【資料1-④】

令和６年度　マイナー・プログラム履修者数（総数）（6/30現在）

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	総計
人文学部	84	56	23	12	175
教育学部	11	3	3	5	22
法学部	54	37	16	1	108
経済科学部	81	81	97	17	276
理学部	68	38	22	25	153
医学部医学科	8	0	0	0	8
医学部保健学科	15	6	10	6	37
歯学部	3	0	1	0	4
工学部	335	114	79	57	585
農学部	45	20	23	10	98
創生学部	12	5	2	3	22
総計	716	360	276	136	1,488

注）マイナー・プログラム履修者数とは、マイナー・プログラムのいずれかに履修登録した学生のうち、複数のマイナー・プログラムを履修登録した学生の重複を除いた人数。

令和６年度　マイナー・プログラム履修登録者数（総数）（6/30現在）

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	総計
人文学部	180	84	31	12	307
教育学部	11	8	3	5	27
法学部	76	56	20	1	153
経済科学部	117	106	113	18	354
理学部	111	69	32	30	242
医学部医学科	11	0	0	0	11
医学部保健学科	19	7	12	8	46
歯学部	3	0	1	0	4
工学部	1,018	159	120	77	1,374
農学部	76	33	36	16	161
創生学部	24	6	4	3	37
総計	1,646	528	372	170	2,716

注）マイナー・プログラム履修登録者数とは、マイナー・プログラムのいずれかに履修登録した学生数。ひとりの学生が複数登録した数を含む。

【資料1-④】

令和６年度　マイナー・プログラム履修者数（6/30現在）

プログラム名：学修創生型

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	総計
人文学部	25	7	6	2	40
教育学部	0	1	1	4	6
法学部	7	5	5	0	17
経済科学部	14	3	3	2	22
理学部	4	1	1	2	8
医学部医学科	0	0	0	0	0
医学部保健学科	0	3	0	2	5
歯学部	0	0	0	0	0
工学部	18	4	1	0	23
農学部	7	6	1	0	14
創生学部	4	1	1	0	6
総計	79	31	19	12	141

プログラム名：オナーズ型

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	総計
人文学部	0	20	12	8	40
教育学部	0	0	0	1	1
法学部	2	5	4	0	11
経済科学部	2	11	4	4	21
理学部	5	14	3	8	30
医学部医学科	0	0	0	0	0
医学部保健学科	0	3	6	3	12
歯学部	0	0	0	0	0
工学部	71	27	25	14	137
農学部	6	5	2	4	17
創生学部	2	1		1	4
総計	88	86	56	43	273

プログラム名：パッケージ型

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	総計
人文学部	132	56	13	2	203
教育学部	9	7	2	0	18
法学部	58	46	11	1	116
経済科学部	83	92	106	12	293
理学部	94	54	28	20	196
医学部医学科	10	0	0	0	10
医学部保健学科	18	1	6	3	28
歯学部	3	0	1	0	4
工学部	913	128	94	63	1,198
農学部	56	22	33	12	123
創生学部	18	4	3	2	27
総計	1,394	410	297	115	2,216

プログラム名：未定

（人数）

学部	学士１年	学士２年	学士３年	学士４年	総計
人文学部	23	1	0	0	24
教育学部	2	0	0	0	2
法学部	9	0	0	0	9
経済科学部	18	0	0	0	18
理学部	8	0	0	0	8
医学部医学科	1	0	0	0	1
医学部保健学科	1	0	0	0	1
歯学部	0	0	0	0	0
工学部	16	0	0	0	16
農学部	7	0	0	0	7
創生学部	0	0	0	0	0
総計	85	1	0	0	86

・学士課程

図 ディプロマ・サプリメント参照画面と記載内容例



ディプロマサプリメント参照

1.基本情報

氏名		氏名（英）	
生年月日		在籍番号	

2.授与された学位と授与機関

学位名	授与後に表示されます	学部	工学部工学科機械システム工学プログラム
学位プログラム	工学科機械システム工学プログラム	授与機関	新潟大学（国立大学）
修業年限	4年		
学位授与の要件	本学に当該プログラムの修業年限以上在学し、所定の授業科目および124単位以上を修得したもので、下記のプログラムの到達目標に示された能力を有すると認められる者に、学士（工学）の学位を授与します。		

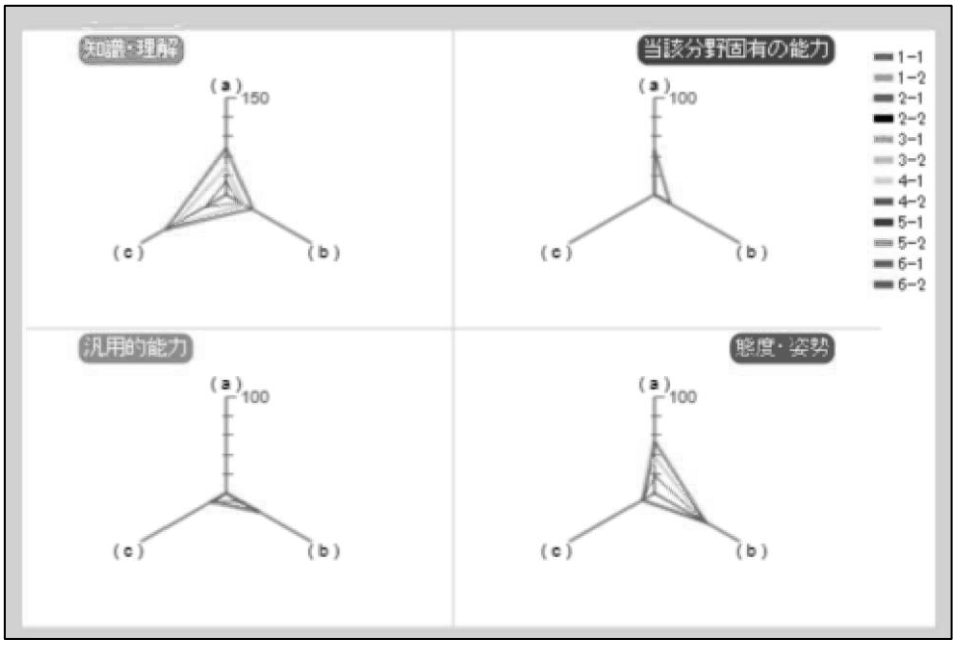
3.学位プログラムの内容

概要と教育目標	グローバル化と複雑化を増す現代社会を背景に、本プログラムでは、機械工学に関連した幅広い分野の基礎知識の習得、最新のテクノロジーの学習、および人文社会系分野の学習によって、プログラム修了後、高い倫理観、豊かな創造力および柔軟な思考力を持って、社会に貢献し国際的にもグローバルに活躍できる技術者・研究者を育成することを目標とします。	
プログラムの到達目標	知識・理解	・社会・自然に対する教養：様々な文化に触れ、人間と自然環境の相互関係及びこれに及ぼす科学技術の影響を多面的に考察できる。 ・自然科学の基礎：機械および機械関連技術の基礎となる数学と自然科学を理解し応用できる。
	当該分野固有の能力	・機械工学基礎理論：機械および機械関連分野に関する基礎理論と基礎技術を理解し、応用する能力ならびに必要とする専門的知識と技術を統合し、説明できる。 ・製作・実験・設計：機械および機械関連分野に関する実験を計画、遂行し、データを解析、正しく考察し、その結果を報告できる。また、要求に合った機械設計を個人および共同で行うことができる。
	汎用的能力	・表現・コミュニケーション：自らの考えを的確に記述、表現、発表し、他者との建設的、効率的な討議を行うコミュニケーションができ、また専門分野における英語による読み書きおよびコミュニケーションができる。 ・技術者としての倫理：機械関連技術の社会、自然、人類に及ぼす影響、効果およびその責任について、人間として十分に判断できる。
	態度・姿勢	・問題の発見と解決策の実行：自ら学習目標を立て、継続的かつ自主的に学習・演習することにより、機械システムに関する実験、実習、研究における問題点を自ら解決し、研究などを創造的に発展させることができる。 ・チームワーク：実験あるいは要求に合った機械設計を共同で行うことができる。
カリキュラム編成と学修内容・方法	カリキュラム編成 本プログラムは4年制であり、授業科目は、教養科目、専門基礎科目（数学、物理など）、専門応用科目（本分野固有）に大別されます。科目は、必修、選択必修、選択に区分されます。これらの区分は、教育目標達成に対する寄与度などを考慮して決めています。1年次には工学部工学科力学分野で学び、2年次から本プログラムに配属されます。学年進行に伴い、基礎、発展、応用へとカリキュラムが順次展開される構成としています。 学修内容・方法と学修成果の評価方法 1年次のカリキュラムは主に、技術者としての倫理などを含む「社会・自然に対する教養」および「自然科学の基礎」を中心に学びます。また本学科の特徴として、一つの専門分野に閉じることなく工学全体を俯瞰させるための基礎教育を工学部共通教育として開設しています。さらに、力学分野（本プログラム）への導入科目も開設されています。 2年次のカリキュラムは主に、専門応用科目の中でも「機械工学基礎理論（4力学など）」および体験的な"ものづくり実習"を開設し、本専門分野固有の基礎教育を目指します。実習では、チームワークの能力も涵養します。 3年次カリキュラムでは主に、発展的機械工学の理論と応用科目、および製作・実験・設計に関す	

図 ディプロマ・サプリメント参照画面と記載内容例（つづき）

4.学位プログラム及びメジャーの学修成果

総合GPA（P平均）	3.2469 (3.2657)	総合成績平均（P平均）	83 (82)	
メジャー主要科目のGP／成績	機械設計I	2.8	機械力学I	3.9
	機械力学II	3.3	機械設計II	3.2
	機械工学演習	3.5	機械工作実習I	3.6
	機械工作実習II	3.4	機械工作実習III	3.5
	機械工学実験I	2.6	機械工学実験II	3.7
	機械工学実験III	3.4	機械工学実験IV	3.0
	機械工学概論	2.7	機械材料	4.2



【資料2-①】

5.マイナーの内容と学修成果

マイナー名	「データサイエンスリテラシー」		
種別	パッケージ型マイナー	修了要件	A) [データサイエンス入門科目群]から2単位 B) [統計科目群]または[数学科目群]から2単位以上 C) [情報概論科目群]から2単位以上 D) [情報処理演習科目群]または[プログラミング基礎科目群]から2単位以上 以上の合計12単位を修得
概要と教育目標	様々なデータに内在する本質的構造を理解し数理的思考に基づいて解析・問題解決を行うデータサイエンスは，データ駆動型社会において多様な分野で新たな知見を創出するカギとなることが期待されています。データサイエンスは数理的知識・計算処理技術・問題発見課題解決からなる複合的な領域であり，旧来の学問分野や領域を越えた学習が必要となります。データサイエンスを構成する各要素に対応した授業科目を満遍なく履修することで知識・技能を分野横断的かつ体系的に学び，データサイエンスに関わる基礎的知識・技能の習熟と実践的経験を通してデータサイエンスの基礎的な能力を修得するとともに，データ駆動型社会において活躍できるための幅広い視野と行動力を身に付けます。		
取得マイナー単位数	18	マイナーGPA	3.3666
マイナー成績平均	85		

マイナー科目のGP／成績

データサイエンス総論Ⅰ	4.1	データサイエンス総論Ⅱ	3.2
基礎数理A Ⅰ	4.0	基礎数理A Ⅱ	2.0
基礎数理B	4.5	情報産業論	2.1
プログラミング概論A	3.5	プログラミング概論B	5.0
応用数理A	3.2	応用数理B	2.3
統計入門	4.3		

6.資格・特筆すべき成果

資格・特筆すべき成果はありません。

【資料2-①】

・大学院（博士前期・後期課程、修士課程）

- ディプロマ・サプリメントの構造は学士課程と同様
- 大学院において、各専攻やコースレベルで出しているディプロマ・ポリシー（以下DP）の「汎用的能力」を「トランスファラブルスキル」と読み替えている。カリキュラム上の位置づけは、カリキュラム・マップの「汎用的能力」で示し、学修成果の可視化はカリキュラム・マップの重み付けをもとに、各科目の成績の合成得点によって示す。

図 カリキュラム・マップ例
（フィールド科学プログラム（博士前期課程）のカリキュラム・マップの一部）
赤枠がトランスファラブルスキル＝汎用的能力に該当

教育目標領域			単位数	選択・必修	(3) 汎用的能力						(4) 態度・姿勢			
分類		達成目標 / 授業科目名			最先端の知にアクセスする専門的能力	自ら課題を発見・設定し、解決する能力	社会的・経済的価値を判断・創する能力	地域の諸問題についてステークホルダーとのコミュニケーションを通じて問題解決策を提案できる能力	国内学会において研究発表及び論できる能力	定められた期間で課題を解決し、まとめ、報告する能力	多様な分野の専門家と協働する積極的態度	広い学問的視野に基づいて物事を理解し、現実の事象に応用・適用する姿勢	グループ活動（課題、ゼミ）においてメンバーを尊重する態度と協調して活動する姿勢	気候変動に伴う諸環境変化や諸問題に対応し、豊かで魅力的な社会生活環境を次世代に引き継ぐ姿勢
A 課程・専攻共通科目等		自然科学総論	1	必修										5
		先端科学技術総論	1		30							30		
		プロジェクト研究特別概説	1			30					10	10	10	
		企業における生産・開発Ⅰ	1		10	10	10			10		10	10	10
		修士のためのインターンシップ	1		20	30	20		10				20	
		環境ガバナンス概論	2	必修		5	5	35		5	5	5	5	5
		キャリアマネジメントセミナー	2			50	20		10			10	10	
		突発災害特論	1		30						10	10	10	
		他コース専門科目	2	必修	50									
B 専門科目	生態学分野	森林保全学特論	2		20									
		野生植物生態学特論	2		10	10		10	10		10	10		10
		自然再生学特論	2		20									
		森林遺伝育種学特論	2		20									
		島嶼生態学特論	2		20									
		神経内分泌学	2		20									
		進化生物学特論Ⅳ	2		10									
		動物生態学特論	2		20									
		希少生物学特論	2			10								
		流域環境思想論	2			10	20	10				10		
	環境動態学分野	森林空間計測学特論	2		20									
		生態系環境学特論	2		10									10
		大気物理学特論Ⅰ	2											10
		大気影響評価学特論	2		10									
		大気環境科学特論	2		10									
		環境化学要論Ⅰ	2		10									
		環境化学要論Ⅱ	2											10
		水文学特論	2		10									10

図 ディプロマ・サプリメント参照画面と記載内容例
（フィールド科学プログラム（博士前期課程））
赤枠がトランスファラブルスキル＝汎用的能力に該当

ディプロマサプリメント参照

1.基本情報

氏名		氏名（英）	
生年月日		在籍番号	

2.授与された学位と授与機関

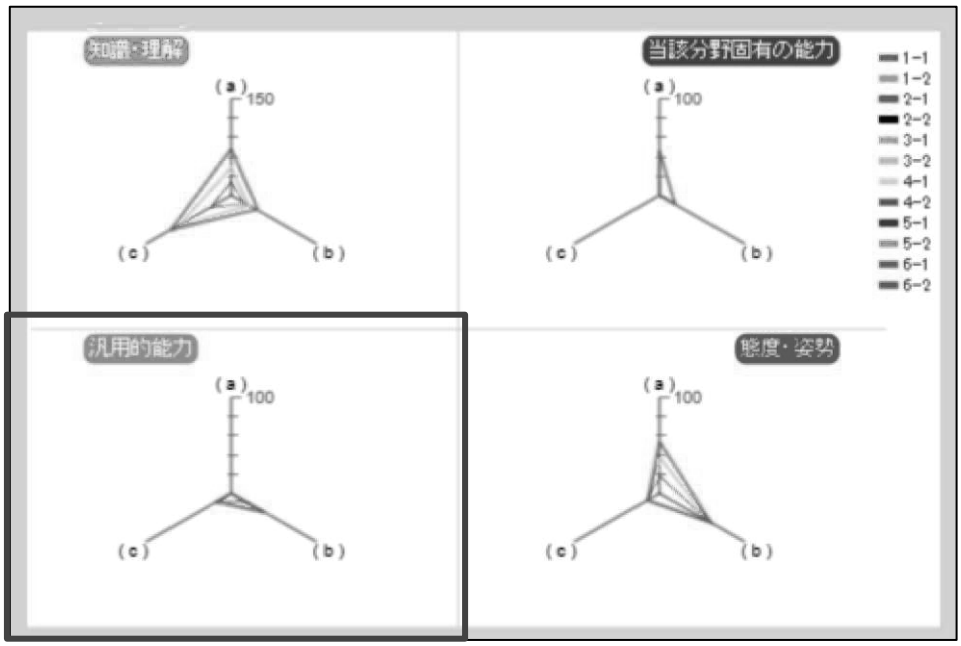
学位名	授与後に表示されます	学部	自然科学研究科環境科学専攻
学位プログラム	フィールド科学（博士前期課程）	授与機関	新潟大学（国立大学）
修業年限	2年		
学位授与の要件	以下の能力を修得し、本学に当該プログラムの修業年限以上在学し、所定の授業科目38単位以上を修得した者で、下記の能力を有すると認められる者に、修士（学術）、修士（理学）又は修士（農学）の学位を授与します。		

3.学位プログラムの内容

概要と教育目標	21世紀の地球は気候変動に伴う生態系等の環境変化、自然災害の頻発、食糧不足が予想されます。大きく変化する自然との共生の道を探りながら、直面する諸産業や社会基盤の構造的変化に対応し、災害に強く、豊かで魅力的な社会生活環境を整備維持し次世代に引き継いでいく必要があります。当プログラムは、フィールド科学の専門的知見を有するとともに社会科学や人間科学の素養を備え、環境変化に伴う地域社会の現況や今後直面する諸問題に対処し、豊かな自然・社会生活環境の再生・活性化に活躍・貢献する中核リーダーを養成します。	
プログラムの到達目標	知識・理解	・自然環境における諸現象の形成メカニズムや変動過程の多角的視点による学術的理解を有している。 ・生物多様性の観点による生態系、水循環、バイオマスの学術的理解を有し、環境保全・森林及び生態系管理への応用ができる。 ・地球温暖化などの気候変動に伴う地球環境、自然環境、社会生活環境の変化・変動を理解し対策ができる。 ・地球物質の形成過程、地球の諸構造の生成・変化・相互作用、地球創生以来の地球環境変遷の学術的理解を有している。 ・雪氷災害、水災害、地盤・土砂災害、火山災害及びこれらの複合災害の発生機構の学術的理解を有し防災・減災技術への応用ができる。
	当該分野固有の能力	・自然・社会・人類に対する専門性に基づく倫理的判断能力を身に付けている。 ・地球・自然・社会環境に関わる諸データ収集・取得・処理・解析をすることができる。 ・地球・自然・社会環境に関わる諸現象・事象の理解に基づく考察をすることができる。 ・野外の諸活動における調査・観察・観測実施遂行能力及び現場判断能力を身に付けている。 ・変化する地球環境との共生の道を探り、直面する資源問題・農林水産業・社会基盤の構造的変化に対応することができる。
	汎用的能力	・最先端の知にアクセスする専門的能力を身に付けている。 ・自ら課題を発見・設定し、解決することができる。 ・社会的・経済的価値を判断・創出することができる。 ・地域の諸問題について地域とのコミュニケーションを通じて問題解決策を提案できる。 ・国内学会において研究発表及び議論できる。 ・定められた期間で課題を解決してまとめ、報告することができる。
	態度・姿勢	・多様な分野の専門家と協働する積極的態度を備えている。 ・広い学問的視野に基づいて物事を理解し、現実の事象に応用・適用する姿勢を備えている。 ・グループ活動（課題、ゼミ）においてメンバーを尊重する態度と協調して活動する姿勢を備えている。 ・気候変動に伴う諸環境変化や諸問題に対応し、豊かで魅力的な社会生活環境を次世代に引き継ぐ姿勢を備えている。

【資料2-①】

図 ディプロマ・サプリメント参照画面と記載内容例（つづき）
（フィールド科学プログラム（博士前期課程））
赤枠がトランスファラブルスキル＝汎用的能力に該当



アセスメント サポートシステムの紹介

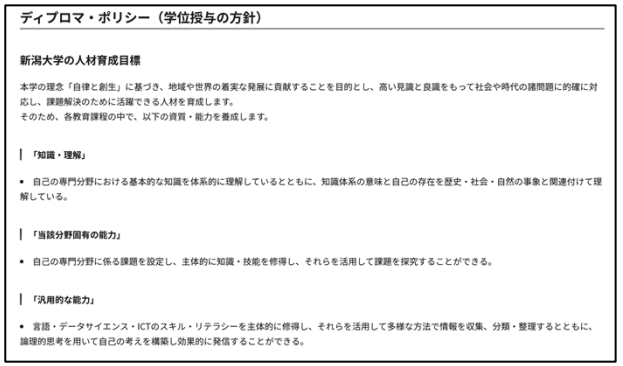
問題背景

- **学習成果の評価を間接評価や教育関連企業の標準テストことには限界がある**
  - 学習成果の可視化：DPを何かしらの評価方法によって指標化する必要
    - 外部の教育関連企業が作成した標準テスト→限界
    - 学生対象のアンケート（間接評価）→限界
    - 科目成績情報の集約→限界
    - 抽象的に示されたDPを、**妥当性が高く**、かつ**当該大学や学問分野のミッションに合わせ**、**実行可能性が高いかたちで評価**することが理想

      ↓but

    - 当該大学やプログラム自前で作成するのはかなりの労力と評価論・測定論の専門知識・スキルが求められる

新潟大学DP


ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

新潟大学の人材育成目標

本学の理念「自律と創生」に基づき、地域や世界の着実な発展に貢献することを目的とし、高い見識と良識をもって社会や時代の諸問題に的確に対応し、課題解決のために活躍できる人材を育成します。
そのため、各教育課程の中で、以下の資質・能力を養成します。

「知識・理解」

- 自己の専門分野における基本的な知識を体系的に理解しているとともに、知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然の事象と関連付けて理解している。

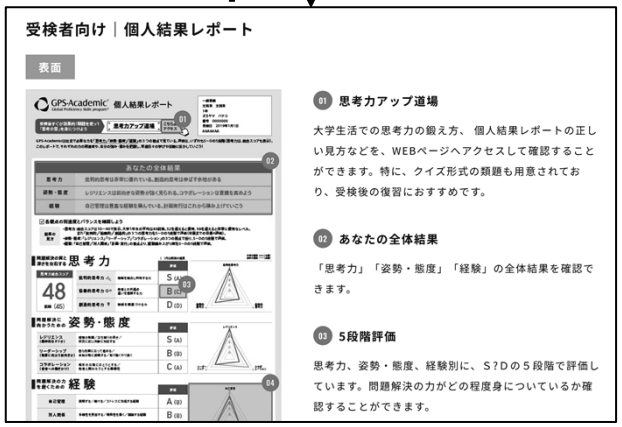
「当該分野固有の能力」

- 自己の専門分野に係る課題を設定し、主体的に知識・技能を修得し、それらを活用して課題を探究することができる。

「汎用的な能力」

- 言語・データサイエンス・ICTのスキル・リテラシーを主体的に修得し、それらを活用して多様な方法で情報を収集、分類・整理するとともに、論理的思考を用いて自己の考えを構築し効果的に発信することができる。

ミスマッチ


受検者向け｜個人結果レポート

表面

GPS-Academic 個人結果レポート

01 思考力アップ道場

大学生活での思考力の鍛え方、個人結果レポートの正しい見方などを、WEBページへアクセスして確認することができます。特に、クイズ形式の類題も用意されており、受検後の復習におすすめです。

02 あなたの全体結果

「思考力」「姿勢・態度」「経験」の全体結果を確認できます。

03 5段階評価

思考力、姿勢・態度、経験別に、S?Dの５段階で評価しています。問題解決の力がどの程度身についているか確認することができます。

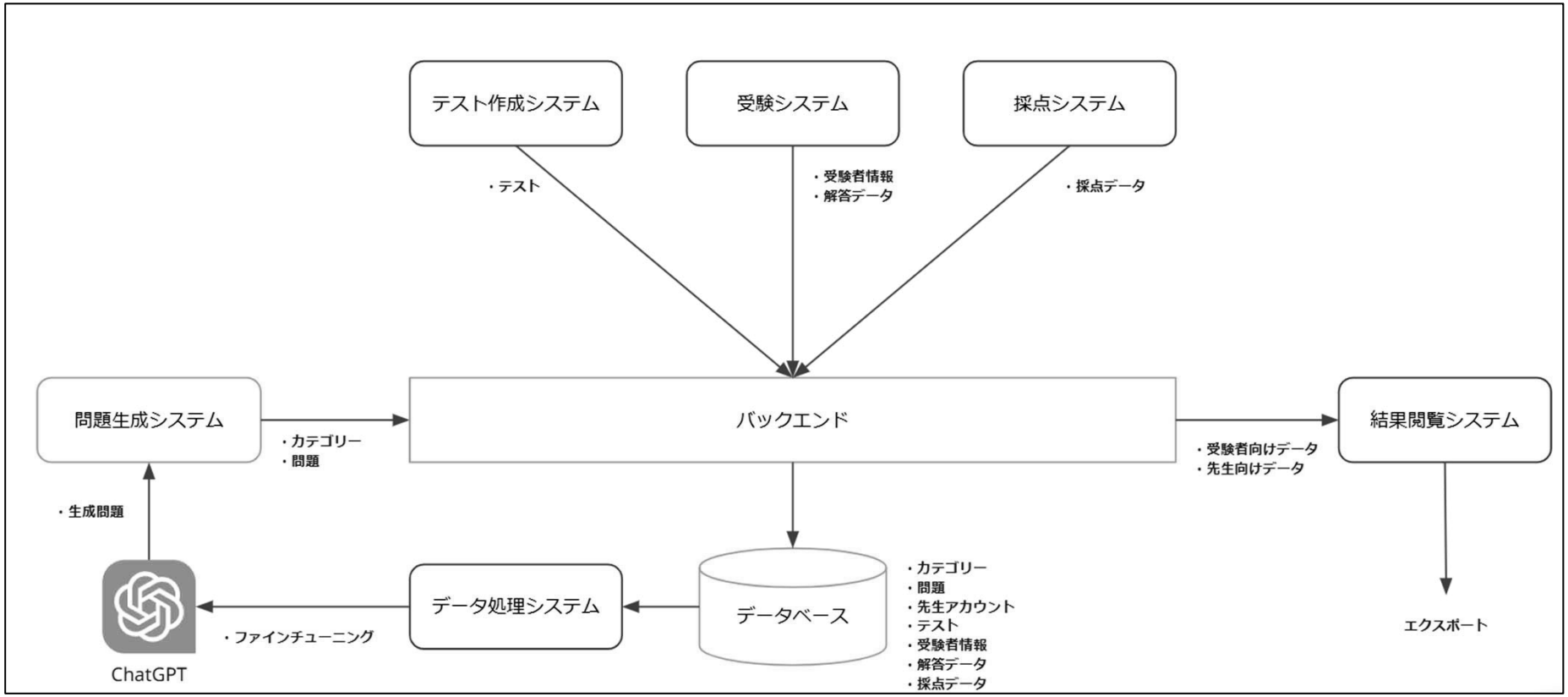
GPS-Academic（ベネッセ）

システムの概要

- **DPに合わせてプログラムレベルの学習成果を評価するためのテストを作りたい**
  - ただしテスト及び項目作成や採点は大きな負担と
    専門分野固有の知識と評価論・測定論の知識が必要
    →生成AIにできるところはサポートしてもらえたら…
  - **あくまでサポート**

- **大きく3＋1つの機能**
  1. **DPのカテゴリに合わせた評価項目作成機能（←＋生成AI。2023年度。）**
  2. テスト実施及び自動採点機能（← ＋生成AI。2024年度。）
  3. 情報集約とフィードバック機能（2024年度。）
  4. テスト理論による良問の集積とテスト自動構成機能

システムの概要


テスト作成システム
受験システム
採点システム
・テスト
・受験者情報
・解答データ
・採点データ
問題生成システム
・カテゴリー
・問題
バックエンド
・受験者向けデータ
・先生向けデータ
結果閲覧システム
・生成問題
ChatGPT
・ファインチューニング
データ処理システム
データベース
・カテゴリー
・問題
・先生アカウント
・テスト
・受験者情報
・解答データ
・採点データ
エクスポート

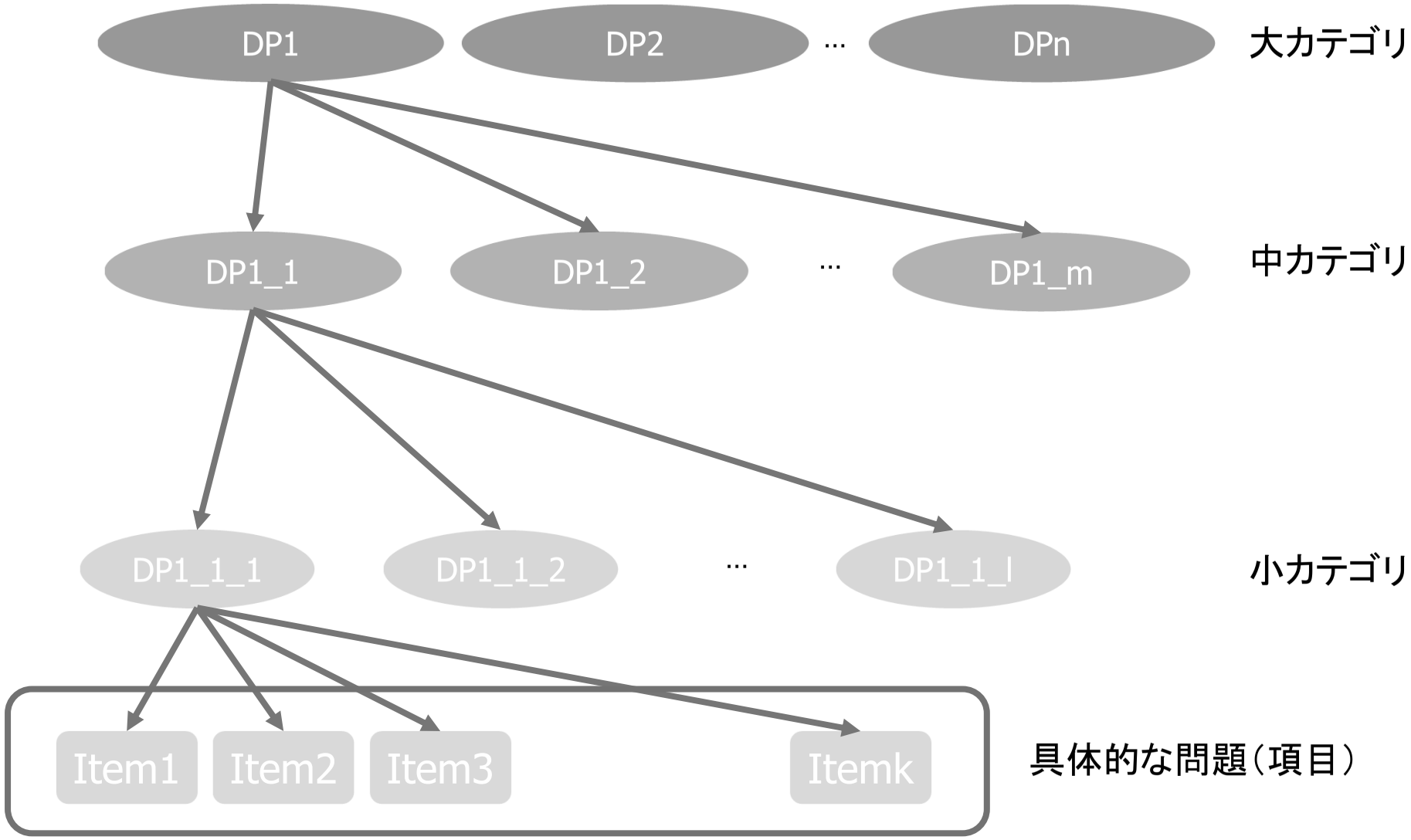
システムの概要

■ DPのカテゴリー作成

- 抽象的なDP→具体的な資質・能力（構成概念）に整理・構造化して登録

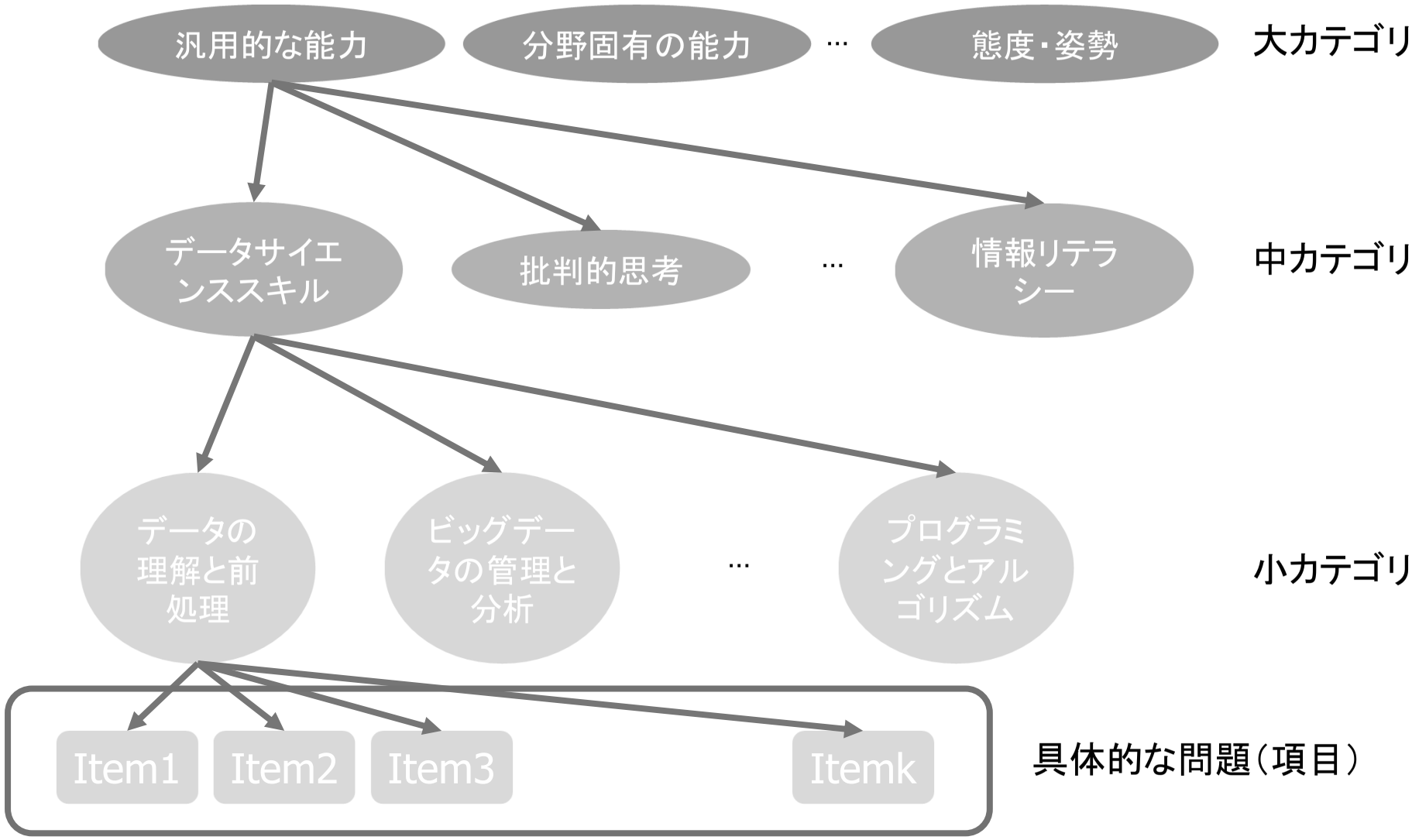
ID	カテゴリー名	カテゴリーの種類	上位カテゴリー	説明	更新日時	アクション
5	汎用的な能力	大カテゴリー		言語・データサイエンス・ICTのスキル・リテラシーを主体的に修得し、それらを活用して多様な方法で情報を収集、分類・整理するとともに、論理的思考を用いて自己の考えを構築し効果的に発信することができる。	2024/01/26	削除する → 編集する →
34	問題解決力	中カテゴリー	汎用的な能力	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決する能力。	2024/01/29	削除する → 編集する →
37	戦略的計画	小カテゴリー	問題解決力	効果的な解決策の開発と実行計画。	2024/01/29	削除する → 編集する →
35	問題の識別	小カテゴリー	問題解決力	問題の正確な特定と定義。	2024/01/29	削除する → 編集する →
36	情報収集と分析	小カテゴリー	問題解決力	問題解決に必要な情報の収集、分析。	2024/01/29	削除する → 編集する →
39	データサイエンス・スキル	中カテゴリー	汎用的な能力		2024/01/29	削除する → 編集する →
40	データの理解と前処理	小カテゴリー	データサイエンス・スキル	データの収集、クレンジング、整形、および基本的なデータの特性理解。	2024/01/29	削除する → 編集する →
45	ビッグデータの管理と分析	小カテゴリー	データサイエンス・スキル	大量のデータセットの扱い、高度な分析手法の適用。	2024/01/29	削除する → 編集する →
49	データ倫理とプライバシー	小カテゴリー	データサイエンス・スキル	データの倫理的な使用、個人情報保護、データセキュリティ。	2024/02/01	削除する → 編集する →
41	統計的分析とモデリング	小カテゴリー	データサイエンス・スキル	統計手法を用いたデータの分析、仮説の検証、予測モデルの構築。	2024/01/29	削除する → 編集する →

DP（構成概念）の構造化と問題作成

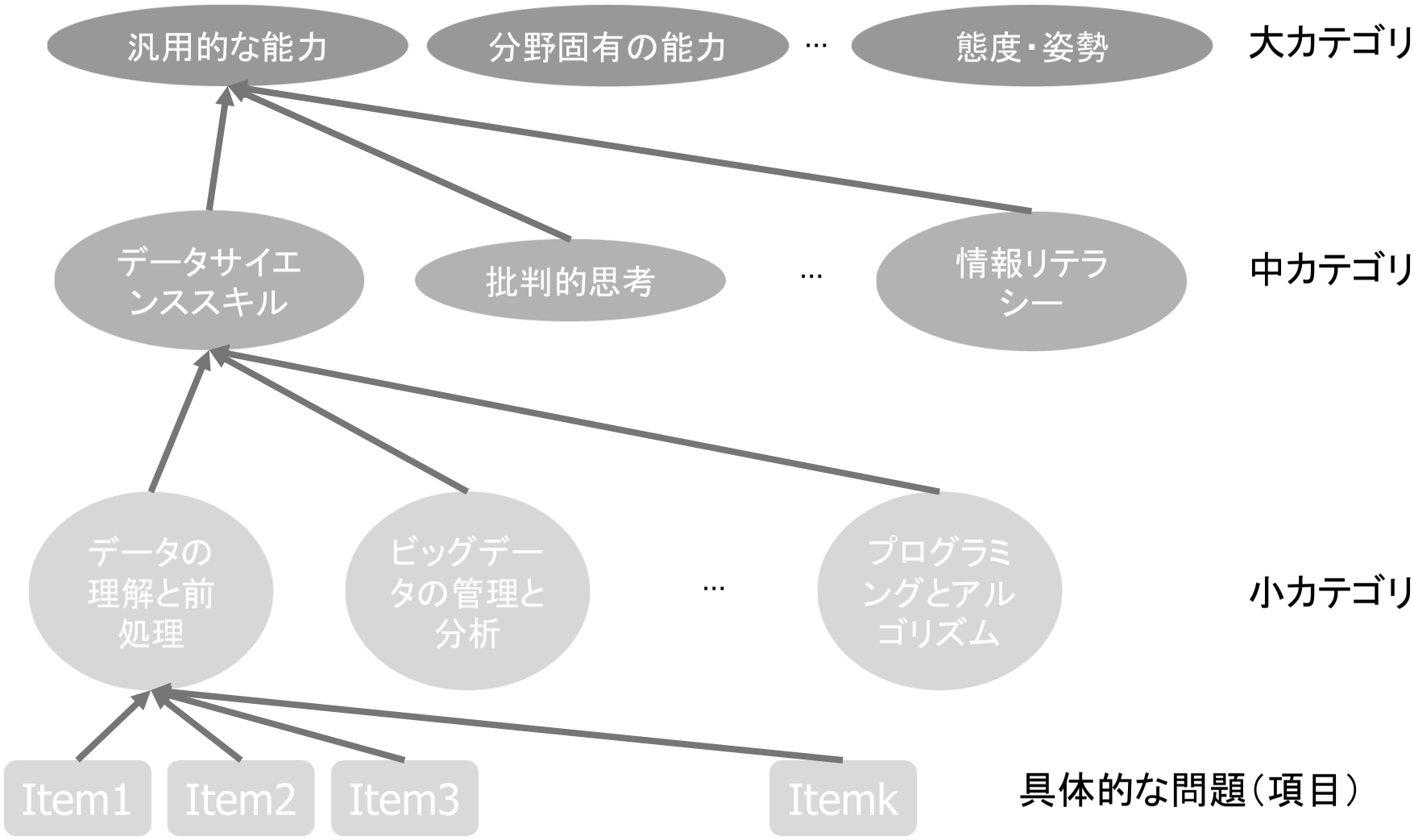


【資料2−②】

DP（構成概念）の構造化と問題作成の例



得点化の手続き


汎用的な能力
分野固有の能力
…
態度・姿勢
大カテゴリ
データサイエンススキル
批判的思考
…
情報リテラシー
中カテゴリ
データの理解と前処理
ビッグデータの管理と分析
…
プログラミングとアルゴリズム
小カテゴリ
Item1
Item2
Item3
Itemk
具体的な問題（項目）

システムの概要

■ DPのカテゴリー作成

- 抽象的なDP→問題作成が可能なレベルの具体的なカテゴリーに整理・構造化して登録

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	定義
#汎用的能力: 言語・データサイエンス・ICTのスキル・リテラシーを主体的に修得し、それらを活用して多様な方法で情報を収集、分類・整理するとともに、論理的思考を用いて自己の考えを構築し効果的に発信することができる。	##論理的思考力	…	…
	##情報リテラシー	…	…
	##問題解決能力	…	…
	##コミュニケーション・スキル	…	…
	##データサイエンス・スキル	###データの理解と前処理	データの収集、クレンジング、整形、および基本的なデータの特性理解。
		###ビッグデータの管理と分析	大量のデータセットの扱い、高度な分析手法の適用。
		###データ倫理とプライバシー	データの倫理的な使用、個人情報保護、データセキュリティ。
		###統計的分析とモデリング	統計手法を用いたデータの分析、仮説の検証、予測モデルの構築。
		###プログラミングとアルゴリズム	データ処理と分析のためのプログラミング言語（例：Python、R）の使用、アルゴリズムの適用。
		###ビジュアライゼーションとコミュニケーション	データの視覚化、結果の分かりやすい伝達。
		###機械学習と人工知能の応用	機械学習アルゴリズムの理解と適用、AI技術を活用した洞察

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	定義
#汎用的能力： 言語・データサイエンス・ICTのスキル・リテラシーを主体的に修得し、それらを活用して多様な方法で情報を収集、分類・整理するとともに、論理的思考を用いて自己の考えを構築し効果的に発信することができる。	##論理的思考力	…	…
	##情報リテラシー	…	…
	##問題解決能力	…	…
	##コミュニケーション・スキル	…	…
	##データサイエンス・スキル	###データの理解と前処理	データの収集、クレンジング、整形、および基本的なデータの特性理解。
		###ビッグデータの管理と分析	大量のデータセットの扱い、高度な分析手法の適用。
		###データ倫理とプライバシー	データの倫理的な使用、個人情報保護、データセキュリティ。
		###統計的分析とモデリング	統計手法を用いたデータの分析、仮説の検証、予測モデルの構築。
		###プログラミングとアルゴリズム	データ処理と分析のためのプログラミング言語（例：Python、R）の使用、アルゴリズムの適用。
		###ビジュアライゼーションとコミュニケーション	データの視覚化、結果の分かりやすい伝達。
		###機械学習と人工知能の応用	機械学習アルゴリズムの理解と適用、AI技術を活用した洞察の抽出。

システムの概要

■ カテゴリーごとの問題作成

- 問題形式、想定難易度（認知過程次元）、想定解答時間等を指定する



システムの概要

■ カテゴリーごとの問題作成

- テーマを選んだり、特定のテキストを貼り付けて内容を指定したり、PDFを読み込ませたりすることが可能



システムの概要

■ カテゴリーごとの問題作成

- 項目が生成×4



システムの概要

■ カテゴリーごとの問題作成

□ 生成項目を改善



システムの概要

■ カテゴリーごとの問題作成

□ 項目の保存



システムの概要

■ カテゴリーごとの問題作成

□ 保存してリスト化

カテゴリー 全て　　並び順 新着順

ID	大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	問題名称	更新日時	想定難易度（認知過程次元）	想定平均時間	アクション	
42	汎用的な能力	データサイエンス・スキル	データの理解と前処理	データクレンジング	2024/03/21	難易度低（記憶する、理解する）	3分	削除する →	確認する →
41	汎用的な能力	問題解決力	戦略的計画	正誤選択式の生成テスト	2024/03/15	難易度低（記憶する、理解する）	3分	削除する →	確認する →
40	汎用的な能力	カテゴリー作成総合テスト	作成総合	生成後に問題文編集テスト	2024/03/15	難易度中（応用する、分析する）	3分	削除する →	確認する →
39	汎用的な能力	データサイエンス・スキル	ビジュアライゼーションとコミュニケーション	改善ページ上での問題編集テスト	2024/03/14	難易度中（応用する、分析する）	10分	削除する →	確認する →
38	汎用的な能力	問題解決力	情報収集と分析	因果推論	2024/03/06	難易度中（応用する、分析する）	3分	削除する →	確認する →
35	汎用的な能力	コミュニケーション・スキル	読解力	読解力問題	2024/03/02	難易度高（評価する、創造する）	3分	削除する →	確認する →
36	汎用的な能力	データサイエンス・スキル	データの理解と前処理	組み合わせ形式の確認用	2024/03/02	難易度低（記憶する、理解する）	3分	削除する →	確認する →
37	汎用的な能力	データサイエンス・スキル	データの理解と前処理	正誤問題確認用	2024/03/02	難易度低（記憶する、理解する）	3分	削除する →	確認する →
33	汎用的な能力	数量的スキル	シンボルと公式の使用	折れ線グラフ保存テスト	2024/02/16	大学3年生	5分	削除する →	確認する →
21	汎用的な能力	データサイエンス・スキル	ビッグデータの管理と分析	円グラフテスト	2024/02/16	大学2年生	3分	削除する →	確認する →

検証：問題（項目）作成と実施

- 選択したカテゴリー
  大「汎用的な能力」
  中「データサイエンス・スキル」
  小「データの理解と前処理」「ビッグデータの管理と分析」「データ倫理とプライバシー」等

- 対象：データサイエンス教育（必修）を受講した学生88名（約93%が1年生）
- 時期：2024年度5月末
- 実施形式：オンライン（生成された問題をGoogleフォームに移して実施）

- システムを持ちいて計26問作成。データサイエンスの標準的な教科書やwebサイトの記述をテキストとして読み込ませた。
  →（内容チェックも含めておおよそ5時間程度の作業時間）
  →ほぼ全員正解の項目を省き、識別力の高い11問を精選した。

検証：問題（項目）作成と実施

■ 作成問題例

データサイエンスにおいて相関関係を見つけた場合、必ずしも因果関係があるとは言えない理由を選べ。 1ポイント

- ○ a. 因果関係は数学的な分析では導出できない
- ○ b. 相関関係があると、必ずしも一方の変数が他方の変数の原因であるとは限らない
- ○ c. 全ての因果関係は相関関係を持たない
- ○ d. 因果関係は統計的に測定することは不可能である

外れ値を処理する際、注意すべき事項として最も適切なものを選びなさい。 * 1ポイント

- ○ a. すべての外れ値を削除する
- ○ b. 外れ値を決して分析には用いない
- ○ c. 外れ値の発生原因を調査し、ケースバイケースで対応する
- ○ d. 外れ値を常に平均値で補完する

時系列データにおいて予測モデルを構築する際、将来のトレンドを予測するために重要なのは何か。 * 1ポイント

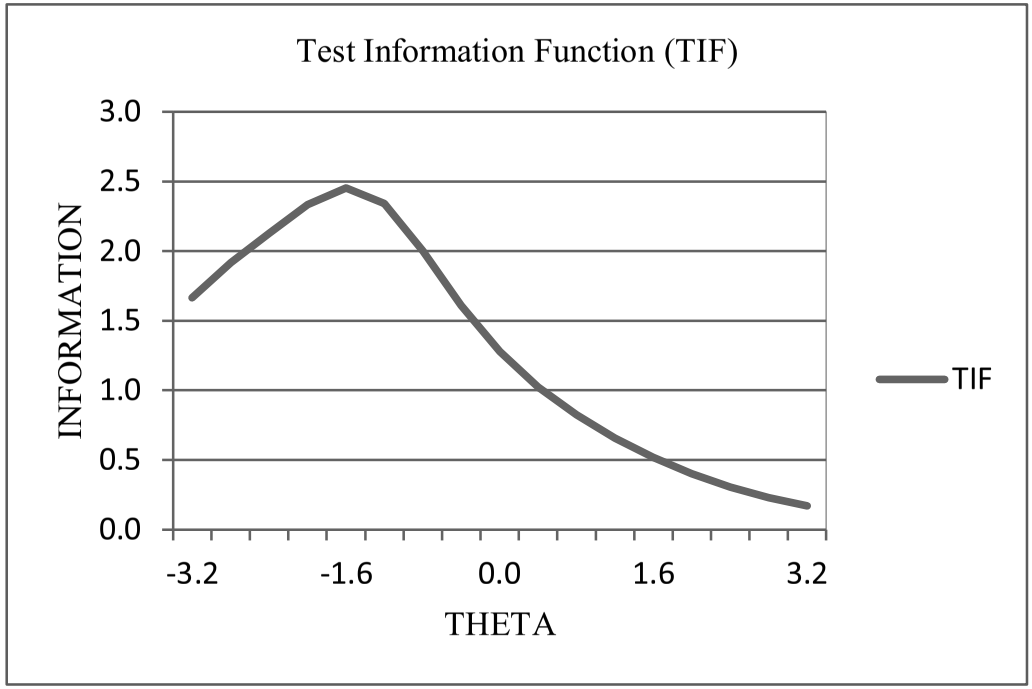
- ○ a. 過去のデータを無視する
- ○ b. 一定期間の平均値のみを使用する
- ○ c. 季節性や周期性の特徴を考慮する
- ○ d. 毎日の変化を無視する

次のデータセットについて、その標本分散と不偏分散を計算せよ。データセット: 5, 7, 9, 10 * 1ポイント

- ○ a. 標本分散=3.6875、不偏分散=4.9167
- ○ b. 標本分散=4.9167、不偏分散=3.6875
- ○ c. 標本分散=3.5、不偏分散=4.6667
- ○ d. 標本分散=3、不偏分散=4

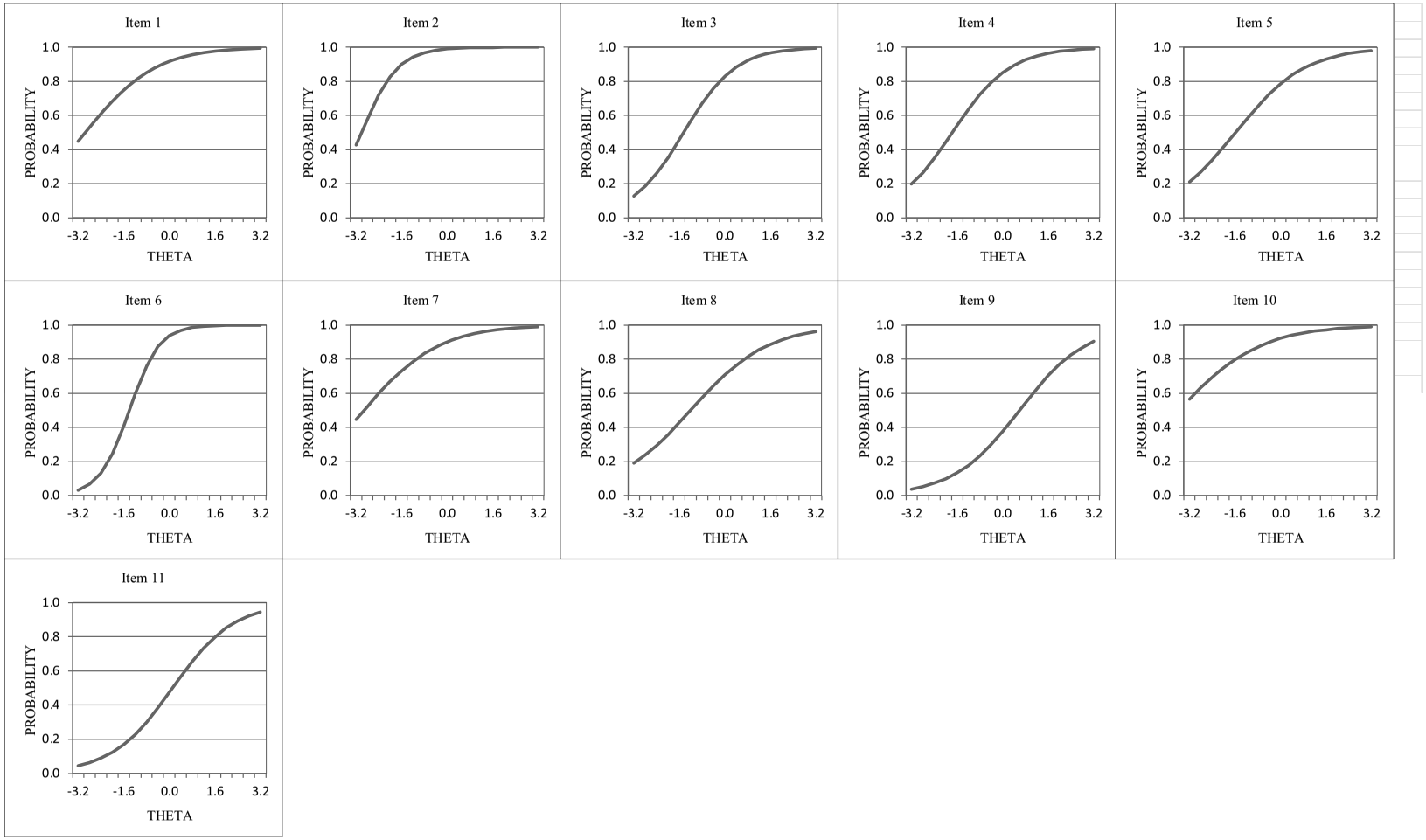
検証：問題（項目）作成と実施

- 11問の信頼性係数（KR-20）：0.71
- M=8.8、SD＝2.1
- テスト情報関数（TIF）から、能力が低めの受験者に対する推定精度が高い



検証：問題（項目）作成と実施

- 11問の項目情報関数



検証結果

- 作成上はかなり簡便。得点の信頼性も一定程度担保されている。
- プロンプトにこだわらずに生成した場合、難易度としては低め。実際、テスト全体としては能力が低めの受験者に対する推定精度が高い。

- 細かい下位構成概念レベルになると、より多くの問題（項目）数の必要性が示唆。

＊学修相談の案内

・**学修相談（アカデミック・アドバイジング）**

マイナーの学修を継続的に支援するしくみ → 授業終了後もご利用ください！
授業とは別に、アカデミック・アドバイザーによるマイナーの学修相談を受けることができます
学修相談は1回あたり30分（何回でも利用可能）

＊本授業の履修者は柔軟に対応します！

・**曜日・担当者**

火曜日：橋本
木曜日：柿原
金曜日：橋本（第１・第３）
　　柿原（第２・第４）

・**対応時間（曜日共通）**

昼休み　11:55〜12:45
3限　12:55〜14:25
4限　14:40〜16:10

・**場所：総合教育研究棟A棟 2F**
A211（D205）

・**予約方法**

① 二次元バーコードから

② NICEのページから：https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/aa.html

学修相談受付票

このたびは学修相談をご利用くださりありがとうございます。
本アンケートはみなさんのニーズを把握し、適切なアカデミック・アドバイジングを提供するために実施しています。
可能な範囲で詳しくご記入いただけると幸いです。
どうぞよろしくお願いいたします。

【学修相談の曜日】
火・木・金（夏季休業・春季休業期間を除く）

【時間】
昼休み・3限・4限

＊予約された方を優先しています。予約なしでご来室されても対応できない場合がございますのでご了承ください。
＊「履修ガイド」で紹介されている「学修相談」予約状況カレンダーは現在停止しています。

今回の相談内容をお知らせください。

NICEのウェブサイトではよくある質問（FAQ）を掲載しています。
以下のアドレスよりご参照いただけます。
https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/inquiry.html

1. 相談希望日① *

日付を入力してください(yyyy/MM/dd)

2. 相談希望日①の時間を選択してください（複数選択可）。 *

- [ ] 11:55-12:25
- [ ] 12:55-13:25
- [ ] 13:45-14:15
- [ ] 14:40-15:10
- [ ] 15:30-16:10

3. 相談希望日②

日付を入力してください(yyyy/MM/dd)

4. 相談希望日②の時間を選択してください（複数選択可）。

- [ ] 11:55-12:25
- [ ] 12:55-13:25
- [ ] 13:45-14:15
- [ ] 14:40-15:10
- [ ] 15:30-16:10

5. 相談希望日③

日付を入力してください(yyyy/MM/dd)

6. 相談希望日③の時間を選択してください（複数選択可）。

- [ ] 11:55-12:25
- [ ] 12:55-13:25
- [ ] 13:45-14:15
- [ ] 14:40-15:10
- [ ] 15:30-16:10

7. 氏名 *

回答を入力してください

8. 在籍番号 *

回答を入力してください

9. 学部 *

答えの選択

10. 学位プログラム *

答えの選択

11. 学年 *

答えの選択

12. マイナータイプ *

- [ ] 学修創生型
- [ ] パッケージ型
- [ ] オナーズ型
- [ ] 未定

13. マイナーを履修している人は、マイナーの名称をご記入ください（複数回答可）。

回答を入力してください

14. 「分野横断デザイン」の履修について *

- ◯ 現在履修している、過去に履修した
- ◯ 履修したことがない

15. 「分野横断デザイン」を履修した時期

- ◯ 2021年度　1学期
- ◯ 2021年度　2学期
- ◯ 2022年度　1学期
- ◯ 2022年度　2学期
- ◯ 2023年度　第１ターム
- ◯ 2023年度　第２ターム
- ◯ 2023年度　第３ターム
- ◯ 2023年度　第４ターム
- ◯ 2024年度　第１ターム

16. 「分野横断リフレクション」の履修について

- ◯ 履修した
- ◯ 履修していない

17. 「分野横断リフレクション」を履修した時期

- ◯ 2023年度　1学期（8月・9月）
- ◯ 2023年度　2学期（2月）
- ◯ 2024年度　第１ターム

18. 相談の種類 *

- [ ] マイナーとして学ぶことが思いつかない（具体的にならない）
- [ ] 自分にあったマイナーの型を知りたい
- [ ] 履修科目、履修計画について相談したい
- [ ] メジャーとマイナーの関連づけについて助言がほしい
- [ ] マイナー学修の方向性を変更したい
- [ ] その他

19. 具体的な相談内容を教えてください。 *

回答を入力してください

個人情報の取り扱いに関する許諾について

・本アンケートおよび学修相談で知り得た個人情報は、「個人情報の保護に関する法律」にもとづいて厳正に管理いたします。
・学修相談の質を向上させる目的で、上記の個人情報を研究に利用することがあります。
その際には、学内の倫理規定にもとづいて匿名性を確保した上実施いたします。

20. 個人情報の提供について

- ◯ 同意する
- ◯ 同意しない

【資料3-③】

「学修相談」月別件数

令和 3 年度の相談件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	総計
メール	14	2	0	0	4	9	4	0	0	1	0	1	**35**
対面	10	6	4	38	2	2	6	4	13	15	4	2	**106**
電話	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
計	24	8	4	38	6	11	10	4	13	16	4	3	**141**

令和 4 年度の相談件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	総計
メール	23	1	2	0	0	3	10	1	1	0	0	1	**42**
対面	21	6	24	33	4	2	9	11	14	21	14	3	**162**
電話	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	**2**
計	44	7	26	33	5	5	19	12	16	21	14	4	**206**

令和 5 年度の相談件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	総計
メール	5	0	0	3	0	0	1	3	0	0	0	0	**12**
対面	19	17	14	21	14	0	8	21	3	6	6	2	**131**
電話	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
計	24	17	14	24	14	0	9	24	3	6	6	2	**143**

令和 6 年度 7 月までの相談件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	総計
メール	0	0	0	0	**0**
対面	30	26	11	17	**84**
電話	0	0	0	0	**0**
計	30	26	11	17	**84**

創生学部：スタディスキルズ 4分プレゼン
2年次 自然 環境 興味のある社会課題について
地質 心理 社会 メディア 環境 倫理
ゴール ○探究課題の設定（具体的にしたい）
・人間・社会のあり方
（自然・環境・生態系…）
・自然の中に人間が含まれているような
・開発されていない、ありのままの自然（海）
様々な人間の活動と自然の相互関係
・人間が自然に興味・関心をもてるように（薄れているのではないか）
教室
人間と自然
自然と
関係
自然に対する興味・関心を高める
人間社会の在り方を
見方を再考し
問い直す

課題解決
昨日の発表：マイナーと将来の関係が見られた
→自分はどうするか 課題解決 or 授業を受ける
・自分の興味の中心があやふや、迷いがある
・工学部のメジャー⇒橋のかけかえ 河川 地盤
社会基盤工学P（インフラ） 防災、堤防など
本日のゴール ●探究課題の設定 どのような関心から？ 日本で足りているのはなぜか
背景 資源としての水（人が使用する） （多くないはずなのに）
高3 信州大学 水環境のゴミが気になった 農業も気になった
日本において
資源としての水が充足している
構造に迫る
（しくみも明らかにする） 本当に足りているのか？
小学校 学校が田んぼ所有⇒農業体験
近所の川も汚いた
探究課題

【資料3-⑤】

学修相談満足度アンケート

学修相談の質的向上を図るため、今回ご利用いただいた学修相談について率直なご意見をお寄せください。
回答内容が「分野横断デザイン」の成績評価に影響することはありません。

回答内容は上記の目的および研究目的以外で利用することはございません。
また、情報が外部に提供されることもございません。

1. アカデミック・アドバイジングの時間

5　適切だった
4　短く感じた
3　とても短く感じた
2　長く感じた
1　とても長く感じた *

1	2	3	4	5

2. アカデミック・アドバイザーの対応

5　とても満足
4　やや満足
3　ふつう
2　やや不満
1　とても不満 *

3. 今回の学修相談でよかった点や学修相談で改善すべき点、お気づきの点があれば聞かせてください。

回答を入力してください

4. 今回の学修相談における総合的な満足度を聞かせてください（学修に関するご自身の悩みや相談について話すことができましたか）。

5　とても満足
4　やや満足
3　ふつう
2　やや不満
1　とても不満 *

1	2	3	4	5

新潟大学

アカデミック・アドバイジング マニュアル

全学分野横断創生(NICE)プログラム

2024年 3月 作成

1．アカデミックアドバイジングについて

新潟大学におけるアカデミック・アドバイジング

メジャー・マイナー制のもとで、マイナー・プログラムの履修を中心に学生自身の学修目的や将来の目標設定・達成を継続的に支援すること。

➢ 分野横断的学修に関する個別の学修相談（履修開始～履修中～履修修了までの伴走的支援）

アカデミック・アドバイジングのニーズ

■ **アカデミック・アドバイジングの対象学生**

① マイナー・プログラムの履修を検討している学生（主に1・2年生）

② マイナー支援科目の履修学生

- 「分野横断デザイン」（1・2年生）
- 「分野横断リフレクション」（3・4年生）

③ マイナー・プログラムを履修中の学生

■ **主な相談内容**

- 興味・関心のあること、やりたいことはあるが、具体的にどのマイナー・プログラムの履修につながるのかわからない（①・②の学生）
- 自らの学修構想や計画に対する疑問や悩みを解消して、何を、どのようにしていけばよいかを見出したい（①～③の学生）
- 自ら設定した探究課題について、分野横断的な展開ができないのでアドバイスが欲しい（主に②の学生）

＊「学び」に関する相談で訪れた場合でも、その学生が抱える「悩み」がアカデミック・アドバイジングの対応範囲を超える場合には、「学生なんでも相談窓口」や保健管理センターなどの学内関連部署を案内する（リファー：適切な支援部署に学生をつなげること）。

アドバイジングの前提

■ **分野横断的学修を進めるにあたり重要なのは、学生自身がもつ「資源」である。**

資源とは？

学生がもっている知識、技能、資格、経験、興味・関心、問題意識、思考、表現、人間関係など。

■ **学生が自分の資源の価値に気づけていないことが、分野横断的学修を形づくる上での障壁となる。**

➢ 学修相談では、アカデミック・アドバイザーとの対話を通して、①学生が自らの思考を言語化・整理する、②学生が自らの資源を大学における学修目的や将来の目標に結びつけることを目指す。

2. 学修相談の準備

学修相談の設定

・曜日、時間の設定：オフィスアワー等を利用して、30分程度（前後することもある）
・予約制で対応するのが望ましい
　→ 予約時に相談内容を把握しておくことで、面談前の事前準備が可能

【参考】 NICEプログラムでは

・曜日・時間：学期中の火・木・金曜日　昼休み、3限、4限
・予約方法：Microsoft Forms、メール
（NICEプログラムWEBサイトやパンフレットにURLやメールアドレスを掲載）

準備資料

①マイナー・プログラム関連資料
・「マイナー・プログラム履修ガイド」
・各マイナー・プログラムの科目リスト

➢NICEプログラムウェブサイトより閲覧・ダウンロード可能
全学分野横断創生(NICE)プログラム＞マイナー・プログラム一覧
https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/program.html

②各学部の卒業要件、取得可能な免許・資格に関する資料
・各学部の「学生便覧」

➢各学部で取得可能な免許・資格等の一覧
新潟大学＞学部・大学院＞教育 教育プログラム＞取得できる教員免許・資格
https://www.niigata-u.ac.jp/academics/education/program/license/

・〔教育学部以外〕「教育職員免許状取得ハンドブック」
教職ガイダンスにて冊子体の配布あり

➢教育基盤機構 全学教職センターウェブサイトより閲覧・ダウンロード可能
教育基盤機構 全学教職センター＞冊子・用紙等のダウンロード
https://www.kyoshoku.niigata-u.ac.jp/download/index.html

③学内教育資源に関する資料
「新潟大学学修ガイドブック」「新潟地域志向科目パンフレット」
「『学外学修科目』ガイダンス日程リーフレット」「ダブルホームパンフレット」
「Gコード英語科目の紹介」、「短期英語集中科目(iStep)について」
「外国語学習支援スペース（FL-SALC）について」

➢上記資料は「新入生配布資料」として、新潟大学ウェブサイトより閲覧・ダウンロード可能
新潟大学＞学生生活・就職＞学生生活・授業＞新入生配付資料
https://www.niigata-u.ac.jp/campus/life/ns_shiryou/

④海外留学に関する資料・情報
・「海外留学ガイド」

➢上記資料のほか、留学ガイダンス等の情報は新潟大学ウェブサイトより・閲覧ダウンロード可能
新潟大学＞国際交流・留学＞海外への留学＞留学制度・留学ガイダンス・留学相談
https://www.niigata-u.ac.jp/international/study-abroad/system/

⑤学内の学生支援部署に関する情報
・保健管理センター、学生なんでも相談窓口、学生支援相談ルーム、特別修学サポートルーム

➢各学生支援部署についての情報
新潟大学＞学生生活・就職＞学生生活・授業＞学生相談窓口
https://www.niigata-u.ac.jp/campus/life/consultation/

➢「学生なんでも相談室」、「学生支援相談ルーム」、「特別修学サポートルーム」のパンフレットは以下より閲覧・ダウンロード可能
新潟大学＞学生生活・就職＞学生生活・授業＞新入生配付資料
https://www.niigata-u.ac.jp/campus/life/ns_shiryou/

NICEの学修相談で使用している機材

・コンピュータ：相談の記録、資料提示、情報検索等

・ホワイトボード、マーカー：相談内容の可視化

・タブレット：ホワイトボードの内容を写真で記録

・QRコード：「学修相談受付票」「学修相談満足度アンケート」
いずれもMicrosoft Forms

3. 学修相談の流れ

マイナー・プログラムの履修を希望する新入生への面談をモデルに、個別相談の大まかな流れを提示します。

事前準備

- 予約時に把握した相談内容に応じて、情報収集や資料を準備し、相談の流れを組み立てる。
- マイナーで修得する単位が、学部の卒業要件のどこに分類されるかについて確認しておく。

学修相談の開始

- あいさつ、相談学生の氏名・所属などの確認。相談者の自己紹介。

Tips: 学生の緊張をほぐすために話しやすい雰囲気づくり

Yes/Noクエスチョンではない質問をすることで、自然と双方向的なやりとりになる。ひとつの話題をきっかけに会話のターンが続くと、対話の場としての安心感につながる。
e.g.）出身地、部活・サークル、希望する学位プログラムについて、など。

- 相談のゴールを示す。
- 相談内容の傾聴を心がけ、学生が感じている困難について自身の言葉で語ってもらう。
- ホワイトボードに必要な情報を書き出す。

相談中

- 「なぜ？」「どんなふうに？」「いつから？」など、5W1Hの問いかけから対話を進め、情報の収集につとめる。
- 学生から出た言葉を他の表現に言い換えたりして、相談内容の認識についての共有を図る。
- 学生が話につまるようなら、その学生の「資源」について積極的に問いかけて、それらが学びの探究課題につながっていくことや、分野横断を考えるための基盤になることを伝える。

Tips: 学生側の「気後れ」や「思い込み」に気を配る

新入生は、大学の学びについて「非常に高尚なもの」というイメージをもっている場合がある。「自分の興味・関心なんて取るに足りない」「自分のやりたいことを大学の先生に語るのはおそれ多い」という気持ちや、「就職につながらないことには意味がない」という思い込みから、自分の興味・関心や問題意識（日常生活から覚える違和感）について語れないことがある。

「特にやりたいことがない」と話す学生は、こうした思い込みに囚われている場合もあるので、「役に立つとか立たないとか、そうしたジャッジは脇において話してみて」と促してみるとよい。

大学受験後に燃え尽きてしまった（バーンアウト）学生、不本意入学（第一志望校、学部ではない入学）の場合は、「何かしなければ」という焦りからマイナー・プログラムの履修を考えることも多い。学修相談より専門家の支援が望ましいと思われた場合は、学生にその旨を伝えて、学内の学生支援部署を案内することも視野に入れておきたい（リファー）。

相談の終了

- マイナー・プログラムの履修だけでなく、学部のメジャーのほか、サークルや部活動、インターンシップ、アルバイトなど大学生活を構成するさまざまな要素を明確にする。
- 俯瞰的な視野をもって、マイナーの履修計画など、今後の行動についておおまかな計画を立てる。
- 一度の面談で課題解決にいたらない場合は、次回の相談日時とそれまでに取り組んでおくタスクを決める。

4. 学修相談の事例①

ここではNICEで記録している学修相談の内容（本人の承諾済み）をもとに、テキストと写真で相談事例を提示します。

【来室経緯】分野横断デザイン（火曜4限）の履修者で、5/7の授業後に本人より申し出があり設定した。
【相談内容】マイナーの方向性は決まっているが、具体的な点を明確にしたい
【学生の所属】農学部1年・学位プログラム未定

学生：学修創生型マイナーの探究課題は「健康面で困っている人の食の選択肢を増やす」としている。メジャーで取り組みたいことは決まっているが、マイナーの学びが具体的にならない。

AA：すでに自分の力で食物アレルギーをキーワードとして探究課題を決めることができている。次はメジャーとマイナーでそれぞれどのようなアプローチをしていくのかを探っていこう。

学生：メジャーは食品の成分や加工法について学びたいと考えている。マイナーは食の問題と教育の関係だったり、人体内部のメカニズムについて学びたい。でも、それらはメジャーに近く、広がりのない感じがする。

AA：前者は食物学の視点からアレルギーを扱うことができる。食物学は教育学部の科目である。後者については医学・生理学の観点から科目を検討してはどうか。それから、広がりをもたせるということであれば、社会的な視点を加えると分野横断的な要素が強まるだろう。ご自身が関心をもっていることを挙げてみてほしい。

学生：「アレルギーの16品目の表記が実際の消費にどう関係しているか」。これはアルバイトをしているコンビニで、レジの横にある食べ物にメモがついていて、そこから気になっていたことである。あとは、「（学校）給食とアレルギー対応」とか、「アレルギー検査の体制（の整備）」とか。その人がどんなアレルギーをもっているのか、血液型のように簡単に知ることができたら。

AA：アレルギーの検査が手軽に受けられたら便利かもしれない。でも、実際はそのようにはなっていない。その原因を探ってみるのもよいかもしれない。

学生：なんでそう思うのかというと、実は小学校の6年間、ずっと母の作ったお弁当を持参していた。姉がアトピーとアレルギーをもっていたから、あなたにもあるかもしれないということで。

AA：そのときは調べなかったのか。

学生：調べなかった。でも、小学校を通じてアレルギーがでなかったからないということがわかって、中学校からはみんなと同じ給食を食べるようになった。姉が小学校を卒業するタイミングで自分が入学したから、母は給食の献立を見ながら、それに似たもので12年間弁当を作っていた。

AA：小学校時代は給食でみんなと同じものを食べたかったのではないか。

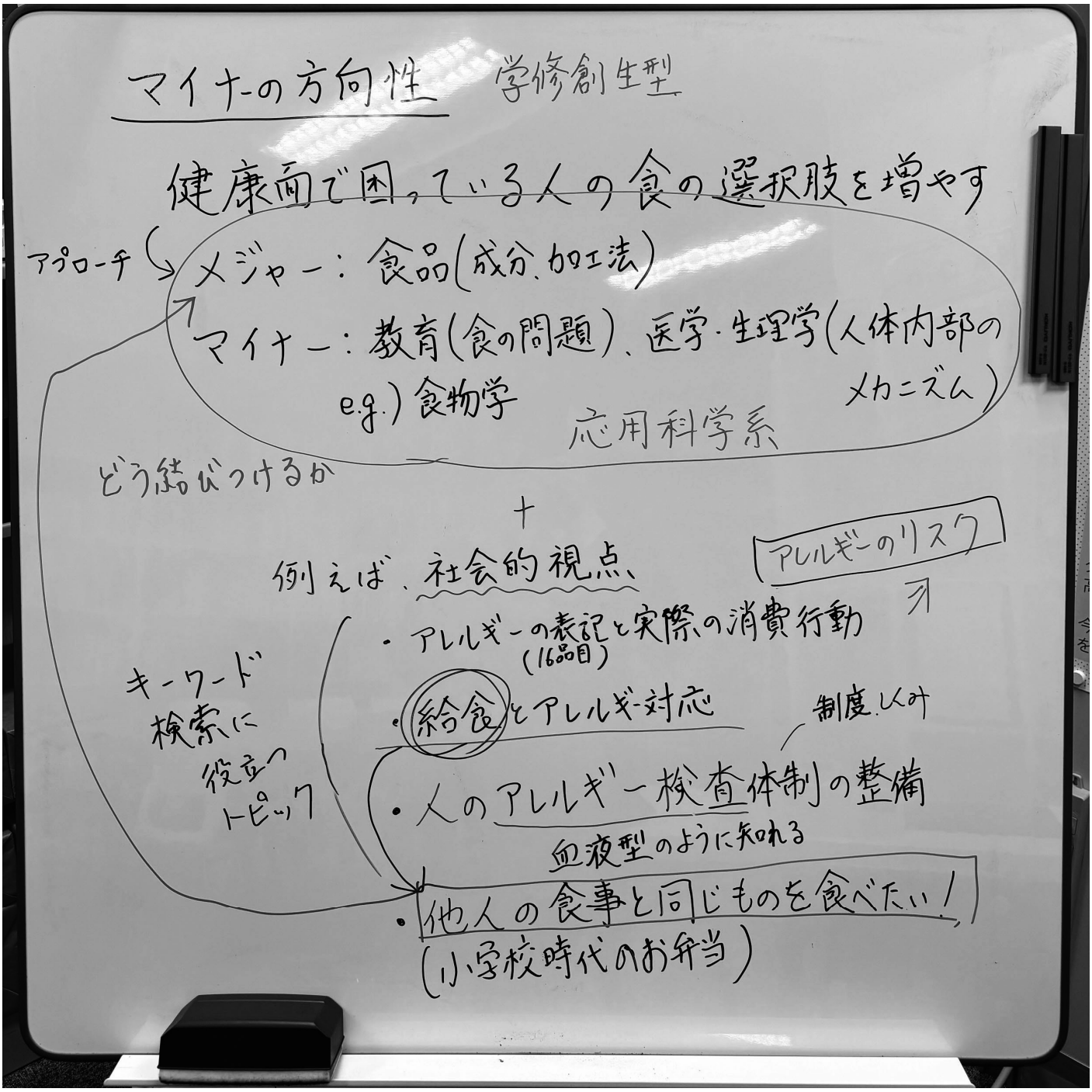
学生：食べたかった。

AA：今語ってくれた内容は、きちんと探究課題につながっているし、社会的な視点を備えている。小学校時代に感じたことを探究課題の問題意識や背景にも結びつけることができるだろう。あなたが「他人と同じものを食べたい」と思った経験を大切にしながら、マイナーの具体化に取り組んでほしい。

学生：この方向で考えようと思う。

【資料3-⑥】

4. 学修相談の事例②



・相談終了時にホワイトボードを撮影する学生は多い（撮影しようとしない学生には記録として残しておくことを勧めている）。

・対応者も写真を撮影して記録に残している。

5. 学修相談の記録

・NICEプログラムでは、以下の参考例のように「学修相談データベース」を作成している

→ 履修に関する相談は、マイナー修了認定申請の際に増えることから、記録を残しておくことが重要

・記録があれば対応者が異なっても対応を引き継ぐことができる

・データベースをもとに相談事例を分析し、学修相談の改善に向けたフィードバックを得ることができる

・個人情報を扱うため、その保護には十分留意しなければならない

・倫理的配慮の観点にもとづき、相談データを研究等で活用する上で学生の承諾を得る必要がある。

【学修相談データベースの参考例】

番号	日時	対応者	学生	在籍番号	学部	学位プログラム	学年	マイナーの型	マイナー・プログラム	相談形式	相談類型	相談内容
1	2030/5/10 11:55-12:25	寺尾	五十嵐六花	E30A100B	経済科学	未定	1年生	パッケージ型	データサイエンスリテラシー	対面	履修	【来室経緯】分野横断デザイン（月曜5限）の履修者、メールでの問い合わせを受けて学修相談を設定 【相談内容】パッケージ型マイナーの履修科目の選択にあたって、シラバスの見方を教わりたい 五十嵐：パッケージ型マイナーの「データサイエンスリテラシー」の科目のうち、履修を希望する科目の水準が「13」で、履修対象の学部が指定されていたが履修できるのか。 →AA： 担当教員に問い合わせしてほしい。 五十嵐：経済科学部のモジュールについて、モジュール科目をすべて履修することにはどんなメリットがあるのか。 →AA：単位を習得することで学問領域の基礎を一通り学ぶことができる、ただしパッケージ型と重なることも考えられるため、五十嵐さんの中で優先順位をつけることが必要である。

アカデミック・アドバイジング研究

第２号

2024

日本アカデミック・アドバイジング協会

【資料3-⑦】

アカデミック・アドバイジング研究　第２号

目次

研究論文

周囲の関与が学生の成長や健康に与える効果：
課外活動をする学生を対象にした全国調査からの検討
山野 洋一・岸岡 奈津子・深谷 麻未・松本 清・木原 宏子・
徳井 将平・渡邉 あい子・石田 明菜・衣川 知里・北村 尚久・
山下 純子・片山 日香莉・西田 祐太郎・曽谷 直樹・一ノ瀬 和憲
…… 1

Student Success の実現に向けた学習支援に関する研究：
学習支援専門職員へのフォーカスグループインタビューを通じた探索的検討
山田 剛史・木原 宏子・深谷 麻未・茅根 未央・
渡邉 あい子・岸岡奈津子 …… 9

研究ノート

学生アドバイザーに求められる能力と実践を通した成長
岸岡 洋介・山野 洋一・深谷 麻未・岸岡 奈津子・清水 栄子
…… 17

実践報告

分野横断的学修における障壁と学修者の「資源」に着目した
アカデミック・アドバイジング
柿原 豪・神田 麻衣子 …… 25

自立した学習者の育成を目指す個別学習支援の方法：
初年次学生に対する支援の単一事例研究から
木原 宏子・茅根 未央 …… 33

編集後記

実践報告

分野横断的学修における障壁と学修者の「資源」に着目したアカデミック・アドバイジング

柿原 豪・神田 麻衣子
（新潟大学）

要旨

本稿は 2021 年度から蓄積されてきた新潟大学におけるアカデミック・アドバイジングの相談事例 456 件のデータを整理した上で類型に振り分け，それらの特徴を考察している。その目的は，学生の自立／自律的な学修における障壁をふまえたアドバイジングのあり方に関する示唆を得ることにある。主な類型のうち，マイナー学修に関わる課題設定・分野横断の相談事例からは，学生が自ら探究課題を設定し，学びをデザインすることに困難や障壁を感じていることが窺えた。アカデミック・アドバイザーは学生の知識，技能，経験，興味・関心，問題意識，思考，表現，人間関係などを「資源」と捉えて言語化や可視化を行い，かれらが障壁を乗り越えるための足場かけを提供していた。それは社会学が論じてきた，社会で通用する価値としての「資本」とは異なる視点にもとづいている。

キーワード

メジャー・マイナー制度，分野横断的学修，学修相談，資源

1. はじめに

本稿は分野横断的な学修に関するアカデミック・アドバイジングの事例に着目し，それらの類型化と特徴の考察を通じて，学生が抱える困難や障壁をふまえたアドバイジングのあり方への示唆を得ることを目的としている。

新潟大学は文部科学省の「知識集約型社会を支える人材育成事業」に「全学分野横断創生プログラム（以下、NICE プログラム）」が採択され，2021 年度より全学的なメジャー・マイナー制を展開してきた。メジャーとは所属学部での専門教育学修，マイナーとはメジャー以外の分野についての学修を指す。両者を組み合わせた分野横断的学修により，複雑化した社会課題に複眼的視野でアプローチできる人材の育成が，新潟大学におけるメジャー・マイナー制の目的である。

NICE プログラムにおいて，従来から実施されてきた「副専攻プログラム」[1]は「オナーズ型マイナー」として刷新され，その他に「学修創生型マイナー」「パッケージ型マイナー」が創設された。「パッケージ型マイナー」「オナーズ型マイナー」のカテゴリーの下には，特定のテーマや学問分野・専門領域にもとづいた複数の学修パッケージが開設されており，3 種類のマイナーで 44 のパッケージが展開されている（図 1）。

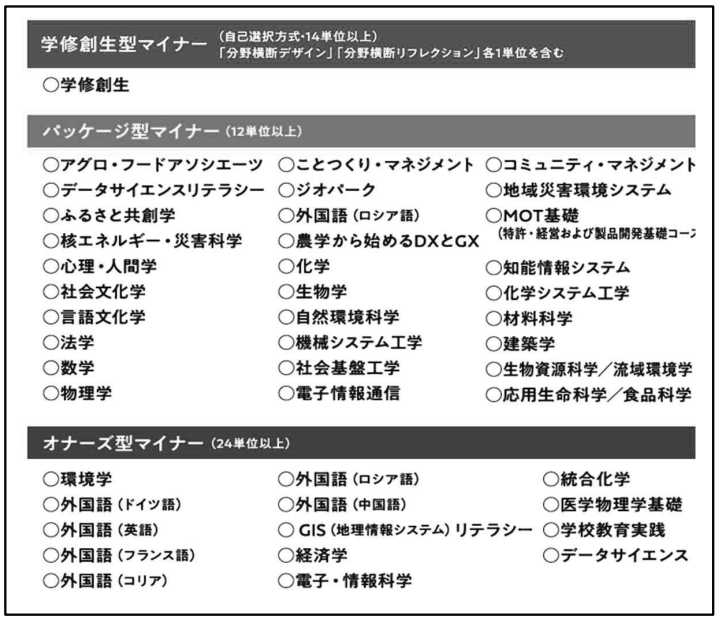


図 1　NICE プログラムのマイナー一覧

出典：新潟大学（2023）「マイナー学修一覧」

一方，新潟大学独自のマイナーである「学修創生型マイナー」には科目リストがない。その代わりに同マイナーでは，令和 2021 年度より開講した「分野横断デザイン」（1 単位）というマイナー学修を支援する入門科目が 1・2 年次を対象に必修となっており，学生は授業の中で自身の興味・関心や問題意識を探究課題と位置づけ，これに沿った分野横断的かつ体系的な履修計画の作成を行う。

そこで，学生がマイナーの学びを体系的なものにするための支援の一環としてアカデミック・アドバイザーによる「学修デザイン相談」（以下、学修相談）も開設され，ここがアカデミック・アドバイジング（以下，AA）の場となっている。中野・井上（2022）の分類によると，現在新潟大学の AA は専門員型に該当し，学生のマイナー学修に焦点を当てた相談機会を提供している。

しかし，新潟大学が掲げる 2030 年度までにマイナーを全学化するという将来ビジョンを達成するには，現状の AA 体制のままでは十分といえないことから，学内の教職員がマイナー学修について理解し，学修支援ができる体制を構築していく必要がある。したがって，学修相談事例からマイナー学修における困難を抽出・分析し，その対応をマニュアルとして整備するが求められている。

先行研究が示すように，マニュアルを整備していくためには，ひとまず学修相談事例のデータベースを構築した上で，それらの質的なデータを分析する必要がある（島田・河合 2022)。そこで本稿は，これまで新潟大学で蓄積されてきた学修相談事例を精査した上で相談内容に応じた類型を設定し，その考察をふまえてAAのあり方をマニュアル作成に反映させる展望をもっている。清水・中井（2022）は，Q&Aの形式でAAを実施する当事者に向けて，あらゆる型のAAに対応可能な知見を提供している。本稿はこれを参照しつつ，学修支援に焦点を当てた一連の流れとそれに対応したティップス（tips）を組み合わ

せたマニュアルの作成を射程にとらえており，本稿はその基礎部分に該当する。また研究目的に関して，実際のデータをもとに学修相談事例を類型化した先行研究が少ないことから，本稿がその方法を提示することは，当該事例研究における足場を築くことにつながると考えている。

2. 学修相談事例の類型化

学修相談は 2021 年 4 月より開始し，2023 年 11 月 10 日までにのべ 456 件を実施してきた。相談の実施形式はコロナ禍であったこともあり，即時的な対応である対面（361 件）・オンライン（3 件）・電話（1 件）とメール（91 件）での対応を採用してきた。

相談事例の類型化を進めるためには，個々の相談内容を精査する必要があることから，本稿では方法として質的内容分析を採用した[2)]。類型の検討は2023年7月より行われ，「学修相談データベース」[3)]に蓄積された個々のデータを参照しながら適宜類型の名称や定義を修正してきた。その際には，学修相談を担当し，相談事例をテクストデータとして記録しているアカデミック・アドバイザー2名が議論を重ねることで，類型化における信頼性を高めている。なお，アカデミック・アドバイザーは相談内容を要約して，重要度の低い情報や重複する情報を削減しながらテクストデータを記録している。その結果，本稿における相談形式別の学修相談の類型とその内訳は表1の通りとなった[4)]。事例の類型への割り振りは，相談のテクストデータの文脈においてもっとも強調された記述にもとづいて行っている。以下では本稿が用いる類型について説明する[5)]。

表1　学修相談の類型とその内訳

（n=456）

相談形式	類型	件数	割合（%）
メール	履修関係	78	85.7
	マイナー制度関係	4	4.4
	「分野横断デザイン」関係	4	4.4
	学修相談の申し込み関係	3	3.3
	NICEプログラムのガイダンス関係	2	2.2
	小計	91	100.0
対面・オンライン・電話	履修関係	163	44.7
	分野横断・課題設定関係	128	35.1
	「分野横断デザイン」関係	42	11.5
	マイナー制度関係	20	5.5
	その他	7	1.9
	進路関係	5	1.4
	小計	365	100.0

「マイナー制度関係」には，学生がマイナー履修を検討する段階における，マイナー制度の概要に関する相談を割り振っている。マイナー制度をある程度理解した上でのマイ

ナーの型の選択や，マイナー科目の履修、科目の単位認定、マイナー認定に関する相談は「履修関係」にまとめている。また，これらに近い相談としてNICEプログラムのガイダンスについての問い合わせがみられたことから，「NICEプログラムのガイダンス関係」という類型も設定している。

主に学修創生型マイナー履修者を支援する「分野横断デザイン」の授業についての相談は，「『分野横断デザイン』関係」としている。例えば，授業で課される課題への取り組み方などの相談がここに含まれる。学修創生型マイナーでは，学生自身がメジャーとマイナーを関連づけながら，探究課題およびマイナーの履修によって達成が期待される到達目標を設定し，それらに沿った科目を選択する必要がある。ゆえに寄せられる相談のうち，文理横断や文理融合，分野横断的な学びに関する内容や，探究課題の設定に関する内容は「分野横断・課題設定関係」として，授業関係の相談から切り分けている。「学修相談の申し込み関係」は相談に向けた問い合わせがあることを示している。

「進路関係」には，インターン，就職，進学，留学，編入，退学に関する相談を含めている。この類型を設けた理由は，今後学内でマイナー制度が浸透していくにしたがって，マイナーで習得した知識・技能とキャリアとの接続や，大学院進学に向けた研究計画に関する相談が増えていく可能性を，アカデミック・アドバイザーが予覚しているからである。そして，上記いずれの類型にも該当しない内容は「その他」にまとめている。次章では，表1で示した類型のデータをもとに，学修相談の事例について考察していく。

3. 新潟大学における学修相談の特徴

3.1 相談形式によって異なる相談内容

学修相談の類型化を進めていく過程では，メールによる相談内容の内訳として，マイナー認定における単位の質問など，「履修関係」が 85%を超えて圧倒的な割合を占めることが明らかとなった。この他，メールの相談内容には，「学修相談の申し込み関係」「NICE プログラムのガイダンス関係」といった問い合わせに近い特徴がみられる。

対面における主要な相談内容においても「履修関係」はもっとも多く，45%近くを占めている。ただし，「履修関係」のテクストデータを精査したところ，メールと対面では差異がみられた。すなわちメールにおける「履修関係」には，単位の読み替えの確認やマイナー認定に関する質問が中心となっており，対面では具体的に履修すべき科目の選択に関する相談が主要なものとなっている。

このように，メールと対面で同じ類型を用いていても相談形式によって内容に差異が認められた例には，「マイナー制度関係」「『分野横断デザイン』関係」も該当する。これらも「履修関係」と同様に，メールでは短い文面での問い合わせが中心となっている。このことから，学生は質問や相談の内容に応じてメールあるいは対面の形式を選択しており，詳細な説明や相談が必要と思われる場合には，対面での相談を選択していることが推定される。対面形式にのみ登場する学修相談の類型には，聞き手に自分の状況を丁寧に説明する必要のある「進路関係」や，学修相談そのものではないが看過することのできない「その他」があり，このこともメールと対面による相談の質的差異を示すものといえよう。

3.2 マイナー学修における課題設定や分野横断的な学びの障壁

相談形式が学生の相談内容を規定する可能性が高く，詳細な説明を必要とする場合に対面形式が選択されることをふまえると，「分野横断・課題設定関係」に割り振られた学修相談事例の考察は，AA のあり方を検討する本研究にとって「履修関係」の相談とともに重要な議論となろう。以下では「分野横断・課題設定関係」から該当部分を抜粋したテクストデータ 6 件を示し，そこにあらわれる特徴を確認していく。その際，恣意的なデータ選定による考察を避けるため，2021 年度から 2023 年度までの各年度のうち，最初と最後の事例（2023 年度は 11 月まで）を挙げることとした。データの取り扱いに関しては，学修相談の受付時に説明しており，本稿は研究利用について学生の承諾を得たものを使用している。「学修相談データベース」は学生の個人情報を含むことから，NICE プログラム関係者以外のアクセスは制限されている。なお，データに挿入した丸括弧内の記述は筆者による加筆である。

①「私の興味・関心はどれも断片的で，仕事を直接つなげるための道が見えない。具体的な仕事が決まっていない。まだ決めることができない。将来の夢が抽象的。」（2021 年 5 月 18 日，理学部 1 年）

②「4 年生に進級する 2024 年に，1 年間ロシアに留学したいと考えているが，ロシアがウクライナに侵攻したことで，先行きが不透明になってきた。親や祖母からは心配されている。
ロシアの代替案として，リトアニアにある新潟大学の交流協定校ヴィリニュス大学かドイツのベルリンを候補として考えている。
メジャーで地理を学ぶが，そうするとマイナーと重複してしまう。マイナーとしては，『メディア』『政治』『国民』というテーマで、ロシアについて学ぶつもりである。」（2022 年 3 月 15 日，教育学部 1 年）

③「（分野横断デザインについて）授業中の事前ワークへの取り組みかたの説明で，『メジャーとは別の領域か？』というポイントが提示されていたため，自分の作成したものは条件に合わないような気がするが，大丈夫か。」（2022 年 5 月 19 日，医学部 1 年）

④「（分野横断デザインの課題に関して，マイナーの）『名称』と将来像がうまく書けない。『長すぎる』というコメントを受けて、全面的に書き換えをしているところ。」
⇒ アカデミック・アドバイザー「マイナーでやりたいことは何？」
「今までの活動に関連したことで，視野を広げていくこと」
⇒ アカデミック・アドバイザー「今までの活動ってどんなこと？」
「地域貢献活動として，（地元スポーツチームの活動で）イベントに出演したり，ボランティアを行ったり，SNS で発信したり。ダブルホームでは，万代地区で企業と話し合ったり，イベントに参加したり，企画を行ったり，そんなことをしている。」（2023 年 2 月 7 日，経済科学部 2 年）

⑤「マイナーとして学ぶことが具体的にならない。関心領域がいろいろあってわからなくなった。」
「(関心のある分野と今学期履修登録した科目は) 国際問題，国際交流：『平和を考える』『外国人と日本人』『国際共修』。ほとんど抽選科目，履修の可否がまだわからない科目もあり，不安。」
「人間の心理：『心と社会』→時間がとれるかどうか不安」
「(工学部の) 人間支援感性科学プログラム：関心があるが，科目履修に至っていない」
(国際問題に関心をもった背景)「高校のときに，カンボジアに留学予定だったが，Covid-19 のために行けなかった。行けなかったがゆえに，国際的なこと，医療，科学技術開発，ロシア・ウクライナ戦争などをいろいろと調べた」
(2023 年 4 月 13 日、医学部 1 年)

⑥「推薦入学だが，主専攻プログラムは入学時に決定していない。3 つの主専攻プログラムそれぞれにやりたいことが点在している状況なので決めかねている。高校の倫理の授業がおもしろかったので，大学入学前は哲学を専攻するつもりだった。だが本を読むのが苦手なので，変えようと思った。」
「外国語を完璧にしゃべれるようになりたいという気持ちがある。ドイツ語を選んだのは，多くの哲学者の母語だったから，思想の勉強ができると思った。興味をもっている特定の哲学者はいない。」 (2023年11月日，人文学部1年)

上記の事例のうち，①，④，⑤，⑥は学修における課題設定に困難や障壁を抱えていることがわかる。②，③においてはメジャーとマイナーの掛け合わせや，分野横断的な学びから視野を広げることへの困難や障壁がみてとれる。ここからは新潟大学の学修創生型マイナーのように，学生自ら探究課題を設定し，学びをデザインすること自体が容易ではないことが窺える。それゆえ，AA による学修相談が重要となるわけだが，アカデミック・アドバイザーはいかに対応しているだろうか。

④の事例には，相談内容を正しく把握するために，文脈上アカデミック・アドバイザーの発言も含めている。ここでアカデミック・アドバイザーは学生に問いを投げて，課題設定につながる学生の問題意識や経験を引き出している。本稿が類型について検討していく過程で，アカデミック・アドバイザーが「分野横断・課題設定関係」の相談について意識していることは，上記のような対応であることがわかった。そこで，2 名のアカデミック・アドバイザーは議論を重ね，学生がもっている知識，技能，経験，興味・関心，問題意識，思考，表現，人間関係などをひとまず「資源」(Resources) と呼ぶこととした。

ところで，本稿における「資源」と似た概念として，社会学では「資本」(Capital) や「社会資本」(Social Capital) が用いられてきた。例えば，ピエール・ブルデューにおける「資本」は，価格で表されて交換される客体ではなく，身体化された能力や資格を指しており，それらは交換価値をもった商品のように消費されてしまうものではない (Bourdieu 1984)。あるいはローバート・パットナムのように，社会資本をネットワー

クとして捉えて，社会的なインフラとみなす議論もある（Putnam 2000）。これら「資本」に関する議論に関して，ニック・クロスリーは行為主体の動員しうる資源が「資本」として扱われていることを指摘している（Crossley 2005）。アカデミック・アドバイザーはまさにこうした視点に関心を寄せており，それゆえ学生自身が気づかずに埋もれている「資源」の活用に着目し、客観的に通用する価値をもった「資本」ではない，学生にとっての使用価値となるような意味づけを試みるのである。

こうして「分野横断・課題設定関係」の相談事例を精査していくと，学生が「資源」に気づかず，課題設定やマイナー選択を検討する際の視野が狭くなりがちであることが明らかとなった。また，これに対するアカデミック・アドバイザーも対話を通じて「資源」を言語化し，これをホワイトボード上で図式化することで可視化していた。学生が意識していない「資源」に意味や価値を見出した上で活用できるように掘り起こし，学生のエージェンシーを高めるための足場かけが AA に求められているといえよう。また，そのような捉え方をするならば，AA が有する「発達の最近接領域」（Zone of Proximal Development）としての可能性もみえてくるのではないだろうか。

4. アカデミック・アドバイジング・マニュアル作成に向けて

本稿は質的内容分析の手法を用いて，学修相談事例のテクストデータを整理し、類型化とその特徴の考察を進めてきた。さらに，学生が課題を設定する場面や分野横断的な学修の計画段階において抱える障壁をふまえた AA のあり方への示唆として，学生の「資源」に着目した実践があることを明らかにしており，本研究の目的は果たされたといえる。また，本研究は先行研究による蓄積がなされてこなかった分野に取り組み、その成果は新潟大学に限らず，広い意味での AA 一般において収集される質的データの事例研究においても議論の基礎を提供するものといえよう。

しかし，依然として課題は残っている。学生の自立／自律的な学びを支援する AA の質を高め，その体制を構築するためには，引き続き適切なデータ収集が必要である。データベースに蓄積する項目は適宜再検討されるべきであり，その中でもっとも重要な相談内容のテクストデータの扱いや類型の範囲と名称についても継続して議論していく必要がある。そして，アカデミック・アドバイザーが記録する学修相談データとは異なる視角で AA を評価する必要から，新潟大学の AA では Microsoft 社の Forms を用いて「学修相談満足度アンケート」を 2023 年 10 月から実施し，学生からのフィードバックに取り組み始めたところである。

紙幅の関係で十分に論じることができていないこととして，「その他」の類型に割り振った事例についてもふれておきたい。「その他」には，学生が自分のことを打ち明けられる居場所として AA を活用している例や，学生のもつ各種ハンディキャップ，あるいはメンタルヘルスケアに関する相談が含まれている。これらはリファーにつなげるべき AA における重要な案件といえる。

新潟大学では今後学修相談における一連の流れと，それに対応したティップス（tips）を組み合わせたマニュアルの作成を進めていくこととなる。しかし，AA には一定のスキルが必要となることから，マニュアルでは学生の「資源」を掘り起こす問いかけや「資源」の言語化，思考の整理方法などを反映できるように目指していく。

注

1）新潟大学では，副専攻制度を 2005 年度に導入した（一部プログラムは，前年度より試行的に先行開始している）。

2）質的内容分析の方法に関しては，Mayring（2000）を参考にしている。

3）「学修相談データベース」には，相談日時，対応者，相談者，在籍番号，学部，主専攻プログラム，学年，マイナータイプ，マイナー名称，相談形式，相談内容の項目を入力し，データを確定している。とくに相談内容は類型にわりふるための最重要データであるため，データを入力する際には可能な限り，本項目の最初に内容を端的に記述している。また，当該データベースを構築するにあたり，本稿は学修相談におけるデータの収集状況を分析し，学修相談にとって直接関連のないデータについては全体から選り分けている。

4）アカデミック・アドバイザーの議論を重ねたことにより，これまでに神田・柿原（2023）が提示した相談内容の類型および内訳は修正されている。

5）本稿における類型の定義は仮説的に措かれているものであり、今後の議論を通じて修正されるべきものである。

参考文献

Bourdieu, P. （1984） *Distinction: A social critique of the judgement of taste*, London: Routledge. （石井洋二郎訳『ディスタンクシオン：社会的判断力批判Ⅰ／Ⅱ』藤原書店，1990）

Crossley, N. （2005） *Key Concepts in Critical Social Theory*, London: Sage Publications. （西原和久監訳『社会学キーコンセプト―「批判的社会理論」の基礎概念 57』新泉社，2005）

神田麻衣子・柿原豪（2023）「分野横断的学修の相談事例にもとづく『マイナー学修アドバイジング・マニュアル』の作成」日本アカデミック・アドバイジング協会第 3 回年次大会自由研究発表部会 A-①

Mayring, P. （2000） “Qualitative Content Analysis.” *Forum: Qualitative Social Research*, 1（2）. Art 20.

中野正俊・井上咲希（2022）「アカデミック・アドバイジングの実践的検証―金沢大学におけるアドバイジング需要について」『高等教育ジャーナル―高等教育と生涯学習』29, 39-47.

Putnam, R. D. （2000） Bowling Alone: The collapse and revival of American community, New York: Simon & Schuster. （柴内康文訳『孤独なボウリング：米国コミュニティの崩壊と再生』柏書房，2006）

島田敬久・河合涼介（2022）「立命館大学グローバル教養学部における『アカデミック・アドバイジング・データベース』活用実践報告」日本アカデミック・アドバイジング協会 第 2 回年次大会.

清水栄子・中井俊樹編（2022）『大学の学習支援 Q&A』玉川大学出版部

【資料4-①】

S CAFE (仮)

今回のテーマ

教科としての「道徳」について考える

JUN 27, 2024 | 18:00 PM

場所：**NICEプログラム室（D205）**



S CAFE とは?

学生が特定のテーマについて
議論を通じて考える場です。

申し込みはこちら！

問い合わせ
教育3年 [redacted]

【資料4-①】

S-CAFE（仮）

今回のテーマ

「予防的正義」について考える

－罪を犯しそうな人を罰してもよいか？－

Jul.23 2024　18:30~

場所：NICEプログラム室（D205）



申し込みはこちら！

S-CAFEとは

学生が特定のテーマについて議論を通じて考える場です。

問い合わせ

[redacted]（SA：教育3年[redacted]）

【資料4-②】

シラバス参照／授業情報参照

授業情報／Course Information

PDF出力する/Output to PDF

別の条件でシラバスを参照する/Inquiry syllabus by others conditions

●授業基本情報

科目名／Course Title	分野横断リフレクション ／Cross-Disciplinary Reflection		
担当教員／Instructor	柿原　豪 , 上畠　洋佑 , 櫻井　典子 , 橋本　紘史		
対象学年／Eligible grade	1 , 2 , 3 , 4 , 5 , 6	開講番号／Registration Code	241G3226
講義室／Classroom	総合教育研究棟 B-451	開講学期／Semester・Term	2024年度／Academic Year 第1ターム／the first term
曜日・時限／Class Period	水/Wed　6限	単位数／Credits	1
授業形態／Class Format	講義・演習	科目区分／Category 細区分／Sub-division	新潟大学個性化科目／Niigata University Original Subjects 自由主題／Other Themes
副専攻／Minor	「学修創生」（自己選択方式）,「ふるさと共創学」	定員／Capacity	10
分野／Academic Field	75：新潟大学個性化科目	水準／Academic Standard	01：全学学生受入可・大学学習法など
抽選方法／Selection Method	手動/Manual	学部優先／Precedence Faculty	無し/None
実務経験を有する教員が実施する科目 ／Conducted by instructor with work experience related to the field?		遠隔授業の実施形態 ／Remote Class Style	

●授業概要情報

更新日／Updated on	2024/04/02
対象学部等 ／Eligible Faculty	全学部／3・4・5・6年次
聴講指定等 ／Designated Students	「分野横断リフレクション」は、みなさんが学びを振り返る機会を提供するとともに、「全学分野横断創生（NICE）プログラム」における集大成科目として位置づけられています。 3年生以上のすべての学生に向けて開講します（3年生は第2学期の履修を推奨）。 なお、マイナー・プログラムを履修している学生は、これまでのマイナーでの学びを振り返る本科目の趣旨をふまえて、マイナー・プログラムの修了要件を満たす科目（分野横断リフレクションを除く）の単位をすべて取得した上で履修してください。
科目の概要 ／Course Outline	本科目は、各学位プログラムの学びや学生生活・課外活動（インターンシップ、サークル・部活動、ボランティア等）など、みなさんの大切な人生の一部であるこれまでの大学生活を総体的に振り返ることを通して、今後の進路（就職活動、進学等）に役立てることのできる学びの資産（リフレクションワークシート、カリキュラムマップ、リフレクションレポート、ディプロマ・サプリメント等）の作成を目指す授業です。 学びの資産を作る過程では、さまざまな学問分野を学んだ学生との対話や交流を通して、分野横断的な視野を獲得していきます。 授業では、自分自身の経験や価値観をポジティブに捉えなおす経験や、他者を知り自己を相対化する経験ができる機会を設けます。
科目のねらい ／Course Objectives	本科目は、各学位プログラムの学びや学生生活・課外活動などこれまでの大学生活について、他学部学生とのグループワークによる振り返りや、個人での振り返りを中心に行います。 この振り返りを通して、進路（就職活動、進学等）に役立てることのできる学びの資産（リフレクションワークシート、カリキュラムマップ、リフレクションレポートやディプロマ・サプリメント等）を構築し、振り返りの経験と学びの資産構築の経験を学生自らの将来に活かすことができるようになることが本科目のねらいです。 また、各学位プログラムでのメジャーでの学びを通した専門性を高めることも本科目の狙いです。
学習の到達目標 ／Specific Learning Objectives	(1)これまでの履修科目での学びを振り返りながら科目間の関連性等を見出し、言語化・文書化することができる。 (2)これまでの学生生活・課外活動（インターンシップ、サークル・部活動、ボランティア等）を振り返り、言語化・文書化することができる。 (3)上記 (1)(2)の活動について総体的に整理しつつ、進路（就職活動、進学等）に役立てることのできる学びの資産（カリキュラムマップ、リフレクションレポート、ディプロマ・サプリメント等）を構築することができる。
登録のための条件(注意) ／Prerequisites	＜本科目の履修について＞ ・NICEプログラムの履修をしていない学生の受講も受け入れます。 ・本科目はNICEプログラム「学修創生型マイナー」の必修科目です。「学修創生型」でマイナー認定を希望する場合は、必ず履修してください。 ・2022年度以降に入学した学生について、本科目はNICEプログラム「パッケージ型マイナー」における「ふるさと共創学」の必修科目です。2022年度以降入学生で「ふるさと共創学」でマイナー認定を希望する場合は、必ず履修してください。

	・「パッケージ型マイナー」「オナーズ型マイナー」でマイナー認定を希望する場合も、これまでのマイナー学修の振り返りを行うことのできる本科目の履修をお勧めします。
授業実施形態について ／Class Format	・対面授業：講義、演習、グループワーク
成績評価の方法と基準 ／Grading Criteria	ルーブリックを用いて評価します。配点は以下の通りです。 (1)授業課題：80% (2)最終レポート：20%
使用テキスト ／Textbooks	必要に応じて資料を配付する。
関連リンク ／Related Links	新潟大学NICEプログラム
参考文献 ／References	
キーワード ／Keywords	マイナー　NICEプログラム　分野横断　分野融合　文理横断　グループワーク
備考 ／Notes	・毎回かならずラップトップ（HDMIあるいはUSB Type-Cの端子を備えたもの）を持参してください。 ・適宜アカデミック・アドバイジング（学修デザイン相談）を利用してください。

●授業計画詳細情報

No.	内容 ／Content	授業時間外の学修 ／Out-of-Class Study	備考 ／Notes
1	大学生活を振り返る（1） ・オリエンテーション：授業概要：授業内容、到達目標、授業計画、成績評価など ・「分野横断リフレクション・ワークシート」の作成	【事前課題】 これまで受講してきた授業科目に関する学びの資料（全受講科目の一覧、レポート等の授業課題）を整理し、授業初回から最後まで（紙・データどちらでも可とする）持参できるように準備する。 【事後課題】 「分野横断リフレクション・ワークシート」を完成させる。	
2	大学生活を振り返る（2） ・「分野横断リフレクション・ワークシート」の発表・グループディスカッション ・「確定版マイナー学修デザイン」の説明	【事後課題】 授業で説明した「確定版マイナー学修デザイン」のうち、「ねらいと概要」「到達目標」「メジャー・マイナーのかけあわせの到達目標」の作成「マイナー学修デザイン」に取り組む。	適宜アカデミック・アドバイジングを活用すること。
3	大学生活を振り返る（3） ・「確定版マイナー学修デザイン」の完成	【事後課題】 「確定版マイナー学修デザイン」を次回までにひとまず完成させる。	適宜アカデミック・アドバイジングを活用すること。
4	大学生活を振り返る（4） ・「確定版マイナー学修デザイン」の発表・グループディスカッション	【事後課題】 授業中に受けたフィードバックをもとに、「確定版マイナー学修デザイン」を修正する。	適宜アカデミック・アドバイジングを活用すること。
5	学びの資産を構築する（1） ・「NICEカリキュラムマップ」の説明・作成	【事後課題】 授業で取り組んだ「NICEカリキュラムマップ」の作成を進める。	受講生によっては、「マイナー学修デザイン」の修正が必要となる場合がある。 適宜アカデミック・アドバイジングを活用すること。
6	学びの資産を構築する（2） ・前回同様、「NICEカリキュラムマップ」の作成	【事後課題】 「NICEカリキュラムマップ」を次回までにひとまず完成させる。	受講生によっては、「マイナー学修デザイン」の修正が必要となる場合がある。 適宜アカデミック・アドバイジングを活用すること。
7	学びの資産を構築する（3） ・「NICEカリキュラムマップ」の発表・ディスカッション（動画撮影）	【事後課題】 授業中に受けたフィードバックをもとに、「NICEカリキュラムマップ」を完成させる。	適宜アカデミック・アドバイジングを活用すること。
8	学びの資産を構築する（4） ・リフレクションレポートの説明 ・「確定版マイナー学修デザイン」「NICEカリキュラムマップ」をもとに」、「リフレクションレポート」を執筆 ・学務情報システム（NBAS含む）を用いて、ディプロマ・サプリメントを作成する。	【事後課題】 「リフレクションレポート」を完成させる。期限までに「確定版マイナー学修デザイン」「NICEカリキュラムマップ」「リフレクションレポート」を提出する。	適宜アカデミック・アドバイジングを活用すること。

【資料4-②】

シラバス参照／授業情報参照

授業情報／Course Information

PDF出力する/Output to PDF

別の条件でシラバスを参照する/Inquiry syllabus by others conditions

●授業基本情報

科目名／Course Title	分野横断リフレクション ／Cross-Disciplinary Reflection		
担当教員／Instructor	上畠　洋佑 , 櫻井　典子		
対象学年／Eligible grade	1 , 2 , 3 , 4 , 5 , 6	開講番号／Registration Code	240G3939
講義室／Classroom		開講学期／Semester・Term	2024年度／Academic Year 集中／INTENSIVE
曜日・時限／Class Period	他/Others	単位数／Credits	1
授業形態／Class Format	講義・演習	科目区分／Category 細区分／Sub-division	新潟大学個性化科目／Niigata University Original Subjects 自由主題／Other Themes
副専攻／Minor	「学修創生」（自己選択方式）,「ふるさと共創学」	定員／Capacity	10
分野／Academic Field	75：新潟大学個性化科目	水準／Academic Standard	01：全学学生受入可・大学学習法など
抽選方法／Selection Method	手動/Manual	学部優先／Precedence Faculty	無し/None
実務経験を有する教員が実施する科目 ／Conducted by instructor with work experience related to the field?		遠隔授業の実施形態 ／Remote Class Style	

●授業概要情報

更新日／Updated on	2024/02/06
対象学部等 ／Eligible Faculty	全学部／3・4・5・6年次
聴講指定等 ／Designated Students	本科目は、令和３年度にスタートした「全学分野横断創生（NICE）プログラム」における集大成科目として位置づけられています。 NICEプログラム事業における学生の実態把握等を通して「分野横断デザイン」を履修した学生だけでなくすべての学生にとって、学びの振り返りをする機会を提供することが重要であると明らかになりました。 そこで３年生以上のすべての学生に向けて開講します。なお、マイナー・プログラムを履修している学生は、これまでのマイナーでの学びを振り返る本科目の趣旨を踏まえて、マイナー・プログラムの修了要件を満たす全科目（分野横断リフレクションを除く）を履修し終えた上で受講してください。
科目の概要 ／Course Outline	本科目は、各学位プログラムの学びや学生生活・課外活動（インターンシップ、サークル・部活動、ボランティア等）など、みなさんの大切な人生の一部であるこれまでの大学生活を総体的に振り返ることを通して、今後の就職活動や進学に役立てることのできる学びの資産（リフレクションレポートとディプロマ・サプリメント等）の作成を目指す授業です。また、各学位プログラムでのメジャーでの学びを通した専門性を高めることも目的とします。 学びの資産を作る過程では、様々な学問分野を学んだ学生との対話や交流を通して、文理複眼的な視野を獲得していきます。またこの授業では、他者を知り自己を相対化できる経験や、自分自身の経験や価値観をポジティブに捉えなおす経験ができる機会を設けます。
科目のねらい ／Course Objectives	本科目は、各学位プログラムの学びや学生生活・課外活動などこれまでの大学生活について、他学部学生との対話や交流を通した振り返りや個人での振り返りを中心に行います。この振り返りを通して、就職活動や進学に役立てることのできる学びの資産（リフレクションレポートやディプロマ・サプリメント等）を構築し、振り返りの経験と学びの資産構築の経験を学生自らの将来に活かすことができるようになることが本科目のねらいです。また、各学位プログラムでのメジャーでの学びを通した専門性を高めることも本科目の狙いです。
学習の到達目標 ／Specific Learning Objectives	（１）これまでの履修科目での学びを振り返りながら科目間の関連性等を見出し、言語化・文書化することができる。 （２）これまでの学生生活・課外活動（インターンシップ、サークル・部活動、ボランティア等）を振り返り、言語化・文書化することができる。 （３）上記（１）（２）の活動について総体的に整理しつつ、就職活動や進学に役立てることのできる学びの資産（リフレクションレポートやディプロマ・サプリメント等）を構築することができる。
登録のための条件(注意) ／Prerequisites	＜本科目の履修について＞ ・NICEプログラムの履修をしていない学生の受講も受け入れます。 ・本科目はNICEプログラム「学修創生型マイナー」の必修科目です。「学修創生型」でマイナー認定を希望する場合は、必ず履修してください。 ・２０２２年度以降に入学した学生について、本科目はNICEプログラム「パッケージ型マイナー」における「ふるさと共創学」の必修科目です。２０２２年度以降入学生で「ふるさと共創学」でマイナー認定を希望する場合は、必ず履修してください。 ・「パッケージ型マイナー」「オナーズ型マイナー」でマイナー認定を希望する場合も、これまで

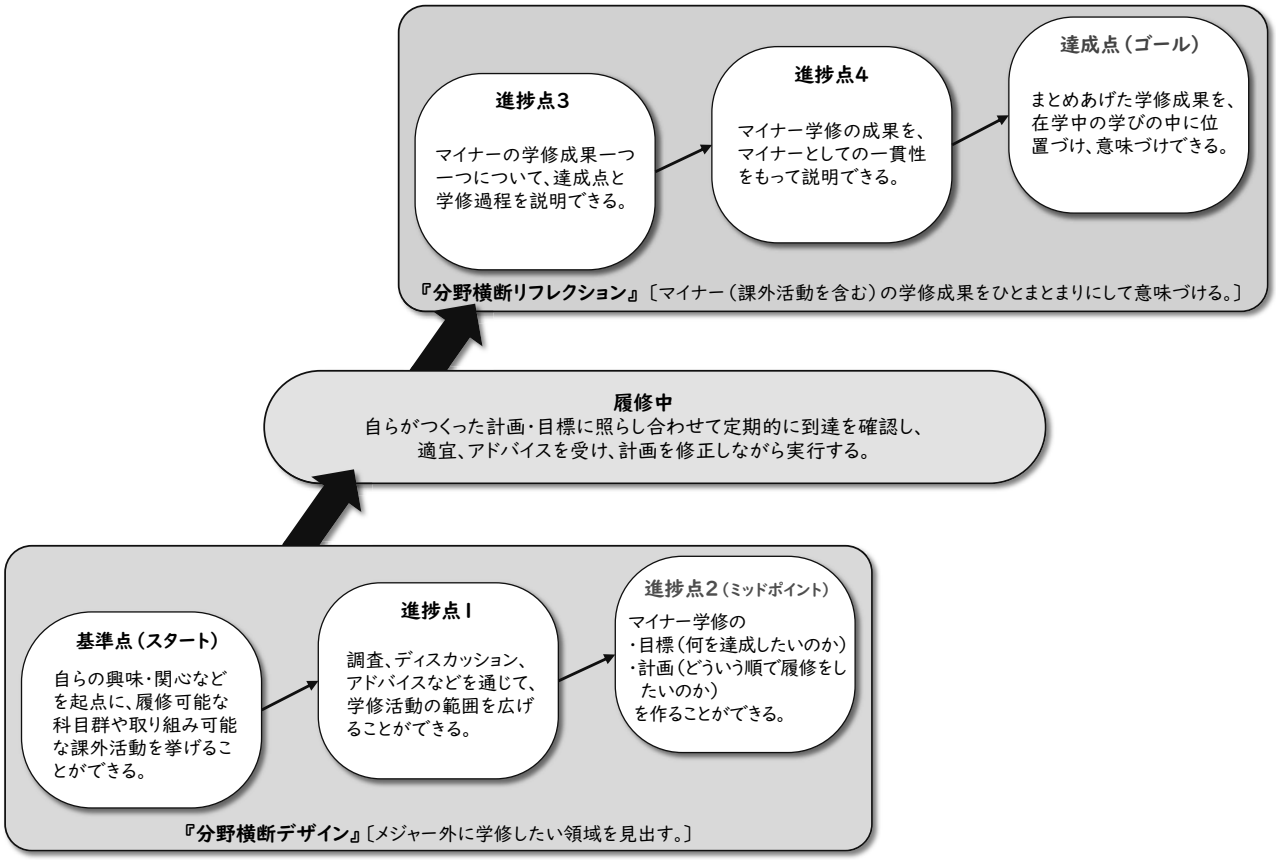
	のマイナー学修の振り返りを行うことのできる本科目の履修をお勧めします。 ＜履修登録・許可期間＞ ・履修登録期間（学生）：６月３日（月）から７月２６日（金）まで ・履修許可期間（教員）：７月３０日（火）
授業実施形態について ／Class Format	・対面授業：講義、演習・グループワーク A日程は８月５日（月）２限～５限 B日程は８月６日（火）２限～５限
成績評価の方法と基準 ／Grading Criteria	ルーブリックを用いて評価します。配点は以下の通りです。 （１）A日程・B日程それぞれの授業課題：８０％ （２）最終レポート：２０％
使用テキスト ／Textbooks	必要に応じて資料を配付する。
関連リンク ／Related Links	新潟大学NICEプログラム
参考文献 ／References	
キーワード ／Keywords	副専攻　マイナー　NICEプログラム　分野横断　分野融合
備考 ／Notes	

●授業計画詳細情報

No.	内容 ／Content	授業時間外の学修 ／Out-of-Class Study	備考 ／Notes
1	大学生活を振り返る（１） ・学修デザイン（NICEプログラム履修者は「マイナー学修」デザイン）の作成方法について学ぶ。	【A日程の事前課題】 これまで受講してきた授業科目に関する学びの資料（全受講科目の一覧、レポート等の授業課題）を整理し、A日程講義に当資料（紙・データどちらでも可とする）を持参できるように準備する。この資料をもとにA日程の授業を行うため、必ず準備すること。	A日程＜８月５日（月）＞２限
2	大学生活を振り返る（２） ・学修デザイン（NICEプログラム履修者は「マイナー学修」デザイン）を作成する。	A日程は２限から５限を通しで行う集中講義のため、A日程の事前課題は№１に記載している。	A日程＜８月５日（月）＞３限
3	大学生活を振り返る（３） ・学修デザイン（NICEプログラム履修者は「マイナー学修」デザイン）を作成する。	A日程は２限から５限を通しで行う集中講義のため、A日程の事前課題は№１に記載している。	A日程＜８月５日（月）＞４限
4	大学生活を振り返る（４） ・作成した学修デザインを対話形式で共有し、B日程に向けて再検討する。	【A日程の事後課題】 B日程に向けて学修デザインを完成させる。	A日程＜８月５日（月）＞５限
5	学びの資産を構築する（１） ・A日程並びに事後課題で完成させた学修デザインを対話形式で共有する。 ・B日程で作成するNICEカリキュラムマップと、B日程最後で着手するリフレクションレポートについて学ぶ。	【B日程の事前課題】 A日程並びに事後課題として作成した学修デザインを完成させる。	B日程＜８月６日（火）＞２限
6	学びの資産を構築する（２） ・NICEカリキュラムマップを作成し、学修成果の可視化を行う。	B日程は２限から５限を通しで行う集中講義のため、B日程の事前・事後課題は№５と№８に記載している。	B日程＜８月６日（火）＞３限
7	学びの資産を構築する（３） ・作成したNICEカリキュラムマップを用いてポスターセッション又は個人発表で共有する。（NICEプログラム「学修創生型マイナー」受講者又は１、２年次に「分野横断デザイン」を受講した学生で希望者のみ、ポスター説明を動画として撮影する。）	B日程は２限から５限を通しで行う集中講義のため、B日程の事前・事後課題は№５と№８に記載している。	B日程＜８月６日（火）＞４限
8	学びの資産を構築する（４） ・A日程で作成した学修デザインとB日程で作成したNICEカリキュラムマップを用いてリフレクションレポートの執筆に着手する。（NICEプログラム「学修創生型マイナー」受講者又は１、２年次に「分野横断デザイン」を受講した学生（希望者のみ）でポスター説明を動画として撮影した学生は、過去に「分野横断デザイン」で作成したセルフインタビュー動画を見ながら、自分自身の変化について記述する。） ・学務情報システム（NBAS含む）を用いて、ディプロマ・サプリメントを作成する。	【B日程の事後課題】 リフレクションレポートを完成させ、期限までに提出する。	B日程＜８月６日（火）＞５限

【資料4−③】

① マイナーの創生 〔メジャー外に学修したいことを見いだし、学修成果に一貫した意味を与える〕



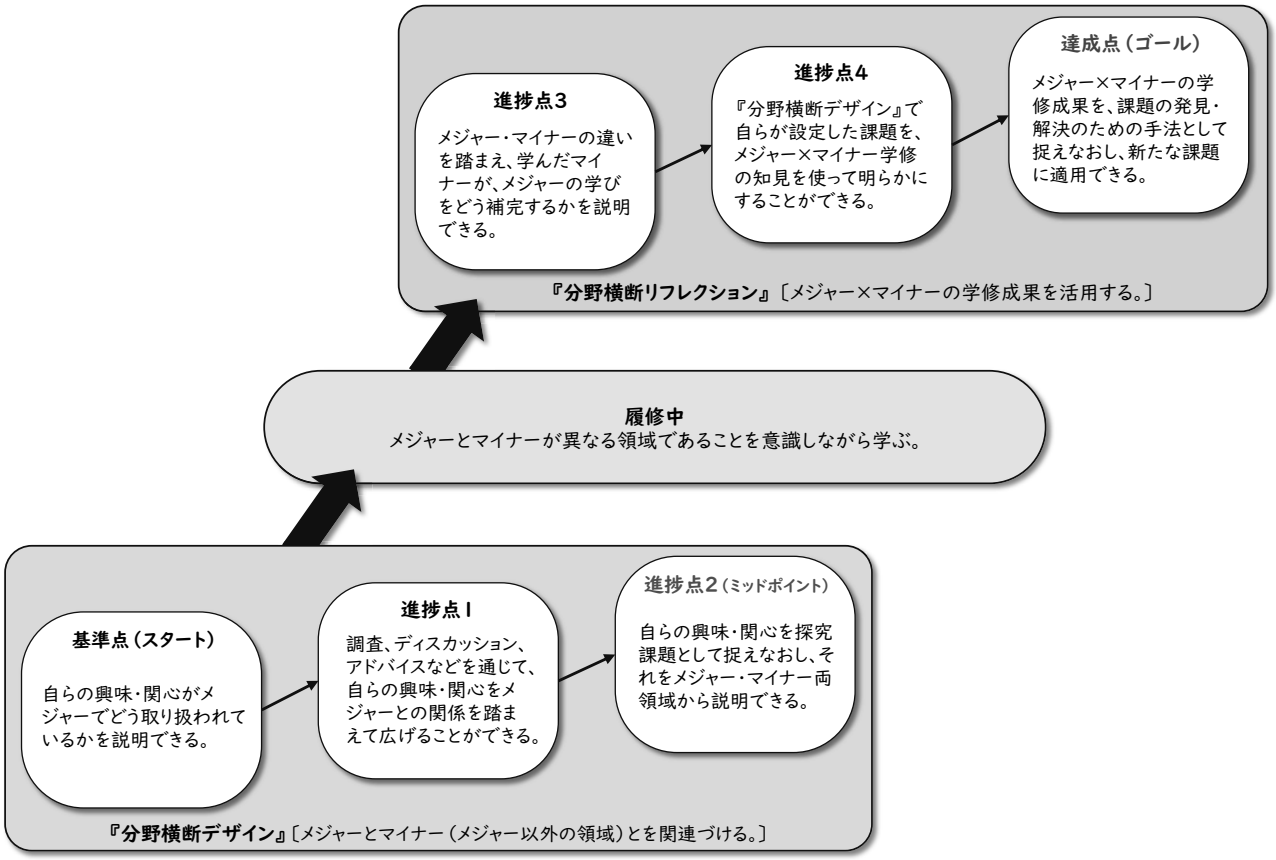
① マイナーの創生 〔メジャー外に学修したいことを見いだし、学修成果に一貫した意味を与える〕

分野横断デザインー進捗点2（ミッドポイント）における評価			
	レベル3	レベル2	レベル1
観点1（「マイナー学修デザイン」で評価） マイナー学修の目標	• マイナー学修によって何を得たいのか、その理由とともに具体的に記述している • マイナー学修をメジャーを補完するものとして、整合性のある形で記述している	• マイナー学修によって何を得たいのかを記述している • メジャーへの記述が含まれているが、マイナー学修との整合性がとれていない	• マイナー学修についてなんらかの記述があるが、獲得目標とはいえない
観点2（「マイナー学修デザイン」で評価） マイナー科目数	• メジャーの履修状況・課外活動・抽選漏れなどに対応できることが一目でわかるように、注記などを含めた学修計画が書けている	• メジャーの履修状況・課外活動・抽選漏れなどに対応できるだけ十分な科目数を挙げている	• 最低限の科目数を挙げている
観点3（「マイナー学修デザイン」で評価） マイナー科目の難易度	• 基礎科目・発展科目をバランスよく挙げている • 基礎科目から発展科目へと難易度順の学修計画となっている	• 基礎科目・発展科目の数にやや偏りがある • 学修計画は書けているが、難易度順に考慮されていない部分がある	• 基礎科目ばかり、発展科目ばかりなど、挙げた科目の難易度に偏りがある • 学修計画に難易度が十分に反映されていない

分野横断リフレクションー達成点（ゴール）における評価			
	レベル3	レベル2	レベル1
観点1（「最終レポート」で評価） マイナー科目群に与える名称	• マイナーとして学んだ科目群に一貫性のある名称を与え、その中に、メジャーとの関連や単位外の課外活動との関連が含まれる。	• マイナーとして学んだ科目群に一貫性のある名称を与えている	• マイナーとして学んだ科目群になんらかの名称を与えている
観点2（「最終レポート」で評価） マイナー科目群の位置づけ	• マイナーとして学んだ科目群が、在学中のすべての学び（メジャー学修・課外活動を含む）の中でどのような意味を持っているかについて記述している（位置づけを明確にしている）	• マイナーとして学んだ科目群が、メジャー学修とどう関わるかを記述している	• マイナーとして学んだ科目群について説明をしている

【資料4−③】

② メジャー×マイナーの創生〔課題発見・課題解決に、複数の異なる地点を活用する〕



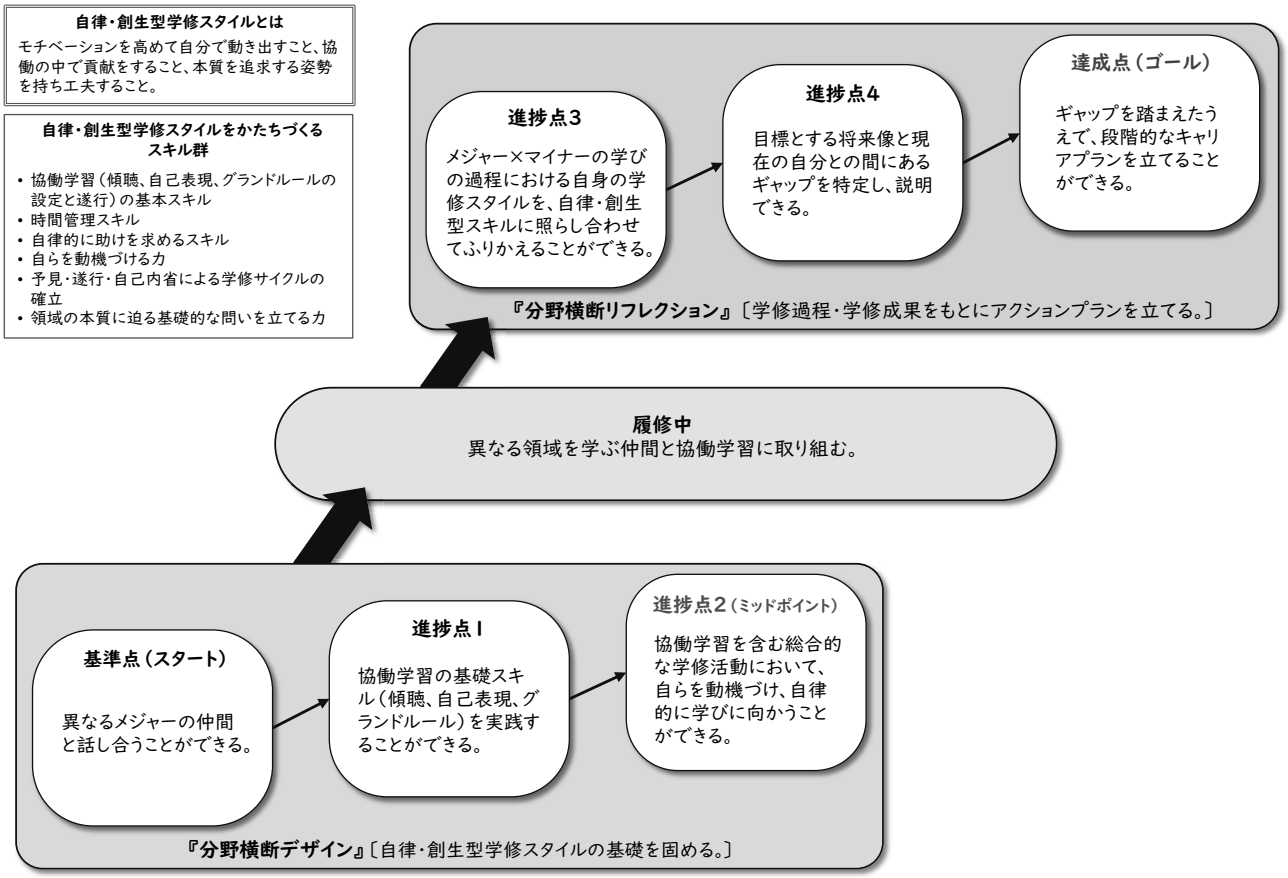
② メジャー×マイナーの創生〔課題発見・課題解決に、複数の異なる地点を活用する〕

分野横断デザイン−進捗点2（ミッドポイント）における評価			
	レベル3	レベル2	レベル1
観点1（「最終レポート」で評価） メジャー・マイナーと個人の興味・関心との関わり	• 自分の興味・関心を、メジャーとマイナー両方の、方法・考え方・社会への影響などの観点から記述している	• 自分の興味・関心を、メジャーまたはマイナーどちらかの方法・考え方・社会への影響などの観点から記述している	• 自分の興味・関心についてメジャーまたはマイナーと関連させて記述している
観点2（「最終レポート」で評価） 個人の興味・関心に端を発する課題	• 自分の興味・関心を、それが生まれてきた背景、それに取り組む動機・意義を含め、具体的な探究課題として記述している	• 自分の興味・関心について、それが生まれてきた背景、それに取り組む動機・意義を記述している	• 自分の興味・関心が何であるかを記述している

分野横断リフレクション−達成点（ゴール）における評価			
	レベル3	レベル2	レベル1
観点1（「最終レポート」で評価） メジャー×マイナー学修を通じた課題定義・課題解決	• 自らが設定した課題を、学修を通じて得た知見を用いて記述し、解決案を記述している	• 授業で与えられた課題を、学修を通じて得た知見を用いて記述し、解決案を記述している	• 学修と、課題定義・課題解決との関係について記述している
観点2（「最終レポート」で評価） メジャー×マイナー学修成果のメタ把握	• メジャー×マイナー学修を、課題の発見・解決のための汎用性を持つ手法として捉えなおして記述している	• メジャー×マイナー学修から得られた手法について記述している	• マイナー学修から得られた手法について記述している

【資料4−③】

③ メジャー×マイナー学修による自律・創生型学修スタイルの形成〔協働学習・自己調整の方法を自分のものにする〕



③ メジャー×マイナー学修による自律・創生型学修スタイルの形成〔協働学習・自己調整の方法を自分のものにする〕

分野横断デザイン−進捗点2（ミッドポイント）における評価

	レベル3	レベル2	レベル1
観点1（授業中のグループ学習で評価） グループ学習参加中の行動	• 自分の考えと調査内容を区別し、筋道立てて話している • 仲間の考え・調査内容を明確にする質問をしている • 仲間の考え・調査内容を発展させるアイデアを話している	• 考えや調査内容などを話している • 仲間の考え・調査内容に対して質問をしている	• 考えや調査内容などを話している
観点2（「最終レポート」で評価） メジャー・マイナーの調査行動	• 「ある領域の学びから多くの収穫を得るための問い」を用いた調査過程を、得た結果を示しながら整合性のある形で記述している	• メジャー・マイナーについての調査過程を、得た結果を示しながら記述している	• メジャー・マイナーについての調査結果を記述している（調査過程は記述されていない）
観点3（「最終レポート」で評価） 学修の進め方についての計画	• 学修への取り組みへの自らの強み・弱みを挙げ、それらを踏まえた上でメジャー・マイナーの学びをどう進めていくかを説明している	• 学修への取り組みへの自らの強みまたは弱みのどちらかを挙げ、それらを踏まえた上でメジャー・マイナーの学びをどう進めていくかを説明している	• 学修への取り組みへの自らの強みまたは弱みのどちらかを挙げている
観点4（学修デザイン相談で評価） アカデミック・アドバイザーの活用状況	• 自分の学修計画の中にアドバイス依頼などを組み込み、適切なタイミングをとらえて行っている	• 困ったときなど、どうしても必要なときにアドバイス依頼などを行っている	• 授業での促しに応じてアドバイス依頼を行っている

分野横断リフレクション−達成点（ゴール）における評価

	レベル3	レベル2	レベル1
観点1（「最終レポート」の記述） メジャー×マイナーの学修過程	• メジャー×マイナーの学修過程について、協働的な活動結果（学外学修、インターンシップなども含まれる）を記述している	• メジャー×マイナーの学修過程について、個人による活動部分を記述している	• マイナーの学修過程について、個人による活動部分を記述している
観点2（「最終レポート」の記述） <目標とする将来像>と<現時点における自分>とのギャップの分析	• 将来と現時点のギャップ把握に基づいた現状の到達度を、複数の観点から説得力をもって記述している	• 自分自身の不足を、将来と現時点のギャップ把握に基づいて記述している	• 現時点における自分自身の不足の記述を記述している
観点3（「最終レポート」の記述） 段階的なキャリアプラン	• ギャップ分析と整合する形でのキャリアプランを、段階的（3か月後、1年後、5年後など）、かつ具体的に記述している	• キャリアプランを、段階的（3か月後、1年後、5年後など）、かつ具体的に記述している	• なんらかのキャリアプランを記述している

メジャー×マイナー学修による自律と創生

ルーブリック

『分野横断デザイン』

20230525

①マイナーの創生

	レベル３	レベル２	レベル１	レベル0
観点1：マイナー学修の内容と目標 （**マイナー学修デザイン**の【マイナーの概要】「ねらいと概要」「到達目標」で評価））	マイナー学修によってどのような目標を達成したいのか（到達目標）を具体的に記述しており、 ・学修内容と整合的である。 ・メジャーとの差別化ができている。 のどちらも満たしている。	マイナー学修によってどのような目標を達成したいのか（到達目標）を具体的に記述しており、 ・学修内容と整合的である。 ・メジャーとの差別化ができている。 のどちらかを満たしている。	•マイナー学修によってどのような目標を達成したいのか（到達目標）を具体的に記述しているものの、 ・学修内容と整合的である。 ・メジャーとの差別化ができている。 のどちらかも満たしていない。 あるいは、目標が抽象的すぎたり、目標といえるようなものになっていない。	レベル1を満たしていない。（目標が書けていない。）
観点2：マイナー学修の整合性と体系性 （**マイナー学修デザイン**の【マイナーの概要】「名称」「ねらいと概要」と、【学修計画（科目リスト）】で評価））	•【マイナーの概要】と【学修計画（科目リスト）】が合致しており、整合性がある。 •【学修計画（科目リスト）】において、基礎科目・発展科目をバランスよく挙げており、体系性がある。 のどちらも満たしている。	•【マイナーの概要】と【学修計画（科目リスト）】が合致しており、整合性がある。 •【学修計画（科目リスト）】において、基礎科目・発展科目をバランスよく挙げており、体系性がある。 のどちらかを満たしている。	•【マイナーの概要】と【学修計画（科目リスト）】が合致しており、整合性がある。 •【学修計画（科目リスト）】において、基礎科目・発展科目をバランスよく挙げており、体系性がある。 のどちらも満たしていない。	レベル1を満たしていない。（科目リストが書けていない。）

② メジャー×マイナーの創生

	レベル３	レベル２	レベル１	レベル0
観点1：課題発見と設定 （**最終レポート**で評価）	•具体的な探求課題を発見・設定したうえで、その課題設定に至った背景（自分の興味・関心との関連や、社会的意義・学術的意義などそれに取り組む必要性）を記述しており、それらに整合性がある。	•具体的な探求課題を発見・設定しているが、その課題設定に至った背景（自分の興味・関心との関連や、社会的意義・学術的意義などそれに取り組む必要性）の記述に不足があったり、関連がなかったりしている。	•探求課題を発見・設定しているものの漠然としており、焦点がぼやけている。	レベル1を満たしていない。 （課題が書けていない）
観点2：文理複眼／分野横断的な視野による課題の分析 （**最終レポート**で評価）	•設定された課題に関して、メジャーとマイナーの両方の視点から分析し、それぞれの解決方法やアプローチの仕方、社会への影響などの観点から記述している。	•設定された課題に関して、メジャーかマイナーの視点どちらかの視点から分析し、解決方法やアプローチの仕方、社会への影響などの観点から記述している。	•課題を設定しているものの、メジャーとマイナーの視点のどちらも反映されていない。	レベル1を満たしていない。 （課題が書けていない）

③メジャー×マイナー学修による自律・創生型学修スタイルの形成

	レベル３	レベル２	レベル１	レベル0
観点1：学修の進め方についての計画 （**最終レポート**で評価）	•マイナー学修デザインに掲げた学修内容や目標がなぜ必要なのかを、自身の現状やメジャーとの関連を踏まえた上で説明している •マイナー学修を進める際に起こりうる障壁を予想し、それを乗り越えるためにどのように学修を進めていくのかを説明している のどちらも満たしている。	•マイナー学修デザインに掲げた目標がなぜ必要なのかを、自身の現状やメジャーとの関連を踏まえた上で説明している •マイナー学修を進める際に起こりうる障壁を予想し、それを乗り越えるためにどのように学修を進めていくのかを説明している のどちらかを満たしている。	•マイナー学修デザインに掲げた目標がなぜ必要なのかを、自身の現状やメジャーとの関連を踏まえた上で説明している •マイナー学修を進める際に起こりうる障壁を予想し、それを乗り越えるためにどのように学修を進めていくのかを説明している のどちらも満たしていない。	レベル1を満たしていない。 （書いていない）
観点2：グループワーク中のコミュニケーション （**授業中のグループワーク**で評価）	•考えや調査内容などを筋道立てて話している •仲間の考え・調査内容を明確にする質問をしている •仲間の考え・調査内容を発展させるアイデアを話している	•考えや調査内容などを話している •仲間の考え・調査内容に対して質問をしている	•考えや調査内容などを話している	レベル1を満たしていない。 （グループワークに参加していない）

メジャー×マイナーの学習による自律と創生

ルーブリック

『分野横断リフレクション』

20240522

	分野横断リフレクション－達成点（ゴール）における評価				
		レベル３	レベル２	レベル１	レベル０（新設）
確定版マイナー学修デザインで評価 →マイナーの修了認定にかかわるデザインの観点	観点１ マイナーを構成する要素（科目群以外）の整合性	･マイナーの「名称」「ねらいと概要」「到達目標」「メジャーとマイナーかけあわせの到達目標」がすべて整合性のある記述になっている。	･マイナーの「名称」「ねらいと概要」「到達目標」「メジャーとマイナーかけあわせの到達目標」が関連性のある記述になっているが、一部整合性がない。	･マイナーの「名称」「ねらいと概要」「到達目標」「メジャーとマイナーかけあわせの到達目標」を記述している。	レベル1を満たしていない
	特徴				
	観点２ マイナーを構成する科目群の整合性	･マイナーとして学んだ科目群が、「ねらいと概要」「到達目標」のマイナーに関する記述や「キーワード」と整合性があるものになっている。	･マイナーとして学んだ科目群が、「ねらいと概要」「到達目標」のマイナーに関する記述や「キーワード」に関連性はあるが、一部整合性がない。	･マイナーとして学んだ科目群が、「ねらいと概要」「到達目標」のマイナーに関する記述や「キーワード」と整合性はないが、一部関連性はある。	レベル1を満たしていない
	特徴			・科目の単位数に不足がある ・メジャーに該当するであろう科目を多数含めている ・キーワードとの対応関係に不足がある	
NICEカリキュラム・マップ及びそのプレゼンテーションで評価 →確定版マイナー学修デザインの可視化 →マイナーの修了認定にかかわる関連性と到達目標の観点	観点３ 大学におけるマイナーの学修と他の学修（メジャーや課外活動含む）との関連性	･マイナーの学修と大学における他の学修（メジャーや課外活動含む）との関連性が明確に図示（NICEカリキュラム・マップ）・説明（プレゼン）されている。	･マイナーの学修と大学における他の学修（メジャーや課外活動含む）との関連性が図示（NICEカリキュラム・マップ）・説明（プレゼン）されているが、不明確な部分や関連性がわからない部分が一部ある。	･マイナーの学修と大学における他の学修（メジャーや課外活動含む）が図示（NICEカリキュラム・マップ）・説明（プレゼン）されているがそれらの関連性がわからず、独立したものになっている。	レベル1を満たしていない
	特徴				
	観点４ 「到達目標」「メジャーとマイナーかけあわせの到達目標」の達成	･すべてあるいはほとんどの到達目標についてそれらが達成しているとわかるエビデンス（学修内容や成果物の記述）が示されている。	･半分以上の到達目標についてそれらが達成しているとわかるエビデンス（学修内容や成果物の記述）が示されている。	･半分未満～一部の到達目標についてのみそれらが達成しているとわかるエビデンス（学修内容や成果物の記述）が示されている。	レベル1を満たしていない
	特徴				
最終レポートで評価 →修了認定以外の要素にかかわる評価 →複眼的視点とエージェンシー	観点１（最終レポートで評価） 大学の学修を通じた課題設定・課題解決	自らの課題を設定しており、 ・複眼的な視点で課題を分析すること ・複数のアプローチによる解決案を提示することのどちらもできている。	自らの課題を設定しており、 ・複眼的な視点で課題を分析すること ・複数のアプローチによる解決案を提示することのどちらかができている。	自らの課題を設定しているが、 ・複眼的な視点で課題を分析すること ・複数のアプローチによる解決案を提示することのどちらもできていない。	レベル1を満たしていない
	特徴	・1つの学問領域ではできない課題の定義、課題解決のアプローチに関して記述しているかどうかが重要な点。実際に解決はしていなくてもよいが、どのようにアプローチするのかは書いてほしい。			
	観点２（最終レポートで評価） 大学の学修におけるエージェンシー	マイナーを含めた大学における学修について、自分の設定した目標を達成するために、主体的な学修をこれまでどのように行ってきたのか、これからどのように進めていくのかがわかるように記述している。	マイナーを含めた大学における学修について、自分の設定した目標を達成するために、主体的な学修をこれまでどのように行ってきたのか、これからどのように進めていくのかがわかるように記述しているが、一部主体的というよりも受動的である。	マイナーを含めた大学における学修について、これまでどのように行ってきたのか、これからどのように進めていくのかがわかるように記述しているが、ほとんど受動的なものである。	レベル1を満たしていない
	特徴	足りないことをどう自分から主体的に埋めてきたのか、あるいはこれからどう埋めていくのかがわかればよい。			

【資料5－①】

新連載　新潟大学における知識集約型社会を支える人材育成――メジャー・マイナー制の開発と戦略的展開（1）

全学分野横断創生プログラムにおけるメジャー・マイナー制

新潟大学　副学長（学務担当）・人文学部教授　福島　治

高等教育関係者の多くが愛読者となっている誌上にて、新潟大学全学分野横断創生プログラムについて紹介する機会を得たことは幸いである。ＮＩＣＥプログラムという愛称で親しまれているこのプログラムは、学生自身が主体的に学びをデザインするところに特徴がある。その狙いは、混迷する社会の課題解決に貢献できるエージェンティックな人材の育成である。「知識集約型社会を支える人材育成事業」（令和二年度採択）としてこれを実施しており、関係各位の尽力により中間評価でＳ評価をいただいた。光栄である。八回にわたる連載により、その実情を余すところなくお伝えしたい。

第一回は、このプログラムの学内教育課程における位置づけと、その運用を支える学内状況と組織についてである。

学内教育課程におけるメジャー・マイナー制の位置づけ

本学のメジャー・マイナー制の基本構造は図1の通りである。本学のマイナーには二つのタイプがあり、パッケージ型は特定の専門分野やテーマに即して科目リストが作成されており、学生はそれに基づいて学修していく。一方学修創生型は、学生が自身の問題意識や興味・関心に基づいて学修計画（履修する科目、到達目標等）を作成し、学修していくものである。

マイナー・プログラムは一二単位以上で修了できることを基本にしている。卒業要件単位数（一二四単位以上）の中に含めて履修可能だ。そうした理由は二つある。一つは、卒業要件の中に含まれる自由選択科目に体系性を持たせるためである。例として本学人文学部の卒業要件単位を図中に示した。専門教育が六〇単位で、これがメジャーとなる。教養教育に関する科目は四一単位であり、英語や初修外国語、データサイエンスや大学学習法など科目区分指定のある二九単位と自由選択の一二単位がある。ほかに科目区分に関わらない自由選択も二三単位ある。したがって、計三五単位分の科目は学生自身が完全に自由に選べる。これまで学生は、その時々の興味や時間割の都合等で自由選択科目を履修してきた。しかし、その科目選択にマイナー・プログラムとしての体系性を持たせることにより、学修効果が高まると考えた。

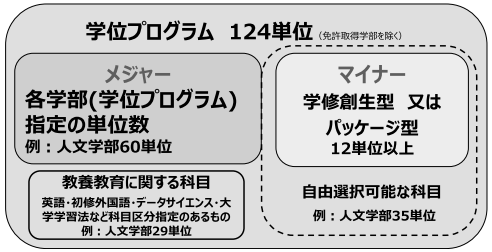


図1　新潟大学におけるメジャー・マイナー制の単位構造

図1は概念的なものである点にも注意してほしい。図中の「メジャー」とは、各学位プログラムで開設されている専門科目群のことだが、学部や学位プログラムによってその範疇は異なる。「教養教育に関する科目」も然りだ。専門と教養で構成される各学部のカリキュラムは、それぞれ独自に練り上げられてきたものであり、メジャー・マイナー制による履修を前提として作られているわけではない。学生はあくまで所属学部の履修要件に従って科目履修をする。つまり、この図は各学部の要件を具体的に反映しているものではない。専門と教養のほかに、自由選択の部分で「マイナー」として体系化された学びをしましょう、そこで独自のマイナー・プログラムもデザインできます、という説明をする際に用いているものである。

卒業要件単位内に収めたもう一つの理由は、マイナー・プログラムの修了者を増やすことにある。平成十七年度から副専攻制度としてマイナー・プログラムを開設していたが、ややハードルが高かった。プログラム修了までに二四単位以上が必要であり、うち一二単位は卒業要件とは別に履修するしくみであった。入学時に副専攻に興味をもって入門科目を履修する学生は毎年六〇〇名前後いたのだが、最後まで完遂する者は少なく卒業時には六〇名前後になった。最初の興味を維持し、修了者を増やすことが、教育戦略上の課題となっていたのである。

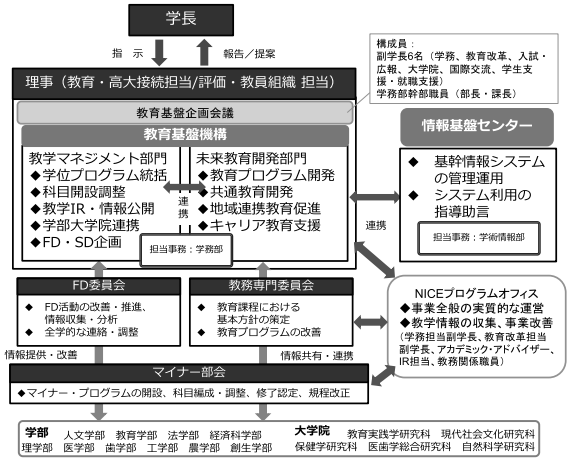


図2　新潟大学のメジャー・マイナー制を支える組織体制

メジャー・マイナー制の運用を支える学内状況と組織

メジャー・マイナー制による履修者の拡大は、新潟大学の中期計画の一つにあげられている。入学者の三分の一が履修することを目指しており、これが旗印にもなっている。しかし、なかなかに高い数値であり、大上段に構えてもいられない。制度的な部分の整備を行ってきた者の一人として、これまで本学が運用してきた副専攻制度とどのように違うのか、説明や意見交換のために学部長や幹部教員との懇談の場を設け、感触をさぐりつつ、学生のマイナー・プログラムの履修を促してもらえるようお願いをして回った。また、マイナー・プログラム履修者の動向について、全学教育組織である教育基盤機構と学部との間で情報共有をはかるため、学部別の履修者数などの情報を含むニュースレターの発行も行ってきた。学内理解を得ずして目標達成は困難であるため、情報共有には特に留意している。

組織についても触れておこう。関連組織は図2の通りである。メジャー・マイナー制を成功に導くことが本学の教育の新たなスタンダードを構築することになる。将来を見通した制度やプログラムの設計には、不断の情報収集とアイデア創出が不可欠である。教育基盤機構の「未来教育開発部門」がその任にあたっており、教育改革担当副学長が統括している。

この部門は、科目開設や履修情報管理等を担う「教学マネジメント部門」と緊密につながっており、各々の専任教員や事務職員の面々と定期的な会議はもとより随時連絡をとりあって業務を推進している。進捗状況は定期的な教育担当理事とのミーティングで報告し、そこでの指示は直ちに業務に反映されていく。そもそも学長も理事もＮＩＣＥプログラムの事業申請書に直接手を入れ、申請の段階から学びやすいマイナー・プログラムの構築と普及を願っておられた。

学部代表の集まる教務専門委員会等では、こうした執行部の姿勢や雰囲気が伝わるように努め、全学的に取り組むことの本気度を知ってもらうことにも配慮した。

教育改革担当副学長の尽力により、副専攻部会も刷新された。事業開始当初はとにかく最小限のプログラム概要や科目リストを整えて開設したマイナー・プログラムもあった。質をさらに高めるには、プログラムの科目担当者にコミットしてもらうことが肝要であり、そのための組織体とそこでの情報共有が必須である。

次回以降は、高等教育政策におけるメジャー・マイナー制の立ち位置について専門的な視点から言及し、その後はアドバイジングや学修成果の可視化、質保証について実務担当者が述べた後、今後を展望する。最後までお目通しいただければ幸いである。

【資料5－①】

連載　新潟大学における知識集約型社会を支える人材育成――メジャー・マイナー制の開発と戦略的展開（2）

近年の高等教育政策とメジャー・マイナー制

新潟大学教育基盤機構　准教授　斎藤　有吾

本連載では新潟大学全学分野横断創生プログラム（Niigata University Interdisciplinary Creative Education Program：通称ＮＩＣＥプログラム）について紹介していく。本学ではメジャー・マイナー（主専攻・副専攻）制を導入しており、ＮＩＣＥプログラムとは、学生のメジャー・マイナー制における学修を支援する取り組み全体を指す。

第二回は、近年の高等教育政策におけるメジャー・マイナー制の位置づけを整理するとともに、本学のメジャー・マイナー制の特徴について解説していきたい。

近年の高等教育政策におけるメジャー・マイナー制

我が国の高等教育がこれからどう変化していくのかを明らかにすることを主目的とした答申「二〇四〇年に向けた高等教育のグランドデザイン」（中央教育審議会、二〇一八ａ）において、文理横断教育、あるいは学修の幅を広げる教育の必要性が指摘されている。現代の学術研究と産業社会では、異なる専門分野の知識を組み合わせることが求められていることがその背景である。これに対応するため、一般教育・共通教育においては従来の学部や研究科の枠を超えた文理横断的なカリキュラムが必要とされ、専門教育でも従来の専攻を超えた広範囲かつ深いレベルの教育が重視されている。

簡単に言えば、広さ（Breadth）と深さ（Depth）の両立である。その教育の方法論の一つとして挙げられているのがメジャー・マイナー制である。二〇二二年六月に中央教育審議会大学分科会の中に新たに設置された大学振興部会においても「文理横断・文理融合教育」の推進が議論されており、やはりメジャー・マイナー制はその方法論の一つとして位置づけられている（中央教育審議会大学分科会大学振興部会、二〇二二）。このような動向から、今後の高等教育改革においてメジャー・マイナー制がますます注目を集めていくことが予想される。

グランドデザイン答申の用語解説によると、メジャー・マイナー制とは「主専攻分野以外の分野の授業科目を体系的に履修させる取組であって、学内で規定が整備されている等、組織的に行われているもの」（中央教育審議会、二〇一八ｂ　傍線は筆者）をいう。この定義に拠れば、組織的な枠組みや規定が整っておらず、また学生が無作為に選んだ授業科目の履修を集積しても、それはマイナーに該当しないということになる。日本における学部段階の導入率は、文部科学省（二〇二一）の調査によると二〇一九年度時点で約三七％（調査に回答した七六三大学中二八一大学）である。二〇一二年時点は約二九％であり、そこから徐々に増加してきている（図1）。

このように三分の一を超える大学が導入しているが、制度の内容や導入の範囲等がすべての大学で同じというわけではない。たとえば全学規模で導入しているか学部内の学科間や特定の学部間で導入しているか、マイナーの履修が必修か選択か、マイナーの呼称、マイナー修了認定の必要単位数、マイナー修得単位の卒業要件への読替の有無、修了認定を証明するものを授与しているかどうかなどの点で差異がある（関西学院大学、二〇〇六）。

新潟大学におけるメジャー・マイナー制の特徴

新潟大学はメジャー・マイナー制を全学規模で導入しており、マイナーが体系的な教育プログラムであることを示すためにマイナー・プログラムと呼称している。またその履修は選択であり、修了認定のための必要単位数は一二以上で、その単位は卒業要件に含めることができる。さらに修了が認定されれば、マイナー・プログラム修了証が授与される。

本学のマイナー・プログラム（二〇二四年度）には「パッケージ型」と「学修創生型」の二つのタイプがある（表1）。

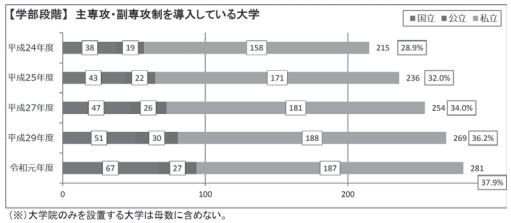
まず「パッケージ型」は、分野やテーマごとにパッケージ化された科目リストの中から、自分で科目を選択し、計画的に履修を行うものである。修了認定のための必要単位数は一二以上を基本としている。導入大学におけるマイナーの一般的なかたちはこのタイプである。国立大学でメジャー・マイナー制を導入している広島大学や金沢大学でも同様のかたちをとっており、特定の学部や学問分野に紐づくパッケージ型のマイナーを展開している。このようなタイプのマイナーの多くは、メジャーの内容の一部を学修できるように編成されている、いわばミニ・メジャーである。新潟大学でもそれに該当するマイナー・プログラムが複数存在する。ただし他にも、語学、データサイエンス、地域創生等、分野横断的な、あるいは学際的なマイナー・プログラムがパッケージとして複数開設されていることが本学の特徴の一つである。

次に「学修創生型」は、本学で開講されている科目の中から適した科目を選択して学生自身がリストを作成し、オリジナルなマイナーをデザインするというものである。修了認定のための必要単位数は一四以上である。学修創生型マイナーの詳細は次回以降に譲るが、本稿では履修の流れを簡単にまとめておこう。

まずは必修科目「分野横断デザイン」（一、二年次生対象）の受講を通して、自分の興味・関心や問題意識を起点に探究課題を見つけ、マイナーとして履修する科目を選択し、履修計画を立てる。それを起点に学生はマイナーの履修を進めていく。さらにマイナーの履修終盤～終了後に、必修科目「分野横断リフレクション」（三、四年次生対象）で、自身のマイナーの学修全体をメジャーとかけあわせたかたちで振り返り、学修成果を可視化する。これら二つの必修科目で作成するマイナーの学修内容、履修計画、到達目標等は担当教員の確認・承認が必要である。またメジャー・マイナー制の学修を継続的に支援する専任教員アカデミック・アドバイザーとの有機的な連携を行っている。これにより、学生の個別の興味・関心や問題意識を尊重しつつ、マイナーの条件である「体系的に履修する」こととその質を担保している。このタイプのマイナーも含めてメジャー・マイナー制を導入していることが本学の最大の特徴である。

「学修創生型」のようなマイナーを成立させるためには、メジャー・マイナー制の学修を継続的に支援するアカデミック・アドバイジングや、それを支援するための科目の存在が不可欠である。

次回は、ＮＩＣＥプログラムにおけるアカデミック・アドバイジングの体制やその役割について述べていこう。



（※）大学院のみを設置する大学は母数に含めない。
（※）調査項目を隔年にしたため平成26年度、平成28年度、平成30年度は調査をしていない。

図1　メジャー・マイナー制の導入率

（出典：文部科学省（2021）「令和元年度の大学における教育内容等の改革状況について」p.13から転載）

表1　新潟大学のマイナー・プログラムの２つのタイプ

	学修創生型	パッケージ型
プログラム開設数	1	45
科目の選び方	自分で選ぶ（自己選択方式）	科目リスト
修了認定単位数	14単位以上	12単位以上
備考	マイナー支援科目「分野横断デザイン」を受講し、科目リストを含むマイナーの学修計画書を作成する	

〈参考文献〉
中央教育審議会（二〇一八ａ）「二〇四〇年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」
中央教育審議会（二〇一八ｂ）「二〇四〇年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）用語解説」
中央教育審議会大学分科会大学振興部会（二〇二二）「文理横断・文理融合教育の推進について（審議経過メモ）」https://www.mext.go.jp/content/20220921-mxt_koutou01-000025134_3.pdf　二〇二四年二月二十日確認
関西学院大学（二〇〇六）「先導的大学改革推進委託最終報告書：平成十七～十八年度文部科学省」
文部科学省（二〇二一）「令和元年度の大学における教育内容等の改革状況について」https://www.mext.go.jp/content/20211104-mxt_daigaku03-000018152_1.pdf　二〇二四年二月二十日確認

【資料5－①】

連載　新潟大学における知識集約型社会を支える人材育成

メジャー・マイナー制におけるアカデミック・アドバイジング

――メジャー・マイナー制の開発と戦略的展開(3)

新潟大学教育基盤機構　特任准教授
アカデミック・アドバイザー　神田　麻衣子

新潟大学全学分野横断創生プログラム（Niigata University Interdisciplinary Creative Education Program：通称NICEプログラム）では、二〇二一年度にマイナー・プログラムの開設とあわせてアカデミック・アドバイジングを開始した。アドバイジングの目的は、マイナー・プログラムを履修する学生への伴走的学修支援である。

近年、高等教育においてアカデミック・アドバイジングの導入が進んでいるが、その背景は各教育現場によって異なる。第三回では、本学のメジャー・マイナー制におけるアカデミック・アドバイジングの位置づけや体制について解説することに加え、アカデミック・アドバイジングの実践事例として「学修デザイン相談」を紹介したい。

メジャー・マイナー制とアカデミック・アドバイジング

本学で展開されているマイナー・プログラムには、「パッケージ型」と「学修創生型」の二つのタイプがある。

パッケージ型では、「法学」、「生物学」のように特定の学問分野に焦点を当てたプログラムのほか、「コミュニティ・マネジメント」や「核エネルギー・災害科学」のように、現代の社会課題を学際的にまなざし、分野横断的に科目をパッケージ化したプログラムが展開されている。パッケージ型を選択した学生は、各プログラムの科目リストにもとづいて履修科目を選択し、学修を進めていく。

一方、学修創生型に科目リストは用意されていない。学生はまずマイナー支援科目「分野横断デザイン」を必修科目として受講する。この科目を通して、自身の興味・関心や問題意識にもとづいて探究課題を設定した上で、開講科目の中から自身の学修に適した科目を選択し、体系的かつ分野横断的な学修計画をデザインする。その後、学修計画に沿った科目履修を行い、「分野横断リフレクション」（必修）の受講を経てマイナー修了に至る。

本学入学前からマイナー・プログラムに興味を持っている学生は少なくない。しかし、多くの学生は、各学部で開催される新入生対象の履修ガイダンスで、卒業要件単位数や単位構造の説明とともにメジャー・マイナー制やマイナー・プログラムについて知る。履修ガイダンスを通して学生が得るのは、大学ではこれまでの学校生活のように時間割が定められているわけではなく、自ら受講する科目を決定し、卒業までの学びを管理しなければならないという学びの主体としての意識である。したがって、マイナー・プログラムの履修について考えることは、学生が「大学でどう学ぶか」を自問する最初の機会といってよい。本学におけるアカデミック・アドバイジングは、こうした学生の問いに対して必要な情報提供を行うだけでなく、マイナー・プログラムの履修を中心に、学生自身の学修目的や将来の目標決定・達成を継続的に支援するために行われている。

アカデミック・アドバイジング体制と「学修デザイン相談」

NICEプログラムでは、二名の専任教員がアカデミック・アドバイザー（以下、AA）を務めている。AAは「学修デザイン相談」という個別相談でマイナー・プログラム履修に関するアカデミック・アドバイジング（個別支援）を行うほか、マイナー支援科目を担当して集団支援にも携わる。本稿では「学修デザイン相談」に焦点を当て、マイナー支援科目の詳細については次回に詳説したい。

⑴学生のニーズ

「学修デザイン相談」に対する学生のニーズは、大きく二つに分けられる。一つは、メジャー・マイナー制や特定のプログラムの履修資格・修了要件といった、制度に関する疑問の即時的な解決である。

もう一方は、自らの学修構想や計画に対する疑問や悩みを解消し、次のステップを見出すためのアカデミック・アドバイジングである。こうした幅広いニーズに応えるため、開設時間や場所の利便性を念頭に相談環境を整えている。

⑵相談体制

「学修デザイン相談」は、学期中の毎週火、木、金曜日の昼休み、および三、四限に開設されている。一回の相談時間は三〇分で、AAが対面で実施している。相談はメールやウェブフォームを通じて予約を受け付けるほか、予約のない場合でもAAが対応可能な場合に即時受け付けている。

相談場所は、学生が気兼ねなく立ち寄れる開放感を維持しつつ、人目が気にならない落ち着いた空間でアドバイジングを受けられるよう、半オープンスペースと専用個室の二種類を使い分けている。なお、マイナー・プログラム履修に関する不安やつまずきについて対話する中で、学生が自身の「困り感」についてAAに相談することもある。相談内容がAAの対応範囲を超える場合、AAは学生に「学生なんでも相談窓口」や保健管理センターなどの学内関連部署を案内し、専門的な支援につなげている（リファー）。

⑶アドバイジングの前提

「学修デザイン相談」でアカデミック・アドバイジングを希望する学生は、マイナー支援科目「分野横断デザイン」で探究課題の設定や分野横断的な探究のあり方を考えることに困難を覚えている場合が多い。授業という集団支援から個別支援への移行に伴ってAAに求められているのは、個別最適なアドバイジングであるといえよう。

そこで、学生自身がもつ「資源」に着目することをアドバイジングの前提として掲げている。「資源」とは、本人の興味・関心や問題意識（社会の現状に対する違和感）のほか、これまでに正課内外で得た経験、人間関係、資格等を指している。学生が自分のもつ資源の価値に気づけていないことが、分野横断的学修を形づくる上での障壁となる。AAは、対話によって思考の言語化を促すとともに、その内容を可視化、整理することで、学生が障壁を乗り越えることを目指す。

⑷アドバイジングの実践例

「学修デザイン相談」は、通常の面談と同じく、①面談の開始、②課題の特定、③課題解決方法の明確化、④行動計画の策定、⑤面談の振り返り、という五つの過程（清水・中井、二〇二二）に沿って行われている。ここでは②と③の過程に焦点を当て、アドバイジングの実践例として紹介したい。

まず、AAは学生の興味・関心や問題意識に関して5W1Hの問いかけにもとづいた対話を開始する。並行して、学生自身の言葉や表現を尊重しながら、対話の内容をホワイトボードに書き出していく。こうした可視化により思考が整理されると、学生の興味・関心の中心、つまり探究したい課題が立体的に見えてくるようになる（②）。なお、学生が「取るに足りないこと」とみなしていた事柄が、このプロセスで「資源」として価値づけされることは、学生自身が学びの主体としての意識を高める契機ともなる。

探究課題が明確化した後に、分野横断の可能性を考える段階に移る（③）。分野横断のイメージを持ちやすいよう、関連する科目のシラバスを参考にすることもある。AAは、科目情報に加えて学内教育資源（留学、インターンシップ等）について広く情報提供を行うことで、学生が多様な機会を利用して自らの学びを具体的に考えることができるよう支援する。アドバイジングの終了時には、学生が自主的に学修計画の作成に取り組むための材料として、ホワイトボードの撮影を促す。

NICEプログラムのアカデミック・アドバイジングの特徴は、マイナー支援科目と結びつくことで学修支援を重層的に機能させる点にある。今回は「分野横断デザイン」のみの言及となったが、次回はマイナー支援科目と学修創生型マイナーについてより詳しく述べていきたい。

〈参考文献〉
清水栄子・中井俊樹編（二〇二二）『大学の学習支援Q&A』玉川大学出版部、二〇―二三。

【資料5－①】

連載　新潟大学における知識集約型社会を支える人材育成――メジャー・マイナー制の開発と戦略的展開（4）

学生自ら編成するマイナー・プログラムと支援科目

新潟大学教育基盤機構　特任准教授　柿原　豪

学修創生型マイナーの必修科目

本学のマイナー・プログラム（以下、マイナー）には「パッケージ型」と「学修創生型」がある。

パッケージ型マイナーでは、学生が各プログラムの科目リストから履修科目を選択し、一二単位以上を取得した上でマイナー修了認定の申請を行う。

学修創生型マイナーでは、「分野横断デザイン」（一単位）と「分野横断リフレクション」（一単位）が必修科目で、残りの十二単位以上の科目リストは、学生が自ら編成する新潟大学独自のマイナーである。

学修創生型マイナーの修了認定を希望する学生は、**図1**の通り一・二年次に「分野横断デザイン」、三・四年次に「分野横断リフレクション」を履修する。「分野横断デザイン」では、学生は自身の興味・関心、問題意識にもとづいて、マイナーの探究課題および到達目標を設定した上で、それに対応した科目を一二単位以上選び、体系的かつ独創的な学修計画をもとに三・四年次まで履修を進め、学修創生型マイナーの集大成科目「分野横断リフレクション」でマイナーの学びを振り返り、その成果を可視化していく。

「分野横断デザイン」：マイナーの学修計画を立てる

「分野横断デザイン」では、受講生が自らのマイナーを編成していくために必要な、学びの興味・関心をゾウリムシ図（ウェビングマップ）に表し、これを教室全体で共有しながら進めていくことを重視している。

そのねらいは二つある。第一に、可視化した学びの興味・関心を他者と共有することで、学びの協働性を高める点である。第二に、授業中のグループワークで得た他者からのフィードバックをもとに、受講生が自分の力で学修計画を作り上げていくことができる自律性を養う点である。

本授業で山場となるのは、マイナーにおける探究課題およびメジャー・マイナーのかけあわせによる到達目標の設定である。授業では、受講生が自身の興味・関心や問題意識をもとに探究課題を設定するように指示しているが、学生にとってそれは容易なことではない。また、設定したマイナーの探究課題に対し、メジャーとマイナーでそれぞれいかなるアプローチが可能かついかなる到達目標を設定するかは、学びを体系化する上で重要であるものの、やはりそれは受講生にとって難しい作業となっている。

また、NICEプログラムでは二〇二一年度よりスチューデント・アシスタント（以下、SA）を雇用し、授業担当教員と連携してマイナーの学修支援にあたっている。SAによる支援で受講生が困難を解消できない場合、授業担当教員やSAは、アカデミック・アドバイザー（以下、AA）による学修支援に導くこととしている。このように、教員とSAによる受講生の把握と授業後の情報共有が重要な意味をもっている。

学生は「分野横断デザイン」を通じて、マイナーの学修計画「マイナー学修デザイン」（**図2**）として完成させ、さらに探究課題とそれを設定した背景、探究課題に対するメジャーとマイナーそれぞれのアプローチ、自律的な学修を進めるための具体的方策をレポートにまとめて提出し、そこからマイナーの学修を本格化させる。

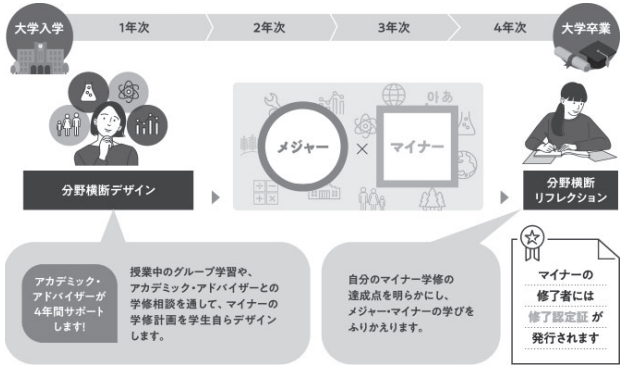


図1　学修創生型マイナーの履修フロー

「分野横断リフレクション」：マイナーの学修成果を振り返りながら可視化する

マイナーの学修を集大成する「分野横断リフレクション」は、三・四年次生がこれまでのマイナーの学修成果を振り返りながら可視化を図り、これについて他の受講生と協働しながら、自らの学修を意味づけている。そのねらいは、授業を通じて学生が課題解決に必要な知識・技能を主体的に学修する能力としてのエージェンシーについて省察すると同時

マイナー学修デザイン

作成年月日：　2023　年　2　月　4　日（第　3　版）

学籍番号	****	学部・学科 学年	創生学部１年
氏名	****	主専攻	【決定前の場合は、希望するプログラム名を記載】 地質科学プログラム

マイナーの型	☑ 学修創生型　（必要単位数：14 単位） □ パッケージ型　（　　）（必要単位数：12 単位） □ オナーズ型　（　　）（必要単位数：24 単位） ※ 該当する型に印をつけ、パッケージ型、オナーズ型の場合はパッケージ名、プログラム名を記入

■マイナーの概要

名称	森林利用による防災
ねらいと概要	近年、森林の整備不足、また地球温暖化による台風の増加や異常気象によって、土砂災害の被害が大きくなっていることが問題だと感じたため、土砂災害の被害を無くす、減らすといった対策方法を考えたい。そのためにメジャーで学ぶ予定である地質科学を基盤とし、主に森林・林業に関わる分野について学びたいと考えた。この学習創生型マイナーでは授業を自由に設定できるため、自分の目的に合っていると考えた。 農業についての基礎知識を習得し，地球規模から見た現在の農業について理解する。上流域の森林から中山間地を経て下流域の水田地帯に至る一連の流域における環境・防災の諸問題を解決し，流域管理の視点を習得する。
到達目標	森林が持つ機能や特徴について説明することができる、地域によって土砂災害に対する課題は異なるため、それに合った解決策を提案することができる。 メジャーとマイナーを用いた複数の観点から、土砂災害の防災・減災を実現するためにはどうすればいいのかを考えることができる。
マイナー学修のキーワード	①森林　②土砂災害　③防災　④
備考	

■学修計画

学修創生型マイナー，およびパッケージ型マイナー「ふるさと共創学」は、下記の２科目が必修です。

開講番号	学修創生型必修科目	水準	履修学年	単位数	備考
	分野横断デザイン （学修創生型マイナーの必修科目）	01		1	
	分野横断リフレクション （学修創生型マイナーの必修科目）	01	3 or 4	1	※ 分野横断デザインを２年生以上で受講した場合　4年生夏学集中開講を受講してください。
	修得予定単位数			2	

キーワード①	森林					
	開講番号	キーワードに関連する科目	水準	履修学年	単位数	備考
1	233S6508	生態学	04	2,3,4	2	
2	234A0068	森林環境論	04	2,3,4	2	
3	232A0136	フォレスター入門	03	2,3,4	2	
4	230G3939	朱鷺・自然再生フィールドワーク	03	1,2,3,4	2	
5						
6						
	このキーワード枠での修得予定単位数（すべての科目の合計ではありません）				8	

キーワード②	土砂災害					
	開講番号	キーワードに関連する科目	水準	履修学年	単位数	備考
1	233A0063	流域環境 GIS	03	2,3,4	2	
2	234G3703	土と水	03	1,2,3,4	2	
3						
4						
5						
6						
	このキーワード枠での修得予定単位数（すべての科目の合計ではありません）				4	

キーワード③	防災					
	開講番号	キーワードに関連する科目	水準	履修学年	単位数	備考
1	231A0060	環境砂防学	04	2、3、4	2	
2						
3						
4						
5						
6						
	このキーワード枠での修得予定単位数（すべての科目の合計ではありません）				2	

キーワード④						
	開講番号	キーワードに関連する科目	水準	履修学年	単位数	備考
1						
2						
3						
4						
5						
6						
	このキーワード枠での修得予定単位数（すべての科目の合計ではありません）					
	修得予定 合計単位数（ピンク色のセルの合計）				16	卒研が重複した場合を考えて、多めに設定した。

図2　マイナー学修デザインの実例

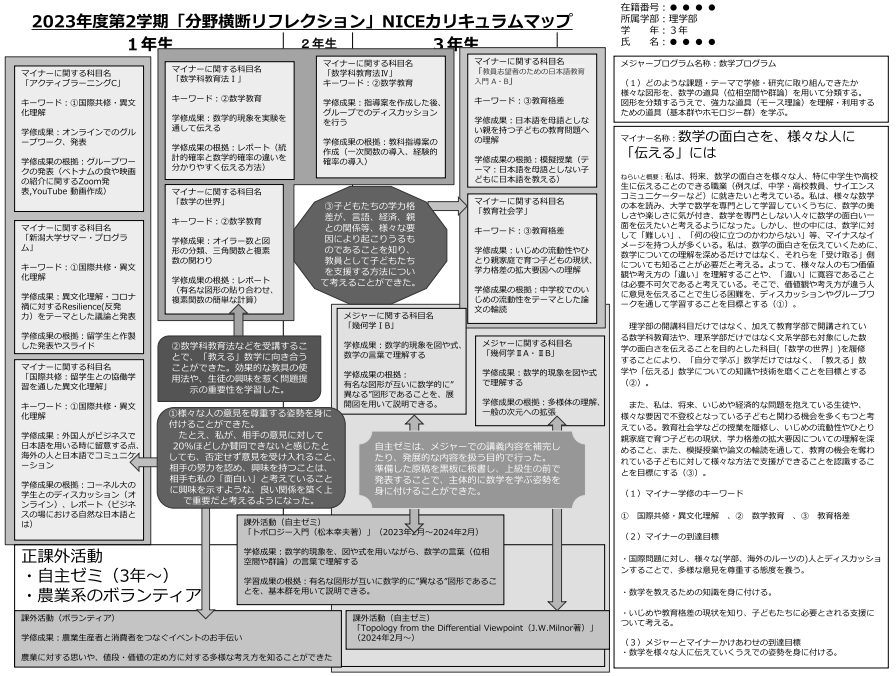


図３　NICE カリキュラムマップの実例

に、自身が学修あるいはキャリアの主体である、という意識をもつことにある。

本授業では、はじめに「分野横断リフレクション」ワークシートの作成に取り組む。それは、受講生が（正課外活動を含む）大学生活全体の学びを通して何を獲得しあるいは達成したか、またその過程における意識の変容を記述することで、その後に作成する「確定版マイナー学修デザイン」「ＮＩＣＥカリキュラムマップ」（図３）[1]への準備作業となっている。

次に取り組む「確定版マイナー学修デザイン」は、一・二年次に作成した「マイナー学修デザイン」（図２）を参照しながら、受講生の現時点におけるメジャー・マイナーの学びをまとめるものであり、それは自身の成長や意識の変容を実感する機会ともなる。そして、「ＮＩＣＥカリキュラムマップ」を作成することで学修成果を図として可視化していく。受講生がこれらの作業において行き詰まることもあるため、「分野横断デザイン」のときと同様に、都度ＡＡから学びの支援を受けられるようにしている。

このように、新潟大学では学生自ら編成するマイナー・プログラムとそれを支援する科目を展開している。今回は紙幅の関係でふれていないが、ルーブリックの改訂や教材の工夫などの課題は多く、次年度に向けてこれらの改善を図っているところである。

＜注＞

1　図3以外の「ＮＩＣＥカリキュラムマップ」については次のＵＲＬから参照のこと。https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/achievement.html

連載　新潟大学における知識集約型社会を支える人材育成――メジャー・マイナー制の開発と戦略的展開（5）

文部科学省学生支援GP「ダブルホーム」からマイナー「ふるさと共創学」への発展

新潟大学教育基盤機構　准教授　櫻井　典子

本学のパッケージ型マイナーと「ふるさと共創学」の概要

本学のパッケージ型マイナーは令和六年度四月時点で四六プログラムが開設されている。それらは大きく人文・社会科学分野、自然科学分野、保健学分野、学際分野に分類されている。学際分野の一つである「ふるさと共創学」は、後述する「ダブルホーム」における地域活動をとおして地域づくりに関心を持ち、地域の思いに寄り添いながら地域や社会における課題を探究し、解決に向けて積極的に取り組む人材を育成していくことを目指して令和四年度に開設された。令和六年三月末時点で五四人が登録しており、六人が修了認定を得た。卒業した三名は、二名が地域にかかわる仕事に就き、一名が大学院に進学した。

あらかじめ作成されている科目リストから一二単位以上を修得してマイナー・プログラム修了となるのは他のパッケージ型マイナーと同じであるが、「ふるさと共創学」には独自の特徴が二つある。一つは、準正課（卒業要件には含まれないが、新潟大学の教育戦略と教育的意図に基づいて教職員が関与・支援する教育活動や学生支援活動）の地域共創プログラムであるダブルホームをいかして、正課につなげるようにデザインされたものであるということ。もう一つは、学修創生型マイナー（本連載第三、四回参照）の必修科目である「分野横断デザイン」と「分野横断リフレクション」を、こちらでも必修としていることである（図1）。

連載五回目となる今回は、本学のパッケージ型マイナーの一つである「ふるさと共創学」に焦点を当て、その開設以前から取り組んできたダブルホームという準正課教育と、それをマイナー・プログラムとして発展させてきた経緯を解説する。それにより、メジャーをベースにしたマイナー（いわばミニ・メジャー）ではないマイナー・プログラムを編成する方向性の一つを提示したい。

地域共創プログラム「ダブルホーム」

ダブルホームは、平成十九年度の文部科学省学生支援GPとして「ダブルホーム制によるいきいき学生支援」事業という名称で開始された。学生が専門の学問を学ぶ学部・学科という第一のホームの他に居場所となる第二のホームで「生活者の視点に立つ地域連携テーマ」に取り組むことで、将来直面する困難な課題に対峙できる力を獲得することを目的とした。GP終了後の平成二十三年度からは、「地域の教育力」を活用して教職協働で学生の汎用的能力を向上させることを目的とした学生支援プログラムとして、令和二年度からは教育プログラムとして継続している（図2）。我が国におけるサービス・ラーニング等の地域を基盤とした学習（コミュニティ・ベースト・ラーニング）の拡がりとともにチームワーク力やシチズンシップの獲得が求めら

【資料5－①】

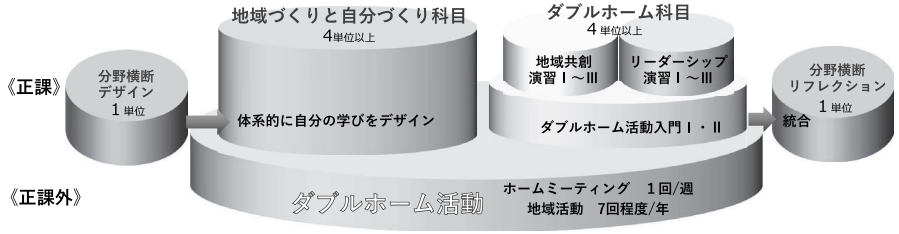


図1　マイナー「ふるさと共創学」とダブルホーム

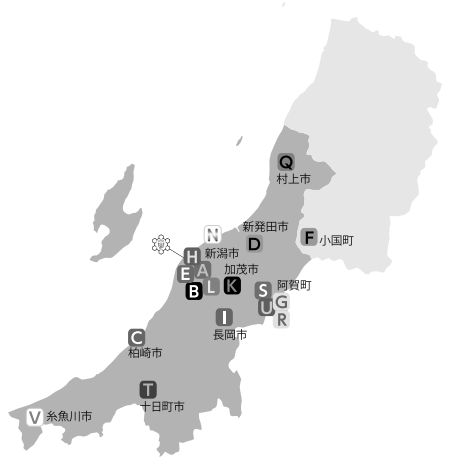


図3　ダブルホーム18ホームの活動地域（令和6年度）

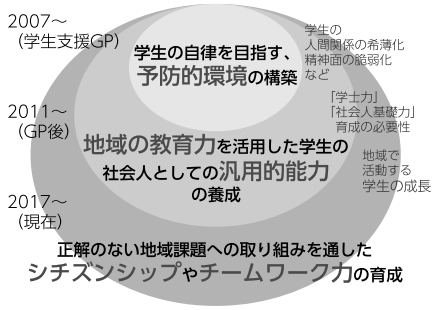


図2　ダブルホームの意義の変化

令和五年度は、学生三六七人、教職員六六人が一八ホームで新潟県・山形県で環境保全や行事の維持活動などの地域活動に取り組んだ（図3）。ダブルホームは学生にとって学部を越えた新しい仲間との交流を深める場となるだけではなく、多様な価値観の人々とのふれ合いから生まれるコミュニケーション能力の向上、生活者の立場で社会課題をみつめることで実感する自分の専門分野や新たな知識の必要性と重要性の認識といった様々な効果が認められている。受入れ地域からは、自分たちの地域を大切に思い、共に活動する学生たちの存在は貴重であるという声をいただいている。ダブルホーム活動が地元の魅力や課題の再認識、地域の子どもたちにとって学生のロールモデル効果、地域の外部とかかわる力の獲得や向上につながっている。

マイナー「ふるさと共創学」開設へ

ダブルホームの準正課ならではの悩みの一つとして参加者の活動意欲の温度差が挙げられる。熱心に活動に取り組む学生ほど学習成果意識が高いことから、より多くの学生の取り組み意欲を高めることが継続的な課題であった。第三期中期計画でも「学生の学修に対する主体性と動機づけを高めるために初年次を中心とした長期学外学修と連動した活動」として位置付けられ、教育プログラムとしてのあり方の明示が求められた。松下は、学生の学びと成長に大きなインパクトをもたらす活動として「協働で取り組む課題やプロジェクト」「コミュニティに足場をおいた学習」等があり、汎用的能力教育の先端モデルとして知られるミネルヴァ大学ではこれらのハイインパクト実践と正課科目の往還が重視されていることを報告している[2]。このような流れの中で、マイナーの構築を通して本プログラムを実践活動と正課科目の往還による教養教育プログラムとして発展させることを目指すこととなった。マイナーパッケージ「ふるさと共創学」の誕生である。その可能性が認められ、令和三年度に三菱みらい育成財団の「二十一世紀型教養教育プログラム」として採択され、翌年にはその成果が評価されて準グランプリを受賞した。

マイナー「ふるさと共創学」の修了要件は、ダブルホーム科目を四単位以上、地域づくりと自分づくり科目を四単位以上、分野横断デザイン一単位（必修）、分野横断リフレクション一単位（必修）、合計一二単位以上としている。ダブルホーム科目は、マイナー開設前から開講している初年次学生が地域活動の心構えを学ぶダブルホーム活動入門Ⅰ・Ⅱ（各一単位、Ⅱは令和六年度から必修）、イベントの企画・運営を通してリーダーシップを身につけるリーダーシップ演習Ⅰ～Ⅲ（計七科目、各一単位）がある。これらに加えて令和四年度のマイナー「ふるさと共創学」の開始とともに「地域共創演習Ⅰ～Ⅲ」を開設した（計六科目、各一単位）。「地域共創演習」のⅠではチームでプロジェクトを実施するための汎用的スキルを、Ⅱでは地域に入り課題を明確にする調査力を、Ⅲでは地域を深く理解する調査力と社会実装力を受講生が身につけることを目的としている。令和六年度には地域共創アクターと協働するPBL科目「地域共創特別演習」（計三科目、各二単位）も開講予定である。

地域づくりと自分づくり科目は、Gコード科目（学務部教務課が所管する教養科目）や各学部が提供する全学生対象の専門科目の中から一一四科目を選択している。これらの科目から自らの将来像をみつめて自分らしいラーニング・デザインを他者と共に考えるために「分野横断デザイン」を、これまでの大学生活における取組や学びを振り返り将来につなげる「分野横断リフレクション」を必修としている。これによって学生たちの準正課と正課における学びの往還を担保している。

今後に向けて

ダブルホームでは、学生や地域社会のニーズに柔軟に対応しながらプログラムを改善してきた。参加者の取組への動機づけや意欲には多様性があることは上述した通りである。マイナー「ふるさと共創学」は、課題解決への意欲が高い学生の受け皿として機能している。正課での学びをいかして準正課の活動でリーダーシップを発揮している学生も多いが、より自分らしい活動を求めて巣立っていく学生も少なくない。どちらも成長のかたちであると捉え、そのプロセスを応援していきたい。今後は、段階的に学生たちの地域創生人材としての力を育成するために守・破・離のステップをマイナー「ふるさと共創学」の正課科目と準正課プログラムを往還させながら進めていく。

〈引用文献〉

1　https://www.iess.niigata-u.ac.jp/dh/

2　松下佳代「汎用的能力を再考する：汎用性の四つのタイプとミネルヴァ・モデル」『京都大学高等教育研究』二五巻、二〇一九年、pp.六七―九〇.

※二〇一七年度までの取り組みについては、本誌「新潟大学における特色ある取り組み③」二〇一七年十一月二十七日号、p二二―二四もご参照いただきたい。

【資料5－①】

連載　新潟大学における知識集約型社会を支える人材育成――メジャー・マイナー制の開発と戦略的展開（6）

マイナー・プログラムにおける学修成果の可視化

新潟大学教育基盤機構　准教授　斎藤　有吾

本連載ではこれまで、新潟大学全学分野横断創生プログラム（Niigata University Interdisciplinary Creative Education Program：通称ＮＩＣＥプログラム）について紹介してきた。第六回以降は、紹介してきた取り組みを別の視点から捉え、今後の展望を行っていく。

プログラムレベルの学修成果の評価

近年推し進められている高等教育改革において、「プログラムレベルの学修成果の可視化」は重要なキーワードである。ここでいう学修成果とは、大学における特定の教育プログラムを通じた学修によって得た知識・理解、スキル、態度などの成果を指す。質保証や教育改善を進めていくために、学生が当該教育プログラムを通して何ができるようになったのかを把握しなければならない。そのため、プログラムレベルの学修成果をディプロマ・ポリシー（以下、ＤＰ）に紐づけて評価して可視化する取り組みが、我が国の多くの高等教育機関において精力的に進められている。

具体的な評価手法として、「アセスメントテスト」や「ルーブリックを用いた）重要科目や卒業研究の評価」などが実施されている。一般に「アセスメントテスト」は授業科目の評価とは別に実施される追加型の評価であり、ペーパーテスト等により学生の資質・能力を測定する方法の総称で、外部団体・企業等が開発したものが多用されている。大学教育における代表的なものとしてＰＲＯＧ（河合塾・リアセック）やGPS-Academic（ベネッセ－キャリア）がある。ただし、これらは汎用的スキルを評価するためのものであり、分野固有の専門的な知識・理解やスキルは射程に入っていない。また、各大学や学位プログラムにおいてＤＰとして掲げられている汎用的スキルと、これらの標準テストで評価できるものとの間には、齟齬や乖離が生じる場合がある（平山他、二〇二〇）。

「重要科目や卒業研究の評価」は科目の中で実施される埋め込み型の評価であり、科目の評価でありながら科目で学んだことだけでなく、プログラム・機関レベルにおける教育目標の達成度に関する情報を提供するという二重の機能をもつものである。卒業研究や卒業プロジェクトはまさにプログラムの集大成であるため、ＤＰと齟齬や乖離なく紐づけて評価しやすい。ただし卒業時点の達成度であるため、経年的な成長をみることはできない。そこでカリキュラムを分節化し、各期の「重要科目」を選んで、知識・スキル・態度を統合的に評価するパフォーマンス評価を在学時に複数回実施している例もある（松下他、二〇二〇）。

他にも、学修ポートフォリオを活用する手法や、カリキュラムマップによってあらかじめ定められた各ＤＰと各科目の対応関係をもとに、各科目の成績を重みづけて集約して各ＤＰを定量的に指標化するなどの手法がある。いずれの手法にも利点と限界があり、これらを組み合わせて相互補完的に用いることが推奨される。

マイナー・プログラムの学修成果の評価

では、マイナー・プログラムの学修成果はどのように評価できるのか。基本的には前述のような評価手法が考えられるが、学位プログラムと同様の課題がつきまとう。例えば外部団体・企業等が開発した「アセスメントテスト」は、四〇以上もある本学の多様なマイナー・プログラムの教育目標を網羅できるものではない。またそのようなテストを、マイナー・プログラムを履修している学生に実施し、特定の汎用的スキル（例えば批判的思考）の到達度を評価したとして、それがメジャーの学修によって到達したのか、マイナーの学修によって到達したのかを判断することは難しい。なぜならばメジャーの学修とマイナーの学修は同時並行で進んでいるからである。

ではマイナー・プログラムの集大成となるような重要科目を設定し、その評価を利用する「重要科目の評価」はどうか。もし全てのマイナー・プログラムにおいて、そのような必修科目を設定し、かつ当該プログラムを修了したい学生が全員履修できるのであれば、プログラムレベルの学修成果の評価が現実的なものとなる。ただしそのような形をとるのであれば、学生がどのような学部あるいは学位プログラムに所属していたとしても確実に履修できるように、いくつかの曜日・時限で複数開講する必要がある。しかし本学のマイナー・プログラムでそのような科目を設定しているのは一部のプログラムにとどまっており、科目の開講や評価にかかわる教員の負担を考えれば、すべてのプログラムでそれを実施するのは現実的ではない。

このような課題を認識しつつ本学のＮＩＣＥプログラムでは、まだ検討は途上にあるが、マイナー・プログラムにおける学修成果の評価に取り組んできた。以下ではその事例を紹介しよう。

学修創生型マイナーにおける学修成果の評価

新潟大学のマイナー・プログラムの最大の特徴である「学修創生型マイナー」は、学生自身が学修内容や到達目標を設定して科目の構成をデザインしていく自己創生型のマイナーである。学修創生型マイナーでは「分野横断デザイン」（一単位、一・二年次対象）という、マイナーの学修についてのデザインを支援する入門科目と、「分野横断リフレクション」（一単位、三・四年次対象）という、取り組んできたマイナーの学修のみならずメジャーの学修、準正課・正課外の学修を含めて振り返り、分野横断的学修の成果を可視化する集大成科目が必修となっている。両科目を含めて、修了認定に必要な単位数は一四単位である。マイナーの学修の最初と最後に両科目を配置することによって、柔軟な学修と質の担保が両立される設計となっている。「学修創生型マイナー」の学修成果を評価するために、「分野横断リフレクション」（二〇二三年八～九月）の受講者学生のうち一〇名に対して学修成果を評価するためのパフォーマンス評価、また外的な参考基準としてGPS-Academicを実施した。これは先述したプログラムレベルの学修成果の評価方法である「重要科目の評価」と「アセスメントテスト」に対応するものである。

「分野横断リフレクション」において学生に作成を求めた成果物は、①「マイナー学修デザイン」（自身のマイナーの学修の名称、概要、到達目標、科目リスト等）、②「セルフカリキュラムマップ」（メジャー・マイナーにおける科目や準正課・正課外における学修と到達目標を結びつける図や説明であり、現在はＮＩＣＥカリキュラムマップと呼称）、③「リフレクション・レポート」（セルフカリキュラムマップを参考資料として、分野横断的な視点の獲得や、キャリアを見据えつつ今後に向けた課題解決の展望に関する記述）である。そして①に関して二観点（マイナーに与える名称、マイナー科目群の位置づけ）、③に関して五観点（メジャー・マイナーの学修を通じた課題定義・課題解決、学修成果の把握、学修過程、将来と現時点のギャップ分析、段階的なキャリアプラン）の計七観点、レベル３～レベル１のルーブリックを作成して（**表１**）、担当教員四名で評価した。レベル２が合格水準である。教員は互いに相談することなく単独でルーブリックに従って評価した。なお、得られた評価データの信頼性係

数（評価が一貫しているか、安定しているかの指標。一・〇に近いほど信頼性が高いことを示す）は〇・七を超えており、一定の信頼性を有しているといえるものであった。また、全ての観点に関して平均的にレベル2を超えており、学生は合格水準に達していると判断された。

一方、GPS-Academic は大学生の汎用的な課題解決力や大学教育への考えを測定するための標準テストであり、独自の構成概念の定義と枠組みに基づいて複数の問題や項目によって構成されている。構成概念の大枠と形式は「思考力」（多肢選択式問題、記述式問題）、「姿勢・態度」（アンケート形式）、「経験」（アンケート形式）である。これらはさらに細かい下位のカテゴリに分けられる。例えば「思考力」は「批判的思考力」「協働的思考力」「創造的思考力」で構成されている（ベネッセ－i－キャリア、n.d.）。学修創生型マイナーの学修成果として注目するのは「創造的思考力」であり、メジャー以外の学問分野あるいはテーマを体系的に学ぶことによってこれらが向上することが期待された。その結果、「分野横断リフレクション」受講者（三、四年生）のポイントの平均値は五七・八であった。学修創生型の学修を始めるタイミングにあたる「分野横断デザイン」の受講者（多くが一年生）のポイントの平均値は四九・三であり、「創造的思考力」はかなりの高水準であったといえるだろう。さらに、データを示すことはできないが、新潟大学と同レベルあるいはそれ以上の偏差値の三年生全受験者の平均値と比較すると、「分野横断リフレクション」受講者の「創造的思考力」はやはり高水準であると判断された。なお、パフォーマンス評価の結果と「創造的思考力」の相関係数は〇・三六であり、弱い正の相関を示した。

これらのことから、学修創生型マイナーにおける学修成果はパフォーマンス評価によって信頼性・妥当性が担保された形で評価されていると判断できる。また、目標とするレベルを達成している。さらに外的な基準を参考にすると、当該マイナーを履修することで、特定の資質・能力が涵養されていると判断できるものであった。ただし、これは学修創生型マイナーにおける検討であり、他のパッケージ型マイナーにおける学修成果の検討は今後の課題である。

表1　「分野横断リフレクション」におけるパフォーマンス評価のルーブリック

分野横断リフレクション－達成点（ゴール）における評価			
	レベル3	レベル2	レベル1
観点1（確定版マイナー学修デザインで評価） マイナー科目群に与える名称	・マイナーとして学んだ科目群に、単位外の課外活動などを含めて、一貫性のある名称を与えている	・マイナーとして学んだ科目群に一貫性のある名称を与えている	・マイナーとして学んだ科目群になんらかの名称を与えている
観点2（確定版マイナー学修デザインで評価） マイナー科目群の位置づけ	・マイナーとして学んだ科目群が、在学中のすべての学び（メジャー学修・課外活動を含む）の中でどのような意味を持っているかについて記述している（位置づけを明確にしている）	・マイナーとして学んだ科目群が、メジャー学修とどう関わるかを記述している	・マイナーとして学んだ科目群について説明をしている
観点3（リフレクションレポートで評価） メジャー×マイナー学修を通じた課題定義・課題解決	・自らが設定した課題を、学修を通じて得た知見を用いて記述し、解決案を記述している	・授業で与えられた課題を、学修を通じて得た知見を用いて記述し、解決案を記述している	・学修と、課題発見・課題解決との関係について記述している
観点4（リフレクションレポートで評価） メジャー×マイナー学修成果のメタ把握	・メジャー×マイナー学修を、課題の発見・解決のための汎用性を持つ手法として捉えなおして記述している	・メジャー×マイナー学修から得られた手法について記述している	・マイナー学修から得られた手法について記述している
観点5（リフレクションレポートで評価） メジャー×マイナーの学修過程	・メジャー×マイナーの学修過程について、協働的な活動結果（学外学習、インターンシップなど）を記述している	・メジャー×マイナーの学修過程について、個人による活動部分を記述している	・マイナーの学修過程について、個人による活動部分を記述している
観点6（リフレクションレポートで評価） ＜目標とする将来像＞と＜現時点における自分＞とのギャップの分析	・現状の到達度について複数の観点から説得力のある記述をしている	・現状の到達度について記述している	・なんらかのギャップを記述している
観点7（リフレクションレポートで評価） 段階的なキャリアプラン	・ギャップ分析と整合する形でのキャリアプランを、段階的（3か月後、1年後、5年後など）、かつ具体的に記述している	・キャリアプランを、段階的（3か月後、1年後、5年後など）、かつ具体的に記述している	・なんらかのキャリアプランを記述している

〈参考文献〉
ベネッセ－i－キャリア（n.d.）「GPS-Academic とは」（https://www.benesse-i-career.co.jp/gps_academic/about/）二〇二四年五月一日確認
平山朋子・斎藤有吾・松下佳代（二〇二〇）「医療系分野における汎用的能力の評価方法の検討」『大学教育学会誌』四二(1)、一〇五―一一四
松下佳代・小野和宏・斎藤有吾（二〇二〇）「重要科目での埋め込み型パフォーマンス評価を通して科目レベルとプログラムレベルの評価をつなぐ―歯学教育プログラムの経験にもとづく提案―」『京都大学高等教育研究』二六、五一―六四

【資料5－①】

連載　新潟大学における知識集約型社会を支える人材育成――メジャー・マイナー制の開発と戦略的展開（7）

マイナー・プログラムの質保証

新潟大学教育基盤機構　准教授　樋口　健

本連載ではこれまで、新潟大学全学分野横断創生プログラム（Niigata University Interdisciplinary Creative Education Program：通称NICEプログラム）について紹介してきた。マイナー・プログラムは制度として完成の途上にあるため、その質保証の仕組みもまた構築の途上にある。そうした状況を前提に、第七回となる本稿では、本学のマイナー・プログラムの質保証に関する今日までの取り組みを三つ紹介し、今後の展望について述べる。

学びの体系性の確保

一つ目の取り組みは、学びの体系性の確保である。マイナーの学修は科目の幅が広く選択の自由度が極めて高いことから、学びの体系性を確保するためには、履修科目を確定する際に一歩踏み込んだ学修計画の作成指導が重要となる。このための科目が「分野横断デザイン」（一単位）であり、学修の入口において、指導を通じて学びの体系性を図っている。そこでは、学生が自らの問題関心を掘り下げた上で、探究課題と複数の到達目標を設定し、その達成のための授業科目を、シラバスを熟考して選択し、学修計画書「マイナー学修デザイン」として確定させる。すなわち、学修計画の中で、探究課題・到達目標・履修科目を整合させ体系性を確保している。また、学修の過程では往々にして学生の興味・関心が変化し、探究課題や履修科目も変化することから、学修の出口に位置する「分野横断リフレクション」（一単位）において、マイナーとして行った学修を振り返り、再度、探究課題・到達目標・履修科目を整合させた「確定版マイナー学修デザイン」を作成させる。これをもって体系化された学修が行われたことを担保し、マイナーの修了認定を行っている。

本連載の中で既に紹介しているように、マイナーには学修創生型マイナーとパッケージ型マイナーがある。学修創生型マイナーはセルフメイドであるため、上記「分野横断デザイン」「分野横断リフレクション」を必修としている。一方、パッケージ型マイナーは、各パッケージが予め示すプログラムの概要と到達目標に応じて定められた科目リストから選択するセミオーダー型であるため、前記二科目は一部を除き必修ではない。科目リストがあるとはいえ選択範囲は広く、学びの体系化は学生自身の選択に委ねているのが現状である。この点の解消の手立て（パッケージ編成条件として科目の体系性重視、分野横断デザインの履修拡充等）は、今後の課題である。

メジャー・マイナーの重複回避

二つ目の取り組みは、メジャーとマイナーの学びの重複回避である。これは、メジャー・マイナー制が、複数分野の専門性を基盤とする複眼的な視点を備え、それらを掛け合わせて新たな価値を生み出す資質・能力の育成を趣旨とするためだ。このことを踏まえ、本学では「メジャー・マイナー重複可否一覧表」（**表1**）を作成している。基本ルールとして、学生は自分が所属（または希望）する学位プログラムにおいて専攻する分野（メジャー）と重複するマイナー・プログラムを履修することはできない。

このことを前提に、学修創生型マイナー履修者は、原則として、所属（または希望）する学位プログラムで専攻する分野（メジャー）以外の科目を、「分野横断デザイン」での学修やアカデミック・アドバイザー等との相談を踏まえて選択する。一年生はプログラム配属前の学生も多く、所属学部内で選択可能な科目の範囲の考え方などについては十分な指導が必要である。パッケージ型マイナーの履修者は、手続きの時点で、所属（または希望）する学位プログラムに照らして、どのパッケージが選択可能なのか当該「一覧表」を確認した上で選択する。パッケージ型の場合、学問分野に沿って作られたミニ・メジャー的なプログラムが多く存在するため、この事前確認が不可欠である。

ディプロマ・サプリメントによるマイナー・プログラムの透明性の確保

三つ目の取り組みは、ディプロマ・サプリメントによる教育プログラムの透明性の確保である。ディプロマ・サプリメントとは学位記等の高等教育課程の修了を証明する文書に添付する補足資料を指す。一般に、学位・資格取得者の情報、学位・資格の基本情報や水準、修了した教育プログラム内容や学修成果等が記載される。学位あるいはそのための教育プログラムの透明性を確保する機能をもつが、日本では学生個人の学修成果を可視化する手段としても用いられている。本学でもディプロマ・サプリメントの構築と検証・運用を進めており、学位プログラムの人材育成目標や到達目標、学修内容、GPA、メジャーの主要な科目の成績等が表示される。

さらに本学のディプロマ・サプリメントの特徴は、マイナー・プログラムの修了認定を受けた学生は、メジャーに加えてマイナー・プログラムやその学修に関する情報も表示されるということにある（**図1**）。これにより、マイナー・プログラムも含めて教育プログラム全体の透明性の確保を目指している。

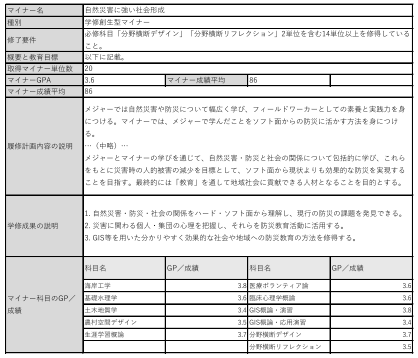
表1　メジャー・マイナー重複可否一覧表（抜粋）

学部名	学位プログラム名	マイナー・プログラム名						
		心理・人間学	社会文化学	言語文化学	法学	政治学	経済学	数学
人文学部	心理・人間学プログラム	×	○	○	○	○	○	○
人文学部	社会文化学プログラム	○	×	○	○	○	○	○
…								
理学部	数学プログラム	○	○	○	○	○	○	×
理学部	物理学プログラム	○	○	○	○	○	○	○
…								

メジャー・マイナーを統合した学位プログラム評価の確立

最後に、マイナー・プログラムに関する質保証の展望として、マイナー・プログラムを組み込んだ学位プログラムの評価のあり方について述べる。本学では、学位プログラムを総合的な観点から点検・評価する「学位プログラム評価」を制度化している。この中に、マイナー・プログラムの要素をどのように取り込むかが課題である。

最も重要なことは、マイナー・プログラムにおける学修成果の評価手法の確立であろう。マイナーでは、学生の学びの自由度、個別度が高いが故に、学生の学びの把握を軸とした評価手法の確立が、プログラム改善のためにも一層重要となる（本連載第六回参照）。学修成果の把握においては、マイナー・プログラムの到達目標と授業科目との対応関係の明確化、学修ポートフォリオの蓄積を基礎とする到達目標に照らした評価、汎用的能力等に関する標準的アセスメント等が鍵になってこよう。



マイナー名	自然災害に強い社会形成				
種別	学修創生型マイナー				
修了要件	必修科目「分野横断デザイン」「分野横断リフレクション」2単位を含む14単位以上を修得していること。				
履修と教育目標	以下に記載。				
取得マイナー単位数	20				
マイナーGPA	3.6	マイナー成績平均	86		
マイナー成績平均	86				
履修計画内容の説明	メジャーでは自然災害や防災について幅広く学び、フィールドワーカーとしての素養と実践力を身につける。マイナーでは、メジャーで学んだことをソフト面からの防災に活かす方法を身につける。 …（中略）… メジャーとマイナーの学びを通じて、自然災害・防災と社会の関係について包括的に学び、これをもとに災害時の人的被害の減少を目標として、ソフト面から現状よりも効果的な防災を実現することを目指す。最終的には「教育」を通じて地域社会に貢献できる人材となることを目的とする。				
学修成果の説明	1. 自然災害・防災・社会の関係をハード・ソフト面から理解し、現行の防災の課題を発見できる。 2. 災害に関わる個人・集団の心理を把握し、それらを防災教育活動に活用する。 3. GIS等を用いた分かりやすく効果的な社会や地域への防災教育の方法を修得する。				
マイナー科目のGP／成績	科目名	GP／成績	科目名	GP／成績	
	海洋工学	3.6	医療ボランティア論	3.6	
	基礎水理学	3.6	臨床心理学概論	3.6	
	水未地震学	3.6	GIS概論・演習	3.6	
	減災型都デザイン	3.6	GIS概論・応用演習	3.6	
	生涯学習概論	3.7	分野横断デザイン	3.7	
			分野横断リフレクション	3.6	

図1　新潟大学版ディプロマ・サプリメントにおけるマイナー・プログラム（学修創生型マイナー）の表示例

その上で、学位プログラム評価では、マイナーでの学び（プロセス、成果）がメジャーでの学びにどのような影響を与えたのか、という観点からの評価が必要であろう。そのためには、各学位プログラムの三ポリシーとりわけディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを、複眼的な視野を育みメジャーの学びにも活かす観点を含むものに変えていく必要がある。しかしながら現時点では、マイナーの学修は任意であるため、これを学位プログラム全体としてどのように実現するか、さらに議論を要する状況である。

【資料5－①】

連載　新潟大学における知識集約型社会を支える人材育成――メジャー・マイナー制の開発と戦略的展開（8）

メジャー・マイナー制のインパクトと今後の展望

新潟大学　副学長（教育改革担当）・理学部教授　淺賀　岳彦

本連載では新潟大学全学分野横断創生プログラム（Niigata University Interdisciplinary Creative Education Program：通称ＮＩＣＥプログラム）について紹介していく。本学ではメジャー・マイナー（主専攻・副専攻）制を導入しており、ＮＩＣＥプログラムとは、学生のメジャー・マイナー制における学修を支援する取り組み全体を指す。最終回である本稿では、新潟大学におけるメジャー・マイナー制の変遷を振り返るとともに、本学の教育に対するメジャー・マイナー制のインパクトと今後の展望について解説していきたい。

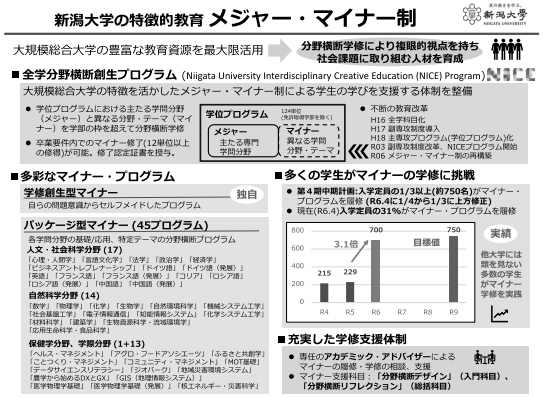
新潟大学におけるメジャー・マイナー制の変遷

最初に、新潟大学におけるメジャー・マイナー制の変遷を簡単に紹介したい。本学は、一〇学部からなる総合大学の強みを活かし、全国の大学に先駆けて平成十七年より「副専攻制度（現在のオナーズ型マイナー）」を導入した。当時、平成十六年に全学科目化、平成十八年には主専攻プログラム（現行の学位プログラム）化が行われるなど、現在の基盤となる一連の教育改革が進められた。令和二年度に「知的集約型社会を支える人材育成事業」に採択され、令和三年度から副専攻制度は「全学分野横断創生（ＮＩＣＥ）プログラム」として大きく発展し、新たに学修創生型マイナーとパッケージ型マイナーが開設された。この点については、本連載の第一回を参照されたい。

近年のメジャー・マイナー制の改革の目標は、より多くの学生がマイナーの学修に挑戦し、そしてその学びを貫徹し修了する学生を増やし、社会課題に複眼的視点で解決に取り組む人材を輩出することである。そのために、学位プログラム化に基づくメジャー・マイナー制の再構築を行った。全学のカリキュラム・ポリシーにおける教育課程編成の基本方針の改定を行い、「各学部、プログラム等の人材育成目標を達成するのに必要な資質・能力を確実に修得させるために、教養教育、専門教育の科目群を　学年進行に沿って適切に配置し、体系的な教育課程を編成します。また、複眼的な視点を備えるために、分野や領域の枠を越えた幅広い学びが可能な体制を整え、そのための学修支援を提供します」と最後の一文を加え、各学部の学位プログラムにおけるメジャーとマイナーの学びの役割を明確化した。さらに、卒業要件の範囲の中でマイナー・プログラムを修了できるように、オナーズ型マイナーをパッケージ型マイナーへ移行した。

本学の第四期中期計画では、入学者の三分の一がマイナーを履修することを目標にしている。履修者を増やすためには、学生にマイナーの学修の意義とその仕組みを理解してもらうことが重要となる。そのために、紹介冊子「マイナー・プログラム履修ガイド」の配布や、学期初めのガイダンスなどを実施してきた。令和六年度の試みとして、入学式後のオリエンテーションにおいてメジャー・マイナー制について紹介した。この効果は大きく、四月のガイダンスに非常に多くの学生が参加し、中期計画の目標には届かないものの、入学者の約四分の一に当たる七〇〇名（令和六年四月現在）がマイナーの学修を進めている。これは、昨年度に比べて二・六倍に当たる数となる。

また、令和六年度入学者からオナーズ型マイナーを履修停止し、パッケージ型マイナーへの移行を行った。オナーズ型マイナーの修了要件は、卒業要件外の一二単位以上を含め、合わせて二四単位以上の修得が必要であった。パッケージ型マイナーへの移行により、学位プログラムにおける卒業要件の枠の中で、自由選択科目等を利用してマイナーの修了が可能となるように改革した。メジャーと異なる分野を体系的に、そして無理なく学べる体制を整え、より多くの学生がマイナーを修了できるように改革した。この際、「ドイツ語」と「ドイツ語（発展）」のように、段階的なパッケージ型マイナーのプログラムも導入した。マイナーをより深いレベルで学ぶ意欲ある学生にも対応できるようマイナー・プログラムの拡充を行った。これらの改革によりマイナー修了者が増えることを期待している。



メジャー・マイナー制のインパクトと今後の展望

最後に、メジャー・マイナー制のインパクトと今後の展望について、触れたい。分野横断的な学修が活性化したことにより、学生そして教職員の意識も変わりつつある。このモーメンタムを大学院接続教育の改革につなげたい。文系メジャーを選択した学生が、マイナーの学びにより研究の方向性が大きく変化し、理系メジャーの大学院に入学する。このような専門分野の大変更に対応できる、大学と大学院が連関した教育体制の構築も大きな課題の一つである。そのためには、受入分野の教員と協力し、大学院での教育研究に不具合が出ないように目標設定された、より高度な内容のマイナー・プログラムの開発が必要であろう。学生が、学士―修士―博士課程と長期にわたる大学時代の中で、学修計画をデザインし、時には変更を行い、ありたい自分を実現できるように、一貫した教育支援体制の構築を試みたい。これらの取り組みにより、分野を横断する学生を軸に、大学院での学際研究が促進されることも期待される。

また、メジャー・マイナー制を進める上で解決すべき課題の一つが、授業時間割の問題である。マイナー対象科目の開講曜限がメジャー科目と重なってしまい、マイナーの学修が中々進まないことがある。ここで鍵となるのが、デジタルを活用した教育である。新潟大学将来ビジョン二〇三〇における教育・学生支援に関する目標の一つとして、「デジタルとリアルが融合した未来教育の展開」が掲げられている。時間や空間の制約から解き放たれたデジタル教育の拡充が大きな目標である。オンデマンド型のオンライン授業などを活用した、履修しやすいマイナー・プログラムの開発が望まれる。このようなプログラム構築は、大学の教育戦略上重要な役割を果たすと考える。入門的な内容のプログラムに関しては、リメディアル教育や高大接続教育へ、多言語対応のプログラムは国際協働学修への展開が期待できる。また、リスキリングや社会人の大学院入学のためのリカレント教育プログラムとしても活用できる。

これからもメジャー・マイナー制の改革を強力に進め、リアルとデジタルが融合した教育を確立することにより、社会人学生や留学生を含めた多様な学生に対応できる、地域・世界に開かれた日本海側屈指の教育拠点となることを目指す。

以上のように、新潟大学では、他の大学では類を見ない大規模なメジャー・マイナー制を推進している。この点は、本学の理念である「自立と創生」を体現する教育の基盤をなしている。学生自らマイナー・プログラムを選択し、卒後の人生を見据えメジャーの学びも含め卒業までの計画を立てて、大学での学修を貫徹する。その過程で複眼的視点から、新しい価値・ものを創出し課題解決する力を主体的に獲得し、地域・社会で活躍する人材に成長していく。

是非、今後の新潟大学の教育、そして卒業生に期待していただきたい。

【資料5-②】

受講生の皆様

必ず期間内に【全員※受検】してください
※創生学部は学部で受検しているので除く

就活前の力試しをしよう！
GPS-Academic® 受検案内

GPS-Academicは、皆さんのキャリア選択や就職活動の準備にも役立つテストです。テスト結果から、将来に向けて意識すべきこと、社会に出て活躍するためのヒントを得ることができます。

受検期間	**6月25日（火）～7月2日（火）**
受検場所 ・ 所要時間	**オンライン（パソコン）受検　約110分**

受検後のメリット

1 個人結果レポートを受検後最速3分で確認可能！ ※記述式を除く

個人結果レポートはスマホでも閲覧やダウンロードができます。
自分の強み、弱みを客観的に知ることができ、**自己PR**にも活用できます。

2 dodaキャンパス へ受検結果を連携可能！

受検結果から見えたあなたの**強みや、努力、経験をオファー型就活サービス dodaキャンパスで公開**することができます

受検時に表示される dodaキャンパスの 案内からアカウントを作成する → **受検後、 dodaキャンパスに 結果が連携される** → **あなたが受検結果を 「公開する」に変更すると 企業へのアピールになる**

※初期は「公開しない」に設定されています

注意事項

- 締切間際の受検の場合、アクセスの集中や端末のトラブル等により、期間内に受検できなくなることがあります。早めに受検をしてください。
- インターネットにつながったパソコンで受検してください。タブレットは一部機種で動作確認しています。「動作確認済み機種一覧」をご確認ください。
- 受検にあたっては、団体IDとあなた専用の受検者ID、パスワードが必要です。別紙「受検マニュアル」に記載された団体ID、受検者ID、初期パスワードのルールを確認し、受検時に入力してください。

動作確認済み機種一覧（タブレット）

https://www.benesse-i-career.co.jp/md/

記述式公開予定日	**7月30日（火）** **個人結果レポートから個人でご確認ください。**

2024年6月

新潟大学教育基盤機構　上畠洋佑：問い合わせ先　yuehata@ge.niigata-u.ac.jp

【資料5−②】

GPS-Academic®
受検前の準備と注意事項

GPS-Academicはパソコンで受検するテストです。
（一部タブレットでも動作確認済み）

受検するには 団体IDとあなた専用の「受検者ID」「パスワード」 が必要です

※次ページに記載されている団体ID、受検者ID、初期パスワードのルールを確認してください

【準備するもの】

インターネットに接続しているパソコン
（タブレットは一部機種で動作確認）



※タブレットにつきましては
動作確認済み機種一覧でご確認ください
https://www.benesse-i-career.co.jp/md/
※スマートフォンでは受検できません。

イヤホン、ヘッドホン



※音量がオンになっているか要チェック

AUXケーブル等でパソコンに接続してください。
※ワイヤレスやライトニングケーブルは接続できない場合があります。

メモと筆記用具



計算したり考えをまとめたりするためにメモを取って受検ができます。

団体ID、受検者ID、パスワード



次ページに記載しています。

GPS-Academic **受検者ページ**より動画でもチェックできます

必要な動作環境	対応OS、ブラウザ等については、以下のページをご確認ください。 https://www.benesse-i-career.co.jp/gps/product_text/file/environment.pdf

⚠ **実施時間を確認・十分に確保してください。**※一度受検を開始すると中断することができません。

⚠ **ブラウザの戻るボタン・再読み込みボタン・「×」ボタンは使わないでください。**
使用するとテストが止まります。再開する際は、ブラウザをすべて閉じ、再度ログインしてください。

⚠ **何かおかしいと思った時は、ブラウザを全部閉じて再ログインし直してください。**
解消しない場合は、時間をおいて再度お試しください。

【使用禁止】
×：ブラウザの矢印ボタン
×：ブラウザの再読み込みボタン
×：ブラウザやタブの「×」ボタン

テストを進める際には必ずこの「前の問題」「次の問題」ボタンを使ってください

前の問題　次の問題

- ✓ **音声や動画を使用した問題は再生は一度のみです**
- ✓ **前半の問題は制限時間があるため過ぎると次のパートへ進みます**

注意事項

- パソコン/タブレットのトラブル等により最後まで受検ができなかった場合は、必ずGPS受検者サポートデスクに連絡してください。
- 定期メンテナンスのため、毎月第2日曜日（0：00〜23：59）は受検、結果の閲覧ができませんので、ご注意ください。
  この他にも、**臨時メンテナンスが入る可能性がありますので、期間・時間に余裕をもって受検**してください。

【よくある質問・お問い合わせ】

Q：テストがスタートしません。
A：パソコン/タブレットのスペックやネットの環境に応じて、テスト問題の表示に時間を要する場合があります。画面が表示されるまで、しばらくお待ちください。

Q：受検中にテスト（動画や音声など）が止まってしまいました。または、インターネットに接続されていませんなどの通信エラーがでてしまいました。
A：数分待っても問題が再開しない場合は、一度ブラウザを閉じ、改めて立ち上げて、再度ログインしてください。途中から受検再開することができます。再開できない場合は「GPS受検者サポートデスク」での手続きが必要です。お電話でご連絡ください。

Q：テストの残り時間がなくなった場合、どうなりますか。
A：残り時間がなくなった時点で強制的にそのテストは終了となります。また、回答が完了するまで終了にならない問題があります。

Q：夜間に受検してトラブルが発生したらどうすればいいですか。
A：トラブルやご質問は「GPS受検者サポートデスク」でおうかがいします。翌日の営業時間内にご連絡ください。

GPS受検者サポートデスク　TEL: 0120-830-229（通話料無料）

受付時間：月〜土 9:00〜12:00、13:00〜17:30（日祝・年末年始を除く）　※このサポートデスクでは、受検時の操作やログイン方法についてのみ対応いたします。

【資料5−②】

GPS-Academic 受検マニュアル(doda任意登録)

団体ID	受検者ID	初期パスワード
アルファベット大文字3文字＋数字5文字 NII00734	在籍番号	生年月日の数字8ケタ

❶【まずは検索】

GoogleやYahoo!等より GPS 受検者ページ 検索

GPS-Academic 受検者ページ - ベネッセi-キャリア
https://www.benesse-i-career.co.jp/gps_academic/exam/index.html

❷【受検者ページ】

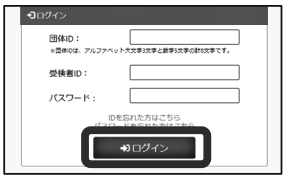
受検方法、注意事項を確認してから、「受検する」をクリック。＜個人情報の取り扱いについて＞＜受検者遵守事項＞に同意の上、ログイン画面へ。

★まず、受検前に動画をチェック（各2-3分）
- ✓ 受検の目的を確認「GPS-Academicとは」
- ✓ 「GPS受検にあたっての準備物や注意事項」
- ✓ 「問題サンプル（音声・動画・テキスト）」で事前に体感



❸【マイページへログイン】

団体ID・受検者ID・パスワードを入力しログイン。



[URLをアドレスバーに直接入力の場合]
https://www.gps-cbt.com

★装着
★音量チェック

❹【テスト詳細ページへ】

「エントリー済みテスト一覧」にあるテストの「受検す る」をクリックして進んでください。



❺【学年・大学入試区分（どんな入試で入学したか）・学部名・学科名を選択】

選択後、「同意して登録」をクリックし、テスト詳細ページへ移動してください。



❻【注意事項／動作確認】

「受検時の注意事項」を読み、「動作確認チェック」で使用するパソコンが動作環境に適合しているかをチェックしてください。



※動作環境に適合していない時は、大学のPCや別の端末で受検してください



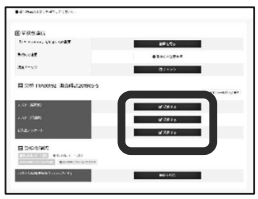
【dodaキャンパス登録】

受検したGPS-Academicの結果をdodaキャンパスでも見られるように設定できます。

①メールアドレス・パスワードを登録。
②「【dodaキャンパス】仮登録が完了しました」メールを受信
③仮登録のメールのリンクから本登録完了！

❼【テストスタート】

テストが始まる前に、注意・説明が表示されるので、しっかり確認しテストスタートしてください。
※テスト問題の表示に時間を要する場合がありますが、しばらくお待ちください。

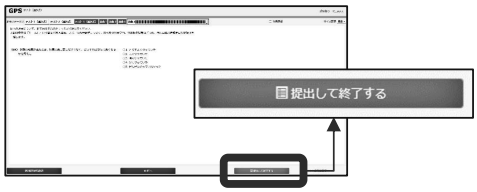




※問題は「練習問題」で解答前に体感できます。
※「練習問題」は受検者ページの問題サンプルと同じものです。

❽【テスト終了】

最後の設問まで回答したら、**「提出して終了する」**をクリックし、テストを終了します。画面上に引き続き「記述式」「アンケート」の指示がある場合は回答を続けてください。



すべて受検済みの場合	未受検が残っている場合
こちらの画面が表示されたらテスト終了です。	※オレンジの表示がある場合は必ず受検してください
未受検のものがあれば受検してください。 この下にオレンジ色のボタンがなければ受検終了です。 右下の「×閉じる」ボタンを押してください。	未受検のものがあれば受検してください。 この下にオレンジ色のボタンがなければ受検終了です。 右下の「×閉じる」ボタンを押してください。

マイページ「テスト詳細」で表示されている問題にすべて解答したらテスト終了です。

【資料5-②】

GPS-Academic受検後の結果確認と事後学習

その１：個人結果レポートのダウンロード　※結果は翌日までに返却します。

⚠「選択式問題」の結果は受検翌日までに、
「記述式問題」（受検している場合のみ）
の結果は７月２７日以降に確認することができます。

1 【受検者ページ：受検後へ】
受検したときと同じように、端末を起動。
ブラウザを立ち上げ、【受検者ページ：受検後】の
【個人結果レポートをダウンロードする】から
【マイページ】へアクセスする。
※アクセス方法：前ページの①を参照

2 【マイページへログイン】
団体ID・受検者ID・パスワードを入力しログイン。



3 【テスト詳細ページへ】
「エントリー済みテストー覧」にあるテストの
オレンジ色のボタンをクリックし、「テスト詳細」
ページに移動してください。



オレンジ色の
ボタン（受検済み）
などをクリック

4 【dodaキャンパス登録】

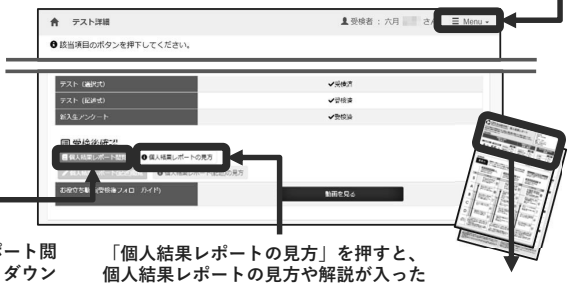
受検したGPS-Academicの結果を
dodaキャンパスにも登録しよう！

①「dodaキャンパスに登録する」をクリック。
② メールアドレス・パスワードを登録。
③「【dodaキャンパス】仮登録が完了
しました」メールを受信。
④ 仮登録のメールのリンクから本登録完了！
※受検時に登録済みの方はこの手順は不要です。



5 【結果のダウンロード】
「テスト詳細」で、「個人結果レポート」と「個人
結果レポートの見方」をダウンロードできます。

（推奨）「Menu」から「パスワード変更」で初期パスワード
から自分しかわからないものへ変更をしておきましょう。



「個人結果レポート閲覧」を押すと、ダウンロードできます。

「個人結果レポートの見方」を押すと、個人結果レポートの見方や解説が入ったファイルがダウンロードできます。

その２：『思考力アップ道場』で事後学習

【アクセス方法】
個人結果レポートのリンクからアクセス！

アクセスはこちら ▶▶▶ 思考力アップ道場

←2次元バーコード
↓URL　からもアクセスできる！

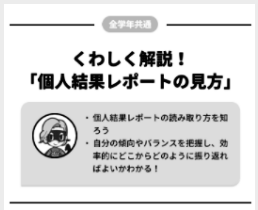
[URL]
https://www.benesse-i-career.co.jp/gps_academic/exam/index.html?tab=after

GPS-Academic思考力育成教材
『思考力アップ道場』

・日常に即した題材で「思考の型」が学べる！
・動画やクイズ形式の問題演習で、取り組みやすい！
・スマホで１コンテンツ5分以内。スキマ時間でも学習できる！



個人結果レポートの見方



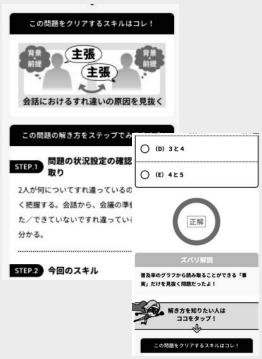
▲受検結果をどのように振り返ればよいかがわかる。

思考力レクチャー



▲3つの思考力の概要や伸ばし方がわかる。

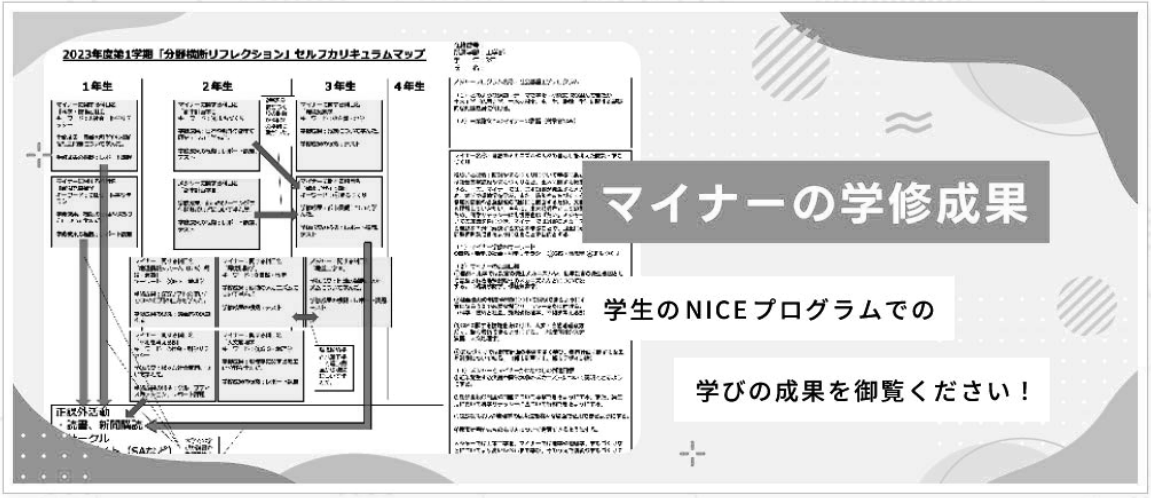
思考力トレーニング



▲思考スキルの使い方がわかる。

※「思考力トレーニング」へは、ログインが必要です。受検時の団体ID・受検者ID・パスワードを入力してご活用ください。

【資料5-③】



2024.03.25 人文学部社会文化学プログラム3年Tさんの「学修創生型マイナー」の学修成果

2024.03.25 経済科学部地域リーダープログラム3年Sさんの「学修創生型マイナー」の学修成果

2024.03.25 教育学部学校教員養成課程（教科教育） 3年Mさんの「学修創生型マイナー」の学修成果

2024.03.25 教育学部学校教員養成課程（教科教育）3年Tさんの「学修創生型マイナー」の学修成果

2024.03.25 理学部数学プログラム3年Tさんの「学修創生型マイナー」の学修成果

2024.03.25 教育学部学校教員養成課程（教科教育）3年Uさんの「学修創生型マイナー」の学修成果

2024.03.25 人文学部言語文化学プログラム3年Hさんの「学修創生型マイナー」の学修成果

2024.02.01 創生学部法学パッケージ3年Nさんの学びの振り返り

1 2 次へ

新潟大学 教育基盤機構
全学分野横断創生プログラム(NICEプログラム)
〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地
TEL:025-262-6309　FAX:025-262-6991
E-Mail：kyoumu-minor@ge.niigata-u.ac.jp

Copyright © 2021 新潟大学・全学分野横断創生プログラム(NICE) All Rights Reserved.

2023年度第1学期「分野横断リフレクション」セルフカリキュラムマップ

□：マイナー　□：メジャー

１年生	２年生	３年生	４年生
「日本語教育I-B」 キーワード：①社会的弱者 学修成果：ネイティブと非ネイティブ間の日本語の捉え方のギャップ 学修成果の根拠：特殊な読み方をする日本語に関するグループ発表、言語学習に多言語を活用することについてのレポート	「日本国憲法」 キーワード：①社会的弱者 学修成果：女性にかかる負担、男女平等に対する視点の獲得 学修成果の根拠：夫婦別姓に関するレポート		
	「司法・犯罪心理学」 学修成果：少年の非行を抑制するための理論・指導 学修成果の根拠：非行少年に関する小レポート		「特殊講義（被害者学）」 キーワード：②少年非行 学修成果：「少年」の定義、非行少年に対する刑罰と改正 学修成果の根拠：少年法を参考にしての講義、内容理解
	「医療と福祉」 キーワード：③福祉 学修成果：福祉制度の網羅的な学習、現代における障がい・障がい者の捉え方の学習 学修成果の根拠：各制度の学習、「障害者の権利は保証されているか」（レポート）	「社会福祉法制」 キーワード：③福祉 学修成果：高齢者・障がい者・児童に対する福祉制度の知識 学修成果の根拠：法制度の理解度テスト	
		メジャーに関する科目名 「福祉心理学」 学修成果：子どもや高齢者に対する福祉制度の理解、脳機能の変化 学修成果の根拠：毎週の事前課題	
	「教養教育としての教育学入門」 キーワード：④教育 学修成果：教育と学校機関・家族の関係性、学校で発生する問題（不登校、いじめなど）について、児童の心の成長 学修成果の根拠：いじめの定義、教育の責任の所在等についてのグループワーク	「教育社会学」 キーワード：④教育 学修成果：家庭環境による教育格差の存在、学校での無意識的な性差の植え付けの存在の学習 学修成果の根拠：論文読解	
	「発達心理学」　学修成果：能力と遺伝／環境の関係、「学習」とは 学修成果の根拠：毎週の事前課題		

正課外活動

在籍番号：■■■■
所属学部：人文学部
学　　年：4年
氏　　名：■■■■

メジャープログラム名称：心理・人間学プログラム

（1）どのような課題・テーマで学修・研究に取り組んできたか
・「集中力に関するメタ認知と読解力の関連について」
　集中力や読解力の測定と、それに対するメタ認知と実際の測定結果の関連性の探究
・公認心理師として必要となる知識の獲得、知識の活用方法の探索

（2）卒業論文へのマイナーの影響（対象者のみ）
　各個人の能力差や自分自身に対する理解など、人の違いや個性に関連するテーマに興味を持つようになった。

マイナー名称：**社会的弱者に対する領域横断的な心理サポート実践のために**

ねらいと概要：将来は、主専攻である心理学で培った知識を活用し、特に社会的弱者に対する心理的ケア・支援の提供を行いたいと考えている。具体的職業としてはスクールカウンセラーやソーシャルワーカー等が理想である。そしてこれらの職業で関わる人々は単一の問題ではなく、多面的・複合的な問題を抱えていることが多いという状況をふまえ、各領域で単純な心理ケアのみならずより踏み込んだ支援の提供を可能にするため、マイナー履修では職業領域や支援対象者に関係する専門的知識を獲得することを目標とする。ケアの対象者として考えているのは、児童（特に非行少年や外国人労働者の子どもなど）、貧困状態の方などである。
したがって、教育現場の現状、外国人に対する日本語教育、少年非行、性、福祉などに係る知識を獲得し、他職種との連携を図りながらより包括的ケアを提供できる人材となることを目的とする。

（1）マイナー学修のキーワード
①社会的弱者　②少年非行　③福祉　④教育

（2）マイナーの到達目標
社会的弱者：日本で生活する外国人や性に違和感を覚える「マイノリティ」の方々を含め、「社会的弱者」と呼ばれる子どもや障がい者、高齢者や収入が不十分な（収入がない）人々などが抱える問題や障壁をさまざまな視点から理解・予測できる
少年非行：非行少年に関わる法制度と刑罰、施設等の知識を獲得する
福祉：高齢者、障がい者、児童に提供できる福祉制度の知識を獲得する／現代において行われている支援の現状を理解する
教育：教師、家族、友人といった人間関係や学校機関の在り方が児童の発達や価値観形成、学力等に与える影響を理解する／子どもの発達特性に関する知識を獲得する
全体：社会的弱者を指導する側の現状や現在の法制度の運用等に対する十分な理解がある

（3）メジャーとマイナーかけあわせの到達目標
社会的弱者：相談者が抱える問題の本質を理解し、アセスメント等の際のより的確な状況理解と他機関との連携・支援提供ができる
少年非行：非行少年に対する刑罰や支援の現状について理解し、支援を必要としている少年の社会的状況を理解した上で支援を提供できる
福祉：現行の福祉制度を理解し、有効な制度活用をアドバイスできる
教育：児童の発達状況や学校・家庭における人間関係などの複数の視点から学習や学校に関する問題の原因を推察し、適切なアドバイスができる
全体：マイナー学修で得た知識を活用し、心理職として他領域からアプローチしている支援者との円滑な連携を図ることができる／心理分野で培った知識を用いた心理検査やケアだけでなく、被支援者それぞれの環境や特性に合わせたより現実的な支援を考え、並行して提案することができる

2023年度第1学期「分野横断リフレクション」セルフカリキュラムマップ

在籍番号：■■■■
所属学部：工学部
学　　年：3年
氏　　名：■■■■

1年生

マイナーに関する科目名
「教養教育としての教育学入門」
キーワード　：②教育
学修成果　：世界各国の教育・現在の日本の教育問題
学修成果の根拠：各国の教育をふまえて、今後の日本の教育の在り方を提案したレポートを作成した

マイナーに関する科目名
「新潟大学サマー・プログラム Collaborative Online Overseas Learning (NUSP-COOL)」
キーワード　：③国際
学修成果　：異文化理解・外国における情報技術の側面・SDGsとのつながり
学修成果の根拠：SDGsの達成につながる情報技術についてのプレゼンテーションや海外の大学生とのグループワーク

マイナーに関する科目名
「国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップA」
キーワード　：③国際
学修成果　：異文化理解・英語が母国語ではない大学生とのグループワーク・プレゼンテーション
学修成果の根拠：お互いの文化を組み合わせて新たなアイデアを海外の大学生と考え、プレゼンテーションを行った

マイナーに関する科目名
「ジェンダー論」
キーワード　：④社会
学修成果　：ジェンダーに対する興味・関心・社会におけるジェンダー
学修成果の根拠：ジェンダーに関するニュースについて考えたり、公人のジェンダー発言についてディスカッションしたり、ディスカッションを通して学んだことをレポートにまとめたりした

マイナーに関する科目名
「国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションB」
キーワード　：③国際
学修成果　：日系企業の海外進出・異文化理解
学修成果の根拠：海外の大学生とグループワークを行い、日系企業が海外進出をする時にふまえなければならない文化について議論し、プレゼンテーションを行った

2年生

マイナーに関する科目名
「経営学入門」
キーワード　：①起業・経営
学修成果　：経営体制・資源・ビジネスモデル・経営計画
学修成果の根拠：経営体制の違いを述べたレポートの作成や、決算書や経営計画から読み取れることについてのレポートを作成した

マイナーに関する科目名
「ビジネスベンチャリング入門」
キーワード　：①起業・経営
学修成果　：ビジネスモデル
学修成果の根拠：起業の経験談を聴き、起業までの流れについてを知ることができた。

マイナーに関する科目名
「教育・学校心理学B」
キーワード　：②教育
学修成果　：教育面においての子どもへの接し方
学修成果の根拠：実際の教育の場面において、どのような接し方が適しているのかテスト形式で学んだ

メジャーに関する科目名
「創造プロジェクト基礎」
「創造プロジェクトⅠ」
学修成果　：データサイエンス
学修成果の根拠：データサイエンスの大まかな流れ、データ分析を行うツールを使って実際にデータを分析した

メジャーに関する科目名
「プログラミング基礎Ⅰ・Ⅱ」
「データ工学」「機械学習」
学修成果　：プログラミング
学修成果の根拠：Pythonでプログラムを記述できるようになり、データサイエンスの大まかな流れを学び、実際にデータを扱った分析をおこなった

3年生

2学期履修中

マイナーに関する科目名
「NPO論」
キーワード　：①起業・経営

マイナーに関する科目名
「国際技術協力」
キーワード　：③国際

マイナーに関する科目名
「医療ボランティア論」
キーワード　：④社会

4年生

メジャープログラム名称：知能情報システムプログラム

（1）どのような課題・テーマで学修・研究に取り組んできたか
ソフトウェアに関する知識や技術を学び、実際に手を動かして実験を行ったり、電気回路や信号処理など、電気や電波の分野も学ぶことで、ソフトウェアを動かすのに必要なハードウェアの知識や技術を身につけてきた。さらに、技術面だけでなく、どのようにICT術が活用されているのか、どのような場面で活用されているのかなど、技術の活用事例についても学んできた。

（2）卒業論文へのマイナーの影響（対象者のみ）

マイナー名称：ICTを活用した開発途上国の教育システム

ねらいと概要：日本の外にも目を向けたときに、私は、日本では考えられないことが世界では当たり前となっている現状に違和感を覚えた。特に、開発途上国などの貧しい国で、平等に教育を受けられていない現状に衝撃を受けた。世界中の子どもたちが、教育を受けられるようにし、誰もが安心安全に生きられる世界にしたいと考えている。
具体的には、教育面において、教員不足や通学困難という現状でも子どもが教育を受けられるようなICTを活用したシステムを開発し、起業してビジネスを展開したいと考えている。起業が、女性などの社会的弱者が働きやすい環境を、彼女らに提供することにつながると考えるからである。
これらを実現するために、メジャーを通して、ICTの活用方法や活用場面を学んだり、開発に必要な専門的な知識や技術を身につけたりする。さらに、マイナーを通して、開発途上国の課題や教育事情、教育の重要性を学ぶ。なぜなら、教育の現状や課題を把握しておかなければ、課題解決のアプローチを考えることができないからである。また、起業や経営についての知識を学んだり、起業の経験談を聞いたりしたい。起業に関する知識を学ぶだけでなく、経験談についても知っておくことで、具体的なイメージをしやすくなると考えるからである。
メジャーでは、課題を解決するためのシステムを開発できるような知識やスキルを身につけ、マイナーでは、メジャーで身に着けた知識やスキルを活用するために、教育分野や国際関係の知識を学ぶこと、起業や経営の知識を身につけることをねらいとする。

（1）マイナー学修のキーワード
①起業・経営　②教育　③国際　④社会

（2）マイナーの到達目標
①－1起業や経営に必要な知識、ロードマップを説明することができる
①－2アントレプレナーシップを身につける
②－1世界各国（先進国・開発途上国）の教育について知識を深め、教育の現状・重要性を説明できる
③－1世界各国（主に開発途上国）の現状や課題を説明できる
③－2日本語以外でのグループワークに積極的に参加し、異文化理解を深める
③－3英語で積極的にコミュニケーションを取ることができる
④－1ジェンダーに焦点を当てた社会的弱者の労働環境を説明できる

（3）メジャーとマイナーかけあわせの到達目標
1．ICT技術が教育場面や開発途上国でどのように活用されているのかという現状を説明できる
2．起業の準備（アプリの開発・市場調査など）を進め、ビジネスプラン・モデルを立てる

正課外活動

「ビジネスコンテスト」
学修成果　：課題解決力・プレゼンテーション力
学修成果の根拠：日常生活において、どのような課題があり、それを解決するにはどのような手段を使えばいいのかを考え、プレゼンをおこなった

「起業サロンへの参加」
学修成果　：発展途上国での起業のビジネスモデル・その他重要な要素
学修成果の根拠：発展途上国（フィリピン）で実際に起業した人のお話を聞いた

「プログラミングスクールでのアルバイト」
学修成果　：コミュニケーション力・子どもへの接し方・現在の教育事情
学修成果の根拠：アルバイト前より子どもに合った態度で接することができるようになった

01 新潟大学の教育 The Niigata University Education
総合大学だから実現できる メジャー・マイナー制による学び

学位プログラムとメジャー

全学の理念「自律と創生」に基づいた 特色ある学位プログラムと多彩なメジャー

新潟大学に入学すると、自分の夢を実現するために、所属する学部が開設している学位プログラムのもとで学ぶことになります。学位プログラムを大きく分けると「**到達目標達成型プログラム**」と、「**到達目標創生型プログラム**」Check point 01 があり、合わせて30を超えるプログラムを提供しています。各学位プログラムで学ぶ専門分野をメジャーといい、いずれのプログラムでもメジャーを中核として教養を含めた体系的なカリキュラムを編成しています。それにより、社会の諸問題に対して的確に対応でき、課題解決のために広範に活躍できる人材を育成しています。

Check Point 01

到達目標 達成型プログラム

■人文学部 ■工学部
■教育学部 ■農学部
■法学部 ■医学部医学科
■経済科学部 ■医学部保健学科
■理学部 ■歯学部

到達目標達成型プログラムとは？
どのような資質・能力を身につけるかが学位プログラムごとに明確に定められており、その達成を目指すプログラムのことです。



社会と繋がり、フィールドで学べる 地域リーダープログラムで学ぶ

経済科学部 木村 泰朗さん
（秋田県立大館鳳鳴高等学校出身）

社会課題や地域課題に対するアプローチとして社会教育に注目している私は、現在その研究が盛んなシドニー工科大学に留学しています。社会教育は日本ではまだ馴染みが薄く、ここで学んだことを日本で応用したいと考えています。当プログラムは2020年に新設された、大学の外、社会との関わりが強いプログラムです。私自身がそうであったように、外部との関わりの中で、自分の興味に気付くことができる点が魅力だと思います。



多くの専門分野を横断的に学べる 数学プログラムで学ぶ

理学部 土室 琴音さん
（秋田県立秋田南高等学校出身）

「数学」と一言で言っても、実は多くの専門分野に分かれています。当プログラムには各分野ごとに専門の先生がいるため、私たち学生は自分が興味のある分野を1つに絞らずに学ぶことができます。また、一般企業へのインターンシップにも積極的で、私も夏休みにデータ分析の業務に就きました。授業で習ったプログラミングを使用したのですが、「こんな風に活用できるんだ！」と驚き、データ活用・実用への興味が湧きました。

到達目標 創生型プログラム

■創生学部

到達目標創生型プログラムとは？
どのような資質・能力を身につけるかを学生自身が教員とともに選び、作り上げていくプログラムのことです。



専門領域を自ら選び学んでいく 到達目標創生型プログラムで学ぶ

創生学部 菅野 由空さん
（福島県立橋高等学校出身）

当プログラムの特徴は「自由であること」と、「自由であるがゆえの厳しさ」だと思います。専攻の途中変更や文転・理転もできますが、自分で課題を見つけて、問題意識を持って取り組まなければ何も始まりません。学問分野に縛られない、複合的なアプローチを学びたい人にピッタリです。私は「組織」について研究する一方、オーケストラ部の部長として組織運営を実践する、知識と実践がつながる充実した日々を送っています。



広い視野で看護を捉え、探究する 看護学プログラムで学ぶ

医学部保健学科 森田 結衣さん
（新潟県立新潟南高等学校出身）

当プログラムは、新大病院という大規模総合病院で学べることが1番の魅力だと思います。実習先は新大病院であることが多いですが、総合病院なので新生児から高齢者まで幅広い年代の患者を対象とし、急性期から慢性期、終末期まで様々な病期の勉強ができます。領域ごとに学びを積み重ねていくなかで、私は広い視野で看護を捉えられるようになりました。将来は看護師に限らず、「看護職者」として社会に貢献できる場を探したいと思っています。

マイナー

メジャー以外の分野を体系的に学ぶ

新潟大学では、「メジャー・マイナー制」を導入しています。「メジャー・マイナー制」とは、メジャー以外の分野をマイナーとして、体系的に学修するしくみです。この制度は**全学分野横断創生プログラム（通称：NICEプログラム）** Check point 02 として整備されています。
NICEプログラムには、2種類のマイナーがあります。学生のみなさんが自分の興味・関心や問題意識に沿って学修を進められるよう、マイナー支援科目の開講やアカデミック・アドバイザーによる相談などのサポート体制が整えられています。

Check Point 02

全学分野横断創生プログラム（NICEプログラム※）

※Niigata University Interdisciplinary Creative Education Program

NICEプログラムは、所属学部での専門分野（メジャー）と、多様な学問領域を基盤としたマイナー・プログラムとの学びの掛け合わせを実現させるための新潟大学独自の教育のしくみです。複雑化する社会課題に対して複眼的視野でアプローチできる人材の育成を目指しています。
マイナー・プログラムの修了者には、修了証が授与されます。

メジャー × マイナー

マイナーのタイプは2つ

学修創生型マイナー	自分の興味・関心や問題意識に合わせて、学びのテーマから科目選びまで体系的にデザインできる！
パッケージ型マイナー	各学問分野の基礎／発展、特定のテーマについての分野横断的プログラムなど、40以上の多様なマイナー・プログラムから選べる！

実例1



工学部　社会基盤工学プログラム
福岡 凌さん

自然のメカニズムのわかる
土木技術者として、
防災やまちづくりに携わりたい！

→ 社会基盤工学 × 学修創生型（自然のメカニズム×防災×まちづくり）

実例2



法学部　法学プログラム
竹田 琳香さん

利害の調整を目指す
法的思考を活用して、
環境問題について考えたい！

→ 法学 × 学修創生型（植物生態学×気象学）

実例3



理学部　自然環境科学プログラム
福原 さくらさん

気候変動によって
災害が増えるのは確実。
防災や災害対応など、
人のできる行動を考えたい！

→ 自然環境科学 × パッケージ型（地域災害 環境システム）

NICEプログラムは、視野を広げたい人、何をやりたいか迷っている人、とにかく何かに挑戦したい人、なんとなく自信が持てない人など、すべての学生に開かれたプログラムです。少しでもマイナーに興味のある人は、お気軽にお問い合わせ・ご相談ください！

詳しくはこちら
新潟大学 NICE

【資料6-②】

2024年度　新潟大学出前講義一覧

学部名	No.	対象学年	分　野	テーマ（タイトル） 講　義　概　要	職名	教員氏名	対応可能時期	対面	オンライン（Zoom）
教育基盤機構	1	全学年	分野横断的な課題の探究	探究的な学び、分野横断的学習、高大接続 ◆「総合的な探究の時間」等を対象として、大学入学前から文系・理系を横断する分野横断的な学びの視点を獲得する授業である。本年度はSDGs（持続可能な開発目標：17の目標、169のターゲット）を題材として取り上げる。	特任准教授	柿原豪 （他：教育基盤機構担当教員）	応相談	○	○
	2	教員	分野横断的・教科横断的な授業の設計	分野横断的学習、教科横断的教育プログラム、高大接続 ◆分野横断的な学習および教科横断的な教育プログラムの設計についての視点を養う、学校教員を対象とした講義・ワークショップである。 本年度は「平和教育」を事例として取り上げ、それが教育課程においてどのように位置づけられるかを敷衍する。その上で参加者によるワークショップを通じて体系的かつ分野横断的・教科横断的な教育プログラムの設計について議論する。	特任准教授	柿原豪 （他：教育基盤機構担当教員）	応相談	○	○

【資料6-③】

新潟大学
オープンキャンパス 2024

教育基盤機構 未来教育開発部門



NICEプログラム
メジャー・マイナーの学びで
広がるあなたの可能性



ダブルホーム
地域と共に創る
「新たなふるさと」

学部を越えた みらい教育

－ 社会とつながる、分野をつなげる －

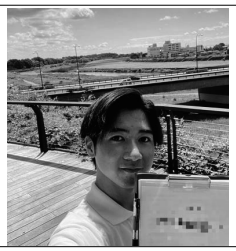
学部に関係なく参加できる、新潟大学の魅力的な教育プログラムです。



長期学外学修
キャンパスを飛び越えた
学び、経験

■説明会：
時間①：10:40～11:10
時間②：14:10～14:30
場所：総合教育研究棟　B255
※ 8/8(木)･8/9(金) 両日開催
ただし、時間②は8/8（木）のみ開催し、「NICEプログラム」のみの説明となります。
※ 当日参加可能

■ポスターセッション
& 在学生との交流：
時間：10:00～15:00
場所：中央図書館１・２F ラウンジ
※ 8/8(木)･8/9(金) 両日ともご自由にご覧ください
※ 学生の在席時間はプログラムによって異なります



～私の学修デザイン～

［政策実施で地域課題を解決するために］

（学修創生型マイナー）

■■　■■
法学部・法学科・法学プログラム

マイナーを始めたきっかけ

高校時代、法学部に進学して将来はまちづくりに関わりたいなと思っていました。

新潟大学は法学部があり、NICEプログラムで他学部の勉強も積極的に行えることを知り、経済や教育など、まちづくりに必要な他分野も学びたいと考えていたため、NICEプログラム（マイナー）を始めました。

おすすめの科目

【選挙学】

日本の選挙制度や、有権者が選挙で投票する心理などを学ぶことができます。また、**選挙の種類や登場人物（政治家や政党、有権者など）に合わせた選挙戦略**などを紹介してくださるので、興味深かったです。

【心と社会】

心理学の授業です。相手が自分に魅力を感じてもらうためにはどのような手法が学術的に効果的か等、**日常生活で人と接する際に役に立つ**心理学を学ぶことができました。

【大学生活戦略論】

現在社会で活躍する社会人の方々が、大学時代にどのようなことをされていたのか学びます。社会で活躍する人が大学時代何を考えてどのような行動をしたのかを聞き、**自分が残りの大学生活で何をしたらよいのか**、考える良い機会となりました。

高校生・受験生へのメッセージ

NICEプログラムでは、自分が興味関心を持てる学びの分野を発見して深めることができます。

まだ学部や大学選びに迷っている人もいるかと思いますが、NICEプログラムなら入学後に、**自分の学びたい他学部の科目を履修することができる**、ということを知ってもらえたら嬉しいです！

マイナーを活かした課外活動

【新潟県　加茂市役所　政策推進課】

実際の政策立案に関わらせていただきました。大学の授業では客観的にしか見ることのできない政策過程の一部分を、主観的に経験することができただけでなく、マイナーで学んだ地域に根付く課題の解決や、人とのコミュニケーションを役立てることができました。

【ボランティア団体の設立・運営】

地元の栃木県小山市でボランティア団体を設立し仲間と共に活動をしています。ボランティアは地域課題と直結することができるため、マイナーで学ぶ地域課題が、実際に地元ではどのように表れているのかを学ぶことができました。





将来を見据えて

私は将来、地元である栃木県小山市の市長になり、**まちづくりなどの政策実施を通して地域課題の解決に携わりたい**という夢があります。そのため、大学では何を学ぶと良いのかを逆算して考えています。

NICEプログラムでは、自分の大学での学びを計画することを通して、**自分の夢を叶えるまでのプロセスを深く考える**ことができました。

今、私はNICEプログラムで考えたプロセスを実行するため、大学院への進学を目指して勉強をしています。周りの友人のほとんどが就職活動をしている中で、違う道を歩むことは非常に不安で怖さもありますが、マイナーでの学修から、世間には様々な進路選択があることを知り、自分の不安解消にも繋がっています。

【資料6-④】



写真上：合同説明会
写真右：AAとの相談会
写真下：SAによるポスター展示と
来場者交流







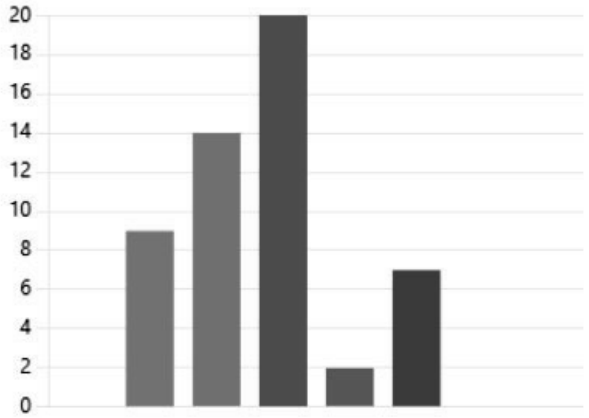
【資料6−⑤】

新潟大学オープンキャンパス2024「学部を越えたみらい教育」NICEプログラムアンケート

1. ご自身の立場に当てはまるものを1つ選択してください。

詳細

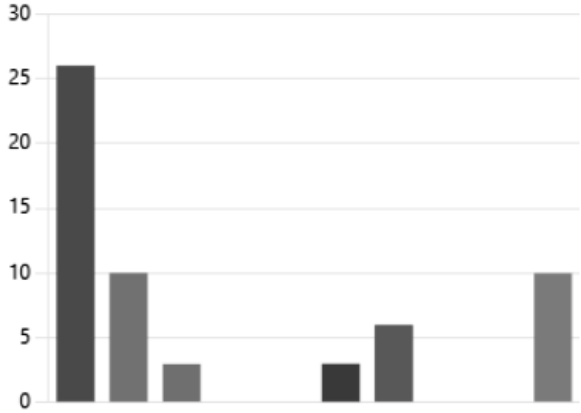
中学生	0
高校1年生	9
高校2年生	14
高校3年生	20
高卒生	2
保護者	7
高校教職員	0
その他	0



2. NICEプログラムについて、何で知りましたか。

詳細

新潟大学パンフレット	26
新潟大学WEBサイト	10
入試情報サイト	3
SNS（X, Instagram等）	0
友人	0
先輩	3
高校の先生	6
塾の先生	0
保護者	0
その他	10



3. NICEプログラムのイベントに対する感想をお聞かせください

詳細

とても興味をもった	39
少し興味をもった	13
どちらともいえない	0
あまり興味をもてなかった	0
まったく興味をもてなかった	0



4. 質問や感想、ご意見等を聞かせください。

20 応答

ID ↑	名前	回答
1	anonymous	丁寧に教えてくださって、新潟大学に興味を持ちました。
2	anonymous	メジャーな学部以外で選択ができるのは良いと思います。
3	anonymous	まだやりたいことがあまり決まっていませんがとても興味深いプログラムだと思いました。
4	anonymous	アドバイザーの先生方が懇切丁寧に相談に乗ってくださり、プログラムにとても興味関心をもてました。ありがとうございました。
5	anonymous	分かりやすいご説明、ありがとうございました。
6	anonymous	自分でやりたいことを選んべるのがいいなと思いました。とても楽しかったです！
7	anonymous	とてもおもしろかったです！これから参考にしたいと思います。
8	anonymous	自分の専攻以外も文系理系関係なく学べるのはいい仕組みだと思った。
9	anonymous	今の自分に合っていると思いました
10	anonymous	相談する場所が学校に入ってからあるというのがすごくいいなと思いました。
11	anonymous	NICEプログラムは大学WEBサイトで知りましたが、今回はより詳しいお話が聞きたいと思い、参加させていただきました。私は歯学部を志望しています。医・歯学部の方のNICEプログラムに関する感想などが見当たらず、本当に「全学部」がNICEプログラムを受けられるのか、という所がずっと気になっていたのですが、今回の説明会やその後の質問で現実的なお話をしていただけて、解像度がぐっと上がったように感じました。貴重なお話を本当にありがとうございました。今度は学生としてお会いできるように、一層努力しようと思います。
12	anonymous	色々学びたい思いが強いのですごく良い制度だと思います。
13	anonymous	疑問に思っていたことが知れて良かったです。
14	anonymous	他分野についても学べるから、たくさん知識がつけれそうだなと思った。
15	anonymous	このことを知ってさらに新潟大学の魅力を知れたのでよかったです。
16	anonymous	複数の科目や気になっていることが１つじゃ無い時に良い選択肢だと感じた
17	anonymous	学びの方法がいろいろ選べるのが分かって参考になった
18	anonymous	自分が選んだ科目以外にも選んで他の科目を勉強できることに興味を持ちました。
19	anonymous	具体的なことがたくさん知れてとても良かったです。
20	anonymous	新潟大学の独自のプログラムで,選択肢が増える自由度に魅力を感じた。

新潟大学WeeK2023　企画案

No.	①部局名	②企画名	③開催日時 五十嵐地区は10/15と10/16の対面企画不可	④開催方法	【オンラインの場合】 開催形式	【対面の場合】 開催場所	【対面の場合】 感染症対策の内容	⑤特記事項	⑥企画内容	⑦企画担当者 （教員名等）	⑧75周年事業として実施の有無 ※75周年事業として実施頂ける場合、企画名の頭に冠として、「新潟大学創立75周年事業」と付記頂くこと及び75周年記念ロゴ等の表記をお願いします。
例	○○学部	○○○	10月16日（土）・17日（日） 14:00〜16:00	オンライン＋対面型	Zoomで開催			事前申込制	〜〜〜の講演会をライブ配信します。	○○　○○	実施する
1	教育基盤機構 NICEプログラム	NICEプログラム オフィス・ツアー	10月27日（金） 16:30〜18:00 10月28日（土） 9:00〜11:00	対面型		NICEプログラム スタッフオフィス （総合教育研究棟A棟2階 A211、D棟2階 D205）	一度に受け付ける人数を5人までに制限。	事前申込制	新潟大学では、メジャー・マイナー制を導入しています。「メジャー・マイナー制」とは、学部での専門の学び（メジャー／主専攻）と異なる領域を、マイナー（副専攻）として体系的に学ぶしくみです。みなさんのマイナーでの十人十色の学びをサポートしているのがNICEプログラムです。NICEプログラムでは、マイナーとして学べる学修パッケージや、アカデミック・アドバイザーによる学修相談など、多様な学びを応援するためのサポートを提供しています。 オフィス・ツアーでは、学修相談室をはじめ、NICEライブラリーやミーティング・スペースを案内します（所要時間10分）。	神田 麻衣子 柿原 豪	実施する
2	教育基盤機構 NICEプログラム	マイナー（副専攻）履修相談会	10月27日（金） 16:30〜18:00 10月28日（土） 9:00〜11:00	対面型		NICEプログラム スタッフオフィス （総合教育研究棟A棟2階 A211、D棟2階	1人15分。ミーティング・スペースの収容人数を5名程度に制限。	事前申込制	アカデミック・アドバイザー（AA）が、マイナー（副専攻）の履修を希望する高校生・受験生、マイナー履修に関心のある保護者、高校教職員からの相談に応じます（1人15分）。	神田 麻衣子 柿原 豪	実施する



全学分野横断創生プログラム
（NICEプログラム）入学前説明会

新潟大学では、「メジャー・マイナー制」を導入しています。「メジャー・マイナー制」とは、所属学部での専門分野（メジャー）以外の分野をマイナーとして体系的に学修するしくみです。この制度は全学分野横断創生プログラム（通称：NICEプログラム）として整備されています。

ついては、下記のとおり、一般選抜、帰国生徒特別選抜及び私費外国人留学生特別選抜の合格者を対象として、説明会を開催しますので、ぜひ参加してください。

日　時

人文学部、教育学部、法学部、経済科学部、理学部の合格者対象	令和6年3月28日(木) 18時～19時
医学部、歯学部、工学部、農学部、創生学部の合格者対象	令和6年3月29日(金) 18時～19時

※指定された日時の説明会に参加できない場合は、動画を視聴してください。

開催方法　Zoomによるオンライン開催　**ID 744 897 1683**

オンライン会議ツール【Zoom】（ズーム）について

説明会参加中に音声通話やチャットメッセージによる質問ができます。

※音声通話の場合は、マイク等を備えた機器が必要です。

※Zoomのインストールや操作方法について、本学では案内しておりません。詳細は、Zoomサポート（https://support.zoom.com/hc/ja）等で確認してください。

説明会に関する問合せ先

新潟大学学務部教務課連携教育支援事務室
電話／025-262-6309
E-mail／renkeikyoiku@adm.niigata-u.ac.jp

説明会に当日参加できない方には4月1日(月)以降に以下のURLに当日資料と説明会動画をアップしますので、次の手順に従って視聴ください。

なお、説明会への参加、当日資料・説明会動画を視聴する場合、通信量がかかりますので、自宅等のWi-Fiに接続することを推奨します。

（1）次のURLにアクセスしてください。
https://x.gd/NICE2024
スマートフォンから二次元バーコードでアクセスも可能です。

（2）パスワード「minor2024」を入力してください。
（上記URLやパスワードはSNS等に投稿・拡散しないでください。）

（3）当日資料と動画を御覧ください。

NICE

新潟大学NICEプログラムの最新情報は、当プログラムのホームページから確認できますので、ぜひアクセスしてください。

【資料6-⑧】







写真上：入学式の様子
写真中、下：NICEプログラム
履修ガイダンス会場の様子

NICEプログラム履修ガイダンスは、両日ともに大教室の定員を超えたため、別教室も使用して行いました。

科目リスト

学修創生型

プログラム名称	学修創生
概要	今日の社会課題は複雑化・多様化しており、単一の専門分野の知見だけでは解決することが難しくなってきている。そこで「学修創生」では、自己の興味関心と社会課題をベースとして、学生自らが既存の学問分野の枠組みにとらわれず、本学の多様な学問分野の科目から、一人一人の関心に適合する魅力的なオリジナル学修パッケージを創生する。また分野横断的な学修および履修計画を支援する授業科目群を通じて、メジャー・マイナーの掛け合わせが自分のキャリアにどのように役立つかを意識化・言語化できるようにする。以上を通じて、自己の目標をベースとしたオーダーメイド型の学修を進め、 分野横断的な視点から社会課題にアプローチできる人材の育成を目指す。
履修資格	
修了要件	必修科目「分野横断デザイン」「分野横断リフレクション」2単位を含む14単位以上を修得していること。
その他特記事項	必修科目以外の授業科目については、「分野横断デザイン」の履修およびアカデミック・アドバイザーの指導を通じて、学生自身が科目リストを作成する。 「分野横断デザイン」「分野横断リフレクション」各授業科目の重複履修は認めない。

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
	241G3220	分野横断デザイン	1	第1ターム	月4	講義・演習	1,2	75	01	20		
	241G3221	分野横断デザイン	1	第1ターム	月5	講義・演習	1,2	75	01	20		
	241G3222	分野横断デザイン	1	第1ターム	火5	講義・演習	1,2	75	01	20		
	241G3223	分野横断デザイン	1	第1ターム	水4	講義・演習	1,2	75	01	20		
	241G3224	分野横断デザイン	1	第1ターム	水5	講義・演習	1,2	75	01	20		1
	241G3225	分野横断デザイン	1	第1ターム	木3	講義・演習	1,2	75	01	20		
	242G3245	分野横断デザイン	1	第2ターム	月4	講義・演習	1,2	75	01	20		1
	242G3246	分野横断デザイン	1	第2ターム	月5	講義・演習	1,2	75	01	20		
	242G3247	分野横断デザイン	1	第2ターム	火5	講義・演習	1,2	75	01	20		
	242G3248	分野横断デザイン	1	第2ターム	水5	講義・演習	1,2	75	01	20		
	242G3249	分野横断デザイン	1	第2ターム	木3	講義・演習	1,2	75	01	20		
	242G3250	分野横断デザイン	1	第2ターム	木4	講義・演習	1,2	75	01	20		
	243G3728	分野横断デザイン	1	第3ターム	月4	講義・演習	1,2	75	01	20		
	243G3729	分野横断デザイン	1	第3ターム	火4	講義・演習	1,2	75	01	20		
	244G3746	分野横断デザイン	1	第4ターム	月4	講義・演習	1,2	75	01	20		
	244G3745	分野横断デザイン	1	第4ターム	火4	講義・演習	1,2	75	01	20		
	240G3969	分野横断リフレクション	1	集中	他	講義・演習	3,4	75	01	10		
	240G3939	分野横断リフレクション	1	集中	他	講義・演習	3,4	75	01	10		
	241G3226	分野横断リフレクション	1	第1ターム	水6	講義・演習	3,4	75	01	10		
	241G3227	分野横断リフレクション	1	第1ターム	木5	講義・演習	3,4	75	01	10		
	242G3252	分野横断リフレクション	1	第2ターム	月3	講義・演習	3,4	75	01	10		
	242G3251	分野横断リフレクション	1	第2ターム	水4	講義・演習	3,4	75	01	10		
	243G3732	分野横断リフレクション	1	第3ターム	月5	講義・演習	3,4	75	01	10		
	243G3733	分野横断リフレクション	1	第3ターム	水3	講義・演習	3,4	75	01	10		
	243G3730	分野横断リフレクション	1	第3ターム	木3	講義・演習	3,4	75	01	10		
	243G3731	分野横断リフレクション	1	第3ターム	木4	講義・演習	3,4	75	01	10		
	244G3750	分野横断リフレクション	1	第4ターム	月5	講義・演習	3,4	75	01	10		
	244G3747	分野横断リフレクション	1	第4ターム	水4	講義・演習	3,4	75	01	10		
	244G3748	分野横断リフレクション	1	第4ターム	水5	講義・演習	3,4	75	01	10		
	244G3749	分野横断リフレクション	1	第4ターム	木2	講義・演習	3,4	75	01	10		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。
1　備考欄に1と記載ある科目は遠隔授業「同時双方向型遠隔授業」形式で開講します。

科目リスト

パッケージ型マイナー

プログラム名称	心理・人間学
概　要	心理学では、人間の行動やその心の働きの問題に、実験や調査などの実証的方法によってアプローチする。一連の講義においては、幅広い領域にわたる心理学の基礎知識を習得することを目指す。 人間学（哲学・西洋哲学史、倫理学、宗教思想史、芸術学）では、原典文献を読み解くことをつうじて、思想、哲学、倫理、宗教、芸術などに現れる人間性について理解を深める。
履修資格	
修了要件	次の条件をすべて満たしていること。 ・所定の授業科目について12単位以上を修得していること。 ・学位プログラムが決定していること。 ・学位プログラムが心理・人間学プログラムではないこと。
その他特記事項	経済科学部生で学際日本学プログラムまたは地域リーダープログラムを専攻しようとするもの、及び専攻するものは教育基盤機構アカデミック・アドバイザー等に相談をすること。 創生学部生で「心理・人間・メディア表現文化学領域学修科目パッケージ」を選択しようとするもの、及び選択したものは、教育基盤機構アカデミック・アドバイザー等に相談をすること。

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
	240H1002	心理・人間学入門	2	第3,4ターム	月5	講義	1,2,3,4	39,28	03	80		
	240H2007	哲学概説	2	第1,2ターム	水3	講義	2,3,4	28	03	50		
	240H2009	西洋哲学史概説	2	第3,4ターム	金2	講義	2,3,4	28	03	50		
	242H2010	宗教学概説	2	第2ターム	火3,火4	講義	2,3,4	28,31	03	50		
	241H2001	心理学概論Ａ	2	第1ターム	月2,木2	講義・実習	2,3,4	39	03	70		
	242H2002	心理学概論Ｂ	2	第2ターム	月2,木2	講義・実習	2,3,4	39	03	70		
	240H2003	知覚・認知心理学A	2	第3,4ターム	火2		2,3,4	39	03	70	○	
	休講	学習・言語心理学									○	
	244H2004	社会・集団・家族心理学	2	第4ターム	金3,金4	講義・実習	2,3,4	39	03	70		
	240H2008	倫理学概説	2	集中	他	講義	2,3,4	28	03	50		
	240H2005	産業・組織心理学	2	第1,2ターム	火2		2,3,4	39	03	70	○	
	休講	人間学概説										
	240H2011	芸術学概説Ａ	2	第1,2ターム	火2	講義	2,3,4	28	03	50		
	243H2012	芸術学概説Ｂ	2	第3ターム	月1,月2	講義	2,3,4	28	03	50		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

プログラム名称	社会文化学
概要	本プログラムは、社会学、文化人類学、民俗学、考古学、人文地理学、芸能論、歴史学（日本史・アジア史・西洋史）、メディア論の領域の教育プログラムである。 いずれの領域も、文字資料のみならず、非文字資料から人々の営みを考え、様々な地域において形成された社会と文化の多様なあり方について多角的に学ぶ。また、それぞれの地域の文化的特性を歴史的に学ぶこともできる。さらに、今日のメディアの多様な面について理論と実践の両面から幅広く学ぶことができる。
履修資格	
修了要件	次の条件をすべて満たしていること。 ・所定の授業科目について12単位以上を修得していること。 ・学位プログラムが決定していること。 ・学位プログラムが社会文化学プログラムではないこと。 ・創生学部生で「社会文化学領域学修科目パッケージ」を選択していないこと。
その他特記事項	経済科学部生で学際日本学プログラムまたは地域リーダープログラムを専攻しようとするもの、及び専攻するものは教育基盤機構アカデミック・アドバイザー等に相談をすること。

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
	240H1003	社会文化学入門A	2	第3,4ターム	木5		1,2,3,4	31	03	100		
	242H2032	芸能論概説	2	第2ターム	月3,月4	講義	2,3,4	31	03	50		
	240H2031	民俗学概説	2	第1,2ターム	木3	講義	2,3,4	33	03	80		
	242H2027	文化人類学概説	2	第2ターム	火2,金2	講義	2,3,4	33	03	50		
	241H2028	考古学概説	2	第1ターム	月4,木4	講義	2,3,4	31	03	70		
	241H2022	社会学概説	2	第1ターム	木3,木4	講義	2,3,4	38	03	50		
	243G7509	文化人類学の方法―他者へのまなざし	2	第3ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4,5,6	33	03	100		
	240G7510	アクターネットワークの社会学	2	第3,4ターム	火5	講義	1,2,3,4,5,6	38	03	150		
	244G7516	つながりと絆の社会学	2	第4ターム	月3,木3	講義	1,2,3,4,5,6	38	03	150		
	243G7506	現代社会論	2	第3ターム	水1,水2	講義	1,2,3,4,5,6	38	03	150		
	休講	社会解析論									○	
	241H2029	地理学概説	2	第1ターム	金3,金4	講義	2,3,4	32	03	70		
	243H2030	地誌学概説	2	第3ターム	金3,金4	講義	2,3,4	33	03	70		
	240H1004	社会文化学入門B	2	第3,4ターム	火5		1,2,3,4	31	03	100		
	240G7521	人文系展開科目D	2	第3,4ターム	水3	講義	1,2,3,4,5,6	31,32,33	03	150	○	
	休講	人文系展開科目G									○	
	240H2036	史学概説	2	第1,2ターム	水2	講義	2,3,4	31	03	50		
	241H2037	日本史概説	2	第1ターム	火2,金2	講義	2,3,4	31	03	70		
	243H2040	アジア史概説	2	第3ターム	月3,木3	講義	2,3,4	31	03	50		
	241H2041	西洋史概説	2	第1ターム	火2,火3	講義	2,3,4	31	03	50		
	240H2038	古文書学概説A	2	第1,2ターム	火5	講義	2,3,4	31	03	40		
	240H2039	古文書学概説B	2	第3,4ターム	火5	講義	2,3,4	31	03	40		
	休講	美術史概説A									○	
	休講	美術史概説B									○	
	休講	歴史学A										
	休講	歴史学E										
	休講	歴史学G										
	243G7502	歴史学H	2	第3ターム	月2,木2	講義	1,2,3,4,5,6	31	03	150		
	241G7001	歴史学Ⅰ	2	第1ターム	火3,火4	講義	1,2,3,4,5,6	31	03	80		
	休講	歴史学K										
	243G7511	歴史学O	2	第3ターム	火1,火2	講義	1,2,3,4,5,6	31	03	100		
	休講	歴史学P										
	242G7020	歴史学Q	2	第2ターム	月1,月2	講義	1,2,3,4,5,6	31	03	150		
	休講	歴史学V										
	休講	情報メディア論概説A									○	
	240H2025	情報メディア論概説B	2	第1,2ターム	金3	講義	2,3,4	10	03	50	○	
	240H2026	メディア社会文化論概説A	2	第3,4ターム	木4	講義	2,3,4	10	03	400	○	
	休講	メディア社会文化論概説B									○	

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

プログラム名称	言語文化学
概要	アジアという地域のなかで相互に影響を与えながら、それぞれ独自の文化を形成した日本・中国・朝鮮の、特に言語文化を学ぶ。または、ヨーロッパおよびアメリカの共通の歴史的・文化的な核を共有しながら、同時にイギリス、アメリカ、ドイツ、フランス、ロシアそれぞれの言語文化の特徴を個別的に学ぶ。
履修資格	
修了要件	次の条件をすべて満たしていること。 ・所定の授業科目について12単位以上を修得していること。 ・学位プログラムが決定していること。 ・学位プログラムが言語文化学プログラムではないこと。 ・創生学部生で「言語文化学領域学修科目パッケージ」を選択していないこと。
その他特記事項	経済科学部生で学際日本学プログラムまたは地域リーダープログラムを専攻しようとするもの、及び専攻するものは教育基盤機構アカデミック・アドバイザー等に相談をすること。

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
	243H9103	日本･アジア言語文化入門	2	第3ターム	月4,木4	講義	4	29,30	03	5		1
	休講	地域文化論										
	244H9104	西洋言語文化入門	2	第4ターム	月4,木4	講義	4	29,30	03	5		1
	243H1005	言語文化学入門A	2	第3ターム	月4,木4		1,2,3,4	29	03	80		2
	244H1006	言語文化学入門B	2	第4ターム	月4,木4		1,2,3,4	29	03	90		2
	240H2071	日本・アジア言語文化概説	2	第1,2ターム	月5		2,3,4			50		
	休講	日本文学概説A										
	240H2075	日本文学概説B	2	第1,2ターム	木2		2,3,4			50		
	240H2076	日本文学概説C	2	第1,2ターム	木1		2,3,4	29	03	50		
	240H2073	日本語学概説A	2	第1,2ターム	火2	講義	2,3,4	30	03	50		
	240H2074	日本語学概説B	2	第3,4ターム	火2	講義	2,3,4	30	03	50		
	240H2077	アジア言語文化概説A	2	第3,4ターム	金2		2,3,4			20		
	240H2078	アジア言語文化概説B	2	第3,4ターム	火4	演習	2,3,4	29	03	20		
	240H2079	アジア言語文化概説C	2	第1,2ターム	月4	講義	2,3,4	29	03	20		
	240H2080	西洋言語概説	2	第3,4ターム	火3		2,3,4	30	03	50		
	240H2081	英米文化概説A	2	第1,2ターム	木3	講義	2,3,4	29	03	30		
	240H2082	英米文化概説B	2	第3,4ターム	木4		2,3,4	29	03	30		
	休講	英米言語概説A										
	240H2083	英米言語概説B	2	第1,2ターム	木4		2,3,4	30	03	50	○	
	240H2084	ドイツ言語文化概説A	2	第1,2ターム	火4	講義	2,3,4	29	03	30		
	240H2085	ドイツ言語文化概説B	2	集中	他		2,3,4	30	03	30	○	
	240H2086	フランス言語文化概説A	2	第1,2ターム	金4	講義	2,3,4	29	03	30		
	休講	フランス言語文化概説B										
	休講	ロシア言語文化概説A									○	
	240H2089	ロシア言語文化概説B	2	集中	他	講義	2,3,4	30	03	20		
	休講	Introduction to Transcultural Encounters B										
	240H2090	日本言語文化実習A	1	第1,2ターム	火1	実習	2,3,4	29,30	13	15		
	240H2091	日本言語文化実習B	1	第3,4ターム	火1	実習	2,3,4	29,30	13	15		
	240H2092	日本言語文化実習C	1	第1,2ターム	水1	実習	2,3,4	29,30	13	15		
	240H2093	日本言語文化実習D	1	第3,4ターム	水2		2,3,4			20		
	休講	アジア言語文化研究法A										
	240H2095	アジア言語文化研究法B	2	第1,2ターム	火4	講義	2,3,4	30	13	15		
	240H2094	アジア言語文化研究法B	2	第3,4ターム	木5	講義	2,3,4	30	13	15		
	240H2096	デジタル文献情報学研究法	2	第3,4ターム	水4	講義	2,3,4	29	13	50		
	休講	西洋言語文化研究法A										
	240H2097	西洋言語文化研究法B	2	第3,4ターム	木3	講義	2,3,4	29,30	13	20		
	休講	西洋言語文化研究法C										
	240H2099	西洋言語文化研究法E	2	第1,2ターム	火5	講義	4	29,30	13	20	○	
	240H3014	アジア言語文化基礎演習	2	第1,2ターム	木3	演習	2,3,4	29,30	13	20		
	240H3015	英米言語文化基礎演習A	2	第1,2ターム	水3	演習	2,3,4	29	13	20		
	240H3016	英米言語文化基礎演習B	2	第1,2ターム	月3	演習	2,3,4	30	13	20		
	240H3017	英米言語文化基礎演習B	2	第3,4ターム	水3	演習	2,3,4	30	13	20		
	240H3018	ドイツ言語文化基礎演習A	2	第1,2ターム	木4	演習	2,3,4	29	13	20		
	240H3019	ドイツ言語文化基礎演習B	2	第3,4ターム	木3	演習	2,3,4	30	13	20		
	241H3020	フランス言語文化基礎演習A	2	第1ターム	火3,火4	演習	2,3,4	29	13	20		
	240H3021	フランス言語文化基礎演習B	2	第3,4ターム	金2	演習	2,3,4	30	13	20		
	240H3022	ロシア言語文化基礎演習A	2	第1,2ターム	木2	演習	2,3,4	29	13	20		
	休講	ロシア言語文化基礎演習B									○	
	休講	言語学概説A										
	240H2070	言語学概説B	2	第1,2ターム	月4		2,3,4	30	03	50	○	
	240H2013	古典語A	2	第3,4ターム	木1		2,3,4	28,30	03	15		
	240H2072	日本言語文化論	2	集中	他	講義	2,3,4	29,30	03	70		
	240H3012	日本言語文化基礎演習A	2	第1,2ターム	火5	演習	2,3,4	29,30	13	20		
	240H3013	日本言語文化基礎演習B	2	第3,4ターム	火4	演習	2,3,4	29,30	13	20		
	休講	Transcultural Encounters B										

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

備考　1）2019年度以前入学者用

2）2020年度以降入学者用

プログラム 名　　称	法学
概　　要	変革が進む日本の社会にあって、これからは公正・公平で透明なルールによって規律される自由競争・自己責任の時代となるといわれている。それはまさに法的な見方・考え方がより重要となる時代の到来を意味するものである。また、いたるところで多様な紛争、社会問題が絶えず発生している。その処理、解決、予防を任務とする法律、法律学の機能と課題を、公法、民事法、刑事法及びその他の法律学分野の全般にわたる授業の履修を通じて理解する。
履修資格	
修了要件	次の条件をすべて満たしていること。 ・所定の授業科目について12単位以上を修得していること。 ・学位プログラムが決定していること。 ・学位プログラムが法学プログラム及び法曹養成プログラムではないこと。 ・創生学部生で「法学領域学修科目パッケージ」を選択していないこと。
その他 特記事項	経済科学部生で学際日本学プログラムまたは地域リーダープログラムを専攻しようとするもの、及び専攻するものは教育基盤機構アカデミック・アドバイザー等に相談をすること。

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
	241G7071	人文社会科学入門（法学）	2	第1ターム	水3,水4	講義	1,2,3,4,5,6	34	03	240		
	242G7075	リーガル・システム	2	第2ターム	月4,木4	講義	1,2,3,4,5,6	34	03	240		
	243L3001	憲法Ⅰ（人権各論）	2	第3ターム	木1,木2	講義	1,2,3,4,5,6	34	03	300		
	241L3002	憲法Ⅱ（統治機構論）	2	第1ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	34	04	300		1
	242L3003	憲法Ⅲ（憲法総論・人権総論）	2	第2ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	34	03	300		1
	243L3101	民法Ⅰ（民法総則）	2	第3ターム	水3,水4	講義	1,2,3,4,5,6	34	03	300		
	242L3102	民法Ⅱ（不法行為）	2	第2ターム	月1,月2	講義	1,2,3,4,5,6	34	03	300		
	244L3103	民法Ⅲ（物権１）	2	第4ターム	金1,金2	講義	1,2,3,4,5,6	34	03	300		
	242L3201	刑法Ⅰ（刑法総論１）	2	第2ターム	火1,火2	講義	1,2,3,4,5,6	34	03	300		
	241L3601	政治学Ⅰ（政治学入門）	2	第1ターム	月5,木5	講義	1,2,3,4,5,6	35	03	250		
	243L3005	行政法Ⅰ（行政法総論）	2	第3ターム	火1,火2	講義	1,2,3,4,5,6	34	03	250		1
	242L3702	行政学Ⅰ（総論）	2	第2ターム	木3,木4	講義	2,3,4,5,6	35	03	250		1
	243L3308	国際法	2	第3ターム	木1,木2	講義	2,3,4,5,6	34	03	150		1

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。
備考　　1）法学部対象学年：2年生以上

プログラム名称	政治学
概　要	本プログラムは、学生がニュースなどで耳にしない日はない「政治」について、政治の現象に関する基本的な仕組みや知識・理論、政治・外交の歴史、国際関係などについて学び、政治・行政・国際関係について専門的な観点から理解することができるようになることを目指す。
履修資格	
修了要件	次の条件をすべて満たしていること。 ・区分Aの科目から12単位以上を修得していること。 ・学位プログラムが決定していること。 ・学位プログラムが法学プログラム及び法曹養成プログラムではないこと。 ・創生学部生で「法学領域学修科目パッケージ」を選択していないこと。
その他特記事項	経済科学部生で学際日本学プログラムまたは地域リーダープログラムを専攻しようとするもの、及び専攻するものは教育基盤機構アカデミック・アドバイザー等に相談をすること。

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
A	241L3601	政治学Ⅰ	2	第1ターム	月5,木5	講義	1,2,3,4,5,6	35	03	250		
A	244L3602	政治学Ⅱ	2	第4ターム	月5,木5	講義	1,2,3,4,5,6	35	04	250		
A	242L3702	行政学Ⅰ（総論）	2	第2ターム	木3,木4	講義	2,3,4,5,6	35	03	250		1
A	243L3703	行政学Ⅱ（各論）	2	第3ターム	水1,水2	講義	2,3,4,5,6	35	04	250		1
A	休講	日本政治外交史Ⅰ（政治史）										
A	244L3603	日本政治外交史Ⅱ（外交史）	2	第4ターム	火1,火2	講義	1,2,3,4,5,6	35	03	120		
A	休講	国際関係論										1
A	休講	国際政治史										
A	休講	アジア政治外交史										
A	244L3604	比較政治	2	第4ターム	月3,月4	講義	1,2,3,4,5,6	35	03	40		
A	241L3612	政策科学概論	2	第1ターム	木1,木2	講義	2,3,4,5,6	35	03	150		1
A	244L3704	自治体政策論	2	第4ターム	水1,水2	講義	2,3,4,5,6	34,35	04	150		1
A	244L3701	公共政策	2	第4ターム	金1,金2	講義	3,4,5,6	35	04	150		1
A	243L3803	ジェンダー論	2	第3ターム	金1,金2	講義	1,2,3,4,5,6	34,35	03	250		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

備考　　1）法学部対象学年：2年生以上

プログラム名称	経済学
概要	人類は、生誕と共に、生産と消費を中心とする経済活動をつづけてきた。人間生活の物的基礎をなすこの経済活動は、この間たんに高度化してきただけではない。その社会的あり方は、量的な変化を伴いながら構造的に、また国や地域ごとに個性を持って段階的に発展してきた。マイナー「経済学」では、このような経済について、その理論・歴史・政策・現状を体系的に学ぶことができる。
履修資格	学位プログラムが経済学プログラムの学生、および創生学部において領域学修科目パッケージとして経済学パッケージを選択している学生は修了できません。
修了要件	次の条件を全て満たしていること。 ・区分Aから2単位、区分Bから10単位以上、合計12単位以上を修得していること。 ・学位プログラムが決定していること。 ・学位プログラムが経済学プログラムではないこと。 ・創生学部生で「経済学領域学修科目パッケージ」を選択していないこと。
その他特記事項	経済科学部生で学際日本学プログラムまたは地域リーダープログラムを専攻しようとするもの、及び専攻するものは教育基盤機構アカデミック・アドバイザー等に相談をすること。

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
A	241E6001	経済学入門	2	第1ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	36	03	400		1
B	241E6005	入門ミクロ経済学	2	第1ターム	火3,金3	講義	2,3,4,5,6	36	03	400		
B	243E6006	入門マクロ経済学	2	第3ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	36	03	400		
B	242E6044	入門社会経済学	2	第2ターム	月3,木3	講義	2,3,4,5,6	36	03	250		
B	244E6045	ミクロ経済学Ⅰ	2	第4ターム	火3,金3	講義	2,3,4,5,6	36	03	200		
B	243E6046	マクロ経済学Ⅰ	2	第3ターム	火4,金4	講義	2,3,4,5,6	36	03	200		
B	242E6043	経済数学Ⅰ	2	第2ターム	月3,木3	講義	1,2,3,4,5,6	36,41	03	300		
B	243E6047	計量経済学Ⅰ	2	第3ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	36,41	03	220		
B	242E6059	金融論Ⅰ	2	第2ターム	月2,木2	講義	2,3,4,5,6	36	04	200		
B	240E6048	アメリカ経済論Ⅰ	2	第3,4ターム	木6	講義	2,3,4,5,6	36,33	04	24		
B	241E6050	アジア経済論Ⅰ	2	第1ターム	火1,金1	講義	2,3,4,5,6	36	04	300		
B	240E6049	ＥＵ経済論	2	第3,4ターム	水4	講義	2,3,4,5,6	36	04	200		
B	244E6063	ロシア経済論	2	第4ターム	月3,木3	講義	2,3,4,5,6	36,33	04	150		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

備考　1）必修

備考　1）法学部対象学年：2年生以上

プログラム名称	ビジネス・アントレプレナーシップ
概　要	アントレプレナーシップという言葉には様々な定義や範疇があるが、本プログラムでは、ビジネスアイデアを持った学生がいかにビジネスの形へ具体化させるのかという点に焦点を当てている。学生がもつアイデアは、社会を大きく変える可能性を有している。そのアイデアは、決して経済を学ぶものだけが持っているわけではなく、全学部の学生とその学部の学びにアイデアの種が存在している。しかし、アイデアだけでうまくいくわけではない。ビジネスへと展開する知識やノウハウを持ち合わせて、はじめてアイデアがビジネスの形へと具体化されていく。また、ビジネスの形は、新しく会社を起こすことに限られるものではなく、企業に就職して組織内で実現する方法もあるだろう。本プログラムはアイデアを持っている学生が、ビジネスの形に変えるために必要な知識とノウハウの習得を目指す。
履修資格	学位プログラムが経営学プログラムの学生、および創生学部において領域学修科目パッケージとして経営学パッケージを選択している学生は修了できません。
修了要件	次の条件を全て満たしていること。 ・区分Aから3単位、区分Bから9単位以上、合計12単位以上を修得していること。 ・学位プログラムが決定していること。 ・学位プログラムが経営学プログラムではないこと。 ・創生学部生で「経営学領域学修科目パッケージ」を選択していないこと。
その他特記事項	経済科学部生で学際日本学プログラムまたは地域リーダープログラムを専攻しようとするもの、及び専攻するものは教育基盤機構アカデミック・アドバイザー等に相談をすること。 履修上の注意 ・概略講義の３科目の履修には、原則として経営学入門を履修済みであること。 ・「ビジネス・アントレプレナーシップ演習」（備考欄に「2」とある科目）は、毎年上限30名程度の定員である。また、受講に際し、3人1組での応募とし、その中の1名は必ず起業・創業のための会計入門を履修していることを条件としている。

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
A	243E6002	経営学入門	2	第3ターム	他(オンデマンド)	講義	1年以上	37	03	400		1
A	241E6178	概略講義（ビジネス・アントレプレナーシップ入門）	1	第1ターム	他(オンデマンド)	講義	2年以上	37	04	300		1,2
B	242E6179	概略講義（起業・創業のための会計入門）	1	第2ターム	他(オンデマンド)	講義	2年以上	37	04	300		2
B	243E6180	概略講義（ビジネス・アントレプレナーシップ演習）	1	第3ターム	他	演習	2年以上	37	04	30		2
B	241E6107	経営学概論Ⅰ	2	第1ターム	他(オンデマンド)	講義	2年以上	37	04	340		
B	243E6157	経営学概論Ⅱ	2	第3ターム	他(オンデマンド)	講義	2年以上	37	04	450		
B	242E6149	会計学概論Ⅰ	2	第2ターム	火4,金4	講義	2年以上	37	03	150		
B	244E6150	会計学概論Ⅰ	2	第4ターム	火3,金3	講義	2年以上	37	03	150		
B	243E6153	会計学概論Ⅱ	2	第3ターム	火4,金4	講義	2年以上	37	03	30		
B	242E6146	経営組織論Ⅰ	2	第2ターム	火5,金5	講義	2年以上	37	04	230		
B		経営組織論Ⅱ					2年以上					
B	241E6151	人的資源管理論Ⅰ	2	第1ターム	月2,木2	講義	2年以上	37	04	95		
B	242E6163	人的資源管理論Ⅱ	2	第2ターム	月2,木2	講義	2年以上	37	04	100		
B	休講	経営戦略論Ⅰ					2年以上					
B	244E6164	経営戦略論Ⅱ	2	第4ターム	火4,金4	講義	2年以上	37	04	100		
B	241E6147	マーケティング論Ⅰ	2	第1ターム	月3,木3	講義	2年以上	37	04	200		
B		マーケティング論Ⅱ					2年以上					
B	241E6158	中小企業論	2	第1ターム	他(オンデマンド)	講義	2年以上	37	04	300		
B	241E6165	管理会計論Ⅱ	2	第1ターム	火5,金5	講義	3年以上	37	04	100		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

備考　1）必修

2）その他特記事項を確認のこと

プログラム名称	ドイツ語、およびドイツ語<発展>
概　要	【ドイツ語】 ドイツ語運用能力の基礎および、ドイツ語文化圏についての入門的知識を習得するためのプログラムです。ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）に準拠すると、A1.1からA2.1のレベルに到達することが目標です。ドイツ語・ドイツ文化を魅力的かつ深い「森」にたとえるならば、本プログラムは森を歩くための道具を整え、森の入り口に到達するまでの道のりです。具体的な目標として、語学の面では「ひとりでドイツ語圏の旅行ができる」「簡単な文章を読む」、文化・知識の面では「ドイツ語圏文化を知るうえでのキーワードを学ぶ」ことが挙げられます。語学力と文化への知見、その両方を、時に頭に汗をかきながら楽しく学びましょう！ 【ドイツ語<発展>】 「ドイツ語」を修了もしくは修了見込みで、ドイツ語圏文化という魅力的な森のもっと奥深くへと足を踏み入れたいという方向けのプログラムです。ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）に準拠するレベルで、A2.2からB1（ちょっと背伸びすればB2）に到達することが目標です。より実践的な、読む・書く・聞く・話す能力を訓練します。そして、文学や思想の作品をドイツ語原文で講読することで、自律的かつ自由自在にドイツ語圏文化を歩くための授業を提供します。コミュニケーションに代表される語学力と、アートや音楽といった文化、文学や思想の専門知識の習得の両立を目指しましょう！！
履修資格	【ドイツ語】 人文学部において言語文化学プログラムを希望する学生、および創生学部において「言語文化学領域学修科目パッケージ」を希望する学生は、履修に関して本マイナー・プログラム代表教員に事前に相談すること。 【ドイツ語<発展>】 マイナー・プログラム「ドイツ語」を修了、または履修中であること。
修了要件	【ドイツ語】 次の条件を全て満たしていること。 ・区分Aから2単位以上、区分Bから2単位以上修得し、合計12単位を修得していること。区分Cの科目は対象となりません。 ・学位プログラムが決定していること。 ・修了申請の際、学位プログラムが言語文化学プログラムの学生、および創生学部において「言語文化学領域学修科目パッケージ」を選択している学生は、本マイナー・プログラム代表教員に了承を得ること。 【ドイツ語<発展>】 次の条件を全て満たしていること。 ・マイナー・プログラム「ドイツ語」を修了していること。 ・区分B、Cの科目から12単位以上修得していること。なお、区分Bの科目のうち、マイナー・プログラム「ドイツ語」の修了要件として申請した科目を「ドイツ語<発展>」に重複して申請することはできません。また、区分Aの科目は対象となりません。
その他特記事項	経済科学部生で学際日本学プログラムまたは地域リーダープログラムを専攻しようとするもの、及び専攻するものは教育基盤機構アカデミック・アドバイザー等に相談をすること。 マイナー・プログラム「ドイツ語」からさらに学びを深めたい学生は、マイナー・プログラム「ドイツ語〈発展〉」を履修登録し、区分B、Cの科目を履修してください。なお、「ドイツ語」を修了する前でも、区分Cの科目を履修することができます。

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
A	（全科目）	ドイツ語圏グローバル理解	1			講義	1,2,3,4,5,6	71	03			
A	（全科目）	ドイツ語スタンダード IA	1.5			演習	1,2,3,4,5,7	71	03			
A	（全科目）	ドイツ語スタンダード IB	1.5			演習	1,2,3,4,5,8	71	03			
A	（全科目）	ドイツ語スタンダード II	3			演習	1,2,3,4,5,9	71	03			
A	（全科目）	ドイツ語エッセンシャル A	2			演習	1,2,3,4,5,6	71	03			
A	（全科目）	ドイツ語エッセンシャル B	1			演習	1,2,3,4,5,6	71	03			
A	（全科目）	ドイツ語インテンシブ IA	2			演習	1,2,3,4,5,6	71	03			
A	（全科目）	ドイツ語インテンシブ IB	2			演習	1,2,3,4,5,6	71	03			
A	（全科目）	ドイツ語インテンシブ II	4			演習	1,2,3,4,5,6	71	03			
B	240G1071	コミュニケーション・ドイツ語A	2	第1,2ターム	金3	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	15		
B	240G1072	コミュニケーション・ドイツ語B	2	第1,2ターム	月4	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	15		
B	240G1073	コミュニケーション・ドイツ語C	2	第1,2ターム	火3	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	15		
B	240G1518	コミュニケーション・ドイツ語D	2	第3,4ターム	火3	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	15		
B	240G1519	コミュニケーション・ドイツ語E	2	第3,4ターム	月4	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	15		
B	240G1520	コミュニケーション・ドイツ語F	2	第3,4ターム	水3	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	15		
B	240H2084	ドイツ言語文化概説A	2	第1,2ターム	火4	講義	2,3,4	29	03	30		
B	240H2085	ドイツ言語文化概説B	2	集中	他	講義	2,3,4	30	03	30		
B	240H3018	ドイツ言語文化基礎演習A	2	第1,2ターム	木4	演習	2,3,4	29	13	20		
B	240H3019	ドイツ言語文化基礎演習B	2	第3,4ターム	木3	演習	2,3,4	30	13	20		
C	240G1074	ドイツ語セミナーA	2	第1,2ターム	月3	演習	1,2,3,4,5,6	71	04	15		
C	240G1075	ドイツ語セミナーB	2	第1,2ターム	水3	演習	1,2,3,4,5,6	71	04	15		
C	240G1521	ドイツ語セミナーC	2	第3,4ターム	月3	演習	1,2,3,4,5,6	71	04	15		
C	240G1522	ドイツ語セミナーD	2	第3,4ターム	水3	演習	1,2,3,4,5,6	71	04	15		
C	休講	ドイツ言語文化論A										
C	休講	ドイツ言語文化論B										
C	240H4063	ドイツ言語文化論C	2	第1,2ターム	木3	講義	3,4	30	04	15		
C	240H4058	ドイツ文芸論	2	第3,4ターム	木4	講義	3,4	29	04	30		
C	240H5097	ドイツ言語文化演習	2	第1,2ターム	金4	演習	3,4	29,30	14	15		
C	240H5098	ドイツ言語文化演習	2	第3,4ターム	金4	演習	3,4	29,30	14	15		
C	240H5099	ドイツ言語文化演習	2	第1,2ターム	火3	演習	3,4	29,30	14	15		
C	240H5100	ドイツ言語文化演習	2	第3,4ターム	火3	演習	3,4	29,30	14	15		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

プログラム名称	英語
概要	本プログラムは、卒業時までに、準上級以上（英検準１級またはCEFRにおけるB2以上）の英語運用能力を身につけるためのプログラムです。 　このプログラムでは、英語による実用的なコミュニケーションスキルの向上に加えて、英語の仕組みや英語圏の文化、社会、経済などに関する理解を深めることを重視しています。多様な文化に対する理解と実践的な英語運用能力を身につけ、様々な分野で国際社会に貢献できる人材を育成します。
履修資格	・人文学部において言語文化学プログラムを希望する学生、および創生学部において領域学修科目パッケージとして言語文化学パッケージを希望する学生は、履修に関して本マイナー・プログラム代表教員に事前に相談すること
修了要件	次の条件を全て満たしていること ・区分Aの必修科目2単位を修得し、区分BおよびCの科目から10単位以上、合計12単位以上を修得していること ・学位プログラムが決定していること なお、修了申請の際、学位プログラムが言語文化学プログラムの学生、および創生学部において領域学修科目パッケージとして言語文化学パッケージを選択している学生は、本マイナー・プログラム代表教員に了承を得ること
その他特記事項	科目の履修時期について ・区分Bの科目：「中級コミュニカティブ」「iStep Extension」「TOEFL iBT Preparation Ⅰ / Ⅱ」「IELTS Preparation Ⅰ / Ⅱ」「中級CALL（留学準備）」および海外研究を除き、原則として第3セメスター以降に履修すべき科目 ・区分Cの科目：第5セメスター以降に履修すべき科目

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
A	（全科目）	上級コミュニカティブ英語	2			演習		70	05			1
B	（全科目）	中級コミュニカティブ英語	2			演習		70	04			
B	（全科目）	iStep Extension	2			演習		70	04			
B	（全科目）	中級EAP	2			演習		70	04			
B	（全科目）	上級EAP	2			演習		70	05			
B	（全科目）	中級EAP（Term Course）	1			演習		70	04			
B	休講	上級EAP（Term Course）	1			演習		70	05			
B	（全科目）	TOEFL iBT Preparation Ⅰ	2			演習		70	04			
B	（全科目）	TOEFL iBT Preparation II	2			演習		70	04			
B	（全科目）	IELTS Preparation Ⅰ	2			演習		70	04			
B	（全科目）	IELTS Preparation II	2			演習		70	04			
B	240G0040	中級ＣＡＬＬ（留学準備）	2	第1,2ターム	火3	演習	1,2,3,4,5,6	70	04	40		
B	240G0646	中級ＣＡＬＬ（留学準備）	2	第3,4ターム	火4	演習	1,2,3,4,5,6	70	04	40		
B	240G0071	実践英語セミナー	2	第1,2ターム	水3	演習	1,2,3,4,5,6	70	04	30		
B	240G0664	実践英語セミナー	2	第3,4ターム	水4	演習	1,2,3,4,5,6	70	04	30		
B	240G0068	英語表現セミナーA	2	第1,2ターム	水4	演習	1,2,3,4,5,6	70	04	20		
B	240G0665	英語表現セミナーA	2	第3,4ターム	水4	演習	1,2,3,4,5,6	70	04	20		
B	240G0069	英語表現セミナーB	2	第1,2ターム	水3	演習	1,2,3,4,5,6	70	04	20		
B	240G0666	英語表現セミナーB	2	第3,4ターム	水3	演習	1,2,3,4,5,6	70	04	20		
B	240G0070	英語表現セミナーC	2	第1,2ターム	水4	演習	1,2,3,4,5,6	70	03	20		
B	240G0667	英語表現セミナーC	2	第3,4ターム	水4	演習	1,2,3,4,5,6	70	03	20		
B	240G3940	西シドニー大学国際交流プログラムA	2	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	25		
B	240G3944	西シドニー大学国際交流プログラムB	2	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	25		
B	240G3949	カナダ・サマーセミナー	4	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75,70	03	20		
B	240G3950	オタゴ大学英語研修	4	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75,70	03	20		
B	240G3945	多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-W	4	集中	他	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	15		
B	240G3967	多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-S	4	集中	他	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	15		
B	240G3968	フィリピンALLC英語研修	4	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	70	03	10		
B	240G3966	シンガポール・スプリングセミナー	2	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75,70	03	15		
B	240G3962	オックスフォード大学英語研修	2	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75,70	04	20		
B	休講	カナダ・サマーセミナー・オンライン										
B	休講	オタゴ大学英語研修・オンライン										
B	240H3015	英米言語文化基礎演習A	2	第1,2ターム	水3	演習	2,3,4	29	13	20		
B	240H3017	英米言語文化基礎演習B	2	第3,4ターム	水3	演習	2,3,4	30	13	20		
B	240K6661	英語学概説	2	第1,2ターム	水3	講義	1,2,3,4,5,6	40	03	56		
B	240K6601	英語教育と英文法I	2	第1,2ターム	木3	講義	2,3,4,5,6	40	13	56		
B	240K6602	英語教育と英文法II	2	第3,4ターム	火4	講義	2,3,4,5,6	40	13	40		
B	240H2083	英米言語概説B	2	第1,2ターム	木4		2,3,4	30	03	50		
B	240H2081	英米文化概説A	2	第1,2ターム	木3	講義	2,3,4	29	03	30		
B	240H2082	英米文化概説B	2	第3,4ターム	木2		2,3,4	29	03	30		
C	240K6653	英語教育リーディング演習I	1	第1,2ターム	木3	演習	4,5,6	40	13	20		
C	240K6654	英語教育リーディング演習II	1	第1,2ターム	水4	演習	4,5,6	40	13	20		
C	240K6655	英語教育リーディング演習III	1	第1,2ターム	金1	演習	3,4,5,6	40	14	20		
C	240K6656	英語教育リーディング演習IV	1	第3,4ターム	水4		3,4,5,6	40	14	20		
C	240H4057	英米文芸論	2	第3,4ターム	金2		3,4	29	04	30		
C	240H4062	英米言語論A	2	第1,2ターム	水3	講義	3,4	30	14	30		
C	240H4060	英米文化論A	2	第1,2ターム	金2		3,4	29	04	30		
C	240H4061	英米文化論B	2	第3,4ターム	月3		3,4	29	04	30		
C	240H5085	英米言語文化演習	2	第1,2ターム	火4		3,4	29,30	14	20		
C	240H5086	英米言語文化演習	2	第1,2ターム	木2		3,4	29,30	14	20		
C	240H5087	英米言語文化演習	2	第1,2ターム	火3		3,4	29,30	14	20		
C	240H5088	英米言語文化演習	2	第1,2ターム	月4		3,4	29,30	14	20		
C	240H5089	英米言語文化演習	2	第1,2ターム	水2		3,4	29,30	14	20		
C	240H5091	英米言語文化演習	2	第3,4ターム	火4		3,4	29,30	14	20		
C	240H5092	英米言語文化演習	2	第3,4ターム	木2		3,4	29,30	14	20		
C	240H5093	英米言語文化演習	2	第3,4ターム	火3		3,4	29,30	14	20		
C	240H5094	英米言語文化演習	2	第3,4ターム	月4		3,4	29,30	14	20		
C	240H5095	英米言語文化演習	2	第3,4ターム	水2		3,4	29,30	14	20		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

備考　1）必修

プログラム名称	フランス語、およびフランス語<発展>
概　要	【フランス語】 マイナー・プログラム「フランス語」は、基礎的なフランス語能力を持つ大学生を対象に、高度なコミュニケーション力と文化理解を深めることを目的としています。授業では、文法、語彙、発音の習熟を目指すとともに、フランスの社会、文化、歴史に焦点を当てた資料を使って研究します。フランス語での対話、プレゼンテーション、論文作成を通じて表現力を高め、日常や専門的な状況での効果的なコミュニケーションができる実践的な会話力も養成します。読解力、リスニング力、ライティング力を高め、国際的な研究、ビジネス、外交などで活躍できる人材を育成することを目指しています。 【フランス語<発展>】 マイナー・プログラム「フランス語<発展>」は、中級レベルのフランス語能力を持つ大学生を対象に、より高度な言語運用力と文化理解を深めることを目的としています。授業では、高度な文法、専門語彙、文学テキストの解釈に重点を置き、日本語とフランス語で進められます。論文作成を通じて批判的思考力と分析力を養成し、フランスの文学、哲学、啓蒙思想に触れることで、文化と思想史に対する洞察力を深めます。また、ビジネスフランス語、プレゼンテーション、交渉術など、プロフェッショナルなコミュニケーション能力の育成も目指しています。グローバルな視野を涵養し、国際舞台で活躍できる人材の育成がこのプログラムの目標です。
履修資格	【フランス語】 人文学部において言語文化学プログラムを希望する学生、および創生学部において「言語文化学領域学修科目パッケージ」を希望する学生は、履修に関して本マイナー・プログラム代表教員に事前に相談すること。 【フランス語<発展>】 ・マイナー・プログラム「フランス語」を修了、または履修中であること。
修了要件	【フランス語】 次の条件を全て満たしていること。 ・区分A、B、Cからそれぞれ2単位以上修得し、合計12単位を修得していること。区分Dの科目は対象となりません。 ・学位プログラムが決定していること。 ・修了申請の際、学位プログラムが言語文化学プログラムの学生、および創生学部において「言語文化学領域学修科目パッケージ」を選択している学生は、本マイナー・プログラム代表教員に了承を得ること 【フランス語<発展>】 次の条件を全て満たしていること。 ・マイナー・プログラム「フランス語」を修了していること。 ・区分B、Cから7単位以上、区分Dから5単位以上、合計12単位以上修得していること。なお、区分B、Cの科目のうち、マイナー・プログラム「フランス語」の修了要件として申請した科目を「フランス語<発展>」に重複して申請することはできません。また、区分Aの科目は対象となりません。
その他特記事項	経済科学部生で学際日本学プログラムまたは地域リーダープログラムを専攻しようとするもの、及び専攻するものは教育基盤機構アカデミック・アドバイザー等に相談をすること。 ・マイナー・プログラム「フランス語」を履修する学生に「フランス学アクティブ」を推奨します。 ・マイナー・プログラム「フランス語」からさらに学びを深めたい学生は、マイナー・プログラム「フランス語〈発展〉」を履修登録し、区分B、C、Dの科目を履修してください。なお、「フランス語」を修了する前でも、区分Dの科目を履修することができます。

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
A	（全科目）	フランス語圏グローバル理解	1			講義	1,2,3,4,5,6	71	03			
A	（全科目）	フランス語インテンシブ IA	2			演習	1,2,3,4,5,6	71	03			
A	（全科目）	フランス語インテンシブ IB	2			演習	1,2,3,4,5,6	71	03			
A	（全科目）	フランス語スタンダード IA	1.5			演習	1,2,3,4,5,6	71	03			
A	（全科目）	フランス語スタンダード IB	1.5			演習	1,2,3,4,5,6	71	03			
A	（全科目）	フランス語インテンシブ II	4			演習	1,2,3,4,5,6	71	03			
A	（全科目）	フランス語スタンダード II	3			演習	1,2,3,4,5,6	71	03			
A	（全科目）	フランス語エッセンシャル A	2			演習	1,2,3,4,5,6	71	03			
A	（全科目）	フランス語エッセンシャル B	1			演習	1,2,3,4,5,6	71	03			
B	240G1156	フランス学アクティブ	2	第1,2ターム	木4	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	25		
B	240G1090	コミュニケーション・フランス語B	2	第1,2ターム	木1	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	15		
B	240G1091	コミュニケーション・フランス語C	2	第1,2ターム	水2	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	15		
B	240G1092	コミュニケーション・フランス語D	2	第1,2ターム	金3	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	15		
B	240G1093	コミュニケーション・フランス語E	2	第1,2ターム	月3	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	15		
B	240G1094	コミュニケーション・フランス語J	2	第1,2ターム	木2	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	15		
B	240G1535	コミュニケーション・フランス語G	2	第3,4ターム	水2	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	15		
B	240G1536	コミュニケーション・フランス語H	2	第3,4ターム	木1	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	15		
B	240G1537	コミュニケーション・フランス語K	2	第3,4ターム	木2	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	15		
B	240G1538	コミュニケーション・フランス語L	2	第3,4ターム	金4	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	15		
C	240H2086	フランス言語文化概説A	2	第1,2ターム	金4	講義	2,3,4	29	03	30		
C	休講	フランス言語文化概説B										
C	241H3020	フランス言語文化基礎演習A	2	第1ターム	火4,火5	演習	2,3,4	29	13	20		
C	240H3021	フランス言語文化基礎演習B	2	第3,4ターム	金2	演習	2,3,4	30	13	20		
C	240H2088	Introduction to Transcultural Encounters A	2	第3,4ターム	水3	講義	2,3,4	29	03	30		
D	240H4068	Transcultural Encounters A	2	第1,2ターム	水3	講義	3,4	29	14	15		
D	240G1095	フランス語セミナーA	2	第1,2ターム	木3	演習	1,2,3,4,5,6	71	04	15		
D	240G1539	フランス語セミナーB	2	第3,4ターム	木3	演習	1,2,3,4,5,6	71	04	15		
D	240H4059	フランス文芸論	2	第1,2ターム	金2	講義	3,4	29	04	20		
D	240H4064	フランス言語文化論A	2	第3,4ターム	木4	講義	3,4	29	04	40		
D	休講	フランス言語文化論B										
D	244H4065	フランス言語文化論C	2	第4ターム	火3,火4	講義	3,4	30	04	20		
D	240H5101	フランス言語文化演習	2	集中	他	演習	3,4	29,30	14	15		1
D	240H5103	フランス言語文化演習	2	第3,4ターム	金4	演習	3,4	29,30	14	15		1
D	242H5102	フランス言語文化演習	2	第2ターム	火4,火5	演習	3,4	29,30	14	15		1

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。
備考　1）重複履修可能

プログラム名称	コリア
概　要	日本という国土に住む私たちは、いやおうなく東アジア諸国およびそれを取り巻く世界との関係の中で生きている。東アジア、特に南北コリアと日本が対話（外交）によって良好な関係を築くことは、武力（戦争という暴力）によって他国・他地域の領土や住民の生命・生活を脅かす「世界史」の流れに抗するだけの価値がある。新潟大学での朝鮮語（韓国語）学習および、留学生との交流、さらには世界的な規模で展開する「韓流」文化コンテンツを媒介とする人的交流を通じて、異なる国籍・言語・歴史・文化を持つ者どうしが、偏狭で排他的な自国・自民族中心主義に陥ることなく、相互理解に至ることを目指す。
履修資格	・「朝鮮語」に関する授業科目履修中（もしくは履修済）であるか、それと同等（以上）の検定試験合格者（詳しくは、本マイナー・プログラム代表者に事前に相談すること） ・人文学部において言語文化学プログラムの学生、および創生学部において領域学修科目パッケージとして言語文化学パッケージを希望する学生は、履修に関して本マイナー・プログラム代表教員に事前に相談すること
修了要件	次の条件を全て満たしていること ・区分Aの必修科目1単位、区分Bの科目から最低5単位、区分Cの科目から最低4単位、区分Dの科目から最低2単位、合計12単位以上修得していること ・学位プログラムが決定していること なお、修了申請の際、学位プログラムが言語文化学プログラムの学生、および創生学部において領域学修科目パッケージとして言語文化学パッケージを選択している学生は、本マイナー・プログラム代表教員に了承を得ること
その他特記事項	必修科目（A区分1単位, B区分5単位，C区分4単位，D区分2単位）を含む，所定の授業科目について12単位以上を修得

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
A	R7開講予定	コリア学入門										1
B	241G1039	朝鮮語圏グローバル理解 1	1	第1ターム	木1	講義	1,2,3,4,5,6	71	03	60		
B	242G1040	朝鮮語圏グローバル理解 1	1	第2ターム	木1	講義	1,2,3,4,5,6	71	03	60		
B	241G1041	朝鮮語圏グローバル理解 2	1	第1ターム	水2	講義	1,2,3,4,5,6	71	03	60		
B	242G1042	朝鮮語圏グローバル理解 2	1	第2ターム	水2	講義	1,2,3,4,5,6	71	03	60		
B	240G1568	朝鮮語インテンシブ II	4	第3,4ターム	月3,水3,木2,金2	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	25		
B	240G1569	朝鮮語スタンダード II	3	第3,4ターム	月2,水2,金2	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	25		
B	240G1570	朝鮮語スタンダード II	3	第3,4ターム	火1,水2,金1	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	25		
B	240G1571	朝鮮語スタンダード II	3	第3,4ターム	火2,水1,金2	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	25		
B	240G1572	朝鮮語エッセンシャル A	2	第3,4ターム	火3,木3	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	25		
B	240G1573	朝鮮語エッセンシャル B	1	第3,4ターム	金3	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	25		
B	休講	朝鮮語オプショナル A										
B	240G7517	朝鮮語オプショナル B	2	第3,4ターム	火3	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	30		
B	240G1142	コミュニケーション・朝鮮語I	2	第1,2ターム	月3	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	15		
B	240G1143	コミュニケーション・朝鮮語J	2	第1,2ターム	木3	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	15		
B	240G1144	コミュニケーション・朝鮮語K	2	第1,2ターム	金3	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	15		
B	240G1145	コミュニケーション・朝鮮語H	2	第1,2ターム	月2	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	15		
B	240G1574	コミュニケーション・朝鮮語L	2	第3,4ターム	月3	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	15		
B	240G1575	コミュニケーション・朝鮮語X	2	第3,4ターム	水3	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	15		
B	240G1146	朝鮮語セミナー A	2	第1,2ターム	月1	演習	1,2,3,4,5,6	71	04	15		
B	240G1576	朝鮮語セミナー B	2	第3,4ターム	木1	演習	1,2,3,4,5,6	71	04	15		
C	R7開講予定	国際交流										
C	241G3268	多文化間共修 B1	1	第1ターム	木2	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	30		
C	241G3269	多文化間共修 C1	1	第1ターム	水2	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	30		
C	242G3272	多文化間共修 B2	1	第2ターム	木2	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	30		
C	242G3273	多文化間共修 C2	1	第2ターム	水2	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	30		
C	243G3766	多文化間共修 B1	1	第3ターム	木2	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	30		
C	243G3767	多文化間共修 C1	1	第3ターム	水2	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	30		
C	244G3770	多文化間共修 B2	1	第4ターム	木2	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	30		
C	244G3771	多文化間共修 C2	1	第4ターム	水2	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	30		
C	241G3214	アクティブラーニング C	1	第1ターム	金2	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	30		
C	242G3231	アクティブラーニング B	1	第2ターム	水1	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	30		
C	242G3232	アクティブラーニング C	1	第2ターム	金2	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	30		
C	243G3719	アクティブラーニング C	1	第3ターム	金2	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	30		
C	244G3736	アクティブラーニング B	1	第4ターム	水1	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	30		
C	244G3737	アクティブラーニング C	1	第4ターム	金2	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	30		
C	240H2094	アジア言語文化研究法 B	2	第3,4ターム	木5	講義	2,3,4	30	13	15		
C	241G7001	歴史学 I	2	第1ターム	火3,火4	講義	1,2,3,4,5,6	31	03	80		
C	242G7020	歴史学 Q	2	第2ターム	月1,月2	講義	1,2,3,4,5,6	31	03	150		
C	243H2040	アジア史概説	2	第3ターム	月3,木3	講義	2,3,4	31	03	50		
C	休講	朝鮮社会論										
C	241H4041	アジア歴史文化論 B	2	第1ターム	金3,金4	講義	3,4	31	04	50		
C	240H4055	朝鮮言語文化論	2	第3,4ターム	火4	講義	3,4	29	04	20		
D	240G3763	現代社会と差別	2	第3,4ターム	金2	演習	1,2,3,4,5,6	40	02	20		
D	240G3255	平和を考える A	2	第1,2ターム	水3	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	50		
D	240G3758	平和を考える B	2	第3,4ターム	水3	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	150		
D	243G3711	平和学概論	2	第3ターム	金4,金5	講義	1,2,3,4,5,6	75,35	03	20		
D	240G3928	平和と現代のグローバル安全保障論	2	集中	他	講義	1,2,3,4,5,6	75,35	04	80		
D	240G3938	開発・環境と平和	2	集中	他	講義	1,2,3,4,5,6	75	04	20		
D	244L3604	比較政治	2	第4ターム	月3,月4	講義	1,2,3,4,5,6	35	03	40		
D	243L3308	国際法	2	第3ターム	木1,木2	講義	2,3,4,5,6	34	03	150		
D	244L3309	国際人権法	2	第4ターム	木1,木2	講義	2,3,4,5,6	34	03	150		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

備考　1）必修

プログラム名称	ロシア語、およびロシア語〈発展〉
概要	ロシア語とロシア語圏の文化・社会に関するプログラムです。 【ロシア語】 初級～中級のロシア語運用能力（ロシア語検定では3級、ヨーロッパ言語共通参照枠CEFRではA2程度）を目指します。1年次にロシア語を履修していれば2年次以降に科目をいくつか追加するだけで修了できますし、2年次以降にゼロから始めることも可能です。 【ロシア語〈発展〉】 中級～上級のロシア語運用能力（ロシア語検定では2級受験程度、ヨーロッパ言語共通参照枠CEFRではB1程度）を目指します。
履修資格	【ロシア語】 人文学部において言語文化学プログラムを希望する学生、および創生学部において「言語文化学領域学修科目パッケージ」を希望する学生は、履修に関して本マイナー・プログラム代表教員に事前に相談すること。 【ロシア語〈発展〉】 マイナー・プログラム「ロシア語」を修了、または履修中であること。
修了要件	【ロシア語】 次の条件を全て満たしていること。 ・区分Aから4単位以上、区分Bから4単位以上、合計12単位以上を修得していること。区分D, Eの科目は対象となりません。 ・学位プログラムが決定していること。 ・修了申請の際、学位プログラムが言語文化学プログラムの学生、および創生学部において「言語文化学領域学修科目パッケージ」を選択している学生は、本マイナー・プログラム代表教員に了承を得ること。 【ロシア語〈発展〉】 次の条件を全て満たしていること。 ・マイナー・プログラム「ロシア語」を修了していること。 ・区分Dから4単位以上、区分Eから2単位以上を含む合計12単位以上を修得していること。区分Aの科目は対象となりません。なお、区分B,Cの科目のうち、マイナー・プログラム「ロシア語」の修了要件として申請した科目を「ロシア語〈発展〉」に重複して申請することはできません。
その他特記事項	経済科学部生で学際日本学プログラムまたは地域リーダープログラムを専攻しようとするもの、及び専攻するものは教育基盤機構アカデミック・アドバイザー等に相談をすること。 ・マイナー・プログラム「ロシア語」を履修登録し、区分A,B,Cの科目を履修し、ロシア語の学びを進めてください。 ・さらに学びを深めたい学生は、マイナー・プログラム「ロシア語〈発展〉」を履修登録し、区分B, C, D, Eの科目を履修してください。なお、「ロシア語」を修了する前でも、区分D, Eの科目を履修することができます。

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
A	241G1017	ロシア語圏グローバル理解 1	1	第1ターム	水2	講義	主に1年次	71	03	60		
A	242G1018	ロシア語圏グローバル理解 1	1	第2ターム	水2	講義	主に1年次	71	03	60		
A	240G1542	ロシア語エッセンシャル A	2	第3,4ターム	火3,水3	演習	主に1年次	71	03	25		
A	244G1543	ロシア語エッセンシャル B	1	第4ターム	他	演習	主に1年次	71	03	25		
A	241G1098	ロシア語スタンダード IA	1.5	第1ターム	火2,水2,金2	演習	主に1年次	71	03	25		
A	242G1099	ロシア語スタンダード IB	1.5	第2ターム	火2,水2,金2	演習	主に1年次	71	03	25		
A	240G1541	ロシア語スタンダード II	3	第3,4ターム	火2,水2,金2	演習	主に1年次	71	03	25		
A	241G1096	ロシア語インテンシブ IA	2	第1ターム	月2,火2,木2,金2	演習	主に1年次	71	03	25		
A	242G1097	ロシア語インテンシブ IB	2	第2ターム	月2,火2,木2,金2	演習	主に1年次	71	03	25		
A	240G1540	ロシア語インテンシブ II	4	第3,4ターム	月2,火2,木2,金2	演習	主に1年次	71	03	25		
B	240G1100	コミュニケーション・ロシア語A	2	第1,2ターム	水3	演習	2年次以上	71	03	15		
B	240G1101	コミュニケーション・ロシア語B	2	第1,2ターム	木3	演習	2年次以上	71	03	15		
B	240G1544	コミュニケーション・ロシア語C	2	第3,4ターム	木3	演習	2年次以上	71	03	15		
B	240H3022	ロシア言語文化基礎演習A	2	第1,2ターム	木2	演習	2年次以上	29	13	20		
B		ロシア言語文化基礎演習B					2年次以上					
C		ロシア言語文化概説A					2年次以上					
C	240H2089	ロシア言語文化概説B	2	集中	他	講義	2年次以上	30	03	20		
C	244E6063	ロシア経済論	2	第4ターム	月3,木3	講義	2年次以上	36,33	04	150		
C	243E6064	比較経済体制論	2	第3ターム	月3,木3	講義	2年次以上	36	04	150		
C	240G7523	文学D	2	第3,4ターム	水4	講義		29	03	150		
D	240G1102	ロシア語セミナーA	2	第1,2ターム	水2	演習	3年次以上	71	04	15		
D	240G1545	ロシア語セミナーB	2	第3,4ターム	水4	演習	3年次以上	71	04	15		
D	240H5104	ロシア言語文化演習	2	第1,2ターム	火4	演習	3年次以上、複数開講、重複履修可	29,30	14	20		
D	240H5105	ロシア言語文化演習	2	第1,2ターム	金3	演習	3年次以上、複数開講、重複履修可	29,30	14	20		
D	240H5106	ロシア言語文化演習	2	第3,4ターム	火4	演習	3年次以上、複数開講、重複履修可	29,30	14	20		
D	240H5107	ロシア言語文化演習	2	第3,4ターム	金3	演習	3年次以上、複数開講、重複履修可	29,30	14	20		
E		ロシア文芸論					3年次以上					
E		ロシア言語文化論A					3年次以上					
E	240H4066	ロシア言語文化論B	2	集中	他	講義	3年次以上	29	04	40		
E	240H4067	ロシア言語文化論C	2	第1,2ターム	月5	講義	3年次以上	30	04	40		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

プログラム名称	中国語、および中国語<発展>
概要	【中国語】 初修外国語としての中国語に対する中級程度の学習習熟度を認定する。 【中国語<発展>】 初修外国語としての中国語に対する上級程度の学習習熟度を認定する。
履修資格	【中国語】 人文学部において言語文化学プログラムを希望する学生、および創生学部において「言語文化学領域学修科目パッケージ」を希望する学生は、履修に関して本マイナー・プログラム代表教員に事前に相談すること。 【中国語<発展>】 マイナー・プログラム「中国語」を修了、または履修中であること。
修了要件	【中国語】 次の条件を全て満たしていること。 ・区分Aから3単位以上、区分Bから4単位以上修得し、合計12単位を修得していること。 ・学位プログラムが決定していること。 ・修了申請の際、学位プログラムが人文学部において言語文化学プログラムの学生、および創生学部において「言語文化学領域学修科目パッケージ」を選択している学生は、本マイナー・プログラム代表教員に了承を得ること。 【中国語<発展>】 次の条件を全て満たしていること。 ・マイナー・プログラム「中国語」を修了していること。 ・区分Bから2単位以上、区分Cから6単位以上、合計12単位以上修得していること。なお、マイナー・プログラム「中国語」の修了要件として申請した科目を「中国語<発展>」に重複して申請することはできません。また、区分Aの科目は対象となりません。
その他特記事項	経済科学部生で学際日本学プログラムまたは地域リーダープログラムを専攻しようとするもの、及び専攻するものは教育基盤機構アカデミック・アドバイザー等に相談をすること。 ・マイナー・プログラム「中国語」からさらに学びを深めたい学生は、マイナー・プログラム「中国語〈発展〉」を履修登録し、区分B、C、Dの科目を履修してください。なお、「中国語」を修了する前でも、区分C、Dの科目を履修することができます。

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
A	240G1557	中国語エッセンシャル A（発音・文法）	2	第3,4ターム	火3,金3	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	25		
A	240G1558	中国語エッセンシャル A（発音・文法）	2	第3,4ターム	月1,木1	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	25		
A	240G1559	中国語エッセンシャル B（練習・会話）	1	第3,4ターム	水2	演習	1,2,3,4,5,6	71	03	25		
A	（全科目）	中国語スタンダードⅠ	3			演習		71	03			
A	（全科目）	中国語スタンダードⅡ	3			演習		71	03			
A	（全科目）	中国語インテンシブⅠ	4			演習		71	03			
A	（全科目）	中国語インテンシブⅡ	4			演習		71	03			
B	（全科目）	コミュニケーション中国語	2			演習		70	13			
B	240E6215	外国語文献講読Ⅱ	2	第3,4ターム	水2	演習	1,2,3,4,5,6	70	13	20		
B	240H2077	アジア言語文化概説A	2	第3,4ターム	金2	演習	2,3,4	29	03	20		
B	242G3243	中国留学準備講座　サマーセミナー中国入門	1	第2ターム	火3	講義	1,2,3,4,5,6	75,71	03	30		
C	240G1131	中国語セミナーE	2	第1,2ターム	水3	演習	1,2,3,4,5,6	71	04	15		
C	240G1132	中国語セミナーF	2	第1,2ターム	木4	演習	1,2,3,4,5,6	71	04	15		
C	240G1133	中国語セミナーQ	2	第1,2ターム	火4	演習	1,2,3,4,5,6	71	04	15		
C	240G1565	中国語セミナーG	2	第3,4ターム	水3	演習	1,2,3,4,5,6	71	04	15		
C	240G1566	中国語セミナーH	2	第3,4ターム	木4	演習	1,2,3,4,5,6	71	04	15		
C	240G1567	中国語セミナーN	2	第3,4ターム	金2	演習	1,2,3,4,5,6	71	04	15		
C	240H2078	アジア言語文化概説B	2	第3,4ターム	火4	演習	2,3,4	29	03	20		
C	240H2095	アジア言語文化研究法B	2	第1,2ターム	火4	講義	2,3,4	30	13	15		
C	240H4051	アジア言語文化論A	2	第1,2ターム	金2		3,4	29,30	04	20		
C	240H4052	アジア言語文化論B	2	集中	他		3,4	29,30	04	20		
C	240H4053	中国言語文化論A	2	第3,4ターム	水3		3,4	29,30	04	20		
C	休講	中国言語文化論B										
C	240G1564	上海語演習	2	第3,4ターム	水3	演習	1,2,3,4,5,6	71	04	15		
D	（全科目）	中国語圏グローバル理解	1			講義		71	03			
D	240H3014	アジア言語文化基礎演習	2	第1,2ターム	木3	演習	2,3,4	29,30	13	20		
D	240H2079	アジア言語文化概説C	2	第1,2ターム	月4	講義	2,3,4	29	03	20		
D	休講	中国文芸文化論B										
D	243H2040	アジア史概説	2	第3ターム	月3,木3	講義	2,3,4	31	03	50		
D	242H4042	アジア歴史文化論C	2	第2ターム	月3,月4	講義	3,4	31	04	50	○	
D	休講	環東アジア社会論	2									
D	241E6050	アジア経済論Ⅰ	2	第1ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	36	04	300	○	
D	休講	社会文化論基礎	2								○	
D	休講	比較宗教論	2								○	
D	休講	漢文学講義I	2								○	
D	240K5440	漢文学講義II	2	第3,4ターム	金4		1,2,3,4,5,6	29	04	150	○	
D	242L3613	領域関連特殊講義（中国政治基礎）	2	第2ターム	月1,月2	講義	1,2,3,4,5,6	35	03	150		
D	241L3610	中国政治入門	2	第1ターム	火3,火4	講義	2,3,4,5,6	35	03	20		
D	242L3611	領域関連特殊講義（現代中国政治入門）	2	第2ターム	火3,火4	講義	2,3,4,5,6	35	03	20		
D	242L3659	領域関連特殊講義（中国外交基礎）	2	第3ターム	火3,火4	講義	2,3,4,5,6	35	03	15		
D	244L3660	領域関連特殊講義（中国外交入門）	2	第4ターム	火3,火4	講義	2,3,4,5,6	35	03	40		
D	244L3904	Introduction to Japanese Politics and Diplomacy, Basic	2	第4ターム	月1,月2	講義	2,3,4,5,6	35	03	40		
D	242L3818	現代社会と法（現代中国社会・政治と法）	2	第2ターム	水1,水2	講義	3,4,5,6	34,35	04	150		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

プログラム名称	数学
概要	数学は古代に人類社会の発展のなかで生まれ、数千年の歴史の中で進化し深められ、精緻で壮大な知的体系を作り上げてきた。そしてその成果は多くの科学分野に応用されている。また近年のコンピュータの発展は、科学における数学・応用数学の位置を益々重要なものとしている。 現在では数学的手法は理工系の学問だけでなく人文科学、社会科学でも必須のものである。数学を学ぶことによって身につけることのできる「秩序立てた論理的思考力と問題解決能力」は、社会から非常に高く評価されているだけでなく、最も求められている能力といえる。 本プログラムで学ぶことにより数学の基礎的素養と、数学を実際に活用する態度を身につけることができる。
履修資格	
修了要件	次の条件をすべて満たしていること。 ・所定の授業科目について12単位以上を修得していること。 ・学位プログラムが決定していること。 ・学位プログラムが数学プログラムではないこと。 ・創生学部生で「数学領域学修科目パッケージ」を選択していないこと。
その他特記事項	理学部と創生学部の学生を優先的に聴講許可します。

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
	243S0544	微分積分学IA	1	第3ターム	金4	講義	1,2,3,4	41	03	160		
	244S0548	微分積分学IB	1	第4ターム	金4	講義	1,2,3,4	41	03	160		
	243S0547	集合と写像	1	第3ターム	月5	講義	1,2,3,4	41	03	70		
	241S0552	微分積分学IIA	2	第1ターム	火3,金3	講義	2,3,4	41	03	160		
	242S0555	微分積分学IIB	2	第2ターム	火3,金3	講義	2,3,4	41	03	160		
	241S0553	線形代数IIA	2	第1ターム	月2,木3	講義	2,3,4	41	03	160		
	242S0556	線形代数IIB	2	第2ターム	月2,木3	講義	2,3,4	41	03	160		
	243S1501	解析学序論A	1	第3ターム	金3	講義	2,3,4	41	03	70		
	244S1507	解析学序論B	1	第4ターム	金3	講義	2,3,4	41	03	70		
	243S1502	代数・幾何学序論A	1	第3ターム	月2	講義	2,3,4	41	03	70		
	244S1508	代数・幾何学序論B	1	第4ターム	月2	講義	2,3,4	41	03	70		
	243S1505	代数入門A	2	第3ターム	月4,火2	講義	2,3,4	41	04	70		
	244S1511	代数入門B	2	第4ターム	月4,火2	講義	2,3,4	41	04	70		
	243S1504	微分方程式論A	1	第3ターム	火3	講義	2,3,4	41	04	50		
	244S1510	微分方程式論B	1	第4ターム	火3	講義	2,3,4	41	04	50		
	241S1519	数値解析A	1	第1ターム	月4	講義	3,4	41	04	50		
	242S1529	数値解析B	1	第2ターム	月4	講義	3,4	41	04	50		
	241S1514	複素解析学IA	1	第1ターム	金2	講義	3,4	41	04	50		
	242S1524	複素解析学IB	1	第2ターム	金2	講義	3,4	41	04	50		
	243S1567	離散数学A	1	第3ターム	火2	講義	3,4	41	04	70		
	244S1568	離散数学B	1	第4ターム	火2	講義	3,4	41	04	70		
	244S1547	オペレーションズ・リサーチ実習	1	第4ターム	火5,金5	実習	3,4	41	04	50		
	243S0545	線形代数IA	1	第3ターム	木1	講義	1,2,3,4	41	03	160		
	244S0549	線形代数IB	1	第4ターム	木1	講義	1,2,3,4	41	03	160		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

プログラム名称	物理学
概要	1965年にノーベル物理学賞を受賞した朝永振一郎博士は、物理学について「自然界に起こる現象の奥に潜む法則を観察事実に照らして探求するもの」と述べている。朝永博士の受賞から50年以上が経ち、自然界には存在しなかった新元素や新素材をも含む文字通り「すべてのもの」が、いまでは物理学の探求対象となっている。様々な分野の基礎となる物理学を学ぶことで、自然現象から社会現象まで深く緻密に観察し、理解する能力を身に付けることができる。 そして、数学を用いて精密に体系化された物理学を系統的に学ぶことで、論理的な思考能力と能動的な問題解決能力の修得に繋がる。
履修資格	
修了要件	次の条件をすべて満たしていること。 ・所定の授業科目について12単位以上を修得していること。 ・学位プログラムが決定していること。 ・学位プログラムが物理学プログラムではないこと。 ・創生学部生で「物理学領域学修科目パッケージ」を選択していないこと。
その他特記事項	補足資料の「パッケージ型マイナー：物理学パッケージ履修モデル」を確認すること。 電磁気学IA, IB, IIA, IIBは令和４年度以前入学者対象の科目、電磁気学I(理), II(理)は令和５年度以降入学者対象の科目なので注意すること。

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
	242G6008	物理学への招待A	2	第2ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	120		
	240G6522	物理学への招待B	2	第3,4ターム	月4	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	120		
	241G5019	物理学基礎BⅠ	2	第1ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	150		
	241G5020	物理学基礎BⅠ	2	第1ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	150		
	241G5017	物理学基礎BⅠ	2	第1ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	150		
	241G5018	物理学基礎BⅠ	2	第1ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	140		
	242G5021	物理学基礎BⅠ	2	第2ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	100		
	240G5022	物理学基礎BⅠ	2	第1,2ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	150		
	244G5512	物理学基礎BⅡ	2	第4ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	160		
	244G5513	物理学基礎BⅡ	2	第4ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	160		
	244G5514	物理学基礎BⅡ	2	第4ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	140		
	244G5515	物理学基礎BⅡ	2	第4ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	160		
	240G5024	物理学概論	2	第1,2ターム	金2	講義	1,2,3,4,5,6	43	02	200		
	240G5517	物理学概論	2	第3,4ターム	水1	講義	1,2,3,4,5,6	43	02	180		
	243S0559	基礎物理数学	2	第3ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4	43	03	70		※1
	244S0560	基礎ベクトル解析	2	第4ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4	43	03	70		※1
	240S0558	解析力学	2	第1,2ターム	火4	講義	2,3,4	43	03	70		※1
	241S2507	電磁気学IA	1	第1ターム	月4	講義	2,3,4	43	04	70		※1,2
	242S2508	電磁気学IB	1	第2ターム	月4	講義	2,3,4	43	04	70		※1,2
	240S2560	電磁気学I（理）	2	第1,2ターム	月4	講義	2,3,4	43	43	70		※1,3
	243S2509	電磁気学IIA	1	第3ターム	月5	講義	2,3,4	43	04	70		※1,2
	244S2510	電磁気学IIB	1	第4ターム	月5	講義	2,3,4	43	04	70		※1,2
	240S2561	電磁気学II（理）	2	第3,4ターム	月5	講義	2,3,4	43	04	70		※1,3
	243S2520	熱力学A	1	第3ターム	木1	講義	2,3,4	43	03	70		※1
	244S2521	熱力学B	1	第4ターム	木1	講義	2,3,4	43	03	70		※1
	243S2515	量子力学序論A	1	第3ターム	月4	講義	2,3,4	43	03	70		※1
	244S2516	量子力学序論B	1	第4ターム	月4	講義	2,3,4	43	03	70		※1
	241S2530	特殊相対論A	1	第1ターム	水1	講義	3,4	43	04	70		※1
	242S2531	特殊相対論B	1	第2ターム	水1	講義	3,4	43	04	70		※1

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。また、定員等の関係で履修できない科目もあります。
※2　令和４年度以前入学者対象の科目です。　※3　令和５年度以降入学者対象の科目です。

備考　1）理学部・創生学部の学生を優先的に聴講許可します
　　2）オナーズ型マイナー履修者の聴講許可を優先することがあります

マイナー・プログラム「物理学」履修モデル（必要単位数：12単位）

■ 履修計画上の注意点：

物理学は「積み上げ式」の学問であり，各科目をきちんと理解するには履修する順番が重要となります。
次の注意事項および各科目シラバスの「登録のための条件 (注意)」を確認の上，履修計画を立ててください。
また，下記にある履修モデルも参考にしてください。

・科目名と履修順序：科目名に I, II, A, B を含むものは「I → II」及び「A → B」の順に受講すること
(但し，「物理学への招待」は除く。)
・解析力学：「物理学基礎 BI, BII」の履修後に受講すること
・電磁気学：「基礎物理数学」や「基礎ベクトル解析」が履修済であることが望ましい
・熱力学：「物理学基礎 BI, BII」が履修済であること，微積分の基礎数学が習得されていることが望ましい
・量子力学序論：「物理学基礎 BI, BII」や「解析力学」が履修済であることが望ましい
・特殊相対論：「物理学基礎　　BI,　　BII」や「電磁気学」が履修済であることが望ましい
（但し，特殊相対論は，市民向けに開放される授業科目でもあり入門的な内容となっています。）

■ 参考情報：

物理学プログラムでは，1年次(物理学基礎・基礎物理数学・基礎ベクトル解析)，2年次(解析力学・電磁気学・熱力学・量子力学序論)，3年次(量子力学・統計力学)という流れで主要な科目群の履修が進められています。

履修モデル①（基礎・入門：力学 ~ 相対論 12単位）

	1年目	2年目	3年目	4年目
第1ターム		物理学基礎 BI (2)	特殊相対論 A (1)	
第2ターム		物理学への招待A (2)	特殊相対論 B (1)	
第3ターム	基礎物理数学 (2)			
第4ターム	物理学への招待 B (2)	物理学基礎 BII (2)		

履修モデル②（力学 ~ 電磁気学 ~ 相対論 12単位）

	1年目	2年目	3年目	4年目
第1ターム	物理学基礎 BI (2)	電磁気学 I（理）(2)	特殊相対論 A (1)	
第2ターム			特殊相対論 B (1)	
第3ターム	基礎物理数学 (2)			
第4ターム	基礎ベクトル解析 (2) 物理学への招待 B (2)			

履修モデル③（力学 ~ 量子力学序論 12単位）

	1年目	2年目	3年目	4年目
第1ターム		物理学基礎 BI (2)	解析力学 (2)	
第2ターム				
第3ターム	基礎物理数学 (2)		量子力学序論 A (1)	
第4ターム	物理学への招待 B (2)	物理学基礎 BII (2)	量子力学序論 B (1)	

プログラム 名　　称	化学
概　　要	近年の科学技術の急速な発展に伴う社会の要請に応えるため、化学とそれに関連した自然科学の諸分野に強い興味を持ち、化学の基本的な知識を根底にした幅広い理解力と応用力を身に付けた柔軟かつ独創性のある人材を育成する。 専門科目は化学の基幹分野である分析化学、無機化学、有機化学、物理化学、量子化学に加えて、境界領域である生物科学分野および物性科学分野の内容もカバーしている。 また、持続可能な社会の実現を目指した環境調和型化学（グリーン・サステイナブルケミストリー）の教育・研究にも力を入れている。
履修資格	
修了要件	次の条件をすべて満たしていること。 ・所定の授業科目について12単位以上を修得していること。 ・学位プログラムが決定していること。 ・学位プログラムが化学プログラムではないこと。 ・創生学部生で「化学領域学修科目パッケージ」を選択していないこと。
その他 特記事項	

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
	241G5025	化学基礎Ａ	2	第1ターム	月4,木4	講義	1,2,3,4,5,6	46	03	150		
	242G5027	化学基礎Ａ	2	第2ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	46	03	150		
	242G5026	化学基礎Ａ	2	第2ターム	火4,金4	講義	1,2,3,4,5,6	46	03	150		
	243G5518	化学基礎Ａ	2	第3ターム	火4,金4	講義	1,2,3,4,5,6	46	03	150		
	241G5028	化学基礎Ｂ	2	第1ターム	火4,金4	講義	1,2,3,4,5,6	46	03	150		
	242G5029	化学基礎Ｂ	2	第2ターム	月4,木4	講義	1,2,3,4,5,6	46	03	150		
	244G5519	化学基礎Ｂ	2	第4ターム	火4,金4	講義	1,2,3,4,5,6	46	03	240		
	休講	化学基礎Ｃ										
	休講	グリーンケミストリー入門										
	休講	グリーンケミストリー概説										
	240G6523	生活の化学	2	第3,4ターム	水2	講義	1,2,3,4,5,6	46	03	150		
	243G6508	社会を支える有機化学	2	第3ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	46	03	150		
	244S0561	分析化学I	2	第4ターム	月1,木1	講義	1,2,3,4	46	03	100		
	243S3562	分析化学Ⅱ	2	第3ターム	火1,金1	講義	2,3,4	46	04	46		
	243S0562	無機化学I	2	第3ターム	月1,木1	講義	1,2,3,4	46	03	100		
	244S0563	有機化学I	2	第4ターム	月2,木2	講義	1,2,3,4	46	03	60		
	243S0564	化学熱力学	2	第3ターム	月2,木2	講義	1,2,3,4	46	03	60		
	240S0565	生体分子化学I	2	第1,2ターム	火3	講義	2,3,4	46	03	60		
	241S3527	基礎機器分析	2	第1ターム	月2,木2	講義	3,4	46	03	60		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

プログラム 名　　称	生物学
概　　要	本プログラムでは、これまでに蓄積されてきた生物学の知見や技術的背景を確実に学習するとともに、現代生物学の成果とその応用のあり方について探究し、持続可能な社会の構築に貢献できる人材の育成を目標とする。具体的には，次の様な知識の習得と理解をめざす。 ・細胞とは何か、どのようにして機能が維持されるか ・遺伝子の機能と遺伝のしくみ、生命現象を支える生体分子の特徴 ・個体がどのようにできあがっていくか、生物がどのようにして進化し、多様な生物種ができたか ・動物および植物の構造と機能 ・生物はどのように環境に応答しながら恒常性を維持するのか
履修資格	
修了要件	次の条件をすべて満たしていること。 ・所定の授業科目について12単位以上を修得していること。 ・学位プログラムが決定していること。 ・学位プログラムが生物学プログラムではないこと。 ・創生学部生で「生物学領域学修科目パッケージ」を選択していないこと。
その他 特記事項	

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
	241G5031	生物学基礎Ａ	2	第1ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	57	03	150		1
	241G5030	生物学基礎Ａ	2	第1ターム	水4,水5	講義	1,2,3,4,5,6	57	03	150		1
	242G5032	生物学基礎Ａ	2	第2ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4,5,6	57	03	150		1
	243G5520	生物学基礎Ａ	2	第3ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4,5,6	57	03	150		1
	240G5033	生物学基礎Ａ	2	第1,2ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	57	03	150		1
	241G5034	生物学基礎Ｂ	2	第1ターム	月2,木2	講義	1,2,3,4,5,6	57	03	150		2
	242G5035	生物学基礎Ｂ	2	第2ターム	月3,木3	講義	1,2,3,4,5,6	57	03	150		2
	243G5521	生物学基礎Ｂ	2	第3ターム	月2,木2	講義	1,2,3,4,5,6	57	03	150		2
	240G5522	生物学基礎Ｂ	2	第3,4ターム	水5	講義	1,2,3,4,5,6	57	03	150		2
	243G6509	生物学－動物Ａ－	2	第3ターム	金3,金4	講義	1,2,3,4,5,6	57	03	150		
	242G6015	生物学－植物A－	2	第2ターム	月1,木1	講義	1,2,3,4,5,6	57	03	150		3
	244G6518	生物学－生物多様性A－	2	第4ターム	月3,木3	講義	1,2,3,4,5,6	57	03	200		
	243S0566	基礎細胞遺伝学	2	第3ターム	月4,月5	講義	1,2,3,4	57	03	60		4
	244S0567	基礎細胞生物学	2	第4ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4	57	03	50		4
	241S0568	基礎植物学	2	第1ターム	火2,金2	講義	2,3,4	57	03	50		4
	休講	生命科学のための基礎化学										4
	241S0570	基礎生物化学	2	第1ターム	月3,木3	講義	2,3,4	57	03	50		4
	休講	植物生理学I										4
	242S4502	動物生理学I	2	第2ターム	火2,金2	講義	2,3,4	57	04	50		4
	243S4505	発生生物学I	2	第3ターム	火1,金1	講義	2,3,4	57	04	50		4
	242S4511	生物化学I（理）	2	第2ターム	火2,金2	講義	3,4	57	04	50		4

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

備考　1）2単位のみ認定、2）2単位のみ認定、3）「基礎植物学」の重複履修を許可しない

4）理学部・創生学部学生を優先的に聴講許可

プログラム 名　　称	自然環境科学
概　　要	自然環境と人間の好ましい共存関係を探求するには、理学全般、すなわち物理学・化学・生物学・地学の基礎学力を身に付け、自然現象を多角的な視点から総合的に理解する能力を培うことが必要である。 本プログラムでは、多様で複雑な自然現象のメカニズムを正しく理解するための基礎学力を身に付け、地球規模での様々な問題に取り組むことのできる広い応用力・問題解決能力を備えた人材育成を目指す。
履修資格	
修了要件	次の条件をすべて満たしていること。 ・所定の授業科目について12単位以上を修得していること。 ・学位プログラムが決定していること。 ・学位プログラムが自然環境科学プログラムではないこと。 ・創生学部生で「自然環境科学領域学修科目パッケージ」を選択していないこと。
その他 特記事項	理学部と創生学部の学生を優先的に聴講許可します。

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
	242S0585	多様性生物学Ｂ	2	第2ターム	火3,金3	講義	2,3,4	57	04	40		
	休講	機能形態学Ａ										
	243S6506	機能形態学Ｂ	2	第3ターム	火2,金2	講義	2	57	04	40		
	244S0561	分析化学I	2	第4ターム	月1,木1	講義	1,2,3,4	46	03	100		
	241S0579	物質反応化学	2	第1ターム	火2,金2	講義	2,3,4	46	04	70		
	242S0582	基礎量子力学	2	第2ターム	月1,木1	講義	2,3,4	43	04	80		
	244S6505	物質科学Ｂ	2	第4ターム	月2,木2	講義	2,3,4	43	04	50		
	243S0562	無機化学I	2	第3ターム	月1,木1	講義	1,2,3,4	46	03	100		
	240S6513	物質科学Ａ	2	第3,4ターム	水2	講義	3,4	43	04	50		
	244S6502	地形学	2	第4ターム	月4,木4	講義	2,3,4	44	04	70		
	243S6508	生態学	2	第3ターム	月2,木2	講義	2,3,4	57	04	60		
	241S0581	環境気象学	2	第1ターム	火3,金3	講義	2,3,4	44	04	40		
	243S7544	フィールド惑星科学概論	2	第3ターム	月1,木1	講義	3,4	44	03	20		
	244G6520	地球と気象	2	第4ターム	火4,金4	講義	1,2,3,4,5,6	44	03	150		
	241G5015	物理学基礎ＡⅠ	2	第1ターム	木1,木2	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	150		
	240G5016	物理学基礎ＡⅠ	2	第1,2ターム	月5	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	80		
	240G5024	物理学概論	2	第1,2ターム	金2	講義	1,2,3,4,5,6	43	02	200		
	240G5517	物理学概論	2	第3,4ターム	水1	講義	1,2,3,4,5,6	43	02	180		
	244G5524	地学基礎Ｃ	2	第4ターム	月1,木1	講義	1,2,3,4,5,6	44	03	250		
	241G5013	統計学基礎1	1	第1ターム	月5	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
	241G5011	統計学基礎1	1	第1ターム	水1	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	160		
	243G5509	統計学基礎1	1	第3ターム	月5	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
	243G5507	統計学基礎1	1	第3ターム	火5	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
	242G5012	統計学基礎2	1	第2ターム	月5	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
	242G5014	統計学基礎2	1	第2ターム	水1	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	160		
	244G5510	統計学基礎2	1	第4ターム	月5	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
	244G5508	統計学基礎2	1	第4ターム	火5	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

プログラム 名　　称	機械システム工学
概　　要	本プログラムは、ものづくりの基幹である機械工学分野の教育プログラムである。当該分野に関連した基礎的および応用・学際的な内容について学習することにより、多様な観点に基づいてものづくりを主体的・実践的に行うための能力を修得することを目標としている。 具体的には，以下についての基礎的な能力を身につけることを目標とする。 ・機械を構成する部品の強度について評価することができる。 ・機械を構成する部品の機能（流体力学的、熱力学的）が理解できる。 ・機械の振動特性について理解することができる。 ・その外、機械工学に関する基礎的な理論，技術を理解することができる。
履修資格	
修了要件	次の条件をすべて満たしていること。 ・所定の授業科目について12単位以上を修得していること。 ・学位プログラムが決定していること。 ・学位プログラムが機械システム工学プログラムおよび協創経営プログラムではないこと。 ・創生学部生で「機械システム工学領域学修科目パッケージ」を選択していないこと。
その他 特記事項	

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
	243T0103	機械工学概論	2	第3ターム	月4,木4	講義	1,2,3,4,5,6	50	03	170		
	244T0105	材料力学入門	2	第4ターム	月3,木3	講義	1,2,3,4,5,6	49	03	170		
	241T1005	材料力学I	2	第1ターム	火1,金1	講義・演習	2,3,4,5,6	50	04	120		
	243T1028	材料力学II	2	第3ターム	月2,木2	講義・演習	2,3,4,5,6	50	04	90		
	242T1006	流体工学I	2	第2ターム	月1,木1	講義・演習	2,3,4,5,6	50	04	70		
	242T1007	流体工学I	2	第2ターム	月1,木1	講義・演習	2,3,4,5,6	50	04	70		
	243T1029	流体工学II	2	第3ターム	月1,木1	講義・演習	2,3,4,5,6	50	04	120		
	244T1012	熱工学I	2	第3ターム	月4,木4	講義	1,2,3,4,5,6	50	03	170		
	244T1013	熱工学I	2	第4ターム	月2,木2	講義・演習	2,3,4,5,6	50	04	60		
	241T1031	熱工学II	2	第1ターム	火2,金2	講義・演習	3,4,5,6	50	04	100		
	244T1014	機械力学I	2	第4ターム	月1,木1	講義・演習	2,3,4,5,6	50	04	100		
	241T1033	機械力学II	2	第1ターム	月5,木5	講義・演習	3,4,5,6	50	04	100		
	241T1008	工業力学	2	第1ターム	月2,木2	講義	2,3,4,5,6	49,43	04	120		
	242T1027	加工学	2	第2ターム	月2,木2		2,3,4,5,6	50	04	110		
	241T1026	機械設計I	2	第1ターム	月4,木4	講義	2,3,4,5,6	50	04	100		
	242T1030	機械設計II	2	第2ターム	月3,木3	講義	2,3,4,5,6	50	04	110		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

プログラム名称	社会基盤工学
概要	社会基盤工学は、私たちの生活や産業活動を支える道路や鉄道、港湾などの交通・物流施設や上下水道などのライフラインの構築、維持・管理に加え、自然災害から生命と地域を守る河川堤防などの防災施設を整備するための知識と理論を学ぶ分野である。近年老朽化が進んで問題となっている施設の更新や長寿命化の技術は、人口減の低成長下での持続可能な社会構築への重要な役割が期待されている。猛威を振るう自然災害を対象とした防災技術に対する要求も高まっている。本プログラムでは、そのような社会の要請に応える技術のベースとなる応用力学、水工学、地盤工学、コンクリート工学等に関する基礎知識を学修し、まちづくりを理解し、測量や設計、製図の技法を習得する。
履修資格	
修了要件	次の条件をすべて満たしていること。 ・所定の授業科目について12単位以上を修得していること。 ・学位プログラムが決定していること。 ・学位プログラムが社会基盤工学プログラムおよび協創経営プログラムではないこと。 ・創生学部生で「社会基盤工学領域学修科目パッケージ」を選択していないこと。
その他特記事項	

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
	244T0104	社会基盤工学概論	2	第4ターム	月4,木4	講義	1,2,3,4,5,6	52	03	170		
	244T0105	材料力学入門	2	第4ターム	月3,木3	講義	1,2,3,4,5,6	49	03	170		
	242T2006	応用力学I	2	第2ターム	月3,木3	講義	2,3,4,5,6	52	03	60		
	243T2018	応用力学II	2	第3ターム	月3,木3	講義	2,3,4,5,6	52	04	50		
	242T2017	応用力学演習I	2	第2ターム	月4,木4	演習	2,3,4,5,6	52	03	50		
	243T2019	応用力学演習II	2	第3ターム	月4,木4	演習	2,3,4,5,6	52	03	50		
	242T2020	建設材料学	2	第2ターム	月2,木2	講義	2,3,4,5,6	52	03	50		
	244T2007	コンクリート工学Ⅰ	2	第4ターム	月1,木1	講義	2,3,4,5,6	52	03	60		
	241T2021	コンクリート工学Ⅱ	2	第1ターム	水1,水2	講義	3,4,5,6	52	03	50		
	243T2008	地盤工学I	2	第3ターム	水1,水2	講義	2,3,4,5,6	52	03	60		
	244T2023	地盤工学II	2	第4ターム	水1,水2	講義	2,3,4,5,6	52	04	50		
	242T2009	基礎水理学	2	第2ターム	金1,金2	講義	2,3,4,5,6	52	03	60		
	243T2025	水理学及び演習I	2	第3ターム	火2,金2	講義	2,3,4,5,6	52	04	50		
	244T2029	測量学（工）	2	第4ターム	火2,金2	講義	2,3,4,5,6	52	03	50		
	241T2027	社会基盤製図	2	第1ターム	水1,水2	講義	2,3,4,5,6	52	03	50		
	241T2012	社会基盤設計基礎	2	第1ターム	月1,月2,木1,木2	演習	2,3,4,5,6	52	03	50		
	241T2001	社会基盤応用数理及び演習I	2	第1ターム	火3,金3	講義	2,3,4,5,6	49	04	50		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

プログラム 名　　称	電子情報通信
概　　要	豊かな未来社会を築くために、様々な産業分野において多方面から電子情報通信工学の技術が求められている。本プログラムは、幅広い科学技術分野に対応した知識と応用力、産業の更なる発展を牽引できる創造性を兼ね備えた人材育成を目指しています。このように、カリキュラムに沿った学修で国際的に活躍できる技術者としての資質を理解してもらいます。
履修資格	
修了要件	次の条件をすべて満たしていること。 ・所定の授業科目について12単位以上を修得していること。 ・学位プログラムが決定していること。 ・学位プログラムが電子情報通信プログラムおよび協創経営プログラムではないこと。 ・創生学部生で「電子情報通信領域学修科目パッケージ」を選択していないこと。
その他 特記事項	

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
	243T0201	電子情報通信概論	1	第3ターム	木1	講義	1,2,3,4,5,6	51,10,49	03	250		
	243T0202	知能情報システム概論	1	第3ターム	木2	講義	1,2,3,4,5,6	49,10	03	250		
	241T3020	プログラミングＢI	2	第1ターム	金1,金2	演習・講義・実習	2,3,4,5,6	51	04	80		
	242T3021	プログラミングＢII	2	第2ターム	木1,木2	演習・講義・実習	2,3,4,5,6	51	04	80		
	241T3051	電気回路I	3	第1ターム	月1,月2, 木1,木2		2,3,4,5,6	51	04	90		
	243T3052	電気回路II	3	第3ターム	火3,火4, 金3,金4		2,3,4,5,6	51	04	90		
	241T3025	電気回路III	2	第1ターム	水1,水2	講義	3,4,5,6	51	04	100		
	242T4002	電気数理I	2	第2ターム	月1,木1	講義	2,3,4,5,6	49	03	90		
	242T3004	電気数理I	2	第2ターム	火4,金4	講義	2,3,4,5,6	51	03	80		
	244T3005	電気数理II	2	第4ターム	水1,水2	講義	2,3,4,5,6	51	03	80		
	244T7003	電気数理II	2	第4ターム	水1,水2	講義	2,3,4,5,6	49	14	60		
	244T4006	電気数理II	2	第4ターム	水1,水2	講義	2,3,4,5,6	49	03	40		
	242T4007	物理工学II	2	第2ターム	火1,金1	講義	3,4,5,6	43	03	90		
	242T3006	物理工学II	2	第2ターム	火2,金2	講義	2,3,4,5,6	49	03	80		
	243T3026	電気計測	2	第3ターム	月3,月4	講義	2,3,4,5,6	51	04	90		
	242T3022	ディジタル回路	2	第2ターム	水1,水2	講義	2,3,4,5,6	51	04	100		
	244T3033	電子デバイスI	2	第4ターム	月1,木2	講義	2,3,4,5,6	51	04	80		
	243T3007	物理工学III	2	第3ターム	火2,金2	講義	2,3,4,5,6	49	03	80		
	243T4008	物理工学III	2	第3ターム	火2,金2	講義	3,4,5,6	43	03	40		
	244T3008	物理工学IV	2	第4ターム	火1,金1	講義	2,3,4,5,6	49	03	80		
	244T4009	物理工学IV	2	第4ターム	火1,金1	講義	3,4,5,6	43	03	40		
	244T7029	電子回路	2	第4ターム	月4,木3	講義	2,3,4,5,6	51	24	70		
	244T3027	電子回路	2	第4ターム	木3,木4	講義	2,3,4,5,6	51	04	100		
	243T3035	電子物性工学I	2	第3ターム	火3,金3	講義	3,4,5,6	51	04	100		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

プログラム 名　　称	知能情報システム
概　　要	本プログラムでは、知能情報システムと地球・人間・社会との関わり合いの中で生じている様々な課題を解決するために、プログラミング、ソフトウェア、ハードウェア、ネットワーク等の知能情報システム分野の技術・知識を幅広く身につけることを目指す。
履修資格	
修了要件	次の条件をすべて満たしていること。 ・所定の授業科目について12単位以上を修得していること。 ・学位プログラムが決定していること。 ・学位プログラムが知能情報システムプログラムおよび協創経営プログラムではないこと。 ・創生学部生で「知能情報システム領域学修科目パッケージ」を選択していないこと。
その他 特記事項	

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
	243T0201	電子情報通信概論	1	第3ターム	木1	講義	1,2,3,4,5,6	51,10,49	03	250		
	243T0202	知能情報システム概論	1	第3ターム	木2	講義	1,2,3,4,5,6	49,10	03	250		
	242T4021	データ構造とアルゴリズム	2	第2ターム	金1,金2	講義	2,3,4,5,6	10	04	110		
	241T4023	離散数学	2	第1ターム	金1,金2	講義	2,3,4,5,6	10	04	110		
	243T0205	プログラミング基礎Ⅰ	2	第3ターム	火3,火4	演習・講義・実習	1,2,3,4,5,6	10	03	200		
	244T0206	プログラミング基礎Ⅱ	2	第4ターム	火3,火4	演習・講義・実習	1,2,3,4,5,6	10	03	200		
	243T4024	論理回路	2	第3ターム	水1,水2	講義	2,3,4,5,6	10	04	90		
	243T4026	形式言語とオートマトン	2	第3ターム	火1,金1	講義	2,3,4,5,6	10	04	90		
	243T4050	人工知能基礎	2	第3ターム	月2,木2		2,3,4,5,6	10	04	90		
	241T4029	信号処理	2	第1ターム	水1,水2	講義	3,4,5,6	51	04	90		
	241T4033	データ工学	2	第1ターム	月3,月4	講義	3,4,5,6	10	04	70		
	244T4027	オペレーティングシステム	2	第4ターム	水3,水4	講義	2,3,4,5,6	10	04	100		
	244T4045	アシスティブ・テクノロジー	2	第4ターム	水1,水2	講義	3,4,5,6	10	04	70		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

プログラム 名　　称	化学システム工学
概　　要	工学系の化学は、エネルギー資源やあらゆる分野で必要とされる材料を創製・供給すること、および環境汚染を防止し、環境を修復することにより人類の安全、健康、福祉に貢献する使命を担っている。このような社会的要請に応えるために、本学科では、ナノテクノロジーを駆使した新物質や新材料の開発および生産工程に関与する技術者・研究者の養成をめざして、バイオ、環境、エネルギー関連を含めた化学的生産に関する基礎から応用まで幅広い教育研究を行っている。 入学から２年第１学期を中心として、化学技術者・研究者としての基盤を養成する。２年第２学期より、応用化学コースと化学工学コースの二つのコースを設け、技術者としての共通基盤に加えてさらに専門的な知識・技能を修得させ、専門的問題解決能力を養成するための少人数教育を行う。応用化学コースでは、新物質・新素材の設計開発ならびに合成・分析手法の確立に中心的な役割を果たす化学技術者・研究者を養成する。化学工学コースでは、材料・製品の開発から工業的生産、廃棄物処理に至るまでの要素技術やプロセスの開発と操作に中心的な役割を果たす化学技術者・研究者を養成する。
履修資格	
修了要件	次の条件をすべて満たしていること。 ・所定の授業科目について12単位以上を修得していること。 ・学位プログラムが決定していること。 ・学位プログラムが化学システム工学プログラムおよび協創経営プログラムではないこと。 ・創生学部生で「化学システム工学領域学修科目パッケージ」を選択していないこと。
その他 特記事項	

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
	241T5016	無機化学	2	第1ターム	火5,金5	講義	2,3,4,5,6	47	04	100		
	241T5012	有機化学（工）	2	第1ターム	月2,木2	講義	2,3,4,5,6	47	04	100		
	242T5015	分析化学（工）	2	第2ターム	火1,金1	講義	2,3,4,5,6	47	04	100		
	244T5040	物理化学II	2	第4ターム	火2,金2	講義	2,3,4,5,6	47	04	100		
	243T5029	計測化学I	2	第3ターム	火3,金3	講義	2,3,4,5,6	47	04	120		
	241T5001	高分子化学概論	2	第1ターム	火1,金1	講義	2,3,4,5,6	47	04	100		
	241T5042	無機工業化学	2	第1ターム	月1,木1	講義	3,4,5,6	47	04	70		
	243T0303	化学工学基礎	2	第3ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4,5,6	55,54	04	170		
	241T5013	反応工学I	2	第1ターム	水1,水2	講義	2,3,4,5,6	55	04	100		
	242T5014	拡散操作I	2	第2ターム	月1,木1	講義	2,3,4,5,6	55	04	100		
	243T5022	物理化学I	2	第3ターム	月2,木2	講義	2,3,4,5,6	47	04	100		
	243T5048	プロセス制御	2	第3ターム	水1,水2	講義	3,4,5,6	55	03	100		
	242T5023	移動論基礎	2	第2ターム	水1,水2	講義	2,3,4,5,6	55	04	100		
	242T5002	基礎物理化学	2	第2ターム	月2,木2	講義	2,3,4,5,6	47	04	100		
	244T5065	高分子化学A	2	第4ターム	火1,金1	講義	2,3,4,5,6	47	04	90		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

プログラム 名　　称	材料科学
概　　要	多様化する産業構造とそのニーズに対応するために、工学を俯瞰する広い視点と基礎的な材料科学を身に付けた人材を育成する。すなわち、複雑化した工学ならびに材料科学の課題から問題点を抽出して解決できる人材の育成を目指す。
履修資格	
修了要件	次の条件をすべて満たしていること。 ・所定の授業科目について12単位以上を修得していること。 ・学位プログラムが決定していること。 ・学位プログラムが材料科学プログラムおよび協創経営プログラムではないこと。 ・創生学部生で「材料科学領域学修科目パッケージ」を選択していないこと。
その他 特記事項	

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
	244T0301	基礎無機化学	2	第4ターム	月5,木5	講義	1,2,3,4,5,6	47,54	03	170		
	243T0302	基礎有機化学	2	第3ターム	月5,木5	講義	1,2,3,4,5,6	47,54	03	170		
	241T6004	基礎電磁気学	2	第1ターム	月2,木2	講義	2,3,4,5,6	54	04	68		
	243T6006	基礎量子力学（工）	2	第3ターム	月2,木2	講義	2,3,4,5,6	54	04	68		
	244T6007	基礎統計物理	2	第4ターム	火4,金4	講義	2,3,4,5,6	54	04	68		
	242T6008	基礎材料物理化学	2	第2ターム	月5,木5	講義	2,3,4,5,6	54	04	68		
	242T6009	基礎材料組織学	2	第2ターム	火1,金1	講義	2,3,4,5,6	54	04	68		
	243T6017	受動電気回路素子論	2	第3ターム	水1,水2	講義	2,3,4,5,6	54	04	68		
	243T6025	材料分析化学	2	第3ターム	月4,木4	講義	2,3,4,5,6	54	04	68		
	244T6028	高分子科学	2	第4ターム	月4,木4	講義	2,3,4,5,6	54	04	68		
	244T6031	工業生化学	2	第4ターム	月2,木2	講義	2,3,4,5,6	54	04	68		
	243T6003	物理数学	2	第3ターム	火1,金1	講義	2,3,4,5,6	54	04	68		
	241T6005	基礎解析力学	2	第1ターム	火2,金2	講義	2,3,4,5,6	54	04	68		
	242T6035	計測工学	2	第2ターム	月3,木3	講義	3,4,5,6	54	04	68		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

プログラム 名　　称	建築学
概　　要	住宅、ビル、学校、劇場、図書館などの建築物と、その集合体である都市を計画・設計するための基礎知識を学ぶ。建築学が対象とする分野では、環境との調和や社会に関わる問題解決が必要とされ、工学的な知識、倫理、社会的関心など幅広い教養が求められる。将来、これらの素養を活かして、建築に関わるインテリア、不動産、環境など、多様な分野での活躍が可能となる。
履修資格	
修了要件	次の条件をすべて満たしていること。 ・所定の授業科目について12単位以上を修得していること。 ・学位プログラムが決定していること。 ・学位プログラムが建築学プログラムおよび協創経営プログラムではないこと。 ・創生学部生で「建築学領域学修科目パッケージ」を選択していないこと。
その他 特記事項	

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
	243T0401	建築学概論	2	第3ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	53	03	60		
	241T0418	建築構造解析学・演習I	2	第1ターム	月3,月4	講義・演習	2,3,4,5,6	53	03	55		
	242T0419	建築構造解析学・演習II	2	第2ターム	月3,月4	講義・演習	2,3,4,5,6	53	03	55		
	241T0441	日本建築史	2	第1ターム	火2,金2	講義	2,3,4,5,6	53	04	55		
	244T0448	近代建築史	2	第4ターム	火2,金2	講義	2,3,4,5,6	53	03	55		
	243T0414	建築計画学I	2	第3ターム	火2,金2	講義	2,3,4,5,6	53	03	55		
	242T0434	都市計画学I	2	第2ターム	火4,金4	講義	2,3,4,5,6	53	03	100		
	244T0435	都市計画学II	2	第4ターム	火4,金4	講義	2,3,4,5,6	53	04	120		
	241T0436	都市デザイン論	2	第1ターム	火4,金4	講義	3,4,5,6	53	04	80		
	243T0428	建築環境工学I	2	第3ターム	火3,金3	講義	2,3,4,5,6	53	03	55		
	241T0429	建築環境工学II	2	第1ターム	火2,金2	講義	3,4,5,6	53	04	55		
	241T0446	建築環境制御学I	2	第1ターム	火3,金3	講義	3,4,5,6	53	04	55		
	242T0427	建築材料	2	第2ターム	火3,金3	講義	2,3,4,5,6	53	03	55		
	241T0450	建築法規	2	第1ターム	火1,金1	講義	3,4,5,6	53	03	55		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

プログラム名称	生物資源科学・流域環境学
概要	植物ならびに動物の生産を基盤とした経済活動である農業の基礎知識を習得し、地球規模から見た現在の農業について理解する。 上流域の森林から中山間地を経て下流域の水田地帯に至る一連の流域における資源・環境・防災の諸問題を解決し、流域管理の視点を習得する。
履修資格	
修了要件	次の条件をすべて満たしていること。 ・所定の授業科目について12単位以上を修得していること。 ・学位プログラムが決定していること。 ・学位プログラムが生物資源科学プログラム及び流域環境学プログラムではないこと。 ・創生学部生で「生物資源科学・流域環境学領域学修科目パッケージ」を選択していないこと。
その他特記事項	

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
	240A5001	地域交流ｻﾃﾗｲﾄ実習	1	通年	他	実習	1,2,3,4	60	05	200		
	241A0098	食料資源経済学	2	第1ターム	月4,木4	講義	2,3,4	64	04	70		
	241A0156	資源植物生産学概論	2	第1ターム	月1,木1	講義	2,3,4	60	03	70		
	241A0157	資源動物科学概論	2	第1ターム	水1,水2	講義	2,3,4	66	03	70		
	242A0108	国際フードシステム論	2	第2ターム	月2,木2	講義	2,3,4	64	04	70		
	244A0158	作物学	2	第4ターム	月3,木3	講義	2,3,4	60	04	60		
	243A0101	植物病理学	2	第3ターム	月3,木3	講義	2,3,4	60	04	70		
	244A0159	果樹・蔬菜園芸学	2	第4ターム	火2,金2	講義	2,3,4	60	04	50		
	242A0155	植物育種学	2	第2ターム	火1,金1	講義	2,3,4	60	03	50		
	242A0025	動物遺伝学	2	第2ターム	金3,金4	講義	2,3,4	57	04	80		
	241A0133	農地と水利用	2	第1ターム	月2,木2	講義	2,3,4	65	03	70		
	243A0051	食料環境工学	2	第3ターム	火1,金1	講義	2,3,4	65	04	50		
	244A0054	精密農業工学	2	第4ターム	火3,火4	講義	2,3,4	65	04	90		
	244A0067	森林環境論	2	第4ターム	月2,木2	講義	2,3,4	62	04	70		
	241A0059	環境砂防学	2	第1ターム	火4,金4	講義	2,3,4	62	04	65		
	242A0131	フォレスター入門	2	第2ターム	月1,木1	講義	2,3,4	62	03	94		
	243A0062	流域環境GIS	2	第3ターム	火2,金2	講義	2,3,4	62,65	03	80		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

プログラム 名　　称	応用生命科学・食品科学
概　　要	微生物・植物・動物の生命現象を分子や細胞のレベルで理解し、生物の持つ様々な機能を開発・応用するための知識、人の健康維持を目指した食品および栄養に関する幅広い知識、人間生活や地球環境保全に関連の深い土壌の働きや植物生理と肥料および植物成分の科学的利用に関する知識を修得する。
履修資格	
修了要件	次の条件をすべて満たしていること。 ・所定の授業科目について12単位以上を修得していること。 ・学位プログラムが決定していること。 ・学位プログラムが応用生命科学プログラム及び食品科学プログラムではないこと。 ・創生学部生で「応用生命科学・食品科学領域学修科目パッケージ」を選択していないこと。
その他 特記事項	農学部・創生学部の学生を優先的に聴講許可します

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
	240A5001	地域交流ｻﾃﾗｲﾄ実習	1	通年	他	実習	1,2,3,4	60	05	200		
	242A0004	生物化学Ⅰ	2	第2ターム	月1,木1	講義	2,3,4	61,60,57	03	90		
	242A0005	微生物学	2	第2ターム	水1,水2	講義	2,3,4	61	03	100		
	241A0009	分析化学（農）	2	第1ターム	月1,木1	講義	2,3,4	61	04	80		
	242A0037	植物細胞工学	2	第2ターム	月1,木1	講義	3,4	60,61	05	70		
	242A0085	食品機能学	2	第2ターム	木1,木2	講義	2,3,4	61	04	90		
	242A0006	土壌学概論	2	第2ターム	火2,金2	講義	2,3,4	61	03	120		
	244A0012	植物成分化学	2	第4ターム	火2,金2	講義	2,3,4	61,62	04	70		
	242A0008	食品化学	2	第2ターム	火3,火4	講義	2,3,4	61	03	120		
	243A0047	動物栄養学	2	第3ターム	火2,金2	講義	2,3,4	61	03	80		
	243A0083	農産食品学	2	第3ターム	水1,水2	講義	2,3,4	61	03	100		
	244A0048	畜産食品学	2	第4ターム	火1,火2	講義	2,3,4	61	03	100		
	241A0082	食品衛生学	2	第1ターム	火1,火2	講義	3,4	61	03	120		
	241A0080	食品工学	2	第1ターム	月2,木2	講義	2,3,4	61	03	50		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

プログラム名　称	ヘルス・マネジメント
概　要	人々の健康の維持・増進、健康寿命の延伸に関心があり、国内外の地域コミュニティにおいて、生活環境、栄養や衛生習慣等の複眼的視点から、生活の質向上に貢献できる人材養成を意識したパッケージである。多様な活動の基盤となる「健康」を意識したコーディネーターとしての素養を持った人材育成を目指す。
履修資格	・学位プログラムが看護学、放射線技術科学、検査技術科学プログラムではないこと
修了要件	次の条件を全て満たしていること ・区分Aの必修科目2単位、区分Bの科目から10単位以上、合計12単位以上を修得していること
その他特記事項	履修資格がなくても履修を希望する場合は、本マイナー・プログラム代表者に事前に相談すること。

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
A	240M8020	保健学総合	2	第3,4ターム	金5	講義	1,2,3,4	82	13	160		1
B	240M8001	人体の構造と機能Ⅰ	2	第1,2ターム	月2	講義	1,2,3,4	80	23	160		
B	240M8012	人間工学論	2	第1,2ターム	月4	講義	1,2,3,4	56	03	150		
B	241M8158	国際看護学	1	第1ターム	金4	講義	1,2,3,4	85	14	90		
B	242M8326	基礎放射線医学	1	第2ターム	火5	講義	1,2,3,4	81	24	45		
B	242M8108	看護ケア論	1	第2ターム	金3	講義	1,2,3,4	85	24	90		
B	240M8002	人体の構造と機能Ⅱ	2	第3,4ターム	月5	講義	1,2,3,4	80	23	180		
B	240M8004	医療と画像技術	2	第3,4ターム	火4	講義	1,2,3,4	81	03	100		
B	240M8014	ケアの基本理念と実際	2	第3,4ターム	水4	講義	1,2,3,4	85	03	200		
B	240M8006	生活習慣と健康	2	第3,4ターム	木1	講義	2,3,4	82	03	160		2
B	243M8355	医用放射線技術の歴史	1	第3ターム	火5	講義	1,2,3,4	87	04	45		
B	243M8018	医療ボランティア論	1	第3ターム	水1	講義	2,3,4	81	03	160		2
B	243M8110	発達段階別対象論	1	第3ターム	木3	講義	1,2,3,4	85	24	90		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

備考　1）必修

2）旭町キャンパス開講。受講方法は要確認

プログラム名称	アグロ・フードアソシエーツ
概要	新潟県及び新潟市を初めとする県内市町村の産業や暮らしの改善に関心を持ち、地域に潜む課題解決や地域活性化及び産業振興に積極的に関与できる人材を本プログラムにおける新潟創生人材とする。その中でも「食・農と社会の関係性を科学的な視点で理解する素養を持った人材」の育成を目指す。
履修資格	
修了要件	区分A（新潟地域志向科目）から2単位以上、区分B（農・食関連科目）から4単位以上、区分C（実践科目群）から4単位以上、合計12単位以上を修得していること。
その他特記事項	

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
A	240G3203	キャリアデザイン	2	第1,2ターム	水4	講義	1,2,3,4,5,6	75,74	03	200		
A	240G3704	近世越後諸地域の歴史と社会	2	第3,4ターム	水5	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	150		
A	241G3205	ダブルホーム活動入門Ⅰ	1	第1ターム	火5,他	講義・演習	1,2,3,4,5,6	75,74	01	40		
A	241G3206	ダブルホーム活動入門Ⅰ	1	第1ターム	水5,他	講義・演習	1,2,3,4,5,6	75,74	01	40		
A	241G3207	ダブルホーム活動入門Ⅰ	1	第1ターム	木5,他	講義・演習	1,2,3,4,5,6	75,74	01	40		
A	242G3906	ダブルホーム活動入門Ⅱ	1	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75,74	01	120		
A	243G3701	新潟の農林業	2	第3ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	500		
A	240G3211	地域から文化を考える	2	第1,2ターム	月5	講義・実習	1,2,3,4,5,6	75	03	50		
A	240G3907	学校支援フィールドワークA（小学校）	2	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
A	240G3908	学校支援フィールドワークA（中学校）	2	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
A	240G3909	学校支援フィールドワークA（高等学校）	2	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
A	240G3910	学校支援フィールドワークB（小学校）	4	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
A	240G3911	学校支援フィールドワークB（中学校）	4	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
A	休講	新聞を体験する－新潟日報との連携授業－										
A	243G3714	トキをシンボルとした自然再生	2	第3ターム	月4,木4	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	90		
A	240G3933	表現プロジェクト演習Q	2	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
A	240S0536	科学・技術と社会	2	第1,2ターム	水3	講義	1,2,3,4	16	03	200		
A	240S0538	新素材の物性	2	第1,2ターム	水2	講義	2,3,4	46	04	60		
A	240S4523	臨海実習I	2	集中	他	実習	3,4	57	13	30		
A	240S5503	地質調査法実習I	2	集中	他	実習	2,3,4	44	13	30		
A	243S5504	地質調査法実習II	1	第3ターム	火3	実習	2,3,4	44	13	30		
A	240S5524	地質構造解析法	1	第1,2ターム	金2	講義	3,4	44	13	30		
A	240S5529	海洋生物学実験	1	集中	他	実験	2,3,4	44	13	16		
A	240S5538	環境地質学実習	1	集中	他	実習	3,4	44	13	30		
A	240S5541	応用地質学実習	1	集中	他	実習	3,4	44	13	30		
A	240S6530	環境生物学野外実習A	1	通年	他	実習	3,4	57	14	20		
A	240S6531	環境生物学野外実習B	1	通年	他	実習	2,3,4	57	14	12		
A	241S0526	地学基礎実習a	1	第1ターム	金3	実習	1,2,3,4	44	13	25		
A	241S0527	地学基礎実習a	1	第1ターム	金3		2,3,4			25		
A	242S0528	地学基礎実習a	1	第2ターム	水1	実習	1,2,3,4	44	13	25		
A	242S0529	地学基礎実習b	1	第2ターム	金3	実習	1,2,3,4	44	13	25		
A	243S0530	地学基礎実習b	1	第3ターム	水2	実習	1,2,3,4	44	13	25		
A	240S4503	系統動物学	2	集中	他	講義	2,3,4	57	04	30		
A	244S6532	環境生物学野外実習C	1	第4ターム	他	実習	2,3,4	57	14	20		
A	242T0434	都市計画学I	2	第2ターム	火4,金4	講義	2,3,4,5,6	53	03	100		
A	244T0435	都市計画学II	2	第4ターム	火4,金4	講義	2,3,4,5,6	53	04	120		
A	241T0436	都市デザイン論	2	第1ターム	火4,金4	講義	3,4,5,6	53	04	80		
A	243T0437	都市計画・デザイン演習	2	第3ターム	木4,木5	演習	3,4,5,6	53	13	55		
A	243T0409	建築設計製図I	2	第3ターム	水2,水3,水4,金4	実習	2,3,4,5,6	53	13	55		
A	241T0504	アントレプレナーシップ	2	第1ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	37	13	100		
A	243T0201	電子情報通信概論	1	第3ターム	木1	講義	1,2,3,4,5,6	51,10,49	03	250		
A	243A0045	醸造学	2	第3ターム	木3,木4	講義	3,4	61	05	70		
A	開講番号については、所属、次期別に区別され、また教育実習の中でも、本実習と事前事後実習で細分化しているため、省略します。	初等教育実習Ⅰ		集中	他	実習						
A		初等教育実習Ⅱ		集中	他	実習						
A		中等教育実習Ⅰ		集中	他	実習						
A		中等教育実習Ⅱ		集中	他	実習						
A		中等教育実習Ⅲ		集中	他	実習						
A	240L3801	新潟を学ぶ	2	第3,4ターム	木4	講義	1,2,3,4,5,6	34,35	03	70		
A	240L3807	新潟市の行政	2	第3,4ターム	火5	講義	2,3,4,5,6	34,35	03	250		
A	240E1218	公共経営特殊講義	2	第3,4ターム	月6	講義	1,2,3,4,5,6	37	14	50		
A	240E1253	公共経営特殊講義	2	第3,4ターム	火3	講義	1,2,3,4,5,6	37	14	20		
A	240E1217	公共経営特殊講義	2	第3,4ターム	水3	講義	1,2,3,4,5,6	37	14	20		
A	240E6217	特殊講義（新潟県の行財政）	2	第3,4ターム	水3	講義	1,2,3,4,5,6	36,37	04	400		
A	240M1102	医学入門	2	第3,4ターム	月3,月4	講義	1	80	13	140		
A	240M1408	臨床実習ⅠA	7	第2学期	他	実習	4,5	81	15	127		
A	240M1501	臨床実習ⅠB	15	第1学期	他	実習	5	81	15	127		
A	240M5165	公衆衛生看護学実習	2	第1,2ターム	他	実習	4	85	24	95		
A	240M5557	臨床検査実習	8	通年	他	実習	4	80	14	45		
A	243G8505	新潟発福祉学	2	第3ターム	水3,水4	講義	1,2,3,4,5,6	75,86	03	100		

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
A	241G8005	「食べる」	2	第1ターム	火3,火4	講義	1,2,3,4,5,6	90	03	50		
B	241A0157	資源動物科学概論	2	第1ターム	水1,水2	講義	2,3,4	66	03	70		
B	241A0098	食料資源経済学	2	第1ターム	月4,木4	講義	2,3,4	64	04	70		
B	241A0156	資源植物生産学概論	2	第1ターム	月1,木1	講義	2,3,4	60	03	70		
B	242A0155	植物育種学	2	第2ターム	火1,金1	講義	2,3,4	60	03	50		
B	243A0101	植物病理学	2	第3ターム	月3,木3	講義	2,3,4	60	04	70		
B	242A0025	動物遺伝学	2	第2ターム	金3,金4	講義	2,3,4	57	04	80		
B	244A0109	農産物流通論	2	第4ターム	水1,水2	講義	2,3,4	64	04	120		
B	休講	環境保全型農業論										
B	242A0108	国際フードシステム論	2	第2ターム	月2,木2	講義	2,3,4	64	04	70		
B	243A0046	花卉園芸学	2	第3ターム	火2,金2	講義	2,3,4	60	04	70		
B	244A0159	果樹・蔬菜園芸学	2	第4ターム	火2,金2	講義	2,3,4	60	04	50		
B	241A0034	植物ウイルス学	2	第1ターム	火2,金2	講義	2,3,4	60	04	50		
B	244A0158	作物学	2	第4ターム	月3,木3	講義	2,3,4	60	04	60		
B	242A0102	動物解剖生理学	2	第2ターム	火2,金2	講義	2,3,4	66	14	60		
B	244A0038	動物発生生殖学	2	第4ターム	金3,金4	講義	2,3,4	60,66	13	50		
B	休講	作物学II										
B	242A0037	植物細胞工学	2	第2ターム	月1,木1	講義	3,4	60,61	05	70		
B	休講	植物育種学II										
B	243A0040	動物遺伝増殖学	2	第3ターム	月1,木1	講義	3,4	57	15	25		
B	244A0112	農業農村開発論	2	第4ターム	月3,木3	講義	3,4	64	04	70		
B	休講	蔬菜園芸学										
B	240A0107	乳牛生産管理学	2	集中	他	講義	3,4	66	03	30		
B	休講	食品産業論										
B	240A4007	海外語学研修	4	通年	他	演習	1,2,3,4	70,71	15	10		
B	242A0005	微生物学	2	第2ターム	水1,水2	講義	2,3,4	61	03	100		
B	242A0008	食品化学	2	第2ターム	火3,火4	講義	2,3,4	61	03	120		
B	241A0011	植物栄養生理学	2	第1ターム	月2,木2	講義	2,3,4	60,61	04	100		
B	242A0004	生物化学Ⅰ	2	第2ターム	月1,木1	講義	2,3,4	61,60,57	03	90		
B	243A0007	有機化学（農）	2	第3ターム	月2,木2	講義	2,3,4	61	13	90		
B	241A0009	分析化学（農）	2	第1ターム	月1,木1	講義	2,3,4	61	04	80		
B	244A0012	植物成分化学	2	第4ターム	火2,金2	講義	2,3,4	61,62	04	70		
B	243A0010	生物化学Ⅱ	2	第3ターム	月1,木1	講義	2,3,4	61,57	04	70		
B	241A0031	生物有機化学	2	第1ターム	水1,水2	講義	3,4	61,46	04	90		
B	244A0048	畜産食品学	2	第4ターム	火1,火2	講義	2,3,4	61	03	100		
B	241A0082	食品衛生学	2	第1ターム	火1,火2	講義	3,4	61	03	120		
B	243A0092	食品科学概論	1	第3ターム	他	講義	3,4	61	13	30		
B	243A0028	応用微生物学	2	第3ターム	火1,金1	講義	2,3,4	61	04	80		
B	241A0039	分子微生物学	2	第1ターム	月2,木2	講義	3,4	61,57	04	70		
B	242A0042	細胞分子生物学	2	第2ターム	水1,水2	講義	3,4	57,61	05	40		
B	243A0032	肥料学	2	第3ターム	水1,水2	講義	2,3,4	61	04	80		
B	244A0044	土壌生化学	2	第4ターム	月2,木2	講義	2,3,4	61	05	120		
B	242A0036	植物バイオマス利用科学	2	第2ターム	月2,木2	講義	3,4	47,61,62	04	40		
B	244A0035	植物環境応答学	2	第4ターム	金3,金4	講義	3,4	61	15	40		
B	242A0091	畜産食品製造学	2	第2ターム	水1,水2	講義	3,4	61	04	70		
B	241A0090	栄養生化学	2	第1ターム	月2,木2	講義	3,4	61	05	80		
B	242A0085	食品機能学	2	第2ターム	木1,木2	講義	2,3,4	61	04	90		
B	243A0083	農産食品学	2	第3ターム	水1,水2	講義	2,3,4	61	03	100		
B	242A0084	食品安全学	2	第2ターム	月1,月2	講義	3,4	61	03	193		
B	243A0047	動物栄養学	2	第3ターム	火2,金2	講義	2,3,4	61	03	80		
B	240A0033	酵素化学	2	集中	他	講義	3,4	61,47	05	70		
B	243A0041	免疫学概論	2	第3ターム	火3,火4	講義	3,4	57	04	90		
B	240A0049	応用生命科学セミナー	1	集中	他	講義	2,3,4	61	05	80		
B	240A0095	食品科学セミナー	1	集中	他	講義	3,4	61	05	60		
B	240M1403	公衆衛生学	2	第1学期	他	講義	4	82	14	127		
B	240A0094	水産食品学	2	集中	他	講義	3,4	61	04	20		
B	241A0080	食品工学	2	第1ターム	月2,木2	講義	2,3,4	61	03	50		
B	休講	調理科学										
B	240A0081	食品マーケティング論	2	集中	他	講義	2,3,4	64	14	50		
B	243A0050	食品・農業情報工学	2	第3ターム	金3,金4	講義	2,3,4	65	04	50		
B	242T6033	生物材料工学	2	第2ターム	月2,木2	講義	3,4,5,6	54	04	68		
B	241T4039	人間工学	2	第1ターム	金3,金4	講義	3,4,5,6	10	04	40		
B	241T7020	人間工学	2	第1ターム	金3,金4	講義	2,3,4,5,6	56	24	60		
B	243T4044	生体計測	2	第3ターム	月2,木2	講義	3,4,5,6	10	04	70		
B	243T7030	生体計測	2	第3ターム	月2,木2	講義	2,3,4,5,6	56	24	80		
B	241T6029	高分子材料化学	2	第1ターム	火2,金2	講義	3,4,5,6	54	04	68		
B	244T5049	有機合成化学	2	第4ターム	月1,木1	講義	3,4,5,6	47	04	50		
B	休講	品質管理										
B	241T5001	高分子化学概論	2	第1ターム	火1,金1	講義	2,3,4,5,6	47	04	100		
B	243T0302	基礎有機化学	2	第3ターム	月5,木5	講義	1,2,3,4,5,6	47,54	03	170		
B	244T7035	機能生理学	2	第4ターム	金4,金5		2,3,4,5,6			80		
B	休講	バイオメディカル・エンジニアリング										
B	242T7055	生体医工学	2	第2ターム	火3,火4		2,3,4,5,6			80		
B	241T5013	反応工学I	2	第1ターム	水1,水2	講義	2,3,4,5,6	55	04	100		
B	243T5048	プロセス制御	2	第3ターム	水1,水2	講義	3,4,5,6	55	03	100		
B	休講	安全工学										
B	241T7040	看護工学	2	第1ターム	水3,水4	講義	3,4,5,6	56,85	14	60		
B	240T7041	スポーツバイオメカニクス	2	第3,4ターム	木3	講義	3,4,5,6	14	14	60		
B	244T7048	診断支援工学	2	第4ターム	金3,金4	講義	3,4,5,6	56,85,90	14	60		

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
B	240T7050	スポーツ心理学	2	第3,4ターム	水1	講義	3,4,5,6	14	14	60		
B	休講	バイオシグナルプロセシング										
B	241A0001	農学入門Ⅰ	2	第1ターム	月1,木1	講義	1,2,3,4	60	01	190		
B	241A0002	農学入門Ⅱ	2	第1ターム	月2,木2	講義	1,2,3,4	60	01	190		
B	241S0570	基礎生物化学	2	第1ターム	月3,木3	講義	2,3,4	57	03	50		
B	240K5606	人文地理学	2	第1,2ターム	水4		1,2,3,4,5,6			150		
B	241S0568	基礎植物学	2	第1ターム	火2,金2	講義	2,3,4	57	03	50		
B	244X0016	領域概説 F （農学）	2	第4ターム	金1,金2	講義・演習	1,2,3,4,5,6	99	13	75		
B	242G6015	生物学－植物A－	2	第2ターム	月1,木1	講義	1,2,3,4,5,6	57	03	150		
B	241T6032	生体分子工学	2	第1ターム	木3,木4	講義	3,4,5,6	54	04	68		
B	242T5002	基礎物理化学	2	第2ターム	月2,木2	講義	2,3,4,5,6	47	04	100		
B	244G3702	食と健康の科学	2	第4ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	250		
B	244G3703	土と水	2	第4ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	250		
C	242A0096	食品科学プログラム実地見学	1	第2ターム	他		3,4			20		
C	240A4008	グローバル農力	2	通年	他	演習	2,3,4	60	15	30		
C	休講	グローバル防災・復興学										
C	242A5007	フィールド科学インターンシップ	2	第2ターム	他	実習・実験	3,4	74	14	23		
C	240A5003	学科インターンシップ	2	通年	他	実習・実験	3,4	60,74	14	45		
C	240A5004	学科インターンシップ	2	通年	他	実習・実験	3,4	60,74	14	30		
C	240A5005	学科インターンシップ	2	通年	他	実習・実験	3,4	60,74	14	40		
C	240A5006	学科インターンシップ	2	集中	他	実習・実験	3,4	60,74	14	50		
C	240A5009	キャリアビジョン研修	4	通年	他	演習・実習	1,2,3,4	74	03	5		
C	240A5001	地域交流ｻﾃﾗｲﾄ実習	1	通年	他	実習	1,2,3,4	60	05	200		
C	240A5002	基礎農力	1	集中	他	講義	2,3,4	74	13	100		
C	240T0013	マーケット・インターンシップ	2	第1,2ターム	他	演習・講義・実習	1,2,3,4,5,6	99	03	999		
C	240T0014	マーケット・インターンシップ	2	第3,4ターム	他	演習・講義・実習	1,2,3,4,5,6	99	03	999		
C	240T0015	テクノロジー・インターンシップ	2	第1,2ターム	他	実習・演習・実験	1,2,3,4,5,6	99	03	999		
C	240T0016	テクノロジー・インターンシップ	2	第3,4ターム	他	実習・演習・実験	1,2,3,4,5,6	99	03	999		
C	240E1008	インターンシップ	2	集中	他		1,2,3,4,5,6			20		
C	240E6008	インターンシップ	2	集中	他		1,2,3,4,5,6			20		
C	240G3937	森・里・海フィールド実習	1	集中	他	実習	1,2,3,4,5,6	75	03	8		
C	242X0005	フィールドスタディーズ（学外学修）	6	第2ターム	火1,火2,火3,火4,火5,水1,水2,水3,水4,水5,木1,木2,木3,木4,木5	演習・実習	1,2,3,4,5,6	77	13	70		
C	240S0542	インターンシップ特別実習a	1	集中	他	実習	2,3,4	99,74	15	15		
C	240S0543	インターンシップ特別実習b	2	集中	他	実習	2,3,4	99,74	15	15		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

プログラム名称	ことつくり・マネジメント
概要	これからの製造業には、生産性や技術力の向上、そして産官学のあらゆる資源を有機的に結合したイノベーション、すなわち、従来型の「ものづくり」から「ことつくり」への産業構造の「脱皮」による新規産業の創出が求められる。このような背景を理解し、特に地域製造業に関連した「地域経営」を担うべき人材の育成を目指す。
履修資格	
修了要件	区分A（新潟地域志向科目）から2単位以上、区分B（ものづくり関連科目）から4単位以上、区分C（地域社会と経済・経営関連科目）から4単位以上、区分D（実践科目）から2単位以上、合計12単位以上を修得していること。
その他特記事項	

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
A	240G3203	キャリアデザイン	2	第1,2ターム	水4	講義	1,2,3,4,5,6	75,74	03	200		
A	240G3704	近世越後諸地域の歴史と社会	2	第3,4ターム	水5	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	150		
A	243G3701	新潟の農林業	2	第3ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	500		
A	240G3202	日本酒学A	2	第1,2ターム	水4	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	350		
A	242G3201	日本酒学C	1	第2ターム	水2	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	100		
A	240G3905	日本酒学B	1	集中	他	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	25		
A	241G3205	ダブルホーム活動入門Ⅰ	1	第1ターム	火5,他	講義・演習	1,2,3,4,5,6	75,74	01	40		
A	241G3206	ダブルホーム活動入門Ⅰ	1	第1ターム	水5,他	講義・演習	1,2,3,4,5,6	75,74	01	40		
A	241G3207	ダブルホーム活動入門Ⅰ	1	第1ターム	木5,他	講義・演習	1,2,3,4,5,6	75,74	01	40		
A	240G3907	学校支援フィールドワークA（小学校）	2	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
A	240G3908	学校支援フィールドワークA（中学校）	2	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
A	240G3909	学校支援フィールドワークA（高等学校）	2	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
A	240G3910	学校支援フィールドワークB（小学校）	4	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
A	240G3911	学校支援フィールドワークB（中学校）	4	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
A	240G3913	現場訪問とデータから読み解く新潟の今 －新潟地域産業の可能性を探る－ Ⅰ	2	集中	他	演習・実習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	15		
A	242G3906	ダブルホーム活動入門Ⅱ	1	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75,74	01	120		
A	240G3211	地域から文化を考える	2	第1,2ターム	月5	講義・実習	1,2,3,4,5,6	75	03	50		
A	240G3209	ボランティア開発論Ⅰ	2	第1,2ターム	金5	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	20		
A	240G3709	ボランティア開発論Ⅱ	2	第3,4ターム	金5	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	20		
A	243G3714	トキをシンボルとした自然再生	2	第3ターム	月4,木4	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	90		
A	242X0005	フィールドスタディーズ（学外学修）	6	第2ターム	火1,火2,火3,火4,火5,水1,水2,水3,水4,水5,木1,木2,木3,木4,木5	演習・実習	1,2,3,4,5,6	77	13	70		
A	240G3931	朱鷺・自然再生フィールドワーク	1	集中	他	実習	1,2,3,4,5,6	75	03	30		
A	休講	新聞を体験する－新潟日報との連携授業－										
A	240G3937	森・里・海フィールド実習	1	集中	他	実習	1,2,3,4,5,6	75	03	8		
A	243G3712	表現プロジェクト演習T	2	第3ターム	水1,水2	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	15		
A	243G3716	表現プロジェクト演習G	2	第3ターム	木1,木2	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	15		
A	240G3757	表現プロジェクト演習H	2	第3,4ターム	火3	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	15		
A	240G3933	表現プロジェクト演習Q	2	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
A	240S0542	インターンシップ特別実習a	1	集中	他	実習	2,3,4	99,74	15	15		
A	240S0543	インターンシップ特別実習b	2	集中	他	実習	2,3,4	99,74	15	15		
A	240S5541	応用地質学実習	1	集中	他	実習	3,4	44	13	30		
A	240S0536	科学・技術と社会	2	第1,2ターム	水3	講義	1,2,3,4	16	03	200		
A	240S5529	海洋生物学実験	1	集中	他	実験	2,3,4	44	13	16		
A	240S6530	環境生物学野外実習A	1	通年	他	実習	3,4	57	14	20		
A	240S6531	環境生物学野外実習B	1	通年	他	実習	2,3,4	57	14	12		
A	244S6532	環境生物学野外実習C	1	第4ターム	他	実習	2,3,4	57	14	20		
A	240S5538	環境地質学実習	1	集中	他	実習	3,4	44	13	30		
A	240S4503	系統動物学	2	集中	他	講義	2,3,4	57	04	30		
A	240S0538	新素材の物性	2	第1,2ターム	水2	講義	2,3,4	46	04	60		
A	241S0526	地学基礎実習a	1	第1ターム	金3	実習	1,2,3,4	44	13	25		
A	241S0527	地学基礎実習a	1	第1ターム	金3		2,3,4			25		
A	242S0528	地学基礎実習a	1	第2ターム	水1	実習	1,2,3,4	44	13	25		
A	240S5524	地質構造解析法	1	第1,2ターム	金2	講義	3,4	44	13	30		
A	240S5503	地質調査法実習I	2	集中	他	実習	2,3,4	44	13	30		
A	243S5504	地質調査法実習II	1	第3ターム	火3	実習	2,3,4	44	13	30		
A	240S4523	臨海実習I	2	集中	他	実習	3,4	57	13	30		
A	240T0015	テクノロジー・インターンシップ	2	第1,2ターム	他	実習・演習・実験	1,2,3,4,5,6	99	03	999		
A	240T0016	テクノロジー・インターンシップ	2	第3,4ターム	他	実習・演習・実験	1,2,3,4,5,6	99	03	999		
A	243T0409	建築設計製図I	2	第3ターム	水2,水3,水4,金4	実習	2,3,4,5,6	53	13	55		
A	241T0436	都市デザイン論	2	第1ターム	火4,金4	講義	3,4,5,6	53	04	80		
A	243T0437	都市計画・デザイン演習	2	第3ターム	木4,木5	演習	3,4,5,6	53	13	55		
A	242T0434	都市計画学I	2	第2ターム	火4,金4	講義	2,3,4,5,6	53	03	100		
A	244T0435	都市計画学II	2	第4ターム	火4,金4	講義	2,3,4,5,6	53	04	120		
A	240A5002	基礎農力	1	集中	他	講義	2,3,4	74	13	100		
A	243A0045	醸造学	2	第3ターム	木3,木4	講義	3,4	61	05	70		

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
A	240A5001	地域交流ｻﾃﾗｲﾄ実習	1	通年	他	実習	1,2,3,4	60	05	200		
A	開講番号については、所属、次期別に区別され、また教育実習の中でも、本実習と事前事後実習で細分化しているため、省略します。	初等教育実習Ⅰ		集中	他	実習						
A		初等教育実習Ⅱ		集中	他	実習						
A		中等教育実習Ⅰ		集中	他	実習						
A		中等教育実習Ⅱ		集中	他	実習						
A		中等教育実習Ⅲ		集中	他	実習						
A	240L3801	新潟を学ぶ	2	第3,4ターム	木4	講義	1,2,3,4,5,6	34,35	03	70		
A	240L3807	新潟市の行政	2	第3,4ターム	火5	講義	2,3,4,5,6	34,35	03	250		
A	240E1218	公共経営特殊講義	2	第3,4ターム	月6	講義	1,2,3,4,5,6	37	14	50		
A	240E1253	公共経営特殊講義	2	第3,4ターム	火3	講義	1,2,3,4,5,6	37	14	20		
A	240E1217	公共経営特殊講義	2	第3,4ターム	水3	講義	1,2,3,4,5,6	37	14	20		
A	240E6217	特殊講義（新潟県の行財政）	2	第3,4ターム	水3	講義	1,2,3,4,5,6	36,37	04	400		
A	240M1102	医学入門	2	第3,4ターム	月3,月4	講義	1	80	13	140		
A	240M5165	公衆衛生看護学実習	2	第1,2ターム	他	実習	4	85	24	95		
A	240M5557	臨床検査実習	8	通年	他	実習	4	80	14	45		
A	240M1408	臨床実習ＩＡ	7	第2学期	他	実習	4,5	81	15	127		
A	240M1501	臨床実習ＩＢ	15	第1学期	他	実習	5	81	15	127		
A	240M1502	臨床実習ＩＣ	15	第2学期	他	実習	5	81	15	127		
A	241G8005	「食べる」	2	第1ターム	火3,火4	講義	1,2,3,4,5,6	90	03	50		
A	243G8505	新潟発福祉学	2	第3ターム	水3,水4	講義	1,2,3,4,5,6	75,86	03	100		
B	242A0008	食品化学	2	第2ターム	火3,火4	講義	2,3,4	61	03	120		
B	242A0036	植物バイオマス利用科学	2	第2ターム	月2,木2	講義	3,4	47,61,62	04	40		
B	244A0048	畜産食品学	2	第4ターム	火1,火2	講義	2,3,4	61	03	100		
B	243A0050	食品・農業情報工学	2	第3ターム	金3,金4	講義	2,3,4	65	04	50		
B	243A0051	食料環境工学	2	第3ターム	火1,金1	講義	2,3,4	65	04	50		
B	244A0054	精密農業工学	2	第4ターム	火3,火4	講義	2,3,4	65	04	90		
B	242A0055	バイオマスエネルギー論	2	第2ターム	月1,木1	講義	2,3,4	65	04	50		
B	244A0068	構造デザイン工学	2	第4ターム	火2,金2	講義	2,3,4	65	03	60		
B	241A0080	食品工学	2	第1ターム	月2,木2	講義	2,3,4	61	03	50		
B	241A0082	食品衛生学	2	第1ターム	火1,火2	講義	3,4	61	03	120		
B	243A0083	農産食品学	2	第3ターム	水1,水2	講義	2,3,4	61	03	100		
B	242A0084	食品安全学	2	第2ターム	月1,月2	講義	3,4	61	03	193		
B	242A0091	畜産食品製造学	2	第2ターム	水1,水2	講義	3,4	61	04	70		
B	243A0092	食品科学概論	1	第3ターム	他	講義	3,4	61	13	30		
B	240A0094	水産食品学	2	集中	他	講義	3,4	61	04	20		
B	241A0140	環境材料工学	2	第1ターム	月2,木2	講義	3,4	65	03	50		
B	241A0057	測量学（農）	2	第1ターム	火3,金3	講義	2,3,4	62,65	13	56		
B	241G6021	最先端技術を支える化学Ⅰ	2	第1ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	46	03	250		
B	243G6526	材料科学概論	2	第3ターム	月3,木3	講義	1,2,3,4,5,6	54	03	150		
B	243G6525	くらしを支える機械システム工学	2	第3ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4,5,6	50	03	200		
B	240K2123	機械I	2	第1,2ターム	金1	講義	2,3,4,5,6	15	04	40		
B	240K2127	電気II	2	第1,2ターム	火2	講義	2,3,4,5,6	15	04	40		
B	休講	機械IV										
B	240K2122	金属加工III	2	第1,2ターム	水1	講義	3,4,5,6	15	04	15		
B	240K2120	金属加工I	2	第3,4ターム	水1	講義	1,2,3,4,5,6	15	04	15		
B	240K2128	電気III	2	第1,2ターム	水2	講義	2,3,4,5,6	15	04	40		
B	240K2124	機械II	2	第3,4ターム	金1	講義	2,3,4,5,6	15	04	40		
B	240K2165	電気I	2	第1,2ターム	水1	講義	1,2,3,4,5,6	15	04	40		
B	240K2125	機械III	2	第3,4ターム	金4	講義	3,4,5,6	15	04	15		
B	240K2121	金属加工II	2	第1,2ターム	水2	講義	2,3,4,5,6	15	04	15		
B	240K2134	金属加工IV	2	第3,4ターム	木2	講義	3,4,5,6	15	04	15		
B	240K2129	電気IV	2	第3,4ターム	水2	講義	2,3,4,5,6	15	04	40		
B	240M8012	人間工学論	2	第1,2ターム	月4		1,2,3,4			150		
B	240S0540	情報産業論	2	第3,4ターム	金3	講義	1,2,3,4	10	04	60		
B	休講	化学プロセス概論										
B	241T5001	高分子化学概論	2	第1ターム	火1,金1	講義	2,3,4,5,6	47	04	100		
B	243T0103	機械工学概論	2	第3ターム	月4,木4	講義	1,2,3,4,5,6	50	03	170		
B	243T0401	建築学概論	2	第3ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	53	03	60		
B	243T0201	電子情報通信概論	1	第3ターム	木1	講義	1,2,3,4,5,6	51,10,49	03	250		
B	243T0202	知能情報システム概論	1	第3ターム	木2	講義	1,2,3,4,5,6	49,10	03	250		
B	休講	建築材料・構造概論										
B	244T0104	社会基盤工学概論	2	第4ターム	月4,木4	講義	1,2,3,4,5,6	52	03	170		
B	241T4039	人間工学	2	第1ターム	金3,金4	講義	3,4,5,6	10	04	40		
B	241T7020	人間工学	2	第1ターム	金3,金4	講義	2,3,4,5,6	56	24	60		
B	242T1006	流体工学I	2	第2ターム	月1,木1	講義・演習	2,3,4,5,6	50	04	70		
B	242T1007	流体工学I	2	第2ターム	月1,木1	講義・演習	2,3,4,5,6	50	04	70		
B	242T1027	加工学	2	第2ターム	月2,木2		2,3,4,5,6	50	04	110		
B	242T1032	機械材料	2	第2ターム	火2,金2	講義	3,4,5,6	50	04	100		
B	243T1034	システム制御I	2	第3ターム	火1,金1	講義・演習	3,4,5,6	50	04	110		
B	242T1039	エネルギー変換工学	2	第2ターム	月2,木2	講義	3,4,5,6	50	04	100		
B	休講	メカトロニクス										
B	244T1045	ロボット工学	2	第4ターム	火2,金2	講義	3,4,5,6	50	04	90		
B	241T2012	社会基盤設計基礎	2	第1ターム	月1,月2,木1,木2	演習	2,3,4,5,6	52	03	50		

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
B	休講	土木計画学									○	
B	休講	プログラミング基礎										
B	243T0205	プログラミング基礎Ⅰ	2	第3ターム	火3,火4	演習・講義・実習	1,2,3,4,5,6	10	03	200		
B	244T0206	プログラミング基礎Ⅱ	2	第4ターム	火3,火4	演習・講義・実習	1,2,3,4,5,6	10	03	200		
B	241T3009	電気回路I	2	第1ターム	月1,木1	講義	2,3,4,5,6	51	04	100		
B	244T3027	電子回路	2	第4ターム	木3,木4	講義	2,3,4,5,6	51	04	100		
B	244T7029	電子回路	2	第4ターム	月4,木3	講義	2,3,4,5,6	51	24	70		
B	241T3030	ディジタル信号処理	2	第1ターム	月1,木1	講義	3,4,5,6	51	04	100		
B	244T3033	電子デバイスI	2	第4ターム	月1,木2	講義	2,3,4,5,6	51	04	80		
B	244T3037	通信方式基礎	2	第4ターム	火1,金1	講義	3,4,5,6	51	04	100		
B	242T4022	電気回路	2	第2ターム	火1,火2	講義	2,3,4,5,6	10	04	90		
B	240T7053	電気回路	2	第1,2ターム	金1		2,3,4,5,6	51	14	60		
B	243T4024	論理回路	2	第3ターム	水1,水2	講義	2,3,4,5,6	10	04	90		
B	244T7060	論理回路	2	第4ターム	火1,火2		2,3,4,5,6	10,51	14	60		
B	242T4025	コンピュータネットワーク	2	第2ターム	月2,木2	講義	2,3,4,5,6	51	04	80		
B	242T7026	コンピュータネットワーク	2	第2ターム	月2,木2	講義	2,3,4,5,6	10	24	40		
B	244T4028	コンピュータアーキテクチャ	2	第4ターム	火1,火2	講義	2,3,4,5,6	10	04	80		
B	休講	人工知能										
B	244T4036	基礎電子回路	2	第4ターム	月1,木2	講義	2,3,4,5,6	10	04	100		
B	244T4037	データベース	2	第4ターム	火3,火4	講義	3,4,5,6	10	04	80		
B	244T7039	データベース	2	第4ターム	火3,火4	講義	3,4,5,6	10	04	40		
B	241T5013	反応工学I	2	第1ターム	水1,水2	講義	2,3,4,5,6	55	04	100		
B	242T5014	拡散操作I	2	第2ターム	月1,木1	講義	2,3,4,5,6	55	04	100		
B	242T5023	移動論基礎	2	第2ターム	水1,水2	講義	2,3,4,5,6	55	04	100		
B	244T5026	プロセス伝熱工学	2	第4ターム	火4,金4	講義	2,3,4,5,6	55	04	50		
B	244T6028	高分子科学	2	第4ターム	月4,木4	講義	2,3,4,5,6	54	04	68		
B	243T6030	機能性高分子材料	2	第3ターム	月3,木3	講義	3,4,5,6	54	04	68		
B	241T5042	無機工業化学	2	第1ターム	月1,木1	講義	3,4,5,6	47	04	70		
B	243T5055	分子設計化学	2	第3ターム	火4,金4	講義	2,3,4,5,6	47	04	100		
B	242T6009	基礎材料組織学	2	第2ターム	火1,金1	講義	2,3,4,5,6	54	04	68		
B	244T6023	半導体物性・デバイス	2	第4ターム	月3,木3	講義	3,4,5,6	54	04	68		
B	244T6031	工業生化学	2	第4ターム	月2,木2	講義	2,3,4,5,6	54	04	68		
B	241T6034	材料評価学	2	第1ターム	火1,金1	講義	3,4,5,6	54	04	68		
B	241T6032	生体分子工学	2	第1ターム	木3,木4	講義	3,4,5,6	54	04	68		
B	242T6033	生物材料工学	2	第2ターム	月2,木2	講義	3,4,5,6	54	04	68		
B	243T0414	建築計画学I	2	第3ターム	火2,金2	講義	2,3,4,5,6	53	03	55		
B	240T7027	福祉情報工学	2	第1,2ターム	木2	講義	3,4,5,6	56	14	60		
B	241T0504	アントレプレナーシップ	2	第1ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	37	13	100		
C	240A0081	食品マーケティング論	2	集中	他	講義	2,3,4	64	14	50		
C	休講	食品産業論										
C	244A0110	農業統計学	1	第4ターム	月4	講義	2,3,4	60	13	60		
C	244A0111	農業経営学	2	第4ターム	火2,金2	講義	2,3,4	64	14	40		
C	244A0109	農産物流通論	2	第4ターム	水1,水2	講義	2,3,4	64	04	120		
C	243A0116	農業協同組合論	2	第3ターム	月2,木2	講義	3,4	64	04	70		
C	241E1151	人的資源管理論Ⅰ	2	第1ターム	月2,木2	講義	1,2,3,4,5,6	37	04	100		
C	241E6151	人的資源管理論Ⅰ	2	第1ターム	月2,木2	講義	1,2,3,4,5,6	37	04	95		
C	241E1054	組織の経済学Ⅰ	2	第1ターム	月3,木3	講義	1,2,3,4,5,6	36	04	100		
C	241E6054	組織の経済学Ⅰ	2	第1ターム	月3,木3	講義	1,2,3,4,5,6	36	04	100		
C	241E6005	入門ミクロ経済学	2	第1ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	36	03	400		
C	243E1155	財務会計論Ⅰ	2	第3ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	37	04	5		
C	243E6155	財務会計論Ⅰ	2	第3ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	37	04	155		
C	243E6002	経営学入門	2	第3ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	37	03	400		
C	241E6001	経済学入門	2	第1ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	36	03	400		
C	242E1146	経営組織論I	2	第2ターム	火5,金5	講義	1,2,3,4,5,6	37	04	10		
C	242E6146	経営組織論Ⅰ	2	第2ターム	火5,金5	講義	1,2,3,4,5,6	37	04	230		
C	休講	管理会計論Ⅰ										
C	243E1046	マクロ経済学Ⅰ	2	第3ターム	火4,金4	講義	1,2,3,4,5,6	36	03	20		
C	243E6046	マクロ経済学Ⅰ	2	第3ターム	火4,金4	講義	1,2,3,4,5,6	36	03	200		
C	242E1059	金融論Ⅰ	2	第2ターム	月2,木2	講義	1,2,3,4,5,6	36	04	50		
C	242E6059	金融論Ⅰ	2	第2ターム	月2,木2	講義	1,2,3,4,5,6	36	04	200		
C	243E1047	計量経済学Ⅰ	2	第3ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	36,41	13	30		
C	243E6047	計量経済学Ⅰ	2	第3ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	36,41	03	220		
C	242E6221	公共経済学Ⅰ	2	第2ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	36	04	300		
C	242E1221	公共経済論Ⅰ	2	第2ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	36	04	50		
C	242E6149	会計学概論Ⅰ	2	第2ターム	火4,金4	講義	1,2,3,4,5,6	37	03	150		
C	244E6150	会計学概論Ⅰ	2	第4ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	37	03	150		
C	243E1152	会計学特殊講義	2	第3ターム	月2,木2		1,2,3,4,5,6	37	04	10		
C	240E1143	会計学特殊講義	2	第3,4ターム	月7		1,2,3,4,5,6	37	04	50		
C	休講	経営戦略論Ⅰ										
C	241E1005	入門ミクロ経済学	2	第1ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	36	03	40		
C	241E1107	経営学概論Ⅰ	2	第1ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	37	04	10		
C	241E6107	経営学概論Ⅰ	2	第1ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	37	04	340		
C	241E6158	中小企業論	2	第1ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	37	04	300		
C	241E1158	企業経営特殊講義	2	第1ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	37	04	50		
C	241E6184	経済社会論基礎	2	第1ターム	月3,木3	講義	1,2,3,4,5,6	36	03	50		
C	240E6056	市場と組織の理論	2	第3,4ターム	火5	講義	1,2,3,4,5,6	36	04	40		
C	241E1147	マーケティング論Ⅰ	2	第1ターム	月3,木3	講義	1,2,3,4,5,6	37	04	10		
C	241E6147	マーケティング論Ⅰ	2	第1ターム	月3,木3	講義	1,2,3,4,5,6	37	04	200		
C	243E6006	入門マクロ経済学	2	第3ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	36	03	400		

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
C	240E1300	入門マクロ経済学	2	第3,4ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	36	03	50		
C	243E6003	人文社会科学入門	2	第3ターム	月3,木3	講義	1,2,3,4,5,6	28,31,35	03	400		
C	244E1156	企業分析入門	2	第4ターム	月4,月5	講義	1,2,3,4,5,6	37	04	5		
C	244E6156	企業分析入門	2	第4ターム	月4,月5	講義	1,2,3,4,5,6	37	04	55		
C	244E6159	原価計算論	2	第4ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	37	04	200		
C	244E1159	原価計算論Ⅰ	2	第4ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	37	04	50		
C	241E1004	日本経済入門	2	第1ターム	火4,金4	講義	1,2,3,4,5,6	36	03	100		
C	241E6004	日本経済入門	2	第1ターム	火4,金4	講義	1,2,3,4,5,6	36	03	400		
C	243G7508	現代社会と科学技術	2	第3ターム	金1,金2	講義	1,2,3,4,5,6	16	03	100		
C	243G7506	現代社会論	2	第3ターム	水1,水2	講義	1,2,3,4,5,6	38	03	150		
C	休講	社会心理学										
C	244H2004	社会・集団・家族心理学	2	第4ターム	金3,金4	講義・実習	2,3,4	39	03	70		
C	休講	社会解析論									○	
C	241H2022	社会学概説	2	第1ターム	木3,木4	講義	2,3,4	38	03	50		
C	休講	社会学概説Ｂ									○	
C	241H2042	社会調査法Ａ	2	第1ターム	金3,金4	講義	2,3,4	38	13	40		
C	242H2043	社会調査法Ｂ	2	第2ターム	火4,火5	講義	2,3,4	38	13	40		
C	242S0541	情報社会論	2	第2ターム	火5,金5	講義	1,2,3,4	10	03	300		
D	240A5003	学科インターンシップ	2	通年	他	実習・実験	3,4	60,74	14	45		
D	240A5004	学科インターンシップ	2	通年	他	実習・実験	3,4	60,74	14	30		
D	240A5005	学科インターンシップ	2	通年	他	実習・実験	3,4	60,74	14	40		
D	240A5006	学科インターンシップ	2	集中	他	実習・実験	3,4	60,74	14	50		
D	242A5007	フィールド科学インターンシップ	2	第2ターム	他	実習・実験	3,4	74	14	23		
D	240E6008	インターンシップ	2	集中	他		1,2,3,4,5,6			20		
D	240E1008	インターンシップ	2	集中	他		1,2,3,4,5,6			20		
D	240E5008	インターンシップ	2	集中	他		1,2,3,4,5,6			20		
D	240E6105	会計税務インターンシップ	2	集中	他	実習	1,2,3,4,5,6	37,74	04	10		
D	240G3902	データサイエンス・インターンシップ	6	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	10	05	10		
D	休講	インターンシップ（基礎）										
D	240L3810	インターンシップ（実習１）	1	集中	他	講義・実習	3,4,5,6	34,35,74	15	150		
D	240L3811	インターンシップ（実習２）	1	集中	他	講義・実習	3,4,5,6	34,35,74	15	150		
D	240L3812	インターンシップ（実習３）	1	集中	他	講義・実習	3,4,5,6	34,35,74	15	150		
D	240L3813	インターンシップ（実習４）	1	集中	他	講義・実習	3,4,5,6	34,35,74	15	150		
D	240L3814	インターンシップ（実習５）	1	集中	他	講義・実習	3,4,5,6	34,35,74	15	150		
D	240L3815	インターンシップ（実習６）	1	集中	他	講義・実習	3,4,5,6	34,35,74	15	150		
D	240L3816	インターンシップ（実習７）	1	集中	他	講義・実習	3,4,5,6	34,35,74	15	150		
D	240T6040	インターンシップ	2	第3,4ターム	他	実習	3,4,5,6	74	14	68		
D	240T0013	マーケット・インターンシップ	2	第1,2ターム	他	演習・講義・実習	1,2,3,4,5,6	99	03	999		
D	240T0014	マーケット・インターンシップ	2	第3,4ターム	他	演習・講義・実習	1,2,3,4,5,6	99	03	999		
D	240T0025	国際マーケット・グループワーク・インターンシップA	2	第1,2ターム	他	実習・演習・実験	1,2,3,4,5,6	99	03	999		
D	240T0026	国際マーケット・グループワーク・インターンシップA	2	第3,4ターム	他	実習・演習・実験	1,2,3,4,5,6	99	03	999		
D	240T0027	国際マーケット・グループワーク・インターンシップB	3	第1,2ターム	他	実習・演習・実験	1,2,3,4,5,6	99	03	999		
D	240T0028	国際マーケット・グループワーク・インターンシップB	3	第3,4ターム	他	実習・演習・実験	1,2,3,4,5,6	99	03	999		
D	240T0029	国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップA	2	第1,2ターム	他	実習・演習・実験	1,2,3,4,5,6	99	03	999		
D	240T0030	国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップA	2	第3,4ターム	他	実習・演習・実験	1,2,3,4,5,6	99	03	999		
D	240T0031	国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップB	3	第1,2ターム	他	実習・演習・実験	1,2,3,4,5,6	99	03	999		
D	240T0032	国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップB	3	第3,4ターム	他	実習・演習・実験	1,2,3,4,5,6	99	03	999		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

プログラム名称	コミュニティ・マネジメント
概要	地震や風水害、雪などの厳しい自然条件や災害と折り合いをつけながら、豊かな郷土を築き、維持・発展している新潟の地域とそこで活動する人たちに学び、地域の素材を発見し磨き育て上げる力、自助・共助・公助を考え合わせながら人と人とをつないでいくことのできる力を有する、コミュニティ・コーディネーター、災害ボランティア・コーディネーターの素養を持った人材育成を目指す。
履修資格	
修了要件	区分A（新潟地域志向科目）から4単位以上、区分Bから8単位、合計12単位以上を修得していること。
その他特記事項	

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
A	240G3907	学校支援フィールドワークA（小学校）	2	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
A	240G3908	学校支援フィールドワークA（中学校）	2	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
A	240G3909	学校支援フィールドワークA（高等学校）	2	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
A	240G3910	学校支援フィールドワークB（小学校）	4	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
A	240G3911	学校支援フィールドワークB（中学校）	4	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
A	240G3913	現場訪問とデータから読み解く新潟の今 －新潟地域産業の可能性を探る－ Ⅰ	2	集中	他	演習・実習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	15		
A	240G3211	地域から文化を考える	2	第1,2ターム	月5	講義・実習	1,2,3,4,5,6	75	03	50		
A	240G3203	キャリアデザイン	2	第1,2ターム	水4	講義	1,2,3,4,5,6	75,74	03	200		
A	240G3704	近世越後諸地域の歴史と社会	2	第3,4ターム	水5	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	150		
A	243G3701	新潟の農林業	2	第3ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	500		
A	240G3905	日本酒学B	1	集中	他	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	25		
A	240M5165	公衆衛生看護学実習	2	第1,2ターム	他	実習	4	85	24	95		
A	240M5557	臨床検査実習	8	通年	他	実習	4	80	14	45		
A	241G8005	「食べる」	2	第1ターム	火3,火4	講義	1,2,3,4,5,6	90	03	50		
A	243G8505	新潟発福祉学	2	第3ターム	水3,水4	講義	1,2,3,4,5,6	75,86	03	100		
A	241T0504	アントレプレナーシップ	2	第1ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	37	13	100		
A	240T0015	テクノロジー・インターンシップ	2	第1,2ターム	他	実習・演習・実験	1,2,3,4,5,6	99	03	999		
A	240T0016	テクノロジー・インターンシップ	2	第3,4ターム	他	実習・演習・実験	1,2,3,4,5,6	99	03	999		
A	241T0436	都市デザイン論	2	第1ターム	火4,金4	講義	3,4,5,6	53	04	80		
A	243T0437	都市計画・デザイン演習	2	第3ターム	木4,木5	演習	3,4,5,6	53	13	55		
A	242T0434	都市計画学I	2	第2ターム	火4,金4	講義	2,3,4,5,6	53	03	100		
A	244T0435	都市計画学II	2	第4ターム	火4,金4	講義	2,3,4,5,6	53	04	120		
A	243A0045	醸造学	2	第3ターム	木3,木4	講義	3,4	61	05	70		
A	240S5541	応用地質学実習	1	集中	他	実習	3,4	44	13	30		
A	240S0536	科学・技術と社会	2	第1,2ターム	水3	講義	1,2,3,4	16	03	200		
A	240S5529	海洋生物学実験	1	集中	他	実験	2,3,4	44	13	16		
A	240S6530	環境生物学野外実習A	1	通年	他	実習	3,4	57	14	20		
A	240S6531	環境生物学野外実習B	1	通年	他	実習	2,3,4	57	14	12		
A	244S6532	環境生物学野外実習C	1	第4ターム	他	実習	2,3,4	57	14	20		
A	240S4503	系統動物学	2	集中	他	講義	2,3,4	57	04	30		
A	240S0538	新素材の物性	2	第1,2ターム	水2	講義	2,3,4	46	04	60		
A	241S0526	地学基礎実習a	1	第1ターム	金3	実習	1,2,3,4	44	13	25		
A	241S0527	地学基礎実習a	1	第1ターム	金3		2,3,4			25		
A	242S0528	地学基礎実習a	1	第2ターム	水1	実習	1,2,3,4	44	13	25		
A	242S0529	地学基礎実習b	1	第2ターム	金3	実習	1,2,3,4	44	13	25		
A	243S0530	地学基礎実習b	1	第3ターム	水2	実習	1,2,3,4	44	13	25		
A	240S5524	地質構造解析法	1	第1,2ターム	金2	講義	3,4	44	13	30		
A	240S5503	地質調査法実習I	2	集中	他	実習	2,3,4	44	13	30		
A	243S5504	地質調査法実習II	1	第3ターム	火3	実習	2,3,4	44	13	30		
A	240S4523	臨海実習I	2	集中	他	実習	3,4	57	13	30		
A	243G3714	トキをシンボルとした自然再生	2	第3ターム	月4,木4	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	90		
A	242X0005	フィールドスタディーズ（学外学修）	6	第2ターム	火1,火2,火3,火4,火5,水1,水2,水3,水4,水5,木1,木2,木3,木4,木5	演習・実習	1,2,3,4,5,6	77	13	70		
A	240G3931	朱鷺・自然再生フィールドワーク	1	集中	他	実習	1,2,3,4,5,6	75	03	30		
A	休講	新聞を体験する－新潟日報との連携授業－										
A	243G3712	表現プロジェクト演習T	2	第3ターム	水1,水2	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	15		
A	243G3716	表現プロジェクト演習G	2	第3ターム	木1,木2	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	15		
A	240G3757	表現プロジェクト演習H	2	第3,4ターム	火3	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	15		
A	240G3933	表現プロジェクト演習Q	2	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
A	240E1218	公共経営特殊講義	2	第3,4ターム	月6	講義	1,2,3,4,5,6	37	14	50		
A	240E1253	公共経営特殊講義	2	第3,4ターム	火3	講義	1,2,3,4,5,6	37	14	20		
A	240E1217	公共経営特殊講義	2	第3,4ターム	水3	講義	1,2,3,4,5,6	37	14	20		
A	240E6217	特殊講義（新潟県の行財政）	2	第3,4ターム	水3	講義	1,2,3,4,5,6	36,37	04	400		
A	240L3801	新潟を学ぶ	2	第3,4ターム	木4	講義	1,2,3,4,5,6	34,35	03	70		
B	240G3209	ボランティア開発論Ⅰ	2	第1,2ターム	金5	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	20		
B	240G3709	ボランティア開発論Ⅱ	2	第3,4ターム	金5	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	20		
B	240G3210	コミュニティ開発論Ⅰ	2	第1,2ターム	金6	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
B	240G3710	コミュニティ開発論Ⅱ	2	第3,4ターム	金6	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	10		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

プログラム名称	データサイエンスリテラシー
概要	様々なデータに内在する本質的構造を理解し数理的思考に基づいて解析・問題解決を行うデータサイエンスは、データ駆動型社会において多様な分野で新たな知見を創出するカギとなることが期待されている。データサイエンスは数理的知識・計算処理技術・問題発見課題解決からなる複合的な領域であり、旧来の学問分野や領域を越えた学習が必要となる。データサイエンスを構成する各要素に対応した授業科目を満遍なく履修することで知識・技能を分野横断的かつ体系的に学び、データサイエンスに関わる基礎的知識・技能の習熟と実践的経験を通してデータサイエンスの基礎的な能力を修得するとともに、データ駆動型社会において活躍できるための幅広い視野と行動力を身に付ける。
履修資格	
修了要件	区分A[データサイエンス入門科目群]から2単位 区分B[統計科目群]または[数学科目群]から2単位以上 区分C[情報概論科目群]から2単位以上 区分D[情報処理演習科目群]または[プログラミング基礎科目群]から2単位以上 以上の合計12単位を修得すること。
その他特記事項	パッケージ型マイナー「データサイエンスリテラシー」は文部科学省数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）の認定を取得しています。 https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/suuri_datascience_ai/00002_00003.htm

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
A	（全科目）	データサイエンス総論Ⅰ	1			講義	1,2,3,4,5,6	10	03	135		
A	（全科目）	データサイエンス総論Ⅱ	1			講義	1,2,3,4,5,6	10	03	135		
A	241G3018	エンジニアのためのデータサイエンス入門（力学分野）	2	第1ターム	火4,金4	講義・演習	1,2,3,4,5,6	10	13	140		
A	241G3019	エンジニアのためのデータサイエンス入門（化学材料分野）	2	第1ターム	火4,金4	講義・演習	1,2,3,4,5,6	10	13	75		
A	241G3020	エンジニアのためのデータサイエンス入門（化学材料分野）	2	第1ターム	火4,金4	講義・演習	1,2,3,4,5,6	10	13	75		
A	241G3021	エンジニアのためのデータサイエンス入門（融合領域分野）	2	第1ターム	月1,月2	講義・演習	1,2,3,4,5,6	10	13	50		
A	241G3022	エンジニアのためのデータサイエンス入門（融合領域分野）	2	第1ターム	月1,月2	講義・演習	1,2,3,4,5,6	10	13	50		
A	242G3039	エンジニアのためのデータサイエンス入門（情報電子分野）	2	第2ターム	火3,金3	講義・演習	1,2,3,4,5,6	10	13	65		
A	242G3040	エンジニアのためのデータサイエンス入門（情報電子分野）	2	第2ターム	火3,金3	講義・演習	1,2,3,4,5,6	10	13	65		
A	242G3041	エンジニアのためのデータサイエンス入門（情報電子分野）	2	第2ターム	火3,金3	講義・演習	1,2,3,4,5,6	10	13	65		
A	242G3042	エンジニアのためのデータサイエンス入門（建築分野）	2	第2ターム	月2,木2	講義・演習	1,2,3,4,5,6	10	13	50		
A	243X0009	データサイエンス概説	2	第3ターム	火4,金4	講義	1,2,3,4,5,6	75	13	70		
B	240H9217	メディア・表現文化実習Ｄ	1	第3,4ターム	木5	実習	4	10	13	50		
B	240H2049	メディア論実習Ｄ	1	第3,4ターム	木5	実習	2,3,4	10	13	50		
B	241H2042	社会調査法Ａ	2	第1ターム	金3,金4	講義	2,3,4	38	13	40		
B	240K1307	統計学I	2	第1,2ターム	火4	講義	2,3,4,5,6	41	04	80		
B	240K1308	統計学II	2	第3,4ターム	火4	講義	2,3,4,5,6	41	04	80		
B	240K5103	教育統計学（心理学統計法）	2	第1,2ターム	他	講義・演習	2,3,4,5,6	40	04	40		
B	243E1047	計量経済学Ⅰ	2	第3ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	36,41	13	30		
B	243E6047	計量経済学Ⅰ	2	第3ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	36,41	03	220		
B	241E6007	統計入門	2	第1ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	41,36,37	13	500		
B	240M1214	医学情報学(基礎)	1.5	第2学期	他	講義	2	82	13	140		
B	240DS202	医療統計学	2	第1学期	他	講義	2	90	14	50		
B	240M8019	医療統計学	2	第3,4ターム	金2	講義	2,3,4	82	03	160		
B	240DA212	社会調査法	2	第1学期	他	演習	2	86	14	26		
B	242T6002	応用数理Ｅ	2	第2ターム	月4,木4	講義	2,3,4,5,6	41	03	170		
B	242T2003	応用数理Ｅ	2	第2ターム	月4,木4	講義	3,4,5,6	41	03	50		
B	241T3003	応用数理Ｅ	2	第1ターム	月3,月4	講義	2,3,4,5,6	41	03	80		
B	241T4001	応用数理Ｅ	2	第1ターム	月2,木2	講義	2,3,4,5,6	41	03	90		
B	241T7002	応用数理Ｅ	2	第1ターム	月2,木2	講義	2,3,4,5,6	41	03	60		
B	242A0043	生物統計学	2	第2ターム	金3,金4	講義	2,3,4	60	04	100		
B	243A0078	環境統計学	2	第3ターム	水3,水4	講義	2,3,4	62,65	04	41		
B	244T0503	ビジネス統計学	2	第4ターム	木3,木4	講義	1,2,3,4,5,6	37,38,49	13	100		
B	244A0110	農業統計学	1	第4ターム	月4	講義	2,3,4	60	13	60		
B	241G5011	統計学基礎1	1	第1ターム	水1	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	160		
B	241G5013	統計学基礎1	1	第1ターム	月5	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	243G5507	統計学基礎1	1	第3ターム	火5	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	243G5509	統計学基礎1	1	第3ターム	月5	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	242G5012	統計学基礎2	1	第2ターム	月5	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	242G5014	統計学基礎2	1	第2ターム	水1	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	160		
B	244G5508	統計学基礎2	1	第4ターム	火5	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	244G5510	統計学基礎2	1	第4ターム	月5	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	242H2043	社会調査法Ｂ	2	第2ターム	火4,火5	講義	2,3,4	38	13	40		
B	240K1303	線形代数学I	2	第1,2ターム	水4	講義	2,3,4,5,6	41	13	80		
B	240K1304	線形代数学II	2	第3,4ターム	水4	講義	2,3,4,5,6	41	14	80		
B	240K1305	微分積分学I	2	第1,2ターム	月5	講義	2,3,4,5,6	41	13	80		
B	240K1311	代数学序説	2	第1,2ターム	火5	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	240E6145	経済数学Ⅰ	2	第3,4ターム	水6	講義	1,2,3,4,5,6	36,41	03	80		
B	242E6043	経済数学Ⅰ	2	第2ターム	月3,木3	講義	1,2,3,4,5,6	36,41	03	300		
B	243S0545	線形代数IA	1	第3ターム	木1	講義	1,2,3,4	41	03	160		
B	243S0547	集合と写像	1	第3ターム	月5	講義	1,2,3,4	41	03	70		
B	243S0559	基礎物理数学	2	第3ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4	43	03	70		
B	244S0551	オペレーションズ・リサーチ	2	第4ターム	月5,木5	講義	1,2,3,4	41	03	160		
B	244S0560	基礎ベクトル解析	2	第4ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4	43	03	70		
B	241T1001	応用数理Ａ	2	第1ターム	月5,木5	講義	2,3,4,5,6	41	03	120		
B	241T1003	応用数理Ｂ	2	第1ターム	火4,金4	講義	2,3,4,5,6	41	03	120		
B	241G5001	解析学基礎1	1	第1ターム	水1	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	241G5003	数学基礎A1	1	第1ターム	水1	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	200		
B	241G5009	数学基礎B1	1	第1ターム	水3	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	241G5005	数学基礎A1	1	第1ターム	木5	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	241T4023	離散数学	2	第1ターム	金1,金2	講義	2,3,4,5,6	10	04	110		

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
B	241G5007	数学基礎B1	1	第1ターム	金3	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	240		
B	242T1002	応用数理Ａ	2	第2ターム	月1,木1	講義	2,3,4,5,6	41	03	68		
B	242T6001	応用数理Ａ	2	第2ターム	月1,木1	講義	2,3,4,5,6	41	03	68		
B	242T4002	電気数理I	2	第2ターム	月1,木1	講義	2,3,4,5,6	49	03	90		
B	242T3001	応用数理Ｂ	2	第2ターム	月3,木3	講義	2,3,4,5,6	41	03	150		
B	242T4003	応用数理Ｂ	2	第2ターム	月3,木3	講義	2,3,4,5,6	41	03	90		
B	242G6004	基礎数理Ａ Ⅰ	2	第2ターム	月4,木4	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	242G6005	基礎数理Ａ Ⅰ	2	第2ターム	月4,木4	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	120		
B	242G6003	基礎数理Ａ Ⅰ	2	第2ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	242G6006	基礎数理Ａ Ⅰ	2	第2ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	242G6007	基礎数理Ａ Ⅰ	2	第2ターム	火4,金4	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	100		
B	242G5002	解析学基礎2	1	第2ターム	水1	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	242G5004	数学基礎A2	1	第2ターム	水1	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	200		
B	242G5010	数学基礎B2	1	第2ターム	水3	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	242G5006	数学基礎A2	1	第2ターム	木5	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	242G5008	数学基礎B2	1	第2ターム	金3	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	240		
B	243G6504	基礎数理Ｂ	2	第3ターム	月4,木4	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	243G6505	基礎数理Ｂ	2	第3ターム	月4,木4	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	120		
B	243T5004	応用数理Ｂ	2	第3ターム	火1,金1	講義	2,3,4,5,6	49	03	100		
B	243G6503	基礎数理Ｂ	2	第3ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	243T6003	物理数学	2	第3ターム	火1,金1	講義	2,3,4,5,6	54	04	68		
B	243G6506	基礎数理Ｂ	2	第3ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	243G6502	基礎数理Ｂ	2	第3ターム	火4,金4	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	100		
B	243G5501	数学基礎A1	1	第3ターム	水1	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	243G5503	数学基礎B1	1	第3ターム	水2	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	243G6501	数学の世界	2	第3ターム	水4,水5	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	100		
B	243G5505	数学基礎B1	1	第3ターム	木3	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	244G6515	基礎数理Ａ II	2	第4ターム	月4,木4	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	244G6516	基礎数理Ａ II	2	第4ターム	月4,木4	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	120		
B	244G6514	基礎数理Ａ II	2	第4ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	244G6517	基礎数理Ａ II	2	第4ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	244G6513	基礎数理Ａ II	2	第4ターム	火4,金4	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	100		
B	244G5502	数学基礎A2	1	第4ターム	水1	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	244G5504	数学基礎B2	1	第4ターム	水2	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	244G5506	数学基礎B2	1	第4ターム	木3	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
C	休講	基礎情報論										
C	242K0475	教育情報論	1	第2ターム	水4		2,3,4,5,6			190		
C	243K0476	教育情報論	1	第3ターム	水4		2,3,4,5,6			190		
C	244K0385	教育情報論	1	第4ターム	水4		2,3,4,5,6			400		
C	休講	情報処理概論Ⅰ										
C	休講	情報処理概論Ⅱ										
C	240S0540	情報産業論	2	第3,4ターム	金3	講義	1,2,3,4	10	04	60		
C	242S0541	情報社会論	2	第2ターム	火5,金5	講義	1,2,3,4	10	03	300		
C	240M1402	医学情報学(応用)	0.5	第1学期	他		4			127		
C	242T4021	データ構造とアルゴリズム	2	第2ターム	金1,金2	講義	2,3,4,5,6	10	04	110		
C	休講	人工知能										
C	243T0202	知能情報システム概論	1	第3ターム	木2	講義	1,2,3,4,5,6	49,10	03	250		
C	244T3048	ネットワーク工学	2	第4ターム	月2,木1		2,3,4,5,6	51	04	40		
C	244T4035	ネットワーク工学	2	第4ターム	月2,木1	講義	2,3,4,5,6	51	04	80		
C	240G3044	情報処理概論Ａ Ⅰ	2	第1,2ターム	水5	講義	1,2,3,4,5,6	10	03	200		
C	240G3529	情報処理概論Ａ II	2	第3,4ターム	水5	講義	1,2,3,4,5,6	10	03	200		
C	241G3023	情報リテラシー概論	2	第1ターム	金4,金5	講義	1,2,3,4,5,6	10	01	250		
C	243T4050	人工知能基礎	2	第3ターム	月2,木2		2,3,4,5,6	10	04	90		
C	243T7061	人工知能基礎	2	第3ターム	月2,木2		3,4,5,6	10	04	30		
C	240G3048	人工知能入門	2	第1,2ターム	木5	講義	1,2,3,4,5,6	10	03	200		
C	240S2546	計算物理学A	2	第3,4ターム	月3	講義・演習	3,4	43	04	50		
D	240K1309	情報数学I	2	第1,2ターム	月2	講義	2,3,4,5,6	41	04	40		
D	240K1310	情報数学II	2	第3,4ターム	月2	講義	2,3,4,5,6	41	04	40		
D	240K2108	情報基礎及び実習	2	第3,4ターム	水4,水5	実習	2,3,4,5,6	15	14	20		
D	243M8341	医療情報学	1	第3ターム	水3	講義	3,4	87	24	45		
D	240T0203	コンピュータ基礎	1	第1,2ターム	火4	演習・講義・実習	1,2,3,4,5,6	10	13	200		
D	240T0505	コンピュータ基礎	1	第1,2ターム	木2	演習・講義・実習	1,2,3,4,5,6	10	13	85		
D	242T3022	ディジタル回路	2	第2ターム	水1,水2	講義	2,3,4,5,6	51	04	100		
D	（全科目）	データサイエンス基礎演習	2			演習	1,2,3,4,5,6	10	01	50		
D	241S0554	計算機演習A	1	第1ターム	月1	演習	2,3,4	41	03	50		
D	242S0557	計算機演習B	1	第2ターム	月1	演習	2,3,4	41	03	50		
D	243S1506	プログラミング概論A	1	第3ターム	木4	講義	2,3,4	41	03	70		
D	244S1512	プログラミング概論B	1	第4ターム	木4	講義	2,3,4	41	03	70		
D	241T3020	プログラミングＢI	2	第1ターム	金1,金2	演習・講義・実習	2,3,4,5,6	51	04	80		
D	243T0506	プログラミング基礎Ⅰ	2	第3ターム	金1,金1	演習・講義・実習	1,2,3,4,5,6	10	03	100		
D	243T0205	プログラミング基礎Ⅰ	2	第3ターム	火3,火4	演習・講義・実習	1,2,3,4,5,6	10	03	200		
D	244T0206	プログラミング基礎Ⅱ	2	第4ターム	火3,火4	演習・講義・実習	1,2,3,4,5,6	10	03	200		
D	244T0507	プログラミング基礎Ⅱ	2	第4ターム	水1,水2	演習・講義・実習	1,2,3,4,5,6	10	03	100		
D	241X2003	データサイエンス実践 A	2	第1ターム	月3,木3	講義	2,3,4,5,6	75	13	70		
D	242X2004	データサイエンス実践 B	2	第2ターム	月3,木3	講義	2,3,4,5,6	75	13	70		
D	240S2547	計算物理学B	2	第3,4ターム	火3	講義・演習	3,4	43	04	50		
D	休講	データサイエンスのためのPython入門										

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

プログラム名　称	ジオパーク
概　要	ユネスコの正式プログラムである世界ジオパークおよび国内のジオパークの活動を牽引する人材養成を意識したパッケージである。持続可能な地域発展を目ざすジオパーク活動を理解するために、その基礎として地層、岩石、鉱物、化石などについて学習する。私たちを取り巻く自然環境に興味をもち、各種の地質現象を理解する。ジオパークの拠点施設であるミュージアムでの活動についての理解を深める。地域活動の実践を通じて、大地の成り立ちと人々の暮らしの関係について学ぶ。
履修資格	
修了要件	区分A、B、Cの科目から各区分1単位以上修得し、合計12単位以上を修得していること。
その他特記事項	

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
A	240S5534	東アジアの地質形成史	2	集中	他	講義	3,4	44	04	30		
A	243S5511	古生物学A	1	第3ターム	火4	講義	2,3,4	44	03	30		
A	243S5506	岩石学A	1	第3ターム	月2	講義	2,3,4	44	04	30		
A	243S5509	鉱物学Ａ	1	第3ターム	木2		2,3,4			30		
A	241S5530	地史学A	1	第1ターム	火4	講義	3,4	44	04	30		
A	242S5531	地史学B	1	第2ターム	火4	講義	3,4	44	04	30		
B	241G5036	地学基礎Ａ	2	第1ターム	月3,木3	講義	1,2,3,4,5,6	44	03	150		
B	243G5523	地学基礎Ａ	2	第3ターム	月3,木3	講義	1,2,3,4,5,6	44	03	150		
B	241G5037	地学基礎Ｂ	2	第1ターム	火4,金4	講義	1,2,3,4,5,6	44	03	150		1
B	244G5524	地学基礎Ｃ	2	第4ターム	月1,木1	講義	1,2,3,4,5,6	44	03	250		
B	241G6034	地学概論Ａ	2	第1ターム	月1,木1	講義	1,2,3,4,5,6	44	03	150		
B	244G6519	地学概論Ａ	2	第4ターム	火4,金4	講義	1,2,3,4,5,6	44	03	150		
B	休講	地学概論Ｂ										
B	240G6018	地学実験Ａ	2	第1,2ターム	水2	実験	1,2,3,4,5,6	44	03	20		
B	241G3205	ダブルホーム活動入門Ⅰ	1	第1ターム	火5,他	講義・演習	1,2,3,4,5,6	75,74	01	40		3
B	241G3206	ダブルホーム活動入門Ⅰ	1	第1ターム	水5,他	講義・演習	1,2,3,4,5,6	75,74	01	40		3
B	241G3207	ダブルホーム活動入門Ⅰ	1	第1ターム	木5,他	講義・演習	1,2,3,4,5,6	75,74	01	40		3
B	242G3906	ダブルホーム活動入門Ⅱ	1	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75,74	01	120		3
B	休講	新潟地域研究										2
B	240G7521	人文系展開科目D	2	第3,4ターム	水3	講義	1,2,3,4,5,6	31,32,33	03	150		
C	240H2033	博物館概論	2	第1,2ターム	月5	講義	2,3,4	17	03	150		
C	240H4035	ミュージアム論	2	第3,4ターム	水3		3,4	17	04	100		
C	240H4032	博物館資料保存論	2	第3,4ターム	月5		3,4	17	04	100		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

備考　1）自然系学部（理）・他、2）理学部を優先として全学部、
3）全学部・ダブルホーム新規参加学生（１年次及び編入初年次学生）

プログラム名称	地域災害環境システム
概要	日本は豊かな自然環境の恩恵を受ける一方自然災害も多く、豊かさと災害は表裏一体の関係にある。世界の自然災害は過去20年間で倍増しており、防災・減災や災害レジリエンスの高度化・精緻化が進む一方、人口減・高齢化による地域力の低下など地域の実情に合わせた方策・施策の集約化も必須である。また企業においても環境や社会等に配慮したESG経営が求められており，SDGsの達成に向けこの分野への備えは欠かせない。「地域災害環境システム学」は自然災害の頻発化・激甚化が予測される時代を迎え、「災害や環境変化に強い地域社会」の構築を目指す新しい学問分野である。
履修資格	
修了要件	区分A（必修）、区分B（環境系科目）、区分C（ガバナンス系科目）、区分D（社会系科目）の科目から各2単位以上、合計12単位以上を修得していること。
その他特記事項	

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
A	242G3242	地域災害環境システム学入門	1	第2ターム	水5	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	100		
A	243G3713	地域災害環境システム学演習	1	第3ターム	水5	演習	1,2,3,4,5,6	75	04	30		
B	241S0581	環境気象学	2	第1ターム	火3,金3	講義	2,3,4	44	04	40		
B	244G6520	地球と気象	2	第4ターム	火4,金4	講義	1,2,3,4,5,6	44	03	150		
B	休講	環境政策論										
B	240G2901	健康スポーツ科学実習 II（野外活動）	1	集中	他	実技	1,2,3,4,5,6	14	03	40		
B	241T2032	河川工学（工）	2	第1ターム	金1,金2	講義	3,4,5,6	52	04	70		
B	244T2033	海岸工学	2	第4ターム	月3,木3	講義	3,4,5,6	52	04	50		
C	241G7079	組織マネジメント論	2	第1ターム	木3,木4	講義	1,2,3,4,5,6	37	03	150		
C	244T0004	技術者の心がまえ	2	第4ターム	水3,水4	講義	1,2,3,4,5,6	49	13	600		
C	休講	経営管理と社会的責任										
D	240G3705	SDGs入門	2	第3,4ターム	月2	講義	1,2,3,4,5,6	75	05	200		
D	243G7506	現代社会論	2	第3ターム	水1,水2	講義	1,2,3,4,5,6	38	03	150		
D	243T8006	マーケティング基礎	2	第3ターム	木3,木4	講義	3,4,5,6	37	14	35		
D	休講	マーケティング論Ⅱ										

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

プログラム名称	ふるさと共創学
概要	ダブルホームの地域活動をとおして地域づくりに関心を持ち、地域の思いに寄り添いながら地域や社会における課題を探究し、解決に向けて積極的に取り組む人材を育成していくことを目指す。
履修資格	ダブルホームに参加する全学部学科の学生
修了要件	区分A「分野横断デザイン」1単位、「分野横断リフレクション」1単位の計2単位（※2021年度以前入学生で「分野横断デザイン」と「分野横断リフレクション」を履修できなかった場合は区分Bまたは区分Cから2単位）、区分Bから4単位以上(2024年度以降入学者は、ダブルホーム活動入門Ⅱを必修とする)、区分Cから4単位以上、合計12単位以上を修得していること。
その他特記事項	本マイナー・プログラムの履修希望・履修中の2021年度以前入学生は、教育基盤機構アカデミック・アドバイザー等に相談をすること。

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
A	241G3220	分野横断デザイン	1	第1ターム	月4	講義・演習	1,2	75	01	20		
A	241G3221	分野横断デザイン	1	第1ターム	月5	講義・演習	1,2	75	01	20		
A	241G3222	分野横断デザイン	1	第1ターム	火5	講義・演習	1,2	75	01	20		
A	241G3223	分野横断デザイン	1	第1ターム	水4	講義・演習	1,2	75	01	20		
A	241G3224	分野横断デザイン	1	第1ターム	水5	講義・演習	1,2	75	01	20		
A	241G3225	分野横断デザイン	1	第1ターム	木3	講義・演習	1,2	75	01	20		
A	242G3245	分野横断デザイン	1	第2ターム	月4	講義・演習	1,2	75	01	20		
A	242G3246	分野横断デザイン	1	第2ターム	月5	講義・演習	1,2	75	01	20		
A	242G3247	分野横断デザイン	1	第2ターム	火5	講義・演習	1,2	75	01	20		
A	242G3248	分野横断デザイン	1	第2ターム	水5	講義・演習	1,2	75	01	20		
A	242G3249	分野横断デザイン	1	第2ターム	木3	講義・演習	1,2	75	01	20		
A	242G3250	分野横断デザイン	1	第2ターム	木4	講義・演習	1,2	75	01	20		
A	243G3728	分野横断デザイン	1	第3ターム	月4	講義・演習	1,2	75	01	20		
A	243G3729	分野横断デザイン	1	第3ターム	火4	講義・演習	1,2	75	01	20		
A	244G3746	分野横断デザイン	1	第4ターム	月4	講義・演習	1,2	75	01	20		
A	244G3745	分野横断デザイン	1	第4ターム	火4	講義・演習	1,2	75	01	20		
A	240G3969	分野横断リフレクション	1	集中	他	講義・演習	3,4	75	01	10		
A	240G3939	分野横断リフレクション	1	集中	他	講義・演習	3,4	75	01	10		
A	241G3226	分野横断リフレクション	1	第1ターム	水3	講義・演習	3,4	75	01	10		
A	241G3227	分野横断リフレクション	1	第1ターム	水5	講義・演習	3,4	75	01	10		
A	242G3252	分野横断リフレクション	1	第2ターム	水3	講義・演習	3,4	75	01	10		
A	242G3251	分野横断リフレクション	1	第2ターム	水4	講義・演習	3,4	75	01	10		
A	243G3732	分野横断リフレクション	1	第3ターム	月5	講義・演習	3,4	75	01	10		
A	243G3733	分野横断リフレクション	1	第3ターム	水3	講義・演習	3,4	75	01	10		
A	243G3730	分野横断リフレクション	1	第3ターム	木3	講義・演習	3,4	75	01	10		
A	243G3731	分野横断リフレクション	1	第3ターム	木4	講義・演習	3,4	75	01	10		
A	244G3750	分野横断リフレクション	1	第4ターム	月5	講義・演習	3,4	75	01	10		
A	244G3747	分野横断リフレクション	1	第4ターム	水4	講義・演習	3,4	75	01	10		
A	244G3748	分野横断リフレクション	1	第4ターム	水5	講義・演習	3,4	75	01	10		
A	244G3749	分野横断リフレクション	1	第4ターム	木2	講義・演習	3,4	75	01	10		
B	241G3205	ダブルホーム活動入門Ⅰ	1	第1ターム	火5,他	講義・演習	1,2,3,4,5,6	75,74	01	40		
B	241G3206	ダブルホーム活動入門Ⅰ	1	第1ターム	水5,他	講義・演習	1,2,3,4,5,6	75,74	01	40		
B	241G3207	ダブルホーム活動入門Ⅰ	1	第1ターム	木5,他	講義・演習	1,2,3,4,5,6	75,74	01	40		
B	242G3906	ダブルホーム活動入門Ⅱ	1	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75,74	01	120		
B	244G3959	リーダーシップ演習Ⅰ	1	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	10		
B	休講	リーダーシップ演習Ⅰα										
B	241G3923	リーダーシップ演習Ⅱ1	1	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	10		
B	242G3925	リーダーシップ演習Ⅱ2	1	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	10		
B	243G3958	リーダーシップ演習Ⅱ3	1	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	15		
B	244G3960	リーダーシップ演習Ⅱ4	1	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	15		
B	241G3924	リーダーシップ演習Ⅲ1	1	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	10		
B	242G3926	リーダーシップ演習Ⅲ2	1	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	10		
B	240G3917	地域共創演習Ⅰ	1	集中	他	演習・講義・実習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	20		
B	240G3920	地域共創演習Ib	1	集中	他	演習・実習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	20		
B	240G3918	地域共創演習Ⅱa	1	集中	他	演習・講義・実習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	20		
B	240G3919	地域共創演習Ⅱb	1	集中	他	演習・講義・実習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	20		
B	240G3921	地域共創演習Ⅲa	1	集中	他	演習・講義・実習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	20		
B	240G3915	地域共創演習Ⅲb	1	集中	他	演習・講義・実習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	30		
B	240G3972	地域共創特別演習(岩室)	2	集中	他	演習・講義・実習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	10		
B	240G3973	地域共創特別演習ⅠA（刈羽＆東京）	2	集中	他	演習・講義・実習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	20		
B	240G3974	地域共創特別演習ⅠB（刈羽＆東京）	2	集中	他	演習・講義・実習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	20		
C	休講	新潟での企業理念と経営戦略	1	集中	他							
C	243G3707	生涯学習社会とメディア	2	第3ターム	月2,木2	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	20		
C	240G3211	地域から文化を考える	2	第1,2ターム	月5	講義・実習	1,2,3,4,5,6	75	03	50		
C	240G3209	ボランティア開発論Ⅰ	2	第1,2ターム	金5	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	20		
C	240G3210	コミュニティ開発論Ⅰ	2	第1,2ターム	金6	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
C	240G3709	ボランティア開発論Ⅱ	2	第3,4ターム	金5	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	20		
C	240G3710	コミュニティ開発論Ⅱ	2	第3,4ターム	金6	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
C	243G3714	トキをシンボルとした自然再生	2	第3ターム	月4,木4	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	90		
C	240G3931	朱鷺・自然再生フィールドワーク	1	集中	他	実習	1,2,3,4,5,6	75	03	30		
C	240G3937	森・里・海フィールド実習	1	集中	他	実習	1,2,3,4,5,6	75	03	8		
C	240G3704	近世越後諸地域の歴史と社会	2	第3,4ターム	水5	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	150		
C	休講	新聞を体験する－新潟日報との連携授業－										
C	240G3705	SDGs入門	2	第3,4ターム	月2	講義	1,2,3,4,5,6	75	05	200		

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
C	240G3907	学校支援フィールドワークA（小学校）	2	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
C	240G3908	学校支援フィールドワークA（中学校）	2	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
C	240G3909	学校支援フィールドワークA（高等学校）	2	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
C	240G3910	学校支援フィールドワークB（小学校）	4	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
C	240G3911	学校支援フィールドワークB（中学校）	4	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		
C	240G3912	授業フィールドワーク	2	集中	他	実習	1,2,3,4,5,6	75	03	20		
C	240G3913	現場訪問とデータから読み解く新潟の今 －新潟地域産業の可能性を探る－ Ⅰ	2	集中	他	演習・実習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	15		
C	240G3932	１・２年生対象 長期・企業実践型プログラムⅡ	4	集中	他	実習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	25		
C	242G3235	１・２年生対象 長期・企業実践型プログラムⅠ	2	第2ターム	木5	演習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	25		
C	240G3970	新潟の企業の魅力を探る	1	集中	他	実習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	30		
C	240G3951	新潟の企業の魅力を探る	1	集中	他	実習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	30		
C	休講	キャリア形成										
C	240G3904	新潟産業フィールドワーク	4	集中	他	講義・演習	1,2,3,4,5,6	75,74	01	20		
C	休講	新潟産業フィールドワーク・オンライン										
C	241G3208	生まれ変わる地方小都市－人とまちの未来図を描く－	2	第1ターム	水3,水4	演習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	25		
C	240G3916	地方小都市の未来創造-市民と学生による地域づくりの実践	4	集中	他	演習・実習	1,2,3,4,5,6	75,74	04	10		
C	242G3236	税のしくみから社会を考える	2	第2ターム	金1,金2	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	100		1
C	休講	コミュニティーインターンシップ入門										
C	240G3922	コミュニティーインターンシップ実践	4	集中	他	演習・実習	1,2,3,4,5,6	77	04	15		
C	休講	アカデミックライティングⅠ（基礎）										
C	休講	アカデミックライティングⅡ（応用）										
C	242T0434	都市計画学I	2	第2ターム	火4,金4	講義	2,3,4,5,6	53	03	100		
C	241T0504	アントレプレナーシップ	2	第1ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	37	13	100		
C	242T0502	協創経営概論	2	第2ターム	木3,木4	講義	1,2,3,4,5,6	37,49	13	100		
C	243T8006	マーケティング基礎	2	第3ターム	木3,木4	講義	3,4,5,6	37	14	35		2
C	240T0008	創造プロジェクト基礎	2	第3,4ターム	他	演習・実験・実習	1,2,3,4,5,6	99	13	999		
C	240T0009	創造プロジェクトI	2	第1,2ターム	他	演習・実験・実習	2,3,4,5,6	99	13	999		
C	240T0010	創造プロジェクトII	2	第3,4ターム	他	演習・実験・実習	2,3,4,5,6	99	13	999		
C	240T0011	創造研究プロジェクトI	2	第1,2ターム	他	演習・実験・実習	3,4,5,6	99	14	999		
C	240T0012	創造研究プロジェクトII	2	第3,4ターム	他	演習・実験・実習	3,4,5,6	99	14	999		
C	241G6028	農業資源を知る	2	第1ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	60,75	03	250		
C	242G6030	生態系を知る	2	第2ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	60,75	03	250		
C	240H2031	民俗学概説	2	第1,2ターム	木3	講義	2,3,4	33	03	80		
C	240G3757	表現プロジェクト演習H	2	第3,4ターム	火3	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	15		
C	240H1003	社会文化学入門A	2	第3,4ターム	木5		1,2,3,4	31	03	100		
C	240H9101	社会・地域文化学入門	2	第3,4ターム	木5	講義	4	31,33,38	03	5		
C	240G7521	人文系展開科目D	2	第3,4ターム	水3	講義	1,2,3,4,5,6	31,32,33	03	150		
C	243G3712	表現プロジェクト演習T	2	第3ターム	水1,水2	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	15		
C	243G7506	現代社会論	2	第3ターム	水1,水2	講義	1,2,3,4,5,6	38	03	150		3
C	244G7516	つながりと絆の社会学	2	第4ターム	月3,木3	講義	1,2,3,4,5,6	38	03	150		
C	241H2042	社会調査法Ａ	2	第1ターム	金3,金4	講義	2,3,4	38	13	40		
C	休講	社会学的思考法										
C	242H2043	社会調査法Ｂ	2	第2ターム	火4,火5	講義	2,3,4	38	13	40		4
C	240G7901	生涯学習概論	2	集中	他	講義	1,2,3,4,5,6	40	03	40		
C	休講	民俗学概説Ａ										
C	休講	社会心理学										
C	244H2004	社会・集団・家族心理学	2	第4ターム	金3,金4	講義・実習	2,3,4	39	03	70		
C	241H2029	地理学概説	2	第1ターム	金3,金4	講義	2,3,4	32	03	70		
C	241H9205	地理学概説Ｂ	2	第1ターム	金3,金4		4	32	03	70	○	
C	243H2030	地誌学概説	2	第3ターム	金3,金4	講義	2,3,4	33	03	70		
C	243H9206	地誌学概説Ｂ	2	第3ターム	金3,金4		4	33	03	70	○	
C	240G7531	日本文化論	2	第3,4ターム	火2	講義	1,2,3,4,5,6	13	03	200		
C	240K5103	教育統計学（心理学統計法）	2	第1,2ターム	他	講義・演習	2,3,4,5,6	40	04	40		
C	240L3807	新潟市の行政	2	第3,4ターム	火5	講義	2,3,4,5,6	34,35	03	250		
C	240L3801	新潟を学ぶ	2	第3,4ターム	木4	講義	1,2,3,4,5,6	34,35	03	70		
C	休講	ビジネスベンチャリング入門										
C	240E6227	新潟地域文化論	2	第3,4ターム	月5	講義	1,2,3,4,5,6	13	04	120		
C	241E1107	経営学概論Ⅰ	2	第1ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	37	04	10		
C	241E6107	経営学概論Ⅰ	2	第1ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	37	04	340		
C	240E6250	課題演習Ａ（課題研究）	2	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	77	14	12		5
C	240E6234	課題演習Ａ（課題研究）	2	第3,4ターム	火3	演習	1,2,3,4,5,6	77	14	12		5
C	241E1220	行財政入門	2	第1ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	37	13	20		
C	241E6220	行財政入門	2	第1ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	37	03	400		
C	休講	マーケティング論										
C	241E6001	経済学入門	2	第1ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	36	03	400		
C	241E6007	統計入門	2	第1ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	41,36,37	13	500		
C	241E1007	統計入門Ⅱ	2	第1ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	41,36,37	13	10		
C	243E1157	経営学概論Ⅱ	2	第3ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	37	04	50		
C	243E6157	経営学概論Ⅱ	2	第3ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	37	04	450		
C	240E6181	文化社会論基礎	2	第3,4ターム	金2	講義	1,2,3,4,5,6	28,29	03	100		
C	240E1181	異文化論	2	第3,4ターム	金2	講義	1,2,3,4,5,6	36,33	04	25		
C	241G7079	組織マネジメント論	2	第1ターム	木3,木4	講義	1,2,3,4,5,6	37	03	150		
C	243E6002	経営学入門	2	第3ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	37	03	400		
C	240E6224	ＮＰＯ論	2	第3,4ターム	火5	講義	1,2,3,4,5,6	36	04	100		
C	241G8005	「食べる」	2	第1ターム	火3,火4	講義	1,2,3,4,5,6	90	03	50		
C	243G8505	新潟発福祉学	2	第3ターム	水3,水4	講義	1,2,3,4,5,6	75,86	03	100		
C	240G3203	キャリアデザイン	2	第1,2ターム	水4	講義	1,2,3,4,5,6	75,74	03	200		4

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
C	240G3266	学生がデザインする働き方の未来－人生100年時代のワークスタイルを創造する－	2	第2,3ターム	金5	講義・演習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	25		
C	244G3744	大学生活戦略論　－キャンパス内外を「越境」する学び・経験－	2	第4ターム	金3,金4	講義	1,2,3,4,5,6	75,74	03	180		
C	240G3759	国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションB	2	第3,4ターム	木3	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	30		
C	240G3760	国際共修：留学生との協働学習を通した異文化理解B	2	第3,4ターム	月3	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	30		
C	243G3715	キャリア形成と法制度	2	第3ターム	月2,木2	講義	1,2,3,4,5,6	75	04	250		
C	240K5618	哲学	2	第1,2ターム	木4	講義	1,2,3,4,5,6	28	04	80		
C	240G7519	対人行動の心理学	2	第3,4ターム	木2	講義	1,2,3,4,5,6	39	03	170		
C	242H2002	心理学概論B	2	第2ターム	月2,木2	講義・実習	2,3,4	39	03	70		
C	休講	心理学概説B										
C	243G7504	心理学概論	2	第3ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4,5,6	39	03	200		
C	243G7507	人間関係論	2	第3ターム	金1,金2	講義	1,2,3,4,5,6	39	03	100		
C	240G6018	地学実験A	2	第1,2ターム	水2	実験	1,2,3,4,5,6	44	03	20		
C	240G3204	SDGs入門演習	2	第1,2ターム	月2	講義	1,2,3,4,5,6	75	05	200		
C	240G3706	地域を探る	2	第3,4ターム	水3	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	150		
C	休講	SDGｓ推進人財のイノベーションプロセスを考える：smart　DESIGN-i（地域社会課題解決）基礎Ⅰ										
C	243G3708	私のローカルキャリア論 －地域とかかわる多様な働きかた・暮らしかた－	2	第3ターム	木3,木4	講義・演習	1,2,3,4,5,6	75,74	03	100		
C	休講	SDGｓ推進人財のイノベーションプロセスを考える：smart　DESIGN-i（地域社会課題解決）基礎Ⅱ										
C	休講	地方小都市の未来創造２										
C	休講	SDGｓ推進人財のキャリアビジョンを考える：スマートライフキャリアデザイン基礎Ⅰ										
C	休講	SDGｓ推進人財のキャリアビジョンを考える：スマートライフキャリアデザイン基礎Ⅱ										
C	240G3938	開発・環境と平和	2	集中	他	講義	1,2,3,4,5,6	75	04	20		
C	240G7510	アクターネットワークの社会学	2	第3,4ターム	火5	講義	1,2,3,4,5,6	38	03	150		
C	244G3754	佐渡学概論：佐渡島の自然と人々の営み	2	第4ターム	月4,木4	講義	1,2,3,4,5,6	75	03	90		
C	240G3971	佐渡自然共生国際実習	2	集中	他	実習	1,2,3,4,5,6	75	03	10		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

備考　　1）主として教育学部１年生、2）工学部を優先、3）歯学部口腔生命福祉学科を優先、
4）主として人文学部２年生、5）主として経済科学部２年生、6）医・歯学部は１年生も可

プログラム名　称	MOT基礎
概　要	組織経営と技術開発の両分野は、現代の日進月歩の企業社会において、大変重要な中枢部分を形成しており、両分野とも互いの基礎知識を有する人材確保を必要条件としている。そのような状況を背景として、本カリキュラムでは、独自の開設科目に加え、経済・法・理・工・農などの各分野で開設されている科目を活用して、技術経営の基礎を修得できることを目指すプログラムである。
履修資格	
修了要件	区分Aの必修科目を4単位、区分Bから4単位以上、区分Cから2単位以上、合計12単位以上を修得していること。
その他特記事項	

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
A	241G6035	特許・経営および製品開発入門	2	第1ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	49	03	150		
A	240G6904	特許と技術経営I	1	集中	他	講義	1,2,3,4,5,6	49	03	30		
A	240G6905	特許と技術経営Ⅱ	1	集中	他	講義	1,2,3,4,5,6	49	03	30		
B	243L3101	民法Ⅰ（民法総則）	2	第3ターム	水3,水4	講義	1,2,3,4,5,6	34	03	300		
B	243L3106	民法Ⅵ（債権各論）	2	第3ターム	金1,金2	講義	1,2,3,4,5,6	34	03	300		
B	242L3102	民法Ⅱ（不法行為）	2	第2ターム	月1,月2	講義	1,2,3,4,5,6	34	03	300		
B	244L3103	民法Ⅲ（物権１）	2	第4ターム	金1,金2	講義	1,2,3,4,5,6	34	03	300		
B	休講	経営管理と社会的責任										
B	241T8010	企業会計基礎	2	第1ターム	月5,木5		2,3,4,5,6			35		
B	243T8006	マーケティング基礎	2	第3ターム	木3,木4	講義	3,4,5,6	37	14	35		
B	休講	リーダーシップ基礎										
C	242G6025	生活を支える化学技術－化学工学への招待－	2	第2ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4,5,6	47	03	150		
C	244A0111	農業経営学	2	第4ターム	火2,金2	講義	2,3,4	64	14	40		
C	241G6021	最先端技術を支える化学Ⅰ	2	第1ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	46	03	250		
C	242T8005	プロジェクト・マネジメント基礎	2	第2ターム	金3,金4	講義	3,4,5,6	37,55	14	35		
C	241T8008	技術評価	2	第1ターム	火3,火4	講義	4,5,6	49,55	14	35		
	241L3407	知的財産法Ⅰ（著作権法）	2	第1ターム	木3,木4	講義	3,4,5,6	34	04	150		
	244L3114	会社法Ⅰ（総論・機関）	2	第4ターム	月3,月4	講義	1,2,3,4,5,6	34	04	150		
	241L3115	会社法Ⅱ（株式）	2	第1ターム	木1,木2	講義	1,2,3,4,5,6	34	04	150		
	241L3301	経済法Ⅰ（競争の実質的制限禁止）	2	第1ターム	水1,水2	講義	3,4,5,6	34	04	150		
	242S0541	情報社会論	2	第2ターム	火5,金5	講義	1,2,3,4	10	03	300		
	243S1506	プログラミング概論A	1	第3ターム	木4	講義	2,3,4	41	03	70		
	244S1512	プログラミング概論B	1	第4ターム	木4	講義	2,3,4	41	03	70		
	240S0540	情報産業論	2	第3,4ターム	金3	講義	1,2,3,4	10	04	60		
	241T1008	工業力学	2	第1ターム	月2,木2	講義	2,3,4,5,6	49,43	04	120		
	241T1005	材料力学I	2	第1ターム	火1,金1	講義・演習	2,3,4,5,6	50	04	120		
	242T5015	分析化学（工）	2	第2ターム	火1,金1	講義	2,3,4,5,6	47	04	100		
	243T3023	電気回路II	2	第3ターム	火3,金3	講義	2,3,4,5,6	51	04	90		
	244T3011	電磁気学I	2	第4ターム	火2,金2	講義	2,3,4,5,6	51	04	90		
	242T3028	電磁気学II	2	第2ターム	火3,金3	講義	3,4,5,6	51	04	100		
	244T3027	電子回路	2	第4ターム	木3,木4	講義	2,3,4,5,6	51	04	100		
	244T7029	電子回路	2	第4ターム	月4,木3	講義	2,3,4,5,6	51	24	70		
	243T4024	論理回路	2	第3ターム	水1,水2	講義	2,3,4,5,6	10	04	90		
	244T7060	論理回路	2	第4ターム	火1,火2		2,3,4,5,6	10,51	14	60		
	244T0503	ビジネス統計学	2	第4ターム	木3,木4	講義	1,2,3,4,5,6	37,38,49	13	100		
	242T0502	協創経営概論	2	第2ターム	木3,木4	講義	1,2,3,4,5,6	37,49	13	100		
	241T0504	アントレプレナーシップ	2	第1ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	37	13	100		
	休講	化学プロセス概論										
	241T0441	日本建築史	2	第1ターム	火2,金2	講義	2,3,4,5,6	53	04	55		
	休講	電気回路基礎論										
	休講	基礎高分子化学										
	241S0570	基礎生物化学	2	第1ターム	月3,木3	講義	2,3,4	57	03	50		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

プログラム 名　　称	農学から始めるDXとGX
概　　要	社会全体でデジタル化に向けた取組が加速するなか、デジタルトランスフォーメーション（DX）という言葉が社会に急速に浸透している。農業・食関連産業においてもDX実現に向けてさまざまな取組が進められている。本プログラムでは、農業生産とそれを支える生産基盤、環境の視座からDXについて知識を修得するとともに、温室効果ガスの排出削減と産業競争力向上の両立を目指す取組みであるグリーントランスフォーメーション（GX）について知識を修得する。
履修資格	
修了要件	次の条件をすべて満たしていること。 ・所定の授業科目について12単位以上を修得していること。 ・学位プログラムが決定していること。 ・学位プログラムが流域環境学プログラムと異なること。
その他 特記事項	創生学部生で「生物資源科学・流域環境学領域学修科目パッケージ」を選択しようとするもの、及び選択したものは、教育基盤機構アカデミック・アドバイザー等に相談をすること。

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
	240G6903	農業DXを知る	1	集中	他	講義	1,2,3,4,5,6	60	13	70		
	240A0003	基礎農林学実習	1	集中	他	実習・実験	2,3,4	60,62	13	190		
	244A0054	精密農業工学	2	第4ターム	火3,火4	講義	2,3,4	65	04	90		
	243A0050	食品・農業情報工学	2	第3ターム	金3,金4	講義	2,3,4	65	04	50		
	243A0062	流域環境GIS	2	第3ターム	火2,金2	講義	2,3,4	62,65	03	80		
	242A0073	リモートセンシング	2	第2ターム	木3,木4	講義	3,4	62,65	04	80		
	241A0133	農地と水利用	2	第1ターム	月2,木2	講義	2,3,4	65	03	70		
	242A0055	バイオマスエネルギー論	2	第2ターム	月1,木1	講義	2,3,4	65	04	50		
	243A0051	食料環境工学	2	第3ターム	火1,金1	講義	2,3,4	65	04	50		
	243A0078	環境統計学	2	第3ターム	水3,水4	講義	2,3,4	62,65	04	41		
		環境モデリング入門										1
	240A0115	アグリビジネス論	2	集中	他	講義	3,4	64	04	40		
	241G6028	農業資源を知る	2	第1ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	60,75	03	250		
	242A0043	生物統計学	2	第2ターム	金3,金4	講義	2,3,4	60	04	100		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

備考　1）令和5年度は3年生向け開講。令和6年度から2科目に分割。令和7年度から分割科目の1つを廃止。

プログラム名称	GIS（地理情報システム）
概要	地理情報システム（GIS）は、デジタル化された地図情報を基に、複雑に構成された社会空間および自然空間における諸問題をコンピューター上で解析し、問題やその解決方法を提示するためのツールである。本パッケージでは、GIS基礎科目に加え、GISを活用する全学の既設科目を活用し、幅広い分野におけるGISの基礎理解、ソフトウエアおよびデータの操作、そして研究プロジェクトのデザイン能力を促す教育プログラムを提供する。
履修資格	
修了要件	次の条件を全て満たしていること ・区分Aから4単位、区分Bから8単位以上修得し、合計12単位以上を修得していること。
その他特記事項	

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
A	240G3936	GIS概論演習	2	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	25		1
A	240G3961	GIS概論応用演習	2	集中	他	演習	1,2,3,4,5,6	75	03	25		1
B	240K5653	地理学特講IV	2	第3,4ターム	月3	講義	3,4,5,6	32	04	15		
B	242H4026	地理学A	2	第2ターム	金3,金4	講義	3,4	32	04	40	○	
B		地理学B									○	
B	241H2029	地理学概説	2	第1ターム	金3,金4	講義	2,3,4	32	03	70		
B	243A0062	流域環境GIS	2	第3ターム	火2,金2	講義	2,3,4	62,65	03	80		
B	244S6502	地形学	2	第4ターム	月4,木4	講義	2,3,4	44	04	70		
B	240K5606	人文地理学	2	第1,2ターム	水4	講義	1,2,3,4,5,6	32	04	150		
B	242A0073	リモートセンシング	2	第2ターム	木3,木4	講義	3,4	62,65	04	80		
B	240K5650	地理学特講Ⅰ	2	第3,4ターム	水2	講義	2,3,4,5,6	32	04	40		
B	240S6521	環境経済システム論I	2	集中	他	講義	3,4	36	04	45		
B	244G6520	地球と気象	2	第4ターム	火4,金4	講義	1,2,3,4,5,6	44	03	150		
B	240S6546	環境政策論b	1	集中	他	講義	2,3,4	35	04	70		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

備考　1）必修

プログラム名称	医学物理学基礎、医学物理学基礎<発展>
概要	現代の医療はX線CT、MRI、画像誘導放射線治療装置等の物理学を応用して開発された多くの先端技術に支えられており、これら先端技術の役割は益々大きくなってきている。医学物理学は基礎科学である物理学を積極的に医療に生かし、医療の発展に貢献することを目的とする学問分野であり、その専門家である医学物理士は専門知識や技術を生かして医療の現場で診断・治療装置に関する情報を科学的見地から総合的に判断し、適切に医療に反映させる役割を持っている。 「医学物理学基礎」は、医学物理学の興味を持つ学生が、関連する基礎分野について学ぶためのプログラムである。 「医学物理学基礎<発展>」は、放射線治療分野の医学物理士を目指す学生や医学物理学領域の研究開発に関心を持つ医理工学生が、「医学物理学基礎I」の学びを発展させて医学物理学の基礎を学ぶためのプログラムである。医学物理学は物理学と放射線技術科学の境界領域の学問であるので、それぞれの分野の科目を学ぶことで医学物理学の基礎を修得する。
履修資格	【医学物理学基礎<発展>】 マイナー・プログラム「医学物理学基礎」を修了、または履修中であること。
修了要件	【医学物理学基礎】 区分Aから1単位、区分Bから3単位以上、区分Cから3単位以上を修得し、合計12単位以上修得していること。 （区分D、Eの科目は対象となりません。） 【医学物理学基礎<発展>】 次の条件をすべて満たしていること。 ・区分Dから6単位、区分Eから6単位、合計12単位以上を修得していること。（区分A、B、Cの科目は対象となりません。） ・マイナー・プログラム「医学物理学基礎」を修了していること。
その他特記事項	区分D、Eの科目は「医学物理学基礎」を修了する前でも履修することができます。

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
A	243G6530	医学物理学入門	1	第3ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	87,43	03	50		1
B	240G5016	物理学基礎ＡⅠ	2	第1,2ターム	月5	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	80		2
B	241G5015	物理学基礎ＡⅠ	2	第1ターム	木1,木2	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	150		2
B	240G5022	物理学基礎BⅠ	2	第1,2ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	150		2
B	241G5017	物理学基礎BⅠ	2	第1ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	150		2
B	241G5018	物理学基礎BⅠ	2	第1ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	140		2
B	241G5019	物理学基礎BⅠ	2	第1ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	150		2
B	241G5020	物理学基礎BⅠ	2	第1ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	150		2
B	242G5021	物理学基礎BⅠ	2	第2ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	100		2
B	240G5511	物理学基礎Ａ II	2	第3,4ターム	水3	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	120		3
B	244G5512	物理学基礎BⅡ	2	第4ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	160		3
B	244G5513	物理学基礎BⅡ	2	第4ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	160		3
B	244G5514	物理学基礎BⅡ	2	第4ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	140		3
B	244G5515	物理学基礎BⅡ	2	第4ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	160		3
B	240G5023	物理学基礎CⅠ	2	第1,2ターム	月2	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	175		
B	240G5516	物理学基礎CⅡ	2	第3,4ターム	火1	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	160		
B	241G5003	数学基礎A1	1	第1ターム	水1	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	200		
B	241G5005	数学基礎A1	1	第1ターム	木5	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	243G5501	数学基礎A1	1	第3ターム	水1	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	242G5004	数学基礎A2	1	第2ターム	水1	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	200		
B	242G5006	数学基礎A2	1	第2ターム	木5	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	244G5502	数学基礎A2	1	第4ターム	水1	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	241G5007	数学基礎B1	1	第1ターム	金3	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	240		
B	241G5009	数学基礎B1	1	第1ターム	水3	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	243G5503	数学基礎B1	1	第3ターム	水2	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	243G5505	数学基礎B1	1	第3ターム	木3	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	242G5008	数学基礎B2	1	第2ターム	金3	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	240		
B	242G5010	数学基礎B2	1	第2ターム	水3	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	244G5504	数学基礎B2	1	第4ターム	水2	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
B	244G5506	数学基礎B2	1	第4ターム	木3	講義	1,2,3,4,5,6	41	03	150		
C	240M8004	医療と画像技術	2	第3,4ターム	火4	講義	1,2,3,4	81	03	100		
C	243M8355	医用放射線技術の歴史	1	第3ターム	火5	講義	1,2,3,4	87	04	45		
C	241G6023	原子力・放射線物理学入門	1	第1ターム	木5	講義	1,2,3,4,5,6	49	03	140		
C	241G6024	原子力・放射線防護学入門	1	第1ターム	火5	講義	1,2,3,4,5,6	49	03	140		
C	242G6027	原子力・放射線関連法規入門	1	第2ターム	火5	講義	1,2,3,4,5,6	49	03	140		
C	241G6031	放射性廃棄物処理法	1	第1ターム	火3	講義	1,2,3,4,5,6	49	03	140		
D	240G6016	物理学基礎実験	2	第1,2ターム	水3,水4	実験	1,2,3,4,5,6	43	03	50		
D	240G6017	物理学基礎実験	2	第1,2ターム	金3,金4	実験	1,2,3,4,5,6	43	03	50		
D	244S0560	基礎ベクトル解析	2	第4ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4	43	03	70		
D	240S0558	解析力学	2	第1,2ターム	火4	講義	2,3,4	43	03	70		
D	241S2507	電磁気学IA	1	第1ターム	月4	講義	2,3,4	43	04	70		4
D	242S2508	電磁気学IB	1	第2ターム	月4	講義	2,3,4	43	04	70		4
D	243S2509	電磁気学IIA	1	第3ターム	月5	講義	2,3,4	43	04	70		4
D	244S2510	電磁気学IIB	1	第4ターム	月5	講義	2,3,4	43	04	70		4
D	240S2560	電磁気学I（理）	2	第1,2ターム	月4	講義	2,3,4	43	04	70		5
D	240S2561	電磁気学II（理）	2	第3,4ターム	月5	講義	2,3,4	43	04	70		5
D	243S2520	熱力学A	1	第3ターム	木1	講義	2,3,4	43	03	70		
D	244S2521	熱力学B	1	第4ターム	木1	講義	2,3,4	43	03	70		
D	243S2515	量子力学序論A	1	第3ターム	月4	講義	2,3,4	43	03	70		
D	244S2516	量子力学序論B	1	第4ターム	月4	講義	2,3,4	43	03	70		
D	241S2532	量子力学IA	2	第1ターム	月2,木2	講義・演習	3,4	43	04	70		
D	242S2533	量子力学IB	2	第2ターム	月2,木2	講義・演習	3,4	43	04	70		

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
D	241S2538	統計力学IA	2	第1ターム	月3,水2	講義・演習	3,4	43	04	70		
D	242S2539	統計力学IB	2	第2ターム	月3,水2	講義・演習	3,4	43	04	70		
D	241S2530	特殊相対論A	1	第1ターム	水1	講義	3,4	43	04	70		
D	242S2531	特殊相対論B	1	第2ターム	水1	講義	3,4	43	04	70		
D	240S2549	原子核物理学	2	第1,2ターム	水2	講義	4	43	05	50		
E	240M8308	放射線物理学	2	第1,2ターム	木3	講義	2,3,4	43	24	45		
E	240M8309	放射線物理学演習	1	第3,4ターム	木3	演習	2,3,4	43	24	45		
E	240M8311	放射線計測学	2	第3,4ターム	月3	演習	2,3,4	43	24	45		
E	240M8312	放射線計測学演習	1	第1,2ターム	月3	講義	3,4	43	24	45		
E	240M8316	放射線生物学及び演習	1	第1,2ターム	月3	演習	2,3,4	57	24	45		
E	243M8337	医療画像工学I	2	第3ターム	火3	講義	2,3,4	87	24	45		
E	244M8338	医療画像工学II	2	第4ターム	火3	講義	2,3,4	87	24	45		
E	240M8344	核医学検査技術学Ⅰ	2	第3,4ターム	水2	講義	2,3,4	87	24	45		
E	240M8346	核医学検査技術学Ⅲ	2	第3,4ターム	金2	講義	3,4	87	24	45		
E	240M8347	放射線治療技術学Ⅰ	2	第3,4ターム	金1	講義	2,3,4	87	24	45		
E	240M8348	放射線治療技術学Ⅱ	2	第1,2ターム	金1	講義	3,4	87	24	45		
E	240M8349	放射線治療技術学Ⅲ	2	第3,4ターム	月2	講義	3,4	87	24	45		
E	240M8001	人体の構造と機能Ⅰ	2	第1,2ターム	月2	講義	1,2,3,4	80	23	160		
E	240M8002	人体の構造と機能Ⅱ	2	第3,4ターム	月5	講義	1,2,3,4	80	23	180		
E	240M8008	疾病の原因と成り立ち	2	第1,2ターム	金2	講義	2,3,4	80	23	40		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

備考　1）必修

2）AI,BIのいずれかのみ

3）AII,BIIのいずれかのみ

4）令和4年度以前入学の物理学プログラムの学生及び物理学プログラム以外の学生

5）令和5年度以降入学の物理学プログラムの学生及び物理学プログラム以外の学生

プログラム 名　　称	核エネルギー・災害科学
概　　要	平成29年に原子力委員会より示された「原子力利用に関する基本的考え方」では、責任ある体制のもと徹底したリスク管理を行った上での適切な原子力利用は必要との考えを示している。しかしその適切な利用に当たっては安全性の確保が大前提であり、安全に影響する自然災害及びそのリスクマネジメントや災害医療に関する高度な科学技術的知見を有する原子力規制人材の育成が必要とされている。 当マイナー・プログラムは、原子力規制分野への大学院進学・就職などのキャリア形成を目指す者が備えるべき基礎的知見を有する人材の育成を目的として、原子力規制、自然災害、災害リスクマネジメント、災害医療の基礎を学ぶものである。これらの分野について興味を持つ学生について、主専攻によらず広くその受講を歓迎する。 なお当プログラムは、原子力規制庁の令和4年度原子力規制人材育成事業に採択された「原子力科学・災害科学の融合による高度原子力規制人材の育成」事業の一環として行うものである。
履修資格	
修了要件	区分Aの必修科目4単位を含む、合計12単位以上を修得していること。
その他 特記事項	

区分	開講番号	開設科目名	単位	学期	曜限	形態	対象学年	分野	水準	定員	隔年開講	備考
A	240G6902	原子力の未来と災害を考える	1	集中	他	講義	1,2,3,4,5,6	49	03	20		
A	242G6026	原子力入門	1	第2ターム	木5	講義	1,2,3,4,5,6	49	03	140		
A	240G6901	放射線入門と実習	1	集中	他	実習	1,2,3,4,5,6	49	03	20		
A	242G6027	原子力・放射線関連法規入門	1	第2ターム	火5	講義	1,2,3,4,5,6	49	03	140		
	241G6031	放射性廃棄物処理法	1	第1ターム	火3	講義	1,2,3,4,5,6	49	03	140		
	241G6024	原子力・放射線防護学入門	1	第1ターム	火5	講義	1,2,3,4,5,6	49	03	140		
	241G6023	原子力・放射線物理学入門	1	第1ターム	木5	講義	1,2,3,4,5,6	49	03	140		
	244G8501	原子力と倫理	1	第4ターム	金3	講義	1,2,3,4,5,6	82	03	140		
	241G5015	物理学基礎ＡⅠ	2	第1ターム	木1,木2	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	150		1
	240G5016	物理学基礎ＡⅠ	2	第1,2ターム	月5	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	80		1
	241G5019	物理学基礎BⅠ	2	第1ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	150		1
	241G5020	物理学基礎BⅠ	2	第1ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	150		1
	241G5017	物理学基礎BⅠ	2	第1ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	150		1
	241G5018	物理学基礎BⅠ	2	第1ターム	火2,金2	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	140		1
	242G5021	物理学基礎BⅠ	2	第2ターム	火1,金1	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	100		1
	240G5022	物理学基礎BⅠ	2	第1,2ターム	他	講義	1,2,3,4,5,6	43	03	150		1
	241G5025	化学基礎Ａ	2	第1ターム	月4,木4	講義	1,2,3,4,5,6	46	03	150		
	242G5027	化学基礎Ａ	2	第2ターム	火3,金3	講義	1,2,3,4,5,6	46	03	150		
	242G5026	化学基礎Ａ	2	第2ターム	火4,金4	講義	1,2,3,4,5,6	46	03	150		
	243G5518	化学基礎Ａ	2	第3ターム	火4,金4	講義	1,2,3,4,5,6	46	03	150		
	244G5524	地学基礎Ｃ	2	第4ターム	月1,木1	講義	1,2,3,4,5,6	44	03	250		
	241S5536	環境地質学	2	第1ターム	月5,木5	講義	3,4	44	04	55		
	240S5538	環境地質学実習	1	集中	他	実習	3,4	44	13	30		
	242A0076	斜面災害論	2	第2ターム	月2,木2	講義	3,4	62	04	65		
	241A0059	環境砂防学	2	第1ターム	火4,金4	講義	2,3,4	62	04	65		
	243T2022	コンクリート構造工学	2	第3ターム	月1,木1		3,4,5,6	52	13	50		
	243T2005	動力学	2	第3ターム	月2,木2	講義	3,4,5,6	52	03	50		
	242T2024	地盤工学III	2	第2ターム	月1,木1	講義	3,4,5,6	52	04	50		
	240G8901	災害医療概論	1	集中	他	講義	1,2,3,4,5,6	81	03	140		
	240G8902	原子力災害医療体制	1	集中	他	講義・実習	1,2,3,4,5,6	81	03	20		
	240G8903	災害医療ロジスティクス	1	集中	他	講義	1,2,3,4,5,6	81	03	140		

※1　対象学年はシラバス「聴講指定等」も参照してください。　※2　定員等の関係で履修できない科目もあります。

備考　　1）いずれか一つ(最大2単位)

科目リスト

オナーズ型マイナー

令和５（２０２３）年度以前の入学者のみ修了認定可能なプログラム

【重要】本プログラムは，2024年度以降入学者（3年次編入生は2025年度以降入学者）は認定の対象となりませんので，ご注意ください。

■プログラムの名称　「環境学」

授業科目リスト（掲載されている学期・曜・限は変更される場合があります。）

属性区分　R：必修科目　／　A：人文社会・教育科学系科目　／　B：工学系・農学系科目　／　C：理学系・農学系科目　／　R★：どちらかの科目が必修

No	分類	属性	開講番号	授業科目名	単位	学期	ターム	曜日	時限	形式	授業担当者	所属	分野	水準
1	コア	R	240Q9001	環境学入門　【入門科目】	1	第1学期	第1,2ターム	木	HT	講義	関島　恒夫	自然科学系（農）	99	03
2	コア	R	240Q9003	環境学演習	1	第2学期	第3,4ターム	水	HT	演習	則末　和宏	自然科学系（理）	99	05
3	コア	R★	240Q9002	環境学実習	1	第1学期	集中	-	-	実習	本間　航介	佐渡自然共生科学センター	99	04
4	コア	R★	244S6532	環境生物学野外実習C	1	第2学期	第4ターム	-	-	実習	大森　紹仁	佐渡自然共生科学センター	57	14
5	コア	A	240S6521	環境経済システム論I	2	第1学期	集中	-	-	講義	房　文慧	非常勤講師	36	04
6	コア	A	244A0064	技術者倫理・自然環境関連法規	2	第2学期	第4ターム	月,木	2	講義	箕口　秀夫	自然科学系（農）	62	14
7	コア	A	241A0001	農学入門Ⅰ	2	第1学期	第1ターム	月,木	1	講義	中野　優	自然科学系（農）	60	01
8	コア	B	240S6516	環境汚染論	2	第2学期	第3,4ターム	水	1	講義	宮崎　勝己	自然科学系（理）	57	05
9	コア	B	243A0070	流域水文学	2	第2学期	第3ターム	火,金	3	講義	Whitaker Andrew	自然科学系（農）	62	03
10	コア	B	241A0098	食料資源経済学	2	第1学期	第1ターム	月,木	4	講義	古澤　慎一	自然科学系（農）	64	14
11	コア	B	休講	環境保全型農業論	2					講義			64	04
12	コア	C	241A0002	農学入門Ⅱ	2	第1学期	第1ターム	月,木	2	講義	中野　優	自然科学系（農）	60	01
13	コア	C	244G6518	生物学ー生物多様性Aー	2	第2学期	第4ターム	月,木	3	講義	藤村　衡至	自然科学系（理）	57	03
14	関連	C	休講	多様性生物学a	1					講義			57	04
15	コア	C	242S0585	多様性生物学Ｂ	2	第1学期	第2ターム	火,金	3	講義	宮崎　勝己	自然科学系（理）	57	04
16	コア	C	241S0581	環境気象学	2	第1学期	第1ターム	火,金	3	講義	本田　明治	自然科学系（理）	44	04
17	コア	C	240S6514	地球環境化学	2	第1学期	第1,2ターム	火	3	講義	松岡　史郎	自然科学系（理）	46	05
18	関連	B	243A0075	温暖化メカニズム・影響学	2	第2学期	第3ターム	月,木	2	講義	永野　博彦	自然科学系（農）	62	04
19	関連	B	243A0032	肥料学	2	第2学期	第3ターム	水	1,2	講義	大竹　憲邦	自然科学系（農）	61	04
20	関連	B	243A0077	森林再生学	2	第2学期	第3ターム	水	1,2	講義	柴田　嶺	自然科学系（農）	62	04
21	関連	B	243A0053	農村空間デザイン学	2	第2学期	第3ターム	月,木	2	講義	坂田　寧代	自然科学系（農）	65	14
22	関連	C	244G6520	地球と気象	2	第2学期	第4ターム	火,金	4	講義	本田　明治	自然科学系（理）	44	03
23	関連	C	休講	機能形態学Ａ	2					講義			57	04
24	関連	C	休講	機能形態学Ｂ	2					講義			57	04
25	関連	C	244S6502	地形学	2	第2学期	第4ターム	月,木	4	講義	奈良間　千之	自然科学系（理）	44	04
26	関連	C	休講	資源・環境地質学	2					講義			44	13
27	関連	C	242S5535	第四紀環境学	2	第1学期	第2ターム	月,木	5	講義	卜部　厚志	災害・復興科学研究所	44	04
28	関連	C	241A0061	野生植物生態学	2	第1学期	第1ターム	月	3,4	講義	本間　航介	佐渡自然共生科学センター	57	03
29	関連	C	243A0062	流域環境GIS	2	第2学期	第3ターム	火,金	2	講義	村上　拓彦	自然科学系（農）	62	03
30	関連	C	242A0073	リモートセンシング	2	第1学期	第2ターム	木	3,4	講義	村上　拓彦	自然科学系（農）	62	04

令和３（２０２１）年度以前の入学者のみ
修了認定可能なプログラム

【重要】本プログラムは，2022年度以降入学者（3年次編入生は2023年度以降入学者）は認定の対象となりませんので，ご注意ください。

■プログラムの名称　「MOT基礎(特許・経営及び製品開発基礎コース)」

授業科目リスト（掲載されている学期・曜・限は変更される場合があります。）

属性区分　R：必修科目 ／ A：文系科目として必要な科目群 ／ B：理系科目として必要な科目群 ／ C：A，Bと関連した発展科目群

*1は以下の履修順序等の指定があることを示す。

*1　民事法基礎ⅠおよびⅡを修得済みであること。

No	分類	属性	開講番号	授業科目名	単位	学期	ターム	曜日	時限	形式	授業担当者	所属	分野	水準
1	コア	R	休講	特許・経営および製品開発入門 【入門科目】	1					演習			99	03
2	コア	A（必修）	休講	特許と技術経営I	1					演習			99	04
3	コア	A（必修）	休講	特許と技術経営II	1					演習			99	04
4	コア	A	243L3101	民法Ⅰ	2	第2学期	第3ターム	水	3,4	講義	上山　泰	人文社会科学系（法）	34	03
5	コア	A	243L3106	民法Ⅵ	2	第2学期	第3ターム	金	1,2	講義	林　滉起	人文社会科学系（法）	34	03
6	コア	A*1	242L3102	民法Ⅱ	2	第1学期	第2ターム	月	1,2	講義	岩嵜　勝成	人文社会科学系（法）	34	03
7	コア	A	244L3103	民法Ⅲ	2	第2学期	第4ターム	金	1,2	講義	岩嵜　勝成	人文社会科学系（法）	34	03
8	コア	A	241T8010	企業会計基礎	2	第1学期	第1ターム	月,木	5	講義	中村　竹志	非常勤講師	37	14
9	コア	A	243T8006	マーケティング基礎	2	第2学期	第3ターム	木	3,4	講義・演習	長尾　雅信	自然科学系（工）	37	14
10	コア	A	休講	リーダーシップ基礎	2					講義			37	14
11	コア	B	242G6025	生活を支える化学技術－化学工学への招待－	2	第1学期	第2ターム	火,金	2	講義	清水　忠明	自然科学系（工）	47	03
12	コア	B	244A0111	農業経営学	2	第2学期	第4ターム	火,金	2	講義	氷見　理	自然科学系（農）	64	05
13	コア	B	241G6021	最先端技術を支える化学 Ⅰ	2	第1学期	第1ターム	火,金	3	講義	渡邉　美寿貴	自然科学系（工）	46	03
14	コア	B	242T8005	プロジェクト・マネジメント基礎	2	第1学期	第2ターム	金	3,4	講義・演習	尾田　雅文	地域創生推進機構	37	14
15	コア	B	241T8008	技術評価	2	第1学期	第1ターム	火	3,4	講義・演習	尾田　雅文	地域創生推進機構	49	14
16	関連	C	241L3407	知的財産法Ⅰ	2	第1学期	第1ターム	木	3,4	講義	渡邉　修	人文社会科学系（法）	34	04
17	関連	C	244L3114	会社法Ⅰ	2	第2学期	第4ターム	月	3,4	講義	梅津　昭彦	人文社会科学系（法）	34	04
18	関連	C	241L3115	会社法Ⅱ	2	第1学期	第1ターム	木	1,2	講義	内田　千秋	人文社会科学系（法）	34	04
19	関連	C	241L3301	経済法Ⅰ	2	第1学期	第1ターム	水	1,2	講義	丁　宇	人文社会科学系（法）	34	04
20	関連	C	242S0541	情報社会論	2	第1学期	第2ターム	火,金	5	講義	田中　環	自然科学系（理）	10	03
21	p	C	243S1506	プログラミング概論A	1	第2学期	第3ターム	木	4	講義	山田　修司	自然科学系（理）	41	03
22	関連	C	244S1512	プログラミング概論B	1	第2学期	第4ターム	木	4	講義	山田　修司	自然科学系（理）	41	03
23	関連	C	240S0540	情報産業論	2	第2学期	第3,4ターム	金	3	講義	清野　和司	非常勤講師	10	04
24	関連	C	241T1008	工業力学	2	第1学期	第1ターム	月,木	2	講義	平元　和彦	自然科学系（工）	49	04
25	関連	C	241T1005	材料力学I	2	第1学期	第1ターム	火,金	1	講義・演習	佐々木　朋裕	自然科学系（工）	50	04
26	関連	C	242T5015	分析化学（工）	2	第1学期	第2ターム	火,金	1	講義	狩野　直樹	自然科学系（工）	47	04
27	関連	C	243T3023	電気回路II	2	第2学期	第3ターム	火,金	3	講義	山家　清之	自然科学系（工）	51	04
28	関連	C	244T3011	電磁気学I	2	第2学期	第4ターム	火,金	2	講義	清水　英彦	自然科学系（工）	51	04
29	関連	C	242T3028	電磁気学II	2	第1学期	第2ターム	火,金	3	講義	小川　純	自然科学系（工）	51	04
30	関連	C	244T3027	電子回路	2	第2学期	第4ターム	木	3,4	講義	鈴木　孝昌	自然科学系（工）	51	04
31	関連	C	244T7029	電子回路	2	第2学期	第4ターム	月4,木3	-	講義	堀　潤一	自然科学系（工）	51	24
32	関連	C	243T4024	論理回路	2	第2学期	第3ターム	水	1,2	講義	高橋　俊彦	自然科学系（工）	10	04
33	関連	C	244T0503	ビジネス統計学	2	第2学期	第4ターム	木	3,4	講義・演習	東瀬　朗	自然科学系（工）	37	13
34	関連	C	242T0502	協創経営概論	2	第1学期	第2ターム	木	3,4	講義	小浦方　格	自然科学系（工）	37	13
35	関連	C	241T0504	アントレプレナーシップ	2	第1学期	第1ターム	火,金	3	講義	小浦方　格	自然科学系（工）	37	13
36	関連	C	241T0441	日本建築史	2	第1学期	第1ターム	火,金	2	講義	黒野　弘靖	自然科学系（工）	53	04
37	関連	C	休講	電気回路基礎論	2					講義			54	04
38	関連	C	休講	基礎高分子化学	2					講義			54	04
39	関連	C	241S0570	基礎生物化学	2	第1学期	第1ターム	月,木	3	講義	長東　俊治	自然科学系（理）	57	03

令和３（２０２１）年度以前の入学者のみ
修了認定可能なプログラム

【重要】本プログラムは，2022年度以降入学者（3年次編入生は2023年度以降入学者）は認定の対象となりませんので，ご注意ください。

■プログラムの名称　「芸術学」

授業科目リスト（掲載されている学期・曜・限は変更される場合があります。）

属性区分　R：必修科目　／　A：理論・歴史に関する基礎科目　／　B：芸術の主要各分野に関する科目
C：その他の分野に関する基礎科目　／　空欄：発展的・実践的科目

No	分類	属性	開講番号	授業科目名	単位	学期	ターム	曜日	時限	形式	授業担当者	所属	分野	水準
1	コア	R	休講	芸術学入門【入門科目】	1					演習			13	03
2	コア	R	開講	芸術学実習	1	第2学期	第3,4ターム	金	1	演習	廣部　俊也	人文社会科学系（人文）	13	04
3	コア	A	休講	日本・東洋美術史	2					講義			13	04
4	コア	A	240K1857	美術史概論	2	第1学期	第1,2ターム	火	2	講義	田中　咲子	人文社会科学系（教育）	13	04
5	コア	A	休講	美術史特論	2					講義			13	04
6	コア	B	休講	比較芸術学	2					講義			13	04
7	コア	B	240K1830	比較芸術学特論	2	第1学期	第1,2ターム	水	1	講義	田中　咲子	人文社会科学系（教育）	13	04
8	コア	B	240G7522	日本古典文学N	2	第2学期	第3,4ターム	水	1	講義	高橋　早苗	人文社会科学系（人文）	29	03
9	コア	B	休講	現代文化論Ａ	2					講義			10	04
10	コア	B	休講	現代文化論Ｂ	2					講義			10	04
11	コア	C	休講	映像文化論概説	2					講義			10	03
12	コア	C	241T0436	都市デザイン論	2	第1学期	第1ターム	火,金	4	講義	岡崎　篤行	自然科学系（工）	53	04
13	コア	C	休講	住居学Ⅲ	2					講義			15	04
14	コア	C	休講	書鑑賞論	2					演習			13	04
15	関連		240K5445	書道講義及び実習I	2	第1学期	第1,2ターム	水	4	講義	角田　勝久	人文社会科学系（教育）	13	14
16	関連		休講	住環境科学	2					講義			15	03
17	関連		休講	被服環境学	2					講義			15	03
18	関連		休講	考える葦の冒険	2					講義			75	03
19	関連		240G7523	文学Ｄ	2	第2学期	第3,4ターム	水	4	講義	番場　俊	人文社会科学系（経済）	29	03
20	関連		休講	西洋文学Ｌ Ⅰ	2					講義			29	03
21	関連		休講	西洋文学Ｌ ⅠⅠ	2					講義			29	03
22	ｐ		240G7531	日本文化論	2	第2学期	第3,4ターム	火	2	講義	岡村　浩	人文社会科学系（経済）	13	03
23	関連		240G7530	音楽Ｅ	2	第2学期	第3,4ターム	火	2	演習	鈴木　賢太	人文社会科学系（教育）	13	03
24	関連		休講	舞台芸術	2					講義			13	04
25	関連		休講	絵画	2					講義			53	13
26	関連		休講	表象文化論Ａ	2					講義			10	04
27	関連		休講	表象文化論Ｂ	2					講義			10,28	04
28	関連		休講	表象文化論概説	2					講義			10	03
29	関連		240K6213	多文化音楽論I	2	第2学期	第3,4ターム	水	2	講義	中本　真人	人文社会科学系（人文）	13	04
30	関連		241T0441	日本建築史	2	第1学期	第1ターム	火,金	2	講義	黒野　弘靖	自然科学系（工）	53	04
31	関連		242T0434	都市計画学I	2	第1学期	第2ターム	火,金	4	講義	岡崎　篤行	自然科学系（工）	53	03
32	関連		244T0435	都市計画学II	2	第2学期	第4ターム	火,金	4	講義	松井　大輔	自然科学系（工）	53	04

令和５（２０２３）年度以前の入学者のみ修了認定可能なプログラム

【重要】本プログラムは，2024年度以降入学者（3年次編入生は2025年度以降入学者）は認定の対象となりませんので，ご注意ください。

■プログラムの名称　「外国語（ドイツ語）」

授業科目リスト（掲載されている学期・曜・限は変更される場合があります。）

※海外研修については，当該教育施設及び教育課程の審査の上，単位を認めることがあります。

副専攻の単位認定のための海外研修を考えている場合は，**必ず渡航前に**プログラム代表教員に相談してください。

なお，海外研修の単位認定申請は，卒業年次に限らず，「外国語」プログラムの「海外研修」単位認定申請期間中です。詳細は別途学務情報システムから通知します。

属性区分　Ｒ：必修科目　／　Ａ：中級レベル科目　／　Ｂ：上級レベル科目

No	分類	属性	開講番号	授業科目名	単位	学期	ターム	曜日	時限	形式	授業担当者	所属	分野	水準
1	コア	R	24009004	ドイツ学研究法【入門科目】	1	第2学期	第3,4ターム	火	HT	演習	山田　容子	非常勤講師	71	03
2	コア		（全科目）	ドイツ語圏グローバル理解	1								71	03
3	コア		（全科目）	ドイツ語エッセンシャル A	2								71	03
4	コア		（全科目）	ドイツ語エッセンシャル B	1								71	03
5	コア		（全科目）	ドイツ語スタンダード IA	1.5								71	03
6	コア		（全科目）	ドイツ語スタンダード IB	1.5								71	03
7	コア		（全科目）	ドイツ語スタンダード II	3								71	03
8	コア		（全科目）	ドイツ語インテンシブ IA	2								71	03
9	コア		（全科目）	ドイツ語インテンシブ IB	2								71	03
10	コア		（全科目）	ドイツ語インテンシブ II	4								71	03
11	コア	A	240G1071	コミュニケーション・ドイツ語Ａ	2	第1学期	第1,2ターム	金	3	演習	小林　敦彦	非常勤講師	71	03
12	コア	A	240G1072	コミュニケーション・ドイツ語Ｂ	2	第1学期	第1,2ターム	月	4	演習	岡本　亮子	非常勤講師	71	03
13	コア	A	240G1073	コミュニケーション・ドイツ語Ｃ	2	第1学期	第1,2ターム	火	3	演習	R. エバート	非常勤講師	71	03
14	コア	A	240G1518	コミュニケーション・ドイツ語Ｄ	2	第2学期	第3,4ターム	火	3	演習	R. エバート	非常勤講師	71	03
15	コア	A	240G1519	コミュニケーション・ドイツ語Ｅ	2	第2学期	第3,4ターム	月	4	演習	岡本　亮子	非常勤講師	71	03
16	コア	A	240G1520	コミュニケーション・ドイツ語Ｆ	2	第2学期	第3,4ターム	水	3	演習	倉持　有香子	非常勤講師	71	03
17	コア	B	240G1074	ドイツ語セミナーＡ	2	第1学期	第1,2ターム	月	3	演習	阿部　ふく子	人文社会科学系（人文）	71	04
18	コア	B	240G1075	ドイツ語セミナーB	2	第1学期	第1,2ターム	水	3	演習	桑原　聡	非常勤講師	71	04
19	コア	B	240G1521	ドイツ語セミナーC	2	第2学期	第3,4ターム	月	3	演習	阿部　ふく子	人文社会科学系（人文）	71	03
20	コア	B	240G1522	ドイツ語セミナーD	2	第2学期	第3,4ターム	水	3	演習	桑原　聡	非常勤講師	71	04
21	コア	B	休講(隔年開講)	ドイツ言語文化論Ａ	2					講義			29	04
22	コア	B	休講(隔年開講)	ドイツ言語文化論Ｂ	2					講義			29	04
23	p	B	240H4063	ドイツ言語文化論Ｃ	2	第1学期	第1,2ターム	木	3	講義	A. ホップ		30	04
24	コア	B	240H4058	ドイツ文芸論	2	第2学期	第3,4ターム	木	4	講義	田邉　恵子		29	04
25	コア	B※		海外研修						実習			71	04
26	コア	A	240H2084	ドイツ言語文化概説Ａ	2	第1学期	第1,2ターム	火	4	講義	田邉　恵子	人文社会科学系（人文）	29	03
27	コア	A	240H2085	ドイツ言語文化概説Ｂ	2	第1学期	集中	-	-	講義	清野　智昭	非常勤講師	30	03
28	関連	A	240H3018	ドイツ言語文化基礎演習Ａ	2	第1学期	第1,2ターム	木	4	演習	田邉　恵子	人文社会科学系（人文）	29	13
29	関連	A	240H3019	ドイツ言語文化基礎演習Ｂ	2	第2学期	第3,4ターム	木	3	演習	A. ホップ	人文社会科学系（人文）	30	13
30	関連	A	休講	西洋言語文化研究法 D	2					演習			29	13
31	関連	B	240H5097	ドイツ言語文化演習	2	第1学期	第1,2ターム	金	4	演習	A. ホップ	人文社会科学系（人文）	29	14
32	関連	B	240H5098	ドイツ言語文化演習	2	第1学期	第3,4ターム	金	4	演習	A. ホップ	人文社会科学系（人文）	29	14
33	関連	B	240H5099	ドイツ言語文化演習	2	第1学期	第1,2ターム	火	3	演習	田邉　恵子	人文社会科学系（人文）	29	14
34	関連	B	240H5100	ドイツ言語文化演習	2	第1学期	第3,4ターム	火	3	演習	田邉　恵子	人文社会科学系（人文）	29	14
35	関連	B	休講	哲学思想演習	2								28	14
36	関連	B	240H9201	西洋哲学史概説Ａ	2	第2学期	第3,4ターム	金	2	講義	阿部　ふく子	人文社会科学系（人文）	28	03
37	関連	B	休講	西洋哲学史概説Ｂ	2					講義			28	03
38	関連	B	240K5641	外国史演習Ⅰ	2	第1学期	第1,2ターム	月	5	演習	小林　繁子	人文社会科学系（教育）	31	14
39	関連	B	240K5645	外国史演習III	2	第2学期	第3,4ターム	月	5	演習	小林　繁子	人文社会科学系（教育）	31	14
40	関連	B	休講	外国史演習Ⅱ	2					演習			31	14

41	関連	B	休講	外国史演習Ⅳ	2					演習			31	14
42	関連	B	240G3934	異文化と技術	1	第1学期	集中			講義	清水　忠明	自然科学系（工学部）	75	03
43	関連	B	240G3965	異文化と技術	1	第2学期	集中			講義	清水　忠明	自然科学系（工学部）	75	03

令和５（２０２３）年度以前の入学者のみ修了認定可能なプログラム

【重要】本プログラムは，2024年度以降入学者（3年次編入生は2025年度以降入学者）は認定の対象となりませんので，ご注意ください。

■プログラムの名称　「外国語（英語）」

授業科目リスト（掲載されている学期・曜・限は変更される場合があります。）

※表中に科目名の記載がない海外研修については，当該教育施設及び教育課程の審査の上，単位を認めることがあります。

副専攻の単位認定のため表中に科目名の記載がない海外研修を考えている場合は，**必ず渡航前に**副専攻プログラム代表教員に相談してください。

なお，表中に科目名の記載がない海外研修の単位認定申請は，卒業年次に限らず，「外国語」プログラムの「海外研修」単位認定申請期間中です。詳細は別途学務情報システムから通知します。

属性区分

Ｒ・Ｃ：必修科目

Ａ：「中級コミュニカティブ英語」「iStep Extension」「TOEFL iBT Preparation Ⅰ/Ⅱ」「IELTS Preparation Ⅰ/Ⅱ」「中級CALL（留学準備）」および海外研修を除き,原則として第３セメスター以降に学習すべき科

Ｂ：第５セメスター以降に学習すべき科目

Ｇコード科目のうち，「中級／上級コミュニカティブ英語」「iStep Extension」「中級／上級EAP」「中級／上級EAP（Term Course)」「TOEFL iBT Preparation Ⅰ/Ⅱ」「IELTS Preparation Ⅰ/Ⅱ」および海外研修は重複履修の制限はありません。

Ｈコード科目（人文学部専門科目）については，「英米言語文化演習」を除き，重複履修はできません。

Ｋコード科目（教育学部専門科目）については，重複履修はできません。

No	分類	属性	開講番号	授業科目名	単位	学期	ターム	曜日	時限	形式	授業担当者	所属	分野	水準
1	コア	R	24009005	英語文化研究【入門科目】	1	第2学期	第3,4ターム	水	HT	講義・演習	北田　伸一	人文社会科学系（人文）	70	03
2	コア	A	（全科目）	中級コミュニカティブ英語	2					演習			70	04
3	コア	C	（全科目）	上級コミュニカティブ英語	2					演習			70	05
4	コア	A	（全科目）	iStep Extension	2					演習			70	04
5	コア	A	（全科目）	中級EAP	2					演習			70	04
6	コア	A	（全科目）	上級EAP	2					演習			70	05
7	コア	A	（全科目）	中級EAP（Term Course）	1					演習			70	04
8	コア	A	休講	上級EAP（Term Course）	1					演習			70	05
9	コア	A	（全科目）	TOEFL iBT Preparation I	2					演習			70	04
10	コア	A	（全科目）	TOEFL iBT Preparation II	2					演習			70	04
11	コア	A	（全科目）	IELTS Preparation I	2					演習			70	04
12	コア	A	（全科目）	IELTS Preparation II	2					演習			70	04
13	コア	A	（全科目）	中級CALL（留学準備）	2					演習			70	04
14	コア	A	240G0071	実践英語セミナー	2	第1学期	第1,2ターム	水	3	演習	ハドリー　浩美	教育基盤機構	70	04
15	コア	A	240G0664	実践英語セミナー	2	第2学期	第3,4ターム	水	4	演習	ハドリー　浩美	教育基盤機構	70	04
16	コア	A	240G0068	英語表現セミナーＡ	2	第1学期	第1,2ターム	水	4	演習	G. ディック	非常勤講師	70	04
17	コア	A	240G0665	英語表現セミナーＡ	2	第2学期	第3,4ターム	水	4	演習	G. ディック	非常勤講師	70	04
18	コア	A	240G0069	英語表現セミナーＢ	2	第1学期	第1,2ターム	水	3	演習	I. ガラオン青木	非常勤講師	70	04
19	コア	A	240G0666	英語表現セミナーＢ	2	第2学期	第3,4ターム	水	3	演習	I. ガラオン青木	非常勤講師	70	04
20	コア	A	240G0070	英語表現セミナーＣ	2	第1学期	第1,2ターム	水	4	演習	I. ガラオン青木	非常勤講師	70	03
21	コア	A	240G0667	英語表現セミナーＣ	2	第2学期	第3,4ターム	水	4	演習	I. ガラオン青木	非常勤講師	70	03
22	関連	A	240G3944	西シドニー大学国際交流プログラムB	2	第1学期	集中	–	–	演習	蒙　韜	教育基盤機構	75	03
23	関連	A	240G3949	カナダ・サマーセミナー	4	第1学期	集中	–	–	演習	ハドリー　浩美	教育基盤機構	75,70	03
24	関連	A	240G3950	オタゴ大学英語研修	4	第1学期	集中	–	–	演習	ハドリー　浩美	教育基盤機構	75,70	03
25	関連	A	240G3945	多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-W	4	第1学期	集中	–	–	講義	池田　英喜	教育基盤機構	75	03
26	関連	A	240G3967	多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-S	4	第2学期	集中	–	–	講義	池田　英喜	教育基盤機構	75	03
27	関連	A	240G3968	フィリピンALLC英語研修	4	第2学期	集中	–	–	演習	未定	未定	70	03
28	関連	A	240G3966	シンガポール・スプリングセミナー	2	第2学期	集中	–	–	演習	張　雲	教育基盤機構	75,70	03
29	関連	A	240G3962	オックスフォード大学英語研修	2	第2学期	集中	–	–	演習	ハドリー　浩美	教育基盤機構	75,70	04
30	関連	A	休講	カナダ・サマーセミナー・オンライン	2					演習			75,70	03
31	関連	A	休講	オタゴ大学英語研修・オンライン	2					演習			75,70	03
32	関連	A	240G3940	西シドニー大学国際交流プログラムA	2	第1学期	集中	–	–	演習	蒙　韜	教育基盤機構	75	03
33	関連	※		海外研修（上記以外）						実習			70	04
34	コア	A	240H3015	英米言語文化基礎演習Ａ	2	第1学期	第1,2ターム	水	3	演習	平野　幸彦	人文社会科学系（人文）	29	13
35	コア	A	240H3017	英米言語文化基礎演習Ｂ	2	第2学期	第3,4ターム	水	3	演習	北田　伸一	人文社会科学系（人文）	30	13
36	関連	B	240K6653	英語教育リーディング演習I	1	第1学期	第1,2ターム	木	3	演習	岡村　仁一	人文社会科学系（教育）	40	13
37	関連	B	240K6654	英語教育リーディング演習II	1	第1学期	第1,2ターム	水	4	演習	岡村　仁一	人文社会科学系（教育）	40	13
38	関連	B	240K6655	英語教育リーディング演習III	1	第1学期	第1,2ターム	金	1	演習	辻　照彦	人文社会科学系（教育）	40	14
39	関連	B	240K6656	英語教育リーディング演習IV	1	第2学期	第3,4ターム	水	4	演習	辻　照彦	人文社会科学系（教育）	40	14
40	関連	A	240K6661	英語学概説	2	第1学期	第1,2ターム	水	3	講義	本間　伸輔・山田　陽子	人文社会科学系（教育）	40	03

41	関連	A	240K6601	英語教育と英文法Ⅰ	2	第1学期	第1,2ターム	木	3	講義	本間　伸輔	人文社会科学系（教育）	40	03
42	関連	A	240K6602	英語教育と英文法ⅠⅠ	2	第2学期	第3,4ターム	火	4	講義	本間　伸輔	人文社会科学系（教育）	40	03
43	関連	A	240H2080	西洋言語概説	2	第2学期	第3,4ターム	火	3	講義	G. ハドリー	人文社会科学系（人文）	30	03
44	関連	A	240H2081	英米文化概説Ａ	2	第1学期	第1,2ターム	木	3	講義	市橋　孝道	人文社会科学系（人文）	29	03
45	関連	A	240H2082	英米文化概説Ｂ	2	第2学期	第3,4ターム	木	4	講義	平野　幸彦	人文社会科学系（人文）	29	03
46	関連	A	240H2083	英米言語概説Ｂ	2	第1学期	第1,2ターム	木	4	講義	秋　孝道	人文社会科学系（人文）	30	14
47	関連	B	240H4057	英米文芸論	2	第2学期	第3,4ターム	金	2	講義	平野　幸彦	人文社会科学系（人文）	29	04
48	関連	B	240H4060	英米文化論Ａ	2	第1学期	第1,2ターム	金	2	講義	市橋　孝道	人文社会科学系（人文）	29	04
49	関連	B	240H4061	英米文化論Ｂ	2	第2学期	第3,4ターム	月	3	講義	G. ハドリー	人文社会科学系（人文）	29	04
50	関連	B	240H4062	英米言語論Ａ	2	第1学期	第1,2ターム	水	3	講義	北田　伸一	人文社会科学系（人文）	30	04
51	関連	B	240H5085	英米言語文化演習	2	第1学期	第1,2ターム	火	4	演習	北田　伸一	人文社会科学系（人文）	30	14
52	関連	B	240H5086	英米言語文化演習	2	第1学期	第1,2ターム	木	2	演習	秋　孝道	人文社会科学系（人文）	30	14
53	関連	B	240H5087	英米言語文化演習	2	第1学期	第1,2ターム	火	3	演習	平野　幸彦	人文社会科学系（人文）	29	14
54	関連	B	240H5088	英米言語文化演習	2	第1学期	第1,2ターム	月	4	演習	市橋　孝道	人文社会科学系（人文）	29	14
55	関連	B	240H5089	英米言語文化演習	2	第1学期	第1,2ターム	水	2	演習	G. ハドリー	人文社会科学系（人文）	29	14
56	関連	B	240H5091	英米言語文化演習	2	第2学期	第3,4ターム	火	4	演習	北田　伸一	人文社会科学系（人文）	30	14
57	関連	B	240H5092	英米言語文化演習	2	第2学期	第3,4ターム	木	2	演習	秋　孝道	人文社会科学系（人文）	30	14
58	関連	B	240H5093	英米言語文化演習	2	第2学期	第3,4ターム	火	3	演習	平野　幸彦	人文社会科学系（人文）	29	14
59	関連	B	240H5094	英米言語文化演習	2	第2学期	第3,4ターム	月	4	演習	市橋　孝道	人文社会科学系（人文）	29	14
60	関連	B	240H5095	英米言語文化演習	2	第2学期	第3,4ターム	水	2	演習	G. ハドリー	人文社会科学系（人文）	29	14

令和５（２０２３）年度以前の入学者のみ
修了認定可能なプログラム

【重要】本プログラムは，2024年度以降入学者（3年次編入生は2025年度以降入学者）は認定の対象となりませんので，ご注意ください。

■プログラムの名称　「外国語（フランス語）」

授業科目リスト（掲載されている学期・曜・限は変更される場合があります。）

※海外研修については，当該教育施設及び教育課程の審査の上，単位を認めることがあります。

副専攻の単位認定のための海外研修を考えている場合は，**必ず渡航前に**プログラム代表教員に相談してください。

なお，海外研修の単位認定申請は，卒業年次に限らず，「外国語」プログラムの「海外研修」単位認定申請期間中です。詳細は別途学務情報システムから通知します。

属性区分　Ｒ：必修科目　／　Ａ：中級レベルの選択必修科目　／　Ｂ：上級レベルの選択必修科目　／　空欄：選択科目

No	分類	属性	開講番号	授業科目名	単位	学期	ターム	曜日	時限	形式	授業担当者	所属	分野	水準
1	コア	R	24009006	フランス学研究法　【入門科目】	1	第2学期	第3,4ターム	木	HT	演習	金子　麻里	非常勤講師	71	03
2	コア		（全科目）	フランス語圏グローバル理解	1					講義			71	03
3	コア		（全科目）	フランス語エッセンシャル A	2					演習			71	03
4	コア		（全科目）	フランス語エッセンシャル B	1					演習			71	03
5	コア		（全科目）	フランス語スタンダード IA	1.5					演習			71	03
6	コア		（全科目）	フランス語スタンダード IB	1.5					演習			71	03
7	コア		（全科目）	フランス語スタンダード II	3					演習			71	03
8	コア		（全科目）	フランス語インテンシブ IA	2					演習			71	03
9	コア		（全科目）	フランス語インテンシブ IB	2					演習			71	03
10	コア		（全科目）	フランス語インテンシブ II	4					演習			71	03
11	コア	A	休講	コミュニケーション・フランス語Ａ	2					演習			71	03
12	コア	A	240G1090	コミュニケーション・フランス語Ｂ	2	第1学期	第1,2ターム	木	1	演習	N.　ドーファン	非常勤講師	71	03
13	コア	A	240G1091	コミュニケーション・フランス語Ｃ	2	第1学期	第1,2ターム	水	2	演習	M.カルトロン	非常勤講師	71	03
14	コア	A	240G1092	コミュニケーション・フランス語Ｄ	2	第1学期	第1,2ターム	金	3	演習	M.カルトロン	非常勤講師	71	03
15	コア	A	240G1093	コミュニケーション・フランス語Ｅ	2	第1学期	第1,2ターム	月	3	演習	M.　湊元	非常勤講師	71	03
16	コア	A	休講	コミュニケーション・フランス語Ｆ	2					演習			71	03
17	コア	A	240G1535	コミュニケーション・フランス語Ｇ	2	第2学期	第3,4ターム	水	2	演習	M.カルトロン	非常勤講師	71	03
18	コア	A	240G1536	コミュニケーション・フランス語Ｈ	2	第2学期	第3,4ターム	木	1	演習	N.ドーファン	非常勤講師	71	03
19	コア	A	休講	コミュニケーション・フランス語Ｉ	2					演習			71	03
20	コア	A	240G1094	コミュニケーション・フランス語J	2	第1学期	第1,2ターム	木	2	演習	R.　ザンベリ	非常勤講師	71	03
21	コア	A	240G1537	コミュニケーション・フランス語K	2	第2学期	第3,4ターム	木	2	演習	R.　ザンベリ	非常勤講師	71	03
22	コア	A	240G1538	コミュニケーション・フランス語L	2	第2学期	第3,4ターム	金	4	演習	駒形　千夏	人文社会科学系（経済）	71	03
23	コア	B	休講	フランス言語文化海外研修	2					演習			75	03
24	コア	B※		海外研修						実習			71	04
25	関連	A	243H2098	西洋言語文化研究法Ｄ	2	第2学期	第3ターム	火	3,4	実習	逸見　龍生	人文社会科学系（人文）	71	04
26	関連	A	241H3020	フランス言語文化基礎演習Ａ	2	第1学期	第1ターム	火	3,4	演習	逸見　龍生	人文社会科学系（人文）	29	13
27	関連	A	240H3021	フランス言語文化基礎演習Ｂ	2	第2学期	第3,4ターム	金	2	演習	津森　圭一	人文社会科学系（人文）	30	13
28	関連	A	240H2086	フランス言語文化概説Ａ	2	第1学期	第1,2ターム	金	4	講義	津森　圭一	人文社会科学系（人文）	29	03
29	関連	A	休講	フランス言語文化概説Ｂ	2					講義			30	03
30	関連	B	240H4059	フランス文芸論	2	第1学期	第1,2ターム	金	2	講義	津森　圭一	人文社会科学系（人文）	29	04
31	関連	B	240G1095	フランス語セミナーＡ	2	第1学期	第1,2ターム	木	3	演習	N.　ドーファン	非常勤講師	71	03
32	関連	B	240G1539	フランス語セミナーB	2	第2学期	第3,4ターム	木	3	演習	N.　ドーファン	非常勤講師	71	04
33	関連	B	244H4065	フランス言語文化論Ｃ	2	第2学期	第4ターム	火	3,4	講義	逸見　龍生	人文社会科学系（人文）	30	03
34	関連	B	240H5101	フランス言語文化演習	2	第1学期	集中	-	-	演習	竹本　研史	非常勤講師	29	03
35	関連	B	240H5103	フランス言語文化演習	2	第2学期	第3,4ターム	金	4	演習	津森　圭一	人文社会科学系（人文）	29	03
36	関連	B	242H5102	フランス言語文化演習	2	第1学期	第2ターム	火	3,4	演習	逸見　龍生	人文社会科学系（人文）	29	03
37	関連	B	240H4064	フランス言語文化論Ａ	2	第2学期	第3,4ターム	木	4	講義	津森　圭一	人文社会科学系（人文）	29	03
38	関連	B	休講	フランス言語文化論Ｂ	2					講義			29	04
39	関連	B	（全科目）	表現文化論演習	2					演習			10	14
40	関連		休講	現代文化論概説	2					講義			10,29	03

41	関連		休講	フランス語科教育法Ⅰ	2					講義			40	23
42	関連		240K0322	フランス語科教育法II	2	第1学期	第1,2ターム	木	3	講義	津森　圭一	人文社会科学系（人文）	40	23
43	関連		240K0323	フランス語科教育法III	2	第2学期	第3,4ターム	水	3	講義	逸見　龍生	人文社会科学系（人文）	40	23
44	関連		休講	フランス語科教育法Ⅳ	2					講義			40	23

令和５（２０２３）年度以前の入学者のみ
修了認定可能なプログラム

【重要】本プログラムは，2024年度以降入学者（3年次編入生は2025年度以降入学者）は認定の対象となりませんので，ご注意ください。

■プログラムの名称　「外国語（コリア）」

授業科目リスト（掲載されている学期・曜・限は変更される場合があります。）

※海外研修については，当該教育施設及び教育課程の審査の上，単位を認めることがあります。

副専攻の単位認定のための海外研修を考えている場合は，**必ず渡航前に**プログラム代表教員に相談してください。

なお，海外研修の単位認定申請は，卒業年次に限らず，「外国語」プログラムの「海外研修」単位認定申請期間中です。　詳細は別途学務情報システムから通知します。

属性区分　　Ｒ：必修科目　／Ａ：朝鮮語運用能力開発のための科目　／Ｂ：幅広くコリアを理解するための科目　／Ｃ：コリアに関する専門科目

No	分類	属性	開講番号	授業科目名	単位	学期	ターム	曜日	時限	形式	授業担当者	所属	分野	水準
1	コア	R	240Q9007	コリア学入門　【入門科目】	1	第1学期	第1,2ターム	木	HT	演習	藤石　貴代	人文社会科学系（人文）	71	03
2	コア	R	240Q9008	国際交流	2	第1学期	集中	-	-	演習	藤石　貴代	人文社会科学系（人文）	71	03
3	コア	A	241G1039	朝鮮語圏グローバル理解 1	1	第1学期	第1ターム	木	1	講義	権　英秀	非常勤講師	71	03
4	コア	A	242G1040	朝鮮語圏グローバル理解 1	1	第1学期	第2ターム	木	1	講義	権　英秀	非常勤講師	71	03
5	コア	A	241G1041	朝鮮語圏グローバル理解 2	1	第1学期	第1ターム	水	2	講義	藤石　貴代	人文社会科学系（人文）	71	03
6	コア	A	242G1042	朝鮮語圏グローバル理解 2	1	第1学期	第2ターム	水	2	講義	藤石　貴代	人文社会科学系（人文）	71	03
7	コア	A	240G1572	朝鮮語エッセンシャル A	2	第2学期	第3,4ターム	火,木	3	演習	権　英秀	非常勤講師	71	03
8	コア	A	240G1573	朝鮮語エッセンシャル B	1	第2学期	第3,4ターム	金	3	演習	権　英秀	非常勤講師	71	03
9	コア	A	（全科目）	朝鮮語スタンダード IA	1.5					演習			71	03
10	コア	A	（全科目）	朝鮮語スタンダード IB	1.5					演習			71	03
11	コア	A	（全科目）	朝鮮語スタンダード II	3					演習			71	03
12	コア	A	（全科目）	朝鮮語インテンシブ IA	2					演習			71	03
13	コア	A	（全科目）	朝鮮語インテンシブ IB	2					演習			71	03
14	コア	A	（全科目）	朝鮮語インテンシブ II	4					演習			71	03
15	コア	A	休講	コミュニケーション・朝鮮語Ａ	2					演習			71	03
16	コア	A	休講	コミュニケーション・朝鮮語Ｂ	2					演習			71	03
17	コア	A	休講	コミュニケーション・朝鮮語Ｃ	2					演習			71	03
18	コア	A	休講	コミュニケーション・朝鮮語Ｄ	2					演習			71	03
19	コア	A	休講	コミュニケーション・朝鮮語Ｅ	2					演習			71	03
20	コア	A	休講	コミュニケーション・朝鮮語Ｆ	2					演習			71	03
21	コア	A	休講	コミュニケーション・朝鮮語Ｇ	2					演習			71	03
22	コア	A	240G1145	コミュニケーション・朝鮮語Ｈ	2	第1学期	第1,2ターム	月	2	演習	権　英秀	非常勤講師	71	03
23	コア	A	240G1142	コミュニケーション・朝鮮語Ｉ	2	第1学期	第1,2ターム	月	3	演習	権　英秀	非常勤講師	71	03
24	コア	A	240G1143	コミュニケーション・朝鮮語Ｊ	2	第1学期	第1,2ターム	木	3	演習	権　英秀	非常勤講師	71	03
25	コア	A	240G1144	コミュニケーション・朝鮮語Ｋ	2	第1学期	第1,2ターム	金	3	演習	権　英秀	非常勤講師	71	03
26	コア	A	240G1574	コミュニケーション・朝鮮語Ｌ	2	第2学期	第3,4ターム	月	3	演習	権　英秀	非常勤講師	71	03
27	コア	A	240G1575	コミュニケーション・朝鮮語Ｘ	2	第2学期	第3,4ターム	水	3	演習	李　垠娗	非常勤講師	71	03
28	コア	A	240G1146	朝鮮語セミナーＡ	2	第1学期	第1,2ターム	月	1	演習	権　英秀	非常勤講師	71	04
29	コア	A	240G1576	朝鮮語セミナーＢ	2	第2学期	第3,4ターム	木	1	演習	権　英秀	非常勤講師	71	04
30	コア	A	休講	朝鮮語セミナーC	2					演習				
31	コア	A	休講	朝鮮語セミナーD	2					演習				
32	コア	A	休講	朝鮮語セミナーＥ	2					演習				
33	コア	A	休講	朝鮮語セミナーＦ	2					演習				
34	コア	A	休講	朝鮮語オプショナルＡ	2					演習				
35	コア	A	240G7517	朝鮮語オプショナルＢ	2	第2学期	第3,4ターム	火	3	演習	川西　裕也	人文社会科学系（院現社）	71	03
36	コア	C	240G3941	韓国サマースクールⅠ	2	第1学期	集中	-	-	演習	藤石　貴代	人文社会科学系（人文）	71,75	03
37	コア	C	240G3942	韓国サマースクールⅡ	2	第1学期	集中	-	-	演習	藤石　貴代	人文社会科学系（人文）	71,75	03
38	コア	C	240G3943	韓国サマースクールⅢ	2	第1学期	集中	-	-	演習	藤石　貴代	人文社会科学系（人文）	71,75	03
39	コア	C	240G3955	韓国サマーセミナーⅠ	2	第1学期	集中	-	-	演習	藤石　貴代	人文社会科学系（人文）	71,75	03
40	コア	C	240G3956	韓国サマーセミナーⅡ	2	第1学期	集中	-	-	演習	藤石　貴代	人文社会科学系（人文）	71,75	03

41	コア	C	240G3957	韓国サマーセミナーⅢ	2	第1学期	集中	–	–	演習	藤石　貴代	人文社会科学系（人文）	71,75	03
42	コア	C※		海外研修						実習			71	04
43	コア	C	241G7001	歴史学Ⅰ	2	第1学期	第1ターム	火	3,4	講義	川西　裕也	人文社会科学系（院現社）	31	03
44	コア	C	242G7020	歴史学Q	2	第1学期	第2ターム	月	1,2	講義	山内　民博	人文社会科学系（人文）	31	03
45	コア	C	241H4041	アジア歴史文化論Ｂ	2	第1学期	第1ターム	金	3,4	講義	山内　民博	人文社会科学系（人文）	31	04
46	コア	C	240H2066	アジア史実習Ａ	1	第1学期	第1,2ターム	木	3	実習	山内　民博	人文社会科学系（人文）	31	13
47	コア	C	休講	アジア史実習C	2					実習			31	13
48	コア	C	休講	アジア史概説Ａ	2					講義			31	03
49	コア	C	243H2040	アジア史概説	2	第2学期	第3ターム	月,木	3	講義	山内　民博	人文社会科学系（人文）	31	03
50	コア	C	休講	アジア史概説B	2					講義			31	03
51	コア	C	休講	アジア言語文化概説Ａ	2					演習			29	03
52	コア	C	休講	朝鮮社会論	2					講義			31	04
53	コア	C	休講	アジア言語文化研究法Ａ	2					講義			30	13
54	コア	C	240H2094	アジア言語文化研究法Ｂ	2	第2学期	第3,4ターム	木	5	講義	藤石　貴代	人文社会科学系（人文）	30	13
55	コア	C	240H4055	朝鮮言語文化論	2	第2学期	第3,4ターム	火	4	講義	藤石　貴代	人文社会科学系（人文）	29	04
56	関連	C	240K5604	外国史Ａ	2	第1学期	第1,2ターム	月	5	講義	吉澤　文寿	非常勤講師	31	04
57	関連	B	243H1005	言語文化学入門A	2	第2学期	第3ターム	月,木	4	講義	三ッ井　正孝	人文社会科学系（人文）	29	03
58	関連	B	休講	日本・アジア言語文化入門	2					講義			29	03
59	関連	B	240H1004	社会文化学入門B	2	第2学期	第3,4ターム	火	5	講義	中村　元	人文社会科学系（人文）	31	03
60	関連	B	休講	歴史文化学入門	2					講義			31	03
61	関連	B	休講	グローバルコミュニケーションC	2					講義			75	03
62	関連	B	242G3231	アクティブラーニングB	1	第1学期	第2ターム	水	1	講義	池田　英喜	教育基盤機構	75	03
63	関連	B	244G3736	アクティブラーニングB	1	第2学期	第4ターム	水	1	講義	池田　英喜	教育基盤機構	75	03
64	関連	B	休講	日本語教育Ⅰ－Ａ	2					講義			30	03
65	関連	B	241G3214	アクティブラーニングC	1	第1学期	第1ターム	金	2	講義	センビリング　愛	非常勤講師	75	03
66	関連	B	242G3232	アクティブラーニングC	1	第1学期	第2ターム	金	2	講義	センビリング　愛	非常勤講師	75	03
67	関連	B	243G3719	アクティブラーニングC	1	第2学期	第3ターム	金	2	講義	センビリング　愛	非常勤講師	75	03
68	関連	B	244G3737	アクティブラーニングC	1	第2学期	第4ターム	金	2	講義	センビリング　愛	非常勤講師	75	03
69	関連	B	休講	共生社会論Ａ	1					講義			75	03
70	関連	B	休講	共生社会論Ｂ	1					講義			75	03
71	関連	B	241G3268	多文化間共修B1	1	第1学期	第1ターム	木	2	講義	古田　梨乃	国際センター	75	03
72	関連	B	242G3272	多文化間共修B2	1	第1学期	第2ターム	木	2	講義	古田　梨乃	国際センター	75	03
73	関連	B	243G3766	多文化間共修B1	1	第2学期	第3ターム	木	2	講義	古田　梨乃	国際センター	75	03
74	関連	B	244G3770	多文化間共修B2	1	第1学期	第4ターム	木	2	講義	古田　梨乃	国際センター	75	03
75	関連	B	241G3269	多文化間共修C1	1	第1学期	第1ターム	水	2	講義	センビリング　愛	非常勤講師	75	03
76	関連	B	242G3273	多文化間共修C2	1	第1学期	第2ターム	水	2	講義	センビリング　愛	非常勤講師	75	03
77	関連	B	243G3767	多文化間共修C1	1	第2学期	第3ターム	水	2	講義	センビリング　愛	非常勤講師	75	03
78	関連	B	244G3771	多文化間共修C2	1	第2学期	第4ターム	水	2	講義	センビリング　愛	非常勤講師	75	03
79	関連	B	240G3255	平和を考えるＡ	2	第1学期	第1,2ターム	水	3	講義	藤石　貴代	人文社会科学系（人文）	75	03
80	関連	B	240G3758	平和を考えるＢ	2	第2学期	第3,4ターム	水	3	講義	粟生田　忠雄	自然科学系（農）	75	03
81	関連	B	240G3763	現代社会と差別	2	第2学期	第3,4ターム	金	2	演習	相庭　和彦	人文社会科学系（教育）	40	02
82	関連	B	240G3928	平和と現代のグローバル安全保障論	2	第1学期	集中	–	–	講義	髙橋　敏哉	非常勤講師	75	04
83	関連	B	240G3938	開発・環境と平和	2	第1学期	集中	–	–	講義	蓮井　誠一郎	非常勤講師	75	04
84	関連	B	243G3711	平和学概論	2	第2学期	第3ターム	金	4,5	講義	山田　裕史	非常勤講師	35	03
85	関連	B	休講	アジア政治外交史／政治社会学	2					講義			35	03
86	関連	B	244L3604	比較政治	2	第2学期	第4ターム	月	3,4	講義	真水　康樹	人文社会科学系（法）	35	03
87	関連	B	240L3652	領域関連演習（国際関係論2024）	2	第2学期	第3,4ターム	金	5	演習	神田　豊隆	人文社会科学系（法）	35	14
88	関連	B	243L3308	国際法	2	第2学期	第3ターム	木	1,2	講義	渡辺　豊	人文社会科学系（法）	34	03
89	関連	B	244L3309	国際人権法	2	第2学期	第4ターム	木	1,2	講義	渡辺　豊	人文社会科学系（法）	34	03

令和５（２０２３）年度以前の入学者のみ修了認定可能なプログラム

【重要】本プログラムは，2024年度以降入学者（3年次編入生は2025年度以降入学者）は認定の対象となりませんので，ご注意ください。

■プログラムの名称　「外国語（ロシア語）」

授業科目リスト（掲載されている学期・曜・限は変更される場合があります。）

※H･T（オナーズ・タイム）：11時55分～12時45分

※海外研修については，当該教育施設及び教育課程の審査の上，単位を認めることがあります。

副専攻の単位認定のための海外研修を考えている場合は，**必ず渡航前に**プログラム代表教員に相談してください。

なお，海外研修の単位認定申請は，卒業年次に限らず，「外国語」プログラムの「海外研修」単位認定申請期間中です。詳細は別途学務情報システムから通知します。

属性区分　Ｒ：必修科目　／　Ｒ★：選択必修科目　／Ａ：初歩的科目

(*)「比較経済体制論」および「ロシア経済論」は、それぞれ重複して履修することはできません。

No	分類	属性	開講番号	授業科目名	単位	学期	ターム	曜日	時限	形式	授業担当者	所属	分野	水準
1	コア	R	240Q9009	ロシア学研究法【入門科目】	1	第1学期	第1,2ターム	水	HT	演習	番場　俊	人文社会科学系（経済）	71	03
2	コア	A	240G1103	ロシア語ベーシックプラスＡ	2	第1学期	第1,2ターム	金	5	演習	番場　俊	人文社会科学系（経済）	71	03
3	コア	A	休講	ロシア語ベーシックプラスB	2					演習			71	03
4	コア	A	（全科目）	ロシア語スタンダードIA，IB	3					演習			71	03
5	コア	A	（全科目）	ロシア語スタンダードII	3					演習			71	03
6	コア	A	（全科目）	ロシア語インテンシブIA，IB	4					演習			71	03
7	コア	A	（全科目）	ロシア語インテンシブII	4					演習			71	03
8	コア		240G1100	コミュニケーション・ロシア語Ａ	2	第1学期	第1,2ターム	水	3	演習	V.ボロニェバ	非常勤講師	71	03
9	コア		240G1101	コミュニケーション・ロシア語Ｂ	2	第1学期	第1,2ターム	木	3	演習	富山　栄子	非常勤講師	71	03
10	コア		240G1544	コミュニケーション・ロシア語Ｃ	2	第2学期	第3,4ターム	木	3	演習	富山　栄子	非常勤講師	71	03
11	コア	A（夜間主）	休講	初級ロシア語 I-１	1					演習			71	03
12	コア	A（夜間主）	休講	初級ロシア語 I-２	1					演習			71	03
13	コア	A（夜間主）	休講	初級ロシア語 II-１	1					演習			71	03
14	コア	A（夜間主）	休講	初級ロシア語 II-２	1					演習			71	03
15	コア		240G1102	ロシア語セミナーＡ	2	第1学期	第1,2ターム	水	2	演習	鈴木　正美	教育基盤機構	71	04
16	コア		240G1545	ロシア語セミナーＢ	2	第2学期	第3,4ターム	水	4	演習	V.ボロニェバ	非常勤講師	71	04
17	コア		240H3022	ロシア言語文化基礎演習Ａ	2	第1学期	第1,2ターム	木	2	演習	齋藤　陽一	非常勤講師	29	13
18	コア		休講	ロシア言語文化基礎演習Ｂ	2					演習			30	13
19	コア		240H2099	西洋言語文化研究法Ｅ	2	第1学期	第1,2ターム	火	5	講義	鈴木　正美	人文社会科学系（人文）	29	13
20	コア		休講	ロシア言語文化概説Ａ	2					講義			29	03
21	p		240H2089	ロシア言語文化概説Ｂ	2	第1学期	集中	-	-	講義	日高　晋介	非常勤講師	30	03
22	関連	※		海外研修						実習			71	04
23	関連		240G7523	文学Ｄ	2	第2学期	第3,4ターム	水	4	講義	番場　俊	人文社会科学系（経済）	29	03
24	関連		休講	西洋文化研究演習Ｂ	2					演習			29	03
25	関連	R★	240H5104	ロシア言語文化演習	2	第1学期	第1,2ターム	火	4	演習	齋藤　陽一	非常勤講師	29	14
26	関連	R★	240H5105	ロシア言語文化演習	2	第1学期	第1,2ターム	金	3	演習	鈴木　正美	人文社会科学系（人文）	29	14
27	関連	R★	240H5106	ロシア言語文化演習	2	第2学期	第3,4ターム	火	4	演習	齋藤　陽一	非常勤講師	29	14
28	関連	R★	240H5107	ロシア言語文化演習	2	第2学期	第3,4ターム	金	3	演習	鈴木　正美	人文社会科学系（人文）	29	14
29	関連		休講	ロシア文芸論	2					講義			29	04
30	関連		休講	ロシア言語文化論Ａ	2					講義			29	04
31	関連		240H4066	ロシア言語文化論Ｂ	2	第1学期	集中	-	-	講義	梅津　紀雄	非常勤講師	29	04
32	関連		240H4067	ロシア言語文化論Ｃ	2	第1学期	第1,2ターム	月	5	講義	鈴木　正美	人文社会科学系（人文）	30	04
33	関連		243E6064	比較経済体制論	2	第2学期	第3ターム	月,木	3	講義	道上　真有	人文社会科学系（経済）	36	04
34		（夜間主）	243E5064	比較経済体制論	2	第2学期	第3ターム	月,木	3	講義	道上　真有	人文社会科学系（経済）	36	04
35	関連		244E6063	ロシア経済論	2	第2学期	第4ターム	月,木	3	講義	道上　真有	人文社会科学系（経済）	36	04
36		（夜間主）	244E5063	ロシア経済論	2	第2学期	第4ターム	月,木	3	講義	道上　真有	人文社会科学系（経済）	36	04

令和５（２０２３）年度以前の入学者のみ
修了認定可能なプログラム

【重要】本プログラムは，2024年度以降入学者（3年次編入生は2025年度以降入学者）は認定の対象となりませんので，ご注意ください。

■プログラムの名称　「外国語（中国語）」

授業科目リスト（掲載されている学期・曜・限は変更される場合があります。）

※海外研修については，当該教育施設及び教育課程の審査の上，単位を認めることがあります。

副専攻の単位認定のための海外研修を考えている場合は，**必ず渡航前に**プログラム代表教員に相談してください。

なお，海外研修の単位認定申請は，卒業年次に限らず，副専攻認定申請期間中です。詳細は別途学務情報システムから通知します。

属性区分　Ｒ：必修科目　／　Ａ：中級レベル　／　Ｂ：上級レベル

No	分類	属性	開講番号	授業科目名	単位	学期	ターム	曜日	時限	形式	授業担当者	所属	分野	水準
1	コア	R	24009010	中国学研究法【入門科目】	1	第1学期	第1,2ターム	水	HT	講義	土屋　太祐	人文社会科学系（経済）	71	03
2	コア		（全科目）	中国語圏グローバル理解	1					講義			71	03
3	コア		240G1557	中国語エッセンシャル A（発音・文法）	2	第2学期	第3,4ターム	火,金	3	演習	姜　杰裕	非常勤講師	71	03
4	コア		240G1558	中国語エッセンシャル A（発音・文法）	2	第2学期	第3,4ターム	月,木	1	演習	田　春娟	非常勤講師	71	03
5	コア		240G1559	中国語エッセンシャル B（練習・会話）	1	第2学期	第3,4ターム	水	2	演習	姜　杰裕	非常勤講師	71	03
6	コア		（全科目）	中国語インテンシブ IA	2					演習			71	03
7	コア		（全科目）	中国語インテンシブ IB	2					演習			71	03
8	コア		（全科目）	中国語インテンシブ II	4					演習			71	03
9	コア		（全科目）	中国語スタンダード IA	1.5					演習			71	03
10	コア		（全科目）	中国語スタンダード IB	1.5					演習			71	03
11	コア		（全科目）	中国語スタンダード II	3					演習			71	03
12	コア		（全科目）	中国語ベーシック II	3					演習			71	03
13	コア	A	休講	中国語ベーシックプラスA	2					演習			71	03
14	コア	A	休講	中国語ベーシックプラスB	2					演習			71	03
15	コア	A	240G1126	コミュニケーション・中国語Ａ	2	第1学期	第1,2ターム	月	2	演習	詹　秀娟	人文社会科学系（人文）	71	03
16	コア	A	240G1127	コミュニケーション・中国語Ｂ	2	第1学期	第1,2ターム	水	3	演習	応　雋	非常勤講師	71	03
17	コア	A	240G1128	コミュニケーション・中国語Ｃ	2	第1学期	第1,2ターム	火	2	演習	王　小寧	人文社会科学系（人文）	71	03
18	コア	A	240G1560	コミュニケーション・中国語Ｄ	2	第2学期	第3,4ターム	月	2	演習	詹　秀娟	人文社会科学系（人文）	71	03
19	コア	A	240G1561	コミュニケーション・中国語Ｅ	2	第2学期	第3,4ターム	火	2	演習	未定	未定	71	03
20	コア	A	240G1562	コミュニケーション・中国語Ｆ	2	第2学期	第3,4ターム	水	4	演習	応　雋	非常勤講師	71	03
21	コア	A	休講	コミュニケーション・中国語Ｇ	2					演習			71	03
22	コア	A	休講	コミュニケーション・中国語Ｈ	2					演習			71	03
23	ｐ	A	240G1129	コミュニケーション・中国語Ｊ	2	第1学期	第1,2ターム	木	3	演習	尹　美蓮	人文社会科学系（経済）	71	03
24	コア	A	240G1563	コミュニケーション・中国語Ｋ	2	第2学期	第3,4ターム	木	3	演習	尹　美蓮	人文社会科学系（経済）	71	03
25	コア	A	240G1130	コミュニケーション・中国語Ｍ	2	第1学期	第1,2ターム	金	2	演習	姜　杰裕	非常勤講師	71	03
26	コア	B	休講	中国語セミナーA	2					演習			71	04
27	コア	B	休講	中国語セミナーB	2					演習			71	04
28	コア	B	休講	中国語セミナーC	2					演習			71	04
29	コア	B	休講	中国語セミナーD	2					演習			71	04
30	コア	B	240G1131	中国語セミナーE	2	第1学期	第1,2ターム	水	3	演習	斯日　古楞	非常勤講師	71	04
31	コア	B	240G1132	中国語セミナーF	2	第1学期	第1,2ターム	木	4	演習	王　小寧	非常勤講師	71	04
32	コア	B	休講	中国語セミナーI	2					演習			71	04
33	コア	B	240G1565	中国語セミナーG	2	第2学期	第3,4ターム	水	3	演習	斯日　古楞	非常勤講師	71	04
34	コア	B	240G1566	中国語セミナーH	2	第2学期	第3,4ターム	木	4	演習	未定	未定	71	04
35	コア	B	休講	中国語セミナーJ	2					演習			71	04
36	コア	B	240G1567	中国語セミナーN	2	第2学期	第3,4ターム	金	2	演習	姜　杰裕	非常勤講師	71	04
37	コア	※		海外研修						実習			71	04
38	コア	B	240G1564	上海語演習	2	第2学期	第3,4ターム	水	3	演習	応　雋	非常勤講師	71	04
39	コア	A	242G3243	中国留学準備講座　サマーセミナー中国入門	1	第1学期	第2ターム	火	3	講義	干野　真一	人文社会科学系（人文）	75	03
40	コア	A	240H2077	アジア言語文化概説Ａ	2	第2学期	第3,4ターム	金	2	講義	未定	非常勤講師	29	03

41	コア	B	240H2078	アジア言語文化概説Ｂ	2	第2学期	第3,4ターム	火	4	講義	干野　真一	人文社会科学系（人文）	29	03
42	コア	B	240H2094	アジア言語文化研究法Ｂ	2	第2学期	第3,4ターム	木	5	講義	藤石　貴代	人文社会科学系（人文）	30	13
43	コア	B	240H4051	アジア言語文化論Ａ	2	第1学期	第1,2ターム	金	2	講義	王　小寧	非常勤講師	29	04
44	コア	B	240H4052	アジア言語文化論Ｂ	2	第1学期	集中	-	-	講義	玄　幸子	人文社会科学系（人文）	29	04
45	コア	B	240H4053	中国言語文化論Ａ	2	第2学期	第3,4ターム	水	3	講義	干野　真一	人文社会科学系（人文）	29	04
46	コア	B	休講	中国言語文化論Ｂ	2					講義			29	04
47	コア	A	休講	外書講読Ⅰ	2					講義			36	04
48	コア	A	240E6215	外国語文献講読Ⅱ	2	第2学期	第3,4ターム	水	5	講義	尹　美蓮	人文社会科学系（経済）	70	13
49	コア	B	243E1305	外書講読Ⅱ	2	第2学期	第3ターム	火,金	1	講義	溝口　由己	人文社会科学系（経済）	36	04
50	関連		240H3014	アジア言語文化基礎演習	2	第1学期	第1,2ターム	木	3	演習	小島　明子	人文社会科学系（人文）	29	13
51	関連		240H2079	アジア言語文化概説Ｃ	2	第1学期	第1,2ターム	月	4	講義	小島　明子	人文社会科学系（人文）	29	03
52	関連		240H4054	中国文芸文化論Ａ	2	第2学期	第3,4ターム	木	2	講義	小島　明子	人文社会科学系（人文）	29,30	04
53	関連		休講	中国文芸文化論Ｂ	2					講義			29,30	04
54	関連		休講	中国思想文化論	2					講義			29	04
55	関連		休講	日本・アジア言語文化入門 （2017～2019年度入学者用）	2					講義			29	03
56	関連		240H4040	アジア歴史文化論Ａ	2	第1学期	第1,2ターム	火	5	講義	広川　佐保	人文社会科学系（人文）	31	04
57	関連		240H2066	アジア史実習Ａ	1	第1学期	第1,2ターム	木	3	実習	山内　民博	人文社会科学系（人文）	31	13
58	関連		240H2067	アジア史実習Ｂ	1	第2学期	第3,4ターム	木	2	実習	広川　佐保	人文社会科学系（人文）	31	13
59	関連		休講	アジア史概説Ａ	2					講義			31	03
60	関連		242H9410	東アジア文化圏論	2	第1学期	第2ターム	月	3,4	講義	村上　正和	人文社会科学系（人文）	31	04
61	関連		休講	環東アジア社会論	2					講義			31	14
62	関連		241L3610	中国政治入門	2	第1学期	第1ターム	火	3,4	講義	王　星宇	人文社会科学系（法）	35	03
63	関連		休講	中国政治史	2					講義			35	03
64	関連		休講	アジア政治外交史	2					講義			35	03
65	関連		244L3904	Introduction to Japanese Politics and Diplomacy, Basic	2	第2学期	第4ターム	月	1,2	講義	真水　康樹	人文社会科学系（法）	35	03
66	関連		242L3613	領域関連特殊講義（中国政治基礎）	2	第1学期	第2ターム	月	1,2	講義	真水　康樹	人文社会科学系（法）	35	03
67	関連		休講	領域関連特殊講義（East Asian Studies, Basic）	2					講義			35	03
68	関連		242L3611	領域関連特殊講義（現代中国政治入門）	2	第1学期	第2ターム	火	3,4	講義	王　星宇	人文社会科学系（法）	35	03
69	関連		242L3659	領域関連特殊講義（中国外交基礎）	2	第2学期	第3ターム	火	3,4	講義	未定	未定	35	03
70	関連		244L3660	領域関連特殊講義（中国外交入門）	2	第2学期	第4ターム	火	3,4	講義	未定	未定	35	03
71	関連		休講	アジア経済論Ⅱ	2					講義			36	04
72	関連		241E6050	アジア経済論Ⅰ	2	第1学期	第1ターム	火,金	1	講義	溝口　由己	人文社会科学系（経済）	36	04
73	関連		240E1181	異文化論	2	第2学期	第3,4ターム	金	2	講義	土屋　太祐	人文社会科学系（経済）	36	04
74	関連		240E6181	文化社会論基礎	2	第2学期	第3,4ターム	金	2	講義	土屋　太祐	人文社会科学系（経済）	36	04
75	関連		休講	比較宗教論	2					講義			28	04
76	関連		休講	漢文学講義Ⅰ	2					講義			29	04
77	関連		240K5440	漢文学講義II	2	第2学期	第3,4ターム	金	4	講義	角谷　聰	人文社会科学系（教育）	29	04

令和３（２０２１）年度以前の入学者のみ
修了認定可能なプログラム

【重要】本プログラムは，2022年度以降入学者（3年次編入生は2023年度以降入学者）は認定の対象となりませんので，ご注意ください。

■プログラムの名称　「地域学」

授業科目リスト（掲載されている学期・曜・限は変更される場合があります。）

属性区分　R：必修科目　／　A：選択必修科目

No	分類	属性	開講番号	授業科目名	単位	学期	ターム	曜日	時限	形式	授業担当者	所属	分野	水準
1	コア	R	休講	地域学序説入門　【入門科目】	1					講義			99	03
2	コア	R	休講	地域学実習	2					実習			99	04
3	コア	R	休講	地域学演習	2					演習			99	04
4	コア		243G3701	新潟の農林業	2	第2学期	第3ターム	火,金	1	講義	山城　秀昭	自然科学系（農）	75	03
5	コア		244G3703	土と水	2	第2学期	第4ターム	火,金	2	講義	鈴木　哲也	自然科学系（農）	75	03
6	コア		休講	比較地域社会学	2					講義			75	03
7	コア		240G3211	地域から文化を考える	2	第1学期	第1,2ターム	月	5	講義・実習	中村　元	人文社会科学系（人文）	75	03
8	コア		240G3706	地域を探る	2	第2学期	第3,4ターム	水	3	講義	原　直史	人文社会科学系（人文）	75	03
9	コア		243G3714	トキをシンボルとした自然再生	2	第2学期	第3ターム	月,木	4	講義	永田　尚志	佐渡自然共生科学センター	75	03
10	コア		240G3931	朱鷺・自然再生フィールドワーク	1	第1学期	集中	–	–	実習	永田　尚志	佐渡自然共生科学センター	75	03
11	コア		240H9101	社会・地域文化学入門	2	第2学期	第3,4ターム	木	5	講義	杉原　名穂子	人文社会科学系（人文）	31	03
12	コア		休講	歴史文化学入門Ａ	2					講義			31	03
13	コア		休講	歴史文化学入門Ｂ	2					講義			31	03
14	コア		240H9102	歴史文化学入門	2	第2学期	第3,4ターム	火	5	講義	中村　元	人文社会科学系（人文）	31	03
15	コア		240H1003	社会文化学入門A	2	第2学期	第3,4ターム	木	5	講義	杉原　名穂子	人文社会科学系（人文）	31	03
16	コア		240H1004	社会文化学入門B	2	第2学期	第3,4ターム	火	5	講義	中村　元	人文社会科学系（人文）	31	03
17	コア		休講	地誌学概説Ａ	2					講義			33	03
18	コア		243H9206	地誌学概説Ｂ	2	第2学期	第3ターム	金	3,4	講義	堀　健彦	人文社会科学系（人文）	33	03
19	コア		243H2030	地誌学概説	2	第2学期	第3ターム	金	3,4	講義	堀　健彦	人文社会科学系（人文）	33	03
20	コア		240G3704	近世越後諸地域の歴史と社会	2	第2学期	第3,4ターム	水	5	講義	原　直史	人文社会科学系（人文）	75	03
21	コア		休講	新潟での企業理念と経営戦略	2					講義			16	03
22	コア		240G3904	新潟産業フィールドワーク	4	第1学期	集中	–	–	講義・演習	石本　貴之	非常勤講師	75,74	01
23	ｐ		休講	新潟産業フィールドワーク・オンライン	2					講義・演習			75,74	01
24	コア		休講	新潟地域研究	2					講義			75	03
25	コア		240G3202	日本酒学A	2	第1学期	第1,2ターム	水	4	講義	岸　保行	人文社会科学系（経済）	75	03
26	コア		240G3905	日本酒学B	1	第1学期	集中	–	–	講義	柿原　嘉人	医歯学系（歯）	75	03
27	コア		240G3209	ボランティア開発論 Ⅰ	2	第1学期	第1,2ターム	金	5	講義	雲尾　周	人文社会科学系（教育）	75	03
28	コア		240G3709	ボランティア開発論Ⅱ	2	第2学期	第3,4ターム	金	5	講義	雲尾　周	人文社会科学系（教育）	75	03
29	コア		240G3210	コミュニティ開発論Ⅰ	2	第1学期	第1,2ターム	金	6	講義	雲尾　周	人文社会科学系（教育）	75	03
30	コア		240G3710	コミュニティ開発論Ⅱ	2	第2学期	第3,4ターム	金	6	講義	雲尾　周	人文社会科学系（教育）	75	03
31	コア		240G3951	新潟の企業の魅力を探る	1	第1学期	集中	–	–	講義	高澤　陽二郎	教育基盤機構	75	03
32	コア		休講	地元学入門	2					演習・実習			77	03
33	コア		休講	新潟中小企業魅力発信演習	1					実習			37	03
34	関連		242T0434	都市計画学I	2	第1学期	第2ターム	火,金	4	講義	岡崎　篤行	自然科学系（工）	53	03
35	関連		241T0441	日本建築史	2	第1学期	第1ターム	火,金	2	講義	黒野　弘靖	自然科学系（工）	53	04
36	関連		243T0414	建築計画学I	2	第2学期	第3ターム	火,金	2	講義	黒野　弘靖	自然科学系（工）	53	03
37	関連		休講	日本史概説Ａ	2					講義			31	03
38	関連		休講	日本史概説Ｂ	2					講義			31	03
39	関連		休講	日本史概説Ｃ	2					講義			31	03
40	関連		241H9209	日本史概説Ｄ	2	第1学期	第1ターム	火,金	2	講義	片桐　昭彦	人文社会科学系（人文）	31	03
41	関連		241H2037	日本史概説	2	第1学期	第1ターム	火,金	2	講義	片桐　昭彦	人文社会科学系（人文）	31	03

令和５（２０２３）年度以前の入学者のみ
修了認定可能なプログラム

【重要】本プログラムは，2024年度以降入学者（3年次編入生は2025年度以降入学者）は認定の対象となりませんので，ご注意ください。

■プログラムの名称　「GIS（地理情報システム）リテラシー」

授業科目リスト　（掲載されている学期・曜・限は変更される場合があります。）

属性区分　Ａ：人文社会・教育科学系科目　／　Ｂ：自然科学系・災害復興科学センター科目　／　Ｃ：医歯学系科目　／　Ｄ：全学横断的内容

Ｒ１：必修科目①　／　Ｒ２：必修科目②

No	分類	属性	開講番号	授業科目名	単位	学期	ターム	曜日	時限	形式	授業担当者	所属	分野	水準
1	コア	R1	240Q9011	副専攻GISリテラシー入門【入門科目】	1	第1学期	集中	-	-	演習	奈良間　千之	自然科学系（理）	75	03
2	コア	R1	240G3936	地理情報システム（ＧＩＳ）概論・演習	2	第1学期	集中	-	-	演習	村上　拓彦	自然科学系（農）	75	03
3	コア	R1	240G3961	地理情報システム（ＧＩＳ）概論・応用演習	2	第2学期	集中	-	-	演習	奈良間　千之	自然科学系（理）	75	03
4	コア	R1	240Q9012	研究プロジェクト演習	1	第2学期	第3,4ターム	時間外	-	演習	奈良間　千之	自然科学系（理）	75	03
5	コア	R2	241H2042	社会調査法Ａ	2	第1学期	第1ターム	金	3,4	講義	杉原　名穂子	人文社会科学系（人文）	38	13
6	コア	R2	242H2043	社会調査法Ｂ	2	第1学期	第2ターム	火	4,5	講義	伊藤　嘉高	人文社会科学系（人文）	38	13
7	コア	A	240H2054	地理学実習Ａ	1	第1学期	第1,2ターム	木	2	実習	堀　健彦	人文社会科学系（人文）	32	13
8	コア	A	休講	社会解析論	2					講義			38	03
9	コア	A	242H2023	社会調査概説	2	第1学期	第2ターム	木	3,4	講義	伊藤　嘉高	人文社会科学系（人文）	38	03
10	コア	B	241S6525	自然環境科学実験A1	2	第1学期	第1ターム	月,木	3,4	実験	奈良間　千之	自然科学系（理）	44	14
11	コア	B	241S7536	地形解析実習	2	第1学期	第1ターム	月,木	3,4	実験	奈良間　千之	自然科学系（理）	44	14
12	コア	B	240S6526	自然環境科学実験A2	2	第1学期	第1,2ターム	火	4,5	実験	本田　明治	自然科学系（理）	44	14
13	コア	B	240S7537	気象解析実習	2	第1学期	第1,2ターム	火	4,5	実験	本田　明治	自然科学系（理）	44	14
14	コア	B	243S6510	寒冷地形学	2	第2学期	第3ターム	月,木	3	講義	奈良間　千之	自然科学系（理）	44	04,05
15	コア	B	243A0062	流域環境GIS	2	第2学期	第3ターム	火,金	2	講義	村上　拓彦	自然科学系（農）	62,65	03
16	コア	B	242A0073	リモートセンシング	2	第1学期	第2ターム	木	3,4	講義	村上　拓彦	自然科学系（農）	62,65	04
17	コア	B	241A0059	環境砂防学	2	第1学期	第1ターム	火,金	4	講義	権田　豊	自然科学系（農）	62	04
18	コア	B	244A0079	GIS・リモートセンシング演習	2	第2学期	第4ターム	月,木	3,4	演習	村上　拓彦	自然科学系（農）	62,65	14
19	関連	A	240H2055	地理学実習Ｂ	1	第2学期	第3,4ターム	木	2	実習	堀　健彦	人文社会科学系（人文）	32	13
20	関連	A	240H2056	地理学実習Ｃ	1	第1学期	不定期開講	-	-	実習	堀　健彦	人文社会科学系（人文）	32	13
21	関連	A	240H2057	地理学実習Ｄ	1	第1学期	不定期開講	-	-	実習	堀　健彦	人文社会科学系（人文）	32	13
22	関連	A	240K5606	人文地理学	2	第1学期	第1,2ターム	水	4	講義	前田　洋介	人文社会科学系（教育）	32	04
23	関連	A	240K5715	地理学特講III	2	第1学期	第1,2ターム	月	3	講義	前田　洋介	人文社会科学系（教育）	32	04
24	関連	A	240K5653	地理学特講IV	2	第2学期	第3,4ターム	月	3	講義	前田　洋介	人文社会科学系（教育）	32	04
25	p	B	240S6521	環境経済システム論I	2	第1学期	集中	-	-	講義	房　文慧	非常勤講師	36	04
26	関連	B	244S6502	地形学	2	第2学期	第4ターム	月,木	4	講義	奈良間　千之	自然科学系（理）	44	04,03
27	関連	B	241S0581	環境気象学	2	第1学期	第1ターム	火,金	3	講義	本田　明治	自然科学系（理）	44	04
28	関連	B	244G6520	地球と気象	2	第2学期	第4ターム	火,金	4	講義	本田　明治	自然科学系（理）	44	03
29	関連	B	休講	可視化工学	2					講義			50	04
30	関連	B	242T0434	都市計画学I	2	第1学期	第2ターム	火,金	4	講義	岡崎　篤行	自然科学系（工）	53	03
31	関連	B	244T0435	都市計画学II	2	第2学期	第4ターム	火,金	4	講義	松井　大輔	自然科学系（工）	53	04
32	関連	C	240G8003	医学序説 I	2	第1学期	第1,2ターム	木	3	講義	医学科学務委員会	医歯学系（院医）	81	03
33	関連	C	240G8502	医学序説 II	2	第2学期	第3,4ターム	月	4	講義	医学科学務委員会	医歯学系（院医）	81	03
34	関連	C	240G8002	先端医科学研究概説	2	第1学期	第1,2ターム	月	5	講義	奥田　修二郎	医歯学系（院医）	80	03

令和３（２０２１）年度以前の入学者のみ
修了認定可能なプログラム

【重要】本プログラムは，2022年度以降入学者（3年次編入生は2023年度以降入学者）は認定の対象となりませんので，ご注意ください。

■プログラムの名称　「法律学」

授業科目リスト（掲載されている学期・曜・限は変更される場合があります。）

属性区分

Ｒ１：法学一般の基礎を養うための選択必修科目／Ｒ２：専攻領域ごとに法学の応用力を養うための必修科目

Ａ：公法系の基礎科目／Ｂ：民事法系の基礎科目／Ｃ：刑事法系の基礎科目

※令和3（2021）年度において教育学部開講の「社会学」を履修した者に限り、法学部開講の「社会学」に代えて副専攻「法律学」の科目とすることができます。

No	分類	属性	開講番号	授業科目名	単位	学期	ターム	曜日	時限	形式	授業担当者	所属	分野	水準
1	コア	R1	休講	人文社会科学入門（法学）	2					講義			34	11
2	コア	R1	休講	リーガル・システム	2					講義			35	03
3	コア	R2		法政演習Ⅰ	2					演習			34	14
4	コア	R2		法政演習Ⅱ	2					演習			34	14
5	コア	R2		卒業研究Ⅰ	2					演習			35,77	15
6	コア	R2		卒業研究Ⅱ	2					演習			35,77	15
7	コア	A	243L3001	憲法Ⅰ	2	第2学期	第3ターム	木	1,2	講義	上村　都	人文社会科学系（法）	34	03
8	コア	A	241L3002	憲法Ⅱ	2	第1学期	第1ターム	他	-	講義	栗田　佳泰	人文社会科学系（法）	34	04
9	コア	A	242L3003	憲法Ⅲ	2	第1学期	第2ターム	他	-	講義	山本　真敬	人文社会科学系（法）	34	03
10	コア	A	243L3005	行政法Ⅰ	2	第2学期	第3ターム	火	1,2	講義	今本　啓介	人文社会科学系（法）	34	03
11	コア	A	244L3006	行政法Ⅱ	2	第2学期	第4ターム	水	3,4	講義	今本　啓介	人文社会科学系（法）	34	03
12	コア	B	243L3101	民法Ⅰ	2	第2学期	第3ターム	水	3,4	講義	上山　泰	人文社会科学系（法）	34	03
13	コア	B	242L3102	民法Ⅱ	2	第1学期	第2ターム	月	1,2	講義	岩嵜　勝成	人文社会科学系（法）	34	03
14	コア	B	244L3103	民法Ⅲ	2	第2学期	第4ターム	金	1,2	講義	岩嵜　勝成	人文社会科学系（法）	34	03
15	コア	B	241L3104	民法Ⅳ	2	第1学期	第1ターム	水	1,2	講義	林　滉起	人文社会科学系（法）	34	03
16	コア	B	244L3114	会社法Ⅰ	2	第2学期	第4ターム	月	3,4	講義	梅津　昭彦	人文社会科学系（法）	34	04
17	コア	C	242L3201	刑法Ⅰ	2	第1学期	第2ターム	火	1,2	講義	田寺　さおり	人文社会科学系（法）	34	03
18	コア	C	243L3202	刑法Ⅱ	2	第2学期	第3ターム	月	1,2	講義	田寺　さおり	人文社会科学系（法）	34	04
19	コア	C	241L3203	刑法Ⅲ	2	第1学期	第1ターム	月	1,2	講義	丹羽　正夫	人文社会科学系（法）	34	04
20	コア	C	244L3204	特殊講義（刑法各論発展）	2	第2学期	第4ターム	木	1,2	講義	丹羽　正夫	人文社会科学系（法）	34	04
21	関連		241L3111	民事訴訟法Ⅰ	2	第1学期	第1ターム	火	1,2	講義	張　子弦	人文社会科学系（法）	34	04
22	関連		242L3009	自治体法	2	第1学期	第2ターム	木	3,4	講義	宮森　征司	人文社会科学系（法）	34	04
23	関連		244L3010	租税法	2	第2学期	第4ターム	火	1,2	講義	今本　啓介	人文社会科学系（法）	34	04
24	関連		241L3402	情報法Ⅰ	2	第1学期	第1ターム	月	1,2	講義	鈴木　正朝	人文社会科学系（法）	34	04
25	関連		241L3301	経済法Ⅰ	2	第1学期	第1ターム	水	1,2	講義	丁　宇	人文社会科学系（法）	34	04
26	関連		241L3303	社会保障法Ⅰ（医療保障法）	2	第1学期	第1ターム	金	1,2	講義	田中　伸至	人文社会科学系（法）	34	04
27	関連		242L3304	社会保障法Ⅱ（総論・所得保障法）	2	第1学期	第2ターム	金	1,2	講義	田中　伸至	人文社会科学系（法）	34	04
28	関連		242L3306	労働法Ⅰ	2	第1学期	第2ターム	金	1,2	講義	木南　直之	人文社会科学系（法）	34	04
29	関連		244L3307	労働法Ⅱ	2	第2学期	第4ターム	金	1,2	講義	木南　直之	人文社会科学系（法）	34	04
30	関連		241L3407	知的財産法Ⅰ	2	第1学期	第1ターム	木	3,4	講義	渡邉　修	人文社会科学系（法）	34	04
31	関連		243L3308	国際法	2	第2学期	第3ターム	木	1,2	講義	渡辺　豊	人文社会科学系（法）	34	03
32	関連		244L3309	国際人権法	2	第2学期	第4ターム	木	1,2	講義	渡辺　豊	人文社会科学系（法）	34	03
33	関連		242L3502	法社会学	2	第1学期	第2ターム	木	1,2	講義	田巻　帝子	人文社会科学系（法）	34	03
34	関連		244L3501	特殊講義（法哲学）	2	第2学期	第4ターム	金	3,4	講義	根津　洸希	人文社会科学系（法）	34	03
35	関連		244L3701	公共政策	2	第2学期	第4ターム	金	1,2	講義	田中　伸至	人文社会科学系（法）	35	04
36	関連		240L3503	特殊講義（法医学Ⅰ）	2	第1学期	第1,2ターム	水	1	講義	高塚　尚和	医歯学系（院医）	34	04
37	関連		240L3504	特殊講義（法医学Ⅱ）	2	第2学期	第3,4ターム	水	1	講義	高塚　尚和	医歯学系（院医）	34	04
38	関連		243L3803	ジェンダー論	2	第2学期	第3ターム	金	1,2	講義	田巻　帝子	人文社会科学系（法）	34,35	03
39	関連		240L3808	社会学	2	第1学期	集中	-	-	講義	鷹田　佳典	非常勤講師	38	03

令和３（２０２１）年度以前の入学者のみ修了認定可能なプログラム

【重要】本プログラムは，2022年度以降入学者（3年次編入生は2023年度以降入学者）は認定の対象となりませんので，ご注意ください。

■プログラムの名称　「政治学」

授業科目リスト（掲載されている学期・曜・限は変更される場合があります。）

属性区分

Ｒ１：政治学一般の基礎を養うための選択必修科目／Ｒ２：専攻領域ごとに政治学の応用力を養うための必修科目

Ａ：政治学系の基礎科目／Ｂ：政治学系の応用科目

※令和3（2021）年度において教育学部開講の「社会学」を履修した者に限り、法学部開講の「社会学」に代えて副専攻「政治学」の科目とすることができます。

No	分類	属性	開講番号	授業科目名	単位	学期	ターム	曜日	時限	形式	授業担当者	所属	分野	水準
1	コア	R1	休講	人文社会科学入門（法学）	2					講義			34	11
2	コア	R1	休講	リーガル・システム	2					講義			34	03
3	コア	R2		領域関連演習	2					演習			35	13,14
4	コア	A	241L3601	政治学Ⅰ	2	第1学期	第1ターム	月,木	5	講義	益田　高成	人文社会科学系（法）	35	03
5	コア	A	244L3602	政治学Ⅱ	2	第2学期	第4ターム	月,木	5	講義	益田　高成	人文社会科学系（法）	35	04
6	コア	A	241L3612	政策科学概論	2	第1学期	第1ターム	木	1,2	講義	南島　和久	非常勤講師	35	03
7	コア	A	242L3702	行政学Ⅰ	2	第1学期	第2ターム	木	3,4	講義	馬場　健	人文社会科学系（法）	35	03
8	コア	A	243L3703	行政学Ⅱ	2	第2学期	第3ターム	水	1,2	講義	馬場　健	人文社会科学系（法）	35	04
9	コア	B	244L3603	日本政治外交史Ⅱ	2	第2学期	第4ターム	火	1,2	講義	稲吉　晃	人文社会科学系（法）	35	03
10	コア	B	休講	国際関係論	2					講義			35	03
11	コア	B	休講	アジア政治外交史	2					講義			35	03
12	関連		休講	領域関連特殊講義（日本現代政治史）	2					講義			35	03
13	関連		休講	国際政治史	2					講義			35	03
14	関連		244L3704	自治体政策論	2	第2学期	第4ターム	水	1,2	講義	馬場　健	人文社会科学系（法）	34,35	04
15	関連		休講	領域関連特殊講義（政策評価論）	2					講義			35	04
16	関連		244L3701	公共政策	2	第2学期	第4ターム	金	1,2	講義	田中　伸至	人文社会科学系（法）	35	04
17	関連		241L3610	中国政治入門	2	第1学期	第1ターム	火	3,4	講義	王　星宇	人文社会科学系（法）	35	03
18	関連		242L3611	領域関連特殊講義（現代中国政治入門）	2	第1学期	第2ターム	火	3,4	講義	王　星宇	人文社会科学系（法）	35	03
19	関連		243L3803	ジェンダー論	2	第2学期	第3ターム	金	1,2	講義	田巻　帝子	人文社会科学系（法）	34,35	03
20	関連		240L3808	社会学	2	第1学期	集中	–	–	講義	鷹田　佳典	非常勤講師	38	03

令和５（２０２３）年度以前の入学者のみ
修了認定可能なプログラム

【重要】本プログラムは，2024年度以降入学者（3年次編入生は2025年度以降入学者）は認定の対象となりませんので，ご注意ください。

■プログラムの名称　「経済学」

授業科目リスト（掲載されている学期・曜・限は変更される場合があります。）

属性区分　R：必修科目

No	分類	属性	開講番号	授業科目名	単位	学期	ターム	曜日	時限	形式	授業担当者	所属	分野	水準
1	コア	R	243Q9013	経済学への招待【入門科目】	1	第2学期	第3ターム	火,金	HT	演習	山崎　剛志	人文社会科学系（経済）	36	03
2	コア		241E6001	経済学入門	2	第1学期	第1ターム	他	-	講義	藤堂　史明	人文社会科学系（経済）	36	03
3	コア		242E6044	入門社会経済学	2	第1学期	第2ターム	月,木	3	講義	道上　真有	人文社会科学系（経済）	36	03
4	コア	夜間	242E5044	入門社会経済学	2	第1学期	第2ターム	月,木	3	講義	道上　真有	人文社会科学系（経済）	36	03
5	コア		241E6005	入門ミクロ経済学	2	第1学期	第1ターム	火,金	3	講義	山崎　剛志	人文社会科学系（経済）	36	03
6	コア	夜間	休講	入門ミクロ経済学	2					講義			36	03
7	コア		243E6006	入門マクロ経済学	2	第2学期	第3ターム	他	-	講義	長谷川　雪子	人文社会科学系（経済）	36	03
8	コア	夜間	240E5300	入門マクロ経済学	2	第2学期	第3,4ターム	他	-	講義	中村　篤志	人文社会科学系（経済）	36	03
9	コア		240E6145	経済数学Ⅰ	2	第2学期	第3,4ターム	水	6	講義	高橋　美保	人文社会科学系（経済）	36	03
10	コア		243E6051	経済数学Ⅱ	2	第2学期	第3ターム	月,木	3	講義	高宮　浩司	人文社会科学系（経済）	36	04
11	コア		241E6007	統計入門	2	第1学期	第1ターム	他	-	講義	中東　雅樹	人文社会科学系（経済）	41	13
12	コア		241E6004	日本経済入門	2	第1学期	第1ターム	火,金	4	講義	小川　顕正	人文社会科学系（経済）	36	03
13	関連		242E6221	公共経済学Ⅰ	2	第1学期	第2ターム	他	-	講義	中東　雅樹	人文社会科学系（経済）	36	04
14	関連		243E6222	公共経済学Ⅱ	2	第2学期	第3ターム	他	-	講義	中東　雅樹	人文社会科学系（経済）	36	04
15	関連		244E6045	ミクロ経済学Ⅰ	2	第2学期	第4ターム	火,金	3	講義	山崎　剛志	人文社会科学系（経済）	36	03
16	関連	夜間	休講	ミクロ経済学Ⅰ	2					講義			36	03
17	関連		休講	ミクロ経済学Ⅱ	2					講義			36	04
18	関連		243E6046	マクロ経済学Ⅰ	2	第2学期	第3ターム	火,金	4	講義	長谷川　雪子	人文社会科学系（経済）	36	03
19	関連	夜間	243E1046	マクロ経済学Ⅰ	2	第2学期	第3ターム	火,金	4	講義	長谷川　雪子	人文社会科学系（経済）	36	03
20	関連		244E6053	マクロ経済学Ⅱ	2	第2学期	第4ターム	火,金	4	講義	長谷川　雪子	人文社会科学系（経済）	36	04
21	関連		241E6052	ゲーム理論	2	第1学期	第1ターム	月,木	3	講義	高宮　浩司	人文社会科学系（経済）	36	04
22	関連		243E6047	計量経済学Ⅰ	2	第2学期	第3ターム	火,金	3	講義	伊藤　伸幸	人文社会科学系（経済）	36	04
23	関連		休講	計量経済学Ⅱ	2					講義			36	04
24	関連		休講	国際貿易論	2					講義			36	04
25	関連		241E6061	国際マクロ経済学Ⅰ	2	第1学期	第1ターム	火,金	3	講義	中田　豪	人文社会科学系（経済）	36	04
26	p		240E5100	国際マクロ経済学Ⅱ	2	第1学期	第1,2ターム	他	-	講義	中田　豪	人文社会科学系（経済）	36	04
27	関連		241E6067	財政学Ⅰ	2	第1学期	第1ターム	月,木	2	講義	根岸　睦人	人文社会科学系（経済）	36	04
28	関連		242E6068	財政学Ⅱ	2	第1学期	第2ターム	月,木	2	講義	根岸　睦人	人文社会科学系（経済）	36	04
29	関連		242E6059	金融論Ⅰ	2	第1学期	第2ターム	月,木	2	講義	中村　篤志	人文社会科学系（経済）	36	04
30	関連		243E6060	金融論Ⅱ	2	第2学期	第3ターム	月,木	2	講義	中村　篤志	人文社会科学系（経済）	36	04
31	関連		243E6058	環境経済システム論Ⅱ	2	第2学期	第3ターム	月,木	5	講義	藤堂　史明	人文社会科学系（経済）	36	04
32	関連	夜間	243E5058	環境経済システム論Ⅱ	2	第2学期	第3ターム	月,木	5	講義	藤堂　史明	人文社会科学系（経済）	36	04
33	関連		241E1101	労働経済学Ⅰ	2	第1学期	第1ターム	月,木	2	講義	張　俊超	人文社会科学系（経済）	36	04
34	関連		243E1102	労働経済学Ⅱ	2	第2学期	第3ターム	月,木	2	講義	張　俊超	人文社会科学系（経済）	36	04
35	関連		241E6054	組織の経済学Ⅰ	2	第1学期	第1ターム	月,木	3	講義	濱田　弘潤	人文社会科学系（経済）	36	04
36	関連		243E6055	組織の経済学Ⅱ	2	第2学期	第3ターム	火,金	3	講義	濱田　弘潤	人文社会科学系（経済）	36	04
37	関連		休講	社会経済学原理Ⅰ	2					講義			36	04
38	関連		休講	社会経済学原理Ⅱ	2					講義			36	04
39	コア		休講	世界経済史Ⅰ	2					講義			36	04
40	関連		243E6211	世界経済史Ⅱ	2	第2学期	第3ターム	火,金	2	講義	高垣　里衣	人文社会科学系（経済）	36	04

41	コア		240E6210	日本経済史	2	第2学期	第3,4ターム	木	2	講義	武藤　秀太郎	人文社会科学系（経済）	36	04
42	関連		240E6048	アメリカ経済論Ⅰ	2	第2学期	第3,4ターム	木	6	講義	大森　拓磨	人文社会科学系（経済）	36	04
43	関連		休講	アメリカ経済論Ⅱ	2					講義			36	04
44	関連	夜間	240E6049	ＥＵ経済論	2	第2学期	第3,4ターム	水	4	講義	藤田　憲	人文社会科学系（経済）	36	04
45	関連		241E6050	アジア経済論Ⅰ	2	第1学期	第1ターム	火,金	1	講義	溝口　由己	人文社会科学系（経済）	36	04
46	関連		休講	アジア経済論Ⅱ	2					講義			36	04
47	関連	夜間	244E6063	ロシア経済論	2	第2学期	第4ターム	月,木	3	講義	道上　真有	人文社会科学系（経済）	36	04
48	関連		243E6064	比較経済体制論	2	第2学期	第3ターム	月,木	3	講義	道上　真有	人文社会科学系（経済）	36	04
49	関連		243E6065	開発途上国経済論	2	第2学期	第3ターム	火,金	4	講義	石川　耕三	人文社会科学系（経済）	36	04
50	関連	夜間	240E6056	市場と組織の理論	2	第2学期	第3,4ターム	火	5	講義	大屋　靖成	人文社会科学系（経済）	36	04

令和５（２０２３）年度以前の入学者のみ
修了認定可能なプログラム

【重要】本プログラムは，2024年度以降入学者（3年次編入生は2025年度以降入学者）は認定の対象となりませんので，ご注意ください。

■プログラムの名称　「電子・情報科学」

授業科目リスト（掲載されている学期・曜・限は変更される場合があります。）

属性区分　R：必修科目 ／ A：初級コア科目 ／ B：中級コア科目 ／ C：関連科目 ／ C１：関連科目１ ／ C２：関連科目２

＊工学部工学科人間支援感性科学プログラムの学生は，属性区分「C１」と「C２」の科目を聴講できない。

＊工学部工学科電子情報通信プログラム・知能情報システムプログラムの学生は，属性区分「C２」の科目を聴講できない。

No	分類	属性	開講番号	授業科目名	単位	学期	ターム	曜日	時限	形式	授業担当者	所属	分野	水準
1	コア	R	240Q9014	電子・情報科学入門【入門科目】	1	第1学期	第1,2ターム	火	HT	演習	山家　清之	自然科学系（工）	99	03
2	コア	A	休講	くらしと数理	2					講義			41	03
3	コア	A	243A0051	食料環境工学	2	第2学期	第3ターム	火,金	1	講義	大橋　慎太郎	自然科学系（農）	65	04
4	コア	A	243T0201	電子情報通信概論	1	第2学期	第3ターム	木	1	講義	新保　一成	自然科学系（工）	51	10
5	コア	A	243T0202	知能情報システム概論	1	第2学期	第3ターム	木	2	講義	阿部　貴志	自然科学系（工）	49	10
6	コア	A	242T0501	人間支援感性科学概論	2	第1学期	第2ターム	月	3,4	講義	前田　義信	自然科学系（工）	56	14
7	コア	B	244A0064	技術者倫理・自然環境関連法規	2	第2学期	第4ターム	月,木	2	講義	箕口　秀夫	自然科学系（農）	62,65	14
8	コア	B	休講	バイオメディカル・エンジニアリング	2					講義			56	14
9	コア	B	241T0001	総合工学概論	2	第1学期	第1ターム	木	3,4	講義	岡崎　篤行	自然科学系（工）	49	13
10	関連	B	243T0006	情報セキュリティ概論	1	第2学期	第3ターム	水	1	講義	佐々木　重信	自然科学系（工）	49	13
11	関連	B	244T0004	技術者の心がまえ	2	第2学期	第4ターム	水	3,4	講義	東瀬　朗	自然科学系（工）	49	13
12	関連	B	243T0005	知的財産概論	1	第2学期	第3ターム	水	2	講義	宮田　敦久	地域創生推進機構	49	13
13	関連	C	242S0541	情報社会論	2	第1学期	第2ターム	火,金	5	講義	田中　環	自然科学系（理）	10	03
14	関連	C	243S1506	プログラミング概論A	1	第2学期	第3ターム	木	4	講義	山田　修司	自然科学系（理）	41	03
15	関連	C	244S1512	プログラミング概論B	1	第2学期	第4ターム	木	4	講義	山田　修司	自然科学系（理）	41	03
16	関連	C	241T3009	電気回路I	2	第1学期	第1ターム	月,木	1	講義	金　ミンソク	自然科学系（工）	51	04
17	関連	C	242T3028	電磁気学II	2	第1学期	第2ターム	火,金	3	講義	小川　純	自然科学系（工）	51	04
18	関連	C2＊	241T4033	データ工学	2	第1学期	第1ターム	月	3,4	講義	阿部　貴志	自然科学系（工）	10	04
19	関連	C	244T4045	アシスティブ・テクノロジー	2	第2学期	第4ターム	水	1,2	講義	今村　孝	自然科学系（工）	10	04
20	関連	C1＊	休講	メカトロニクス	2					講義			50	04
21	関連	C1＊	244T1045	ロボット工学	2	第2学期	第4ターム	火,金	2	講義	寒川　雅之	自然科学系（工）	50	04
22	関連	C2＊	243T1034	システム制御I	2	第2学期	第3ターム	火,金	1	講義・演習	横山　誠	自然科学系（工）	50	04
23	関連	C2＊	241T6004	基礎電磁気学	2	第1学期	第1ターム	月,木	2	講義	佐々木　進	自然科学系（工）	54	04
24	p	C2＊	休講	電磁気学応用・演習	2					講義・演習			54	14
25	関連	C2＊	休講	電気回路基礎論	2					講義			54	04
26	関連	C2＊	242T6035	計測工学	2	第1学期	第2ターム	月,木	3	講義	坪井　望	自然科学系（工）	54	04
27	関連	C	244A0054	精密農業工学	2	第2学期	第4ターム	火	3,4	講義	長谷川　英夫	自然科学系（農）	65	14
28	関連	C	243A0050	食品・農業情報工学	2	第2学期	第3ターム	金	3,4	講義	元永　佳孝	自然科学系（農）	65	04
29	関連	C	243A0062	流域環境GIS	2	第2学期	第3ターム	火,金	2	講義	村上　拓彦	自然科学系（農）	62	03

令和５（２０２３）年度以前の入学者のみ
修了認定可能なプログラム

【重要】本プログラムは，2024年度以降入学者（3年次編入生は2025年度以降入学者）は認定の対象となりませんので，ご注意ください。

■プログラムの名称　「統合化学」

授業科目リスト（掲載されている学期・曜・限は変更される場合があります。）

属性区分　R：必修科目

No	分類	属性	開講番号	授業科目名	単位	学期	ターム	曜日	時限	形式	授業担当者	所属	分野	水準
1	コア	R	243Q9015	統合化学入門【入門科目】	1	第2学期	第3ターム	月,木	HT	講義	清水　忠明	自然科学系（工）	99	03
2	コア		241G5025	化学基礎Ａ	2	第1学期	第1ターム	月,木	4	講義	古川　貢	自然科学系（理）	46	03
3	コア		242G5027	化学基礎Ａ	2	第1学期	第2ターム	火,金	3	講義	生駒　忠昭	自然科学系（理）	46	03
4	コア		243G5518	化学基礎Ａ	2	第2学期	第3ターム	火,金	4	講義	丸山　健二	自然科学系（理）	46	03
5	コア		241G5028	化学基礎Ｂ	2	第1学期	第1ターム	火,金	4	講義	松岡　史郎	自然科学系（理）	46	03
6	コア		242G5029	化学基礎Ｂ	2	第1学期	第2ターム	月,木	4	講義	大鳥　範和	自然科学系（理）	46	03
7	コア		244G5519	化学基礎Ｂ	2	第2学期	第4ターム	火,金	4	講義	梅林　泰宏	自然科学系（理）	46	03
8	コア		244S0561	分析化学Ⅰ	2	第2学期	第4ターム	月,木	1	講義	梅林　泰宏	自然科学系（理）	46	03
9	コア		241S3501	無機化学Ⅱ	2	第1学期	第1ターム	火,金	2	講義	後藤　真一	自然科学系（理）	46	03
10	コア		244S0563	有機化学Ⅰ	2	第2学期	第4ターム	月,木	2	講義	俣野　善博	自然科学系（理）	46	03
11	コア		243S0564	化学熱力学	2	第2学期	第3ターム	月,木	2	講義	大鳥　範和	自然科学系（理）	46	03
12	コア		240S0565	生体分子化学Ⅰ	2	第1学期	第1,2ターム	火	3	講義	古川　和広	自然科学系（理）	46	03
13	コア		243T0302	基礎有機化学	2	第2学期	第3ターム	月,木	5	講義	田中　孝明	自然科学系（工）	47	03
14	コア		244T0301	基礎無機化学	2	第2学期	第4ターム	月,木	5	講義	八木　政行	自然科学系（工）	47	03
15	コア		242T5002	基礎物理化学	2	第1学期	第2ターム	月,木	2	講義	小松　博幸	自然科学系（工）	47	04
16	コア		244T6028	高分子科学	2	第2学期	第4ターム	月,木	4	講義	山内　健	自然科学系（工）	54	04
17	コア		241A0009	分析化学（農）	2	第1学期	第1ターム	月,木	1	講義	大竹　憲邦	自然科学系（農）	61	03
18	コア		242A0004	生物化学Ⅰ	2	第1学期	第2ターム	月,木	1	講義	三ツ井　敏明	非常勤講師	61	04
19	コア		241A0031	生物有機化学	2	第1学期	第1ターム	水	1,2	講義	佐藤　努	自然科学系（農）	61	04
20	コア		242A0008	食品化学	2	第1学期	第2ターム	火	3,4	講義	城　斗志夫	自然科学系（農）	61	03
21	コア		243A0007	有機化学（農）	2	第2学期	第3ターム	月,木	2	講義	佐藤　努	自然科学系（農）	61	13
22	関連		241S3502	有機化学Ⅱ	2	第1学期	第1ターム	月,木	1	講義	俣野　善博	自然科学系（理）	46	03
23	関連		241S3524	化学統計力学Ⅱ	2	第1学期	第1ターム	火,金	1	講義	丸山　健二	自然科学系（理）	46	04
24	関連		241T5001	高分子化学概論	2	第1学期	第1ターム	火,金	1	講義	青木　俊樹	非常勤講師	47	04
25	関連		243T0303	化学工学基礎	2	第2学期	第3ターム	火,金	2	講義	清水　忠明	自然科学系（工）	55	04
26	p		241T5013	反応工学Ⅰ	2	第1学期	第1ターム	水	1,2	講義	田口　佳成	自然科学系（工）	55	04
27	関連		241T6032	生体分子工学	2	第1学期	第1ターム	木	3,4	講義	落合　秋人	自然科学系（工）	54	04
28	関連		242T5014	拡散操作Ⅰ	2	第1学期	第2ターム	月,木	1	講義	多島　秀男	自然科学系（工）	55	04
29	関連		241T6029	高分子材料化学	2	第1学期	第1ターム	火,金	2	講義	三俣　哲	自然科学系（工）	54	04
30	関連		244T6027	光化学	2	第2学期	第4ターム	火,金	3	講義	由井　樹人	自然科学系（工）	54	04
31	関連		242T6026	電気化学	2	第1学期	第2ターム	月,木	4	講義	八木　政行	自然科学系（工）	54	14
32	関連		242T6033	生物材料工学	2	第1学期	第2ターム	月,木	2	講義	田中　孝明	自然科学系（工）	54	04
33	関連		241A0090	栄養生化学	2	第1学期	第1ターム	月,木	2	講義	藤村　忍	自然科学系（農）	61	05
34	関連		243A0032	肥料学	2	第2学期	第3ターム	水	1,2	講義	大竹　憲邦	自然科学系（農）	61	04
35	関連		244A0012	植物成分化学	2	第2学期	第4ターム	火,金	2	講義	三亀　啓吾	自然科学系（農）	61,62	04
36	関連		244A0044	土壌生化学	2	第2学期	第4ターム	月,木	2	講義	鈴木　一輝	自然科学系（農）	61	05

令和５（２０２３）年度以前の入学者のみ
修了認定可能なプログラム

【重要】本プログラムは，2024年度以降入学者（3年次編入生は2025年度以降入学者）は認定の対象となりませんので，ご注意ください。

■プログラムの名称　「医学物理学基礎」

授業科目リスト（掲載されている学期・曜・限は変更される場合があります。）

属性区分　Ｒ：必修科目 ／ Ａ１：コア科目（基礎物理） ／ Ａ２：コア科目（放射線技術） ／ Ａ３：コア科目（基礎医学）

Ｂ１：関連科目（物理） ／ Ｂ２：関連科目（放射線技術） ／ Ｃ１：展開科目（物理） ／ Ｃ２：展開科目（放射線技術）

専門科目(SコードMコード)についてオンライン授業形式で他主専攻からの受講を認めている科目については「他主専攻」の項目を確認して下さい。(○：他主専攻学生の受講可 ／ ×：不可) なお定員超過の場合、受講できない場合があります。また、試験等を対面で行うものもあるのでシラバスを確認してください。詳細については所属キャンパスの副専攻代表教員にお問い合わせください。

No	分類	属性	開講番号	授業科目名	単位	学期	ターム	曜日	時限	形式	授業担当者	所属	分野	水準
1	コア	R	243Q9016	医学物理学入門（オナーズ型マイナー）【入門科目】	1	第2学期	第3ターム	他	-	講義	大坪　隆	自然科学系（理）	99	03
2	コア	A1	241G5015	物理学基礎Ａ Ⅰ	2	第1学期	第1ターム	木	1,2	講義	大野　義章	自然科学系（理）	43	03
3	コア	A1	240G5016	物理学基礎Ａ Ⅰ	2	第1学期	第1,2ターム	月	5	講義	淺賀　岳彦	自然科学系（理）	43	03
4	コア	A1	240G5511	物理学基礎Ａ II	2	第2学期	第3,4ターム	水	3	講義	奥西　巧一	自然科学系（理）	43	03
5	コア	A1	240G5516	物理学基礎CⅡ	2	第2学期	第3,4ターム	火	1	講義	大坪　隆	自然科学系（理）	43	03
6	コア	A1	240G6016	物理学基礎実験	2	第1学期	第1,2ターム	水	3,4	実験	小林　公一	医歯学系（医保）	43	03
7	コア	A1	244S0560	基礎ベクトル解析	2	第2学期	第4ターム	火,金	2	講義	石川　文洋	自然科学系（理）	43	03
8	コア	A1	240S0558	解析力学	2	第1学期	第1,2ターム	火	4	講義	江尻　信司	自然科学系（理）	43	03
9	コア	A1	241S2507	電磁気学IA	1	第1学期	第1ターム	月	4	講義	西　亮一	自然科学系（理）	43	04
10	コア	A1	242S2508	電磁気学IB	1	第1学期	第2ターム	月	4	講義	西　亮一	自然科学系（理）	43	04
11	コア	A1	243S2509	電磁気学IIA	1	第2学期	第3ターム	月	5	講義	大村　彩子	自然科学系（理）	43	04
12	コア	A1	244S2510	電磁気学IIB	1	第2学期	第4ターム	月	5	講義	大村　彩子	自然科学系（理）	43	04
13	コア	A1	241S2517	振動論と微分方程式	2	第1学期	第1ターム	火,金	2	講義	早坂　圭司	自然科学系（理）	43	04
14	コア	A1	240S2518	複素解析	2	第2学期	第3,4ターム	月	3	講義	本郷　優	自然科学系（理）	43	04
15	コア	A1	243S2520	熱力学A	1	第2学期	第3ターム	木	1	講義	摂待　力生	自然科学系（理）	43	03
16	コア	A1	244S2521	熱力学B	1	第2学期	第4ターム	木	1	講義	摂待　力生	自然科学系（理）	43	03
17	コア	A1	243S2515	量子力学序論A	1	第2学期	第3ターム	月	4	講義	小池　裕司	自然科学系（理）	43	03
18	コア	A1	244S2516	量子力学序論B	1	第2学期	第4ターム	月	4	講義	小池　裕司	自然科学系（理）	43	03
19	コア	A1	240S2001	量子力学I	2	第1学期	第1,2ターム	木	2	講義	松尾　正之	自然科学系（理）	43	04
20	コア	A1	240S2005	統計力学I	2	第1学期	第1,2ターム	月	3	講義	奥西　巧一	自然科学系（理）	43	04
21	コア	A2	240M8308	放射線物理学	2	第1学期	第1,2ターム	木	3	講義	齋藤　正敏	医歯学系（医保）	43	24
22	コア	A2	240M8309	放射線物理学演習	1	第2学期	第3,4ターム	木	3	演習	齋藤　正敏	医歯学系（医保）	43	24
23	コア	A2	240M8311	放射線計測学	2	第2学期	第3,4ターム	月	3	演習	齋藤　正敏	医歯学系（医保）	43	24
24	p	A2	休講	放射線計測学Ⅱ	2					講義			43	24
25	コア	A2	240M8316	放射線生物学及び演習	1	第1学期	第1,2ターム	月	3	演習	笹本　龍太	医歯学系（医保）	57	24
26	コア	A2	240M8321	診療画像機器学I	2	第2学期	第3,4ターム	火	2	講義	大久保　真樹	医歯学系（医保）	87	24
27	コア	A2	休講	放射線機器工学Ⅱ	2					講義			87	24
28	コア	A2	休講	医用機器工学及び演習	2					演習			87	24
29	コア	A2	243M8337	医療画像工学I	2	第2学期	第3ターム	火	3	講義	近藤　世範	医歯学系（医保）	87	24
30	コア	A2	244M8338	医療画像工学II	2	第2学期	第4ターム	火	3	講義	近藤　世範	医歯学系（医保）	87	24
31	コア	A2	240M8344	核医学検査技術学Ⅰ	2	第2学期	第3,4ターム	水	2	講義	山崎　芳裕	医歯学系（医保）	87	24
32	コア	A2	240M8346	核医学検査技術学Ⅲ	2	第2学期	第3,4ターム	金	2	講義	成田　啓廣	医歯学系（医保）	87	24
33	コア	A2	240M8347	放射線治療技術学Ⅰ	2	第2学期	第3,4ターム	金	1	講義	笹本　龍太	医歯学系（医保）	87	24
34	コア	A2	240M8348	放射線治療技術学Ⅱ	2	第1学期	第1,2ターム	金	1	講義	早川　岳英	医歯学系（医保）	87	24
35	コア	A2	240M8349	放射線治療技術学Ⅲ	2	第2学期	第3,4ターム	月	2	講義	笹本　龍太	医歯学系（医保）	87	24
36	コア	A3	240M8001	人体の構造と機能Ⅰ	2	第1学期	第1,2ターム	月	2	講義	齋藤　修	医歯学系（医保）	80	23
37	コア	A3	240M8002	人体の構造と機能Ⅱ	2	第2学期	第3,4ターム	月	5	講義	小山　諭	医歯学系（医保）	80	23
38	コア	A3	240M8007	疾病の原因と成り立ち	2	第1学期	第1,2ターム	金	2	講義	小山　諭	医歯学系（医保）	80	23
39	関連	B1	241G5003	数学基礎A1	1	第1学期	第1ターム	水	1	講義	山田　修司	自然科学系（理）	41	03
40	関連	B1	243G5501	数学基礎A1	1	第1学期	第3ターム	水	1	講義	劉　雪峰	自然科学系（理）	41	03

41	関連	B1	241G5005	数学基礎A1	1	第1学期	第1ターム	木	5	講義	橋詰　健太	自然科学系（理）	41	03
42	関連	B1	242G5004	数学基礎A2	1	第1学期	第2ターム	水	1	講義	山田　修司	自然科学系（理）	41	03
43	関連	B1	244G5502	数学基礎A2	1	第1学期	第4ターム	水	1	講義	劉　雪峰	自然科学系（理）	41	03
44	関連	B1	242G5006	数学基礎A2	1	第1学期	第2ターム	木	5	講義	橋詰　健太	自然科学系（理）	41	03
45	関連	B1	241G5007	数学基礎B1	1	第1学期	第1ターム	金	3	講義	星　明考	自然科学系（理）	41	03
46	関連	B1	241G5009	数学基礎B1	1	第1学期	第1ターム	水	3	講義	小島　秀雄	自然科学系（理）	41	03
47	関連	B1	243G5503	数学基礎B1	1	第2学期	第3ターム	水	2	講義	田中　環	自然科学系（理）	41	03
48	関連	B1	242G5008	数学基礎B2	1	第1学期	第2ターム	金	3	講義	星　明考	自然科学系（理）	41	03
49	関連	B1	242G5010	数学基礎B2	1	第1学期	第2ターム	水	3	講義	小島　秀雄	自然科学系（理）	41	03
50	関連	B1	244G5504	数学基礎B2	1	第2学期	第4ターム	水	2	講義	田中　環	自然科学系（理）	41	03
51	関連	B1	241S2511	物理学演習A	1	第1学期	第1ターム	水	2	演習	根本　祐一	自然科学系（理）	43	14
52	関連	B1	242S2512	物理学演習B	1	第1学期	第2ターム	水	2	演習	根本　祐一	自然科学系（理）	43	14
53	関連	B1	243S2513	物理学演習C	1	第2学期	第3ターム	水	2	演習	根本　祐一	自然科学系（理）	43	14
54	関連	B1	244S2514	物理学演習D	1	第2学期	第4ターム	水	2	演習	根本　祐一	自然科学系（理）	43	14
55	関連	B1	241S2526	電気力学A	1	第1学期	第1ターム	金	4	講義	西　亮一	自然科学系（理）	43	04
56	関連	B1	242S2527	電気力学B	1	第1学期	第2ターム	金	4	講義	西　亮一	自然科学系（理）	43	04
57	関連	B1	休講	エレクトロニクスＡ	1					講義			43	04
58	関連	B1	休講	エレクトロニクスＢ	1					講義			43	04
59	関連	B1	241S2530	特殊相対論A	1	第1学期	第1ターム	水	1	講義	中野　博章	自然科学系（理）	43	04
60	関連	B1	242S2531	特殊相対論B	1	第1学期	第2ターム	水	1	講義	中野　博章	自然科学系（理）	43	04
61	関連	B2	休講	医療と放射線	2					講義			87	03
62	関連	B2	240M8004	医療と画像技術	2	第2学期	第3,4ターム	火	4	講義	髙橋　直也	医歯学系（医保）	87	03
63	関連	B2	243M8355	医用放射線技術の歴史	1	第2学期	第3ターム	火	5	講義	宇都宮　悟	医歯学系（医保）	87	04
64	関連	C1	240S2519	波動とフーリエ解析	2	第2学期	第3,4ターム	金	3	講義	吉森　明	自然科学系（理）	43	04
65	関連	C1	243S2534	量子力学IIA	2	第2学期	第3ターム	火,木	2	講義	淺賀　岳彦	自然科学系（理）	43	04
66	関連	C1	243S2540	統計力学IIA	2	第2学期	第3ターム	月	1,2	講義	大野　義章	自然科学系（理）	43	04
67	関連	C1	244S2535	量子力学IIB	2	第2学期	第4ターム	火,木	2	演習	淺賀　岳彦	自然科学系（理）	43	14
68	関連	C1	244S2541	統計力学IIB	2	第2学期	第4ターム	月	1,2	演習	大野　義章	自然科学系（理）	43	14
69	関連	C1	240S2549	原子核物理学	2	第1学期	第1,2ターム	水	2	演習	小池　裕司	自然科学系（理）	43	14
70	関連	C1	240S2557	物理学特論VI	1	集中	集中	集中	集中	講義	北川　敦志	自然科学系（理）	43	5
71	関連	C2	240M8303	医用工学演習	1	第2学期	第3,4ターム	水	3	演習	小林　公一	医歯学系（医保）	51	14
72	関連	C2	休講	電子・システム工学実験	1					実験			51	14
73	関連	C2	240M8305	医用システム工学実験	1	第1学期	第1,2ターム	金	3,4	実験	大久保　真樹	医歯学系（医保）	51	14
74	関連	C2	休講	放射線物理学Ⅱ及び演習	1					演習			43	14
75	関連	C2	240M8310	放射線理工学演習	1	第2学期	第3,4ターム	火	3	演習	齋藤　正敏	医歯学系（医保）	43	14
76	関連	C2	休講	放射性廃棄物処理法	1									
77	関連	C2	242M5341	超音波技術学	1	第1学期	第2ターム	金	3	講義	髙橋　直也	医歯学系（医保）	87	14
78	関連	C2	243M8342	医用画像処理工学演習	1	第2学期	第3ターム	水	4,5	演習	岡本　昌士	医歯学系（医保）	87	14
79	関連	C2	244M8343	医用情報システム概論	1	第2学期	第4ターム	水	3	講義	近藤　世範	医歯学系（医保）	87	14
80	関連	C2	休講	放射線治療学演習	1					演習			87	14
81	関連	C2	240M8350	放射線治療技術学演習	1	第2学期	第3,4ターム	月	1	演習	早川　岳英	医歯学系（医保）	87	14
82	関連	C2	240M5358	放射線治療計画法演習	1	第1学期	第1,2ターム	金	4	演習	笹本　龍太	医歯学系（医保）	81	14

令和５（２０２３）年度以前の入学者のみ
修了認定可能なプログラム

【重要】本プログラムは，2024年度以降入学者（3年次編入生は2025年度以降入学者）は認定の対象となりませんので，ご注意ください。

■プログラムの名称　「学校教育実践」

授業科目リスト（掲載されている学期・曜・限は変更される場合があります。）

属性区分　R：入門科目/必修科目　／　A：学校支援系科目　／　B：授業体験系科目　／　C：教職実践系科目

No	分類	属性	開講番号	授業科目名	単位	学期	ターム	曜日	時限	形式	授業担当者	所属	分野	水準
1	コア	R	240Q9017	学校教育実践入門【入門科目】	1	第1学期	集中	-	-	講義	後藤　康志	教育基盤機構	75	03
2	コア	R	240Q9018	学校教育実践入門【入門科目】	1	第2学期	集中	-	-	講義	後藤　康志	教育基盤機構	75	03
3	コア	A	240G3907	学校支援フィールドワークA（小学校）	2	第1学期	集中	-	-	実習	後藤　康志	教育基盤機構	75	03
4	コア	A	240G3908	学校支援フィールドワークA（中学校）	2	第1学期	集中	-	-	実習	後藤　康志	教育基盤機構	75	03
5	コア	A	240G3909	学校支援フィールドワークA（高等学校）	2	第1学期	集中	-	-	実習	後藤　康志	教育基盤機構	75	03
6	コア	A	240G3910	学校支援フィールドワークB（小学校）	4	第1学期	集中	-	-	実習	後藤　康志	教育基盤機構	75	03
7	コア	A	240G3911	学校支援フィールドワークB（中学校）	4	第1学期	集中	-	-	実習	後藤　康志	教育基盤機構	75	03
8	コア	B	240G3912	授業フィールドワーク	2	第1学期	集中	-	-	実習	後藤　康志	教育基盤機構	75	03
9	コア	C	240K9233	中等教育実習II（事前・事後指導を含む。）	3	第1学期	不定期開講	-	-	実習	教育実習委員会	人文社会科学系（教育）	40	23
10	コア	C	240K9218	中等教育実習III	2	第1学期	不定期開講	-	-	実習	教育実習委員会	人文社会科学系（教育）	40	24
11	コア	C	240K9304	教職実践演習（中等）	2	第2学期	第3,4ターム	月	3	講義	未定	未定	40	24
12	コア	C	240K0024	教育実践体験研究III	2	第1学期	集中	-	-	演習	橋本　佳恵		40	14
13	関連		241K0033	教職入門	2	第1学期	第1ターム	水	4,5	講義	渡邉　志織	非常勤講師	40	23
14	関連		240K0043	教育学概論	2	第1学期	第1,2ターム	木	2	講義	中野　啓明	非常勤講師	40	23
15	関連		240K0356	教育・学校心理学B	2	第2学期	第3,4ターム	金	5	講義	佐藤　朗子	非常勤講師	39	23
16	関連		240K0063	教育の制度と経営	2	第2学期	第3,4ターム	金	1	講義	相庭　和彦	人文社会科学系（教育）	40	23
17	関連		240K0462	教育方法及び特別活動の指導法B	2	第1学期	集中	-	-	講義	木村　哲郎	非常勤講師	40	23
18	関連		240K0083	道徳指導法	2	第2学期	第3,4ターム	木	2	講義	中野　啓明	非常勤講師	40	23
19	関連		240K0386	特別支援教育概論	2	第2学期	第3,4ターム	-	-	講義	未定		40	21
20	関連		240K0387	特別支援教育概論	2	第1学期	第1,2ターム	-	-	講義	未定		40	21
21	関連		240K0461	教育課程及び総合的な学習の時間の指導法B	2	第1学期	集中	-	-	講義	伊藤　敦美	非常勤講師	40	23
22	関連		240K0361	生徒指導B	2	第1学期	集中	-	-	講義	小関　俊祐	非常勤講師	40	24
23	関連		240K0362	教育相談・進路指導B	2	第1学期	集中	-	-	講義	新井　雅	非常勤講師	40	24
24	関連		242K0475	教育情報論	1	第1学期	第2ターム	水	4	講義	後藤　康志	教育基盤機構	40	23
25	関連		243K0476	教育情報論	1	第2学期	第3ターム	水	4	講義	後藤　康志	教育基盤機構	40	23

令和５（２０２３）年度以前の入学者のみ
修了認定可能なプログラム

【重要】本プログラムは，2024年度以降入学者（3年次編入生は2025年度以降入学者）は認定の対象となりませんので，ご注意ください。

■プログラムの名称　「データサイエンス」

授業科目リスト（掲載されている学期・曜・限は変更される場合があります。）

属性区分

Ｒ１：データサイエンス入門科目群　／　Ｒ２：外部発表

Ａ：統計科目群　／　Ｂ:数学科目群　／　Ｃ:情報概論科目群　／　Ｄ:情報処理演習科目群　／　Ｅ:プログラミング基礎科目群　／　Ｆ:プログラミング応用科目群

Ｇ：情報セキュリティ科目群　／　Ｈ:インターンシップ科目群

No	分類	属性	開講番号	授業科目名	単位	学期	ターム	曜日	時限	形式	授業担当者	所属	分野	水準
1	コア	R1	（全科目）	データサイエンス総論Ⅰ【入門科目】	1								10	03
2	コア	R1	（全科目）	データサイエンス総論Ⅱ	1								10	03
3	コア	R1	241G3018	エンジニアのためのデータサイエンス入門（力学分野）【入門科目，工学部学生のみ】	2	第1学期	第1ターム	火,金	4	講義	金澤　伸一	自然科学系（工）	10	13
4	コア	R1	241G3019	エンジニアのためのデータサイエンス入門（化学材料分野）【入門科目，工学部学生のみ】	2	第1学期	第1ターム	火,金	4	講義	多島　秀男	自然科学系（工）	10	13
5	コア	R1	241G3020	エンジニアのためのデータサイエンス入門（融合領域分野）【入門科目，工学部学生のみ】	2	第1学期	第1ターム	火,金	4	講義	石塚　淳	自然科学系（工）	10	13
6	コア	R1	241G3021	エンジニアのためのデータサイエンス入門（融合領域分野）【入門科目，工学部学生のみ】	2	第1学期	第1ターム	月	1,2	講義	前田　義信	自然科学系（工）	10	13
7	コア	R1	241G3022	エンジニアのためのデータサイエンス入門（融合領域分野）【入門科目，工学部学生のみ】	2	第1学期	第1ターム	月	1,2	講義	白川　展之	自然科学系（工）	10	13
8	コア	R1	242G3039	エンジニアのためのデータサイエンス入門（情報電子分野）【入門科目，工学部学生のみ】	2	第1学期	第2ターム	火,金	3	講義	山崎　達也	自然科学系（工）	10	13
9	コア	R1	242G3040	エンジニアのためのデータサイエンス入門（情報電子分野）【入門科目，工学部学生のみ】	2	第1学期	第2ターム	火,金	3	講義	飯田　佑輔	自然科学系（工）	10	13
10	コア	R1	242G3041	エンジニアのためのデータサイエンス入門（情報電子分野）【入門科目，工学部学生のみ】	2	第2学期	第2ターム	火,金	3	講義	佐々木　重信	自然科学系（工）	10	13
11	コア	R1	242G3042	エンジニアのためのデータサイエンス入門（建築分野）【入門科目，工学部学生のみ】	2	第1学期	第2ターム	月,木	2	講義	大嶋　拓也	自然科学系（工）	10	13
12	コア	R1	243X0009	データサイエンス概説【入門科目,創生学部学生のみ】	2	第2学期	第3ターム	火,金	4	講義	熊野　英和	自然科学系(創生)	75	13
13	コア	R2	240G3903	データサイエンス発表	2	第2学期	集中	–	–	実習	山田　修司	自然科学系（理）	10	04
14	コア	A	241H2042	社会調査法Ａ	2	第1学期	第1ターム	金	3,4	講義	杉原　名穂子	人文社会科学系（人文）	38	13
15	コア	A	240H9217	メディア・表現文化実習Ｄ	1	第2学期	第3,4ターム	木	5	実習	古賀　豊	人文社会科学系（人文）	10	13
16	コア	A	240H2049	メディア論実習Ｄ	1	第2学期	第3,4ターム	木	5	実習	古賀　豊	人文社会科学系（人文）	10	13
17	コア	A	240K1307	統計学I	2	第1学期	第1,2ターム	火	4	講義	伏木　忠義	人文社会科学系（教育）	41	04
18	コア	A	240K1308	統計学II	2	第2学期	第3,4ターム	火	4	講義	伏木　忠義	人文社会科学系（教育）	41	04
19	コア	A	240K5103	教育統計学（心理学統計法）	2	第1学期	第1,2ターム	–	–	講義・演習	斎藤　有吾	教育基盤機構	40	04
20	コア	A	243E1047	計量経済学Ⅰ	2	第2学期	第3ターム	火,金	3	講義	伊藤　伸幸	人文社会科学系（経済）	36	04
21	コア	A	243E6047	計量経済学Ⅰ	2	第2学期	第3ターム	火,金	3	講義	伊藤　伸幸	人文社会科学系（経済）	36	04
22	コア	A	241E6007	統計入門	2	第1学期	第1ターム	–	–	講義	中東　雅樹	人文社会科学系（経済）	41	03
23	コア	A	240M1214	医学情報学(基礎)	1.5	第2学期	第3,4ターム	–	–	講義	赤澤　宏平	医歯学総合病院	82	13
24	コア	A	240M8019	医療統計学	2	第2学期	第3,4ターム	金	2	講義	関　奈緒	医歯学系（医保）	82	03
25	コア	A	240DA212	社会調査法	2	第1学期	第1,2ターム	–	–	演習	葭原　明弘	医歯学系（歯）	86	14
26	コア	A	240DS202	医療統計学	2	第1学期	第1,2ターム	–	–	講義	葭原　明弘	医歯学系（歯）	90	14
27	コア	A	242T2003	応用数理Ｅ	2	第1学期	第2ターム	月,木	4	講義	永幡　幸生	非常勤講師	41	03
28	コア	A	241T3003	応用数理Ｅ	2	第1学期	第1ターム	月	3,4	講義	坂井　一貴	自然科学系（工）	41	03
29	コア	A	242T6002	応用数理Ｅ	2	第1学期	第2ターム	月,木	4	講義	永幡　幸生	自然科学系（工）	41	03
30	コア	A	241T4001	応用数理Ｅ	2	第1学期	第1ターム	月,木	2	講義	永幡　幸生	自然科学系（工）	41	03
31	コア	A	241T7002	応用数理Ｅ	2	第1学期	第1ターム	月,木	2	講義	永幡　幸生	自然科学系（工）	41	03
32	コア	A	244T0503	ビジネス統計学	2	第2学期	第4ターム	木	3,4	講義	東瀬　朗	自然科学系（工）	37,38,49	13
33	コア	A	242A0043	生物統計学	2	第1学期	第2ターム	金	3,4	講義	大竹　憲邦	自然科学系（農）	60	04
34	コア	A	243A0078	環境統計学	2	第2学期	第3ターム	水	3,4	講義	関島　恒夫	自然科学系（農）	62,65	04
35	コア	A	244A0110	農業統計学	1	第2学期	第4ターム	月	4	講義	板野　志郎	自然科学系（農）	60	13
36	コア	A	241G5011	統計学基礎1	1	第1学期	第1ターム	水	1	講義	家富　洋	非常勤講師	41	03
37	コア	A	241G5013	統計学基礎1	1	第1学期	第1ターム	月	5	講義	坂井　一貴	非常勤講師	41	03
38	コア	A	243G5507	統計学基礎1	1	第2学期	第3ターム	火	5	講義	蛭川　潤一	自然科学系（理）	41	03
39	コア	A	243G5509	統計学基礎1	1	第2学期	第3ターム	月	5	講義	坂井　一貴	非常勤講師	41	03
40	コア	A	242G5012	統計学基礎2	1	第1学期	第2ターム	月	5	講義	坂井　一貴	非常勤講師	41	03

41	コア	A	242G5014	統計学基礎2	1	第1学期	第2ターム	水	1	講義	家富　洋	非常勤講師	41	03
42	コア	A	244G5508	統計学基礎2	1	第2学期	第4ターム	火	5	講義	蛭川　潤一	自然科学系（理）	41	03
43	コア	A	244G5510	統計学基礎2	1	第2学期	第4ターム	月	5	講義	坂井　一貴	非常勤講師	41	03
44	コア	B	242H2043	社会調査法Ｂ	2	第1学期	第2ターム	火	4,5	講義	伊藤　嘉高	人文社会科学系（人文）	38	13
45	コア	B	240K1303	線形代数学Ⅰ	2	第1学期	第1,2ターム	水	4	講義	張間　忠人	人文社会科学系（教育）	41	13
46	コア	B	240K1304	線形代数学ⅠⅠ	2	第2学期	第3,4ターム	水	4	講義	張間　忠人	人文社会科学系（教育）	41	14
47	コア	B	240K1305	微分積分学Ⅰ	2	第1学期	第1,2ターム	月	5	講義	高田　土満	人文社会科学系（教育）	41	03
48	コア	B	240K1311	代数学序説	2	第1学期	第1,2ターム	火	5	講義	関　隆宏	経営戦略本部	41	03
49	コア	B	240E6145	経済数学Ⅰ	2	第2学期	第3,4ターム	水	6	講義	高橋　美保	人文社会科学系（経済）	36,41	03
50	コア	B	242E6043	経済数学Ⅰ	2	第1学期	第2ターム	月	3	講義	高宮 浩司	人文社会科学系（経済）	36,41	03
51	コア	B	243S0545	線形代数ⅠA	1	第2学期	第3ターム	木	1	講義	鈴木　有祐	自然科学系（理）	41	03
52	コア	B	243S0547	集合と写像	1	第2学期	第3ターム	月	5	講義	大井　志穂	自然科学系（理）	41	03
53	コア	B	243S0559	基礎物理数学	2	第2学期	第3ターム	火,金	2	講義	中野　博章	自然科学系（理）	43	03
54	コア	B	244S0551	オペレーションズ・リサーチ	2	第2学期	第4ターム	月,木	5	講義	山田　修司	自然科学系（理）	41	03
55	コア	B	244S0560	基礎ベクトル解析	2	第2学期	第4ターム	火,金	2	講義	石川　文洋	自然科学系（理）	43	03
56	コア	B	241T1001	応用数理Ａ	2	第1学期	第1ターム	月,木	5	講義	安部　隆	自然科学系（工）	41	03
57	コア	B	242T1002	応用数理Ａ	2	第1学期	第2ターム	月,木	1	講義	瀧本　哲也	自然科学系（工）	41	03
58	コア	B	241T1003	応用数理Ｂ	2	第1学期	第1ターム	火,金	4	講義	山本　征法	自然科学系（工）	41	03
59	コア	B	242T3001	応用数理Ｂ	2	第1学期	第2ターム	月,木	3	講義	酒匂　宏樹	自然科学系（工）	41	03
60	コア	B	241T4023	離散数学	2	第1学期	第1ターム	金	1,2	講義	高橋　俊彦	自然科学系（工）	10	04
61	コア	B	242T4002	電気数理Ⅰ	2	第1学期	第2ターム	月,木	1	講義	石井　望	自然科学系（工）	49	03
62	コア	B	242T4003	応用数理Ｂ	2	第1学期	第2ターム	月,木	3	講義	山本　征法	非常勤講師	41	03
63	コア	B	243T5004	応用数理Ｂ	2	第2学期	第3ターム	火,金	1	講義	高橋　剛	自然科学系（工）	49	03
64	コア	B	243T6003	物理数学	2	第2学期	第3ターム	火,金	1	講義	瀧本　哲也	自然科学系（工）	54	04
65	コア	B	241G5001	解析学基礎1	1	第1学期	第1ターム	水	1	講義	大井　志穂	自然科学系（理）	41	03
66	コア	B	241G5003	数学基礎A1	1	第1学期	第1ターム	水	1	講義	山田　修司	自然科学系（理）	41	03
67	コア	B	241G5005	数学基礎A1	1	第1学期	第1ターム	木	5	講義	橋詰　健太		41	03
68	コア	B	241G5007	数学基礎B1	1	第1学期	第1ターム	金	3	講義	星　明考	自然科学系（理）	41	03
69	コア	B	241G5009	数学基礎B1	1	第1学期	第1ターム	水	3	講義	小島　秀雄	自然科学系（理）	41	03
70	コア	B	242G5002	解析学基礎2	1	第1学期	第2ターム	水	1	講義	大井　志穂	自然科学系（理）	41	03
71	コア	B	242G5004	数学基礎A2	1	第1学期	第2ターム	水	1	講義	山田　修司	自然科学系（理）	41	03
72	コア	B	242G5006	数学基礎A2	1	第1学期	第2ターム	木	5	講義	橋詰　健太	自然科学系（理）	41	03
73	コア	B	242G5008	数学基礎B2	1	第1学期	第2ターム	金	3	講義	星　明考	自然科学系（理）	41	03
74	コア	B	242G5010	数学基礎B2	1	第1学期	第2ターム	水	3	講義	小島　秀雄	自然科学系（理）	41	03
75	コア	B	242G6003	基礎数理Ａ Ⅰ	2	第1学期	第2ターム	火,金	1	講義	永幡　幸生	自然科学系（工）	41	03
76	コア	B	242G6004	基礎数理Ａ Ⅰ	2	第1学期	第2ターム	月,木	4	講義	酒匂　宏樹	自然科学系（工）	41	03
77	コア	B	242G6005	基礎数理Ａ Ⅰ	2	第1学期	第2ターム	月,木	4	講義	管野　政明	自然科学系（工）	41	03
78	コア	B	242G6006	基礎数理Ａ Ⅰ	2	第1学期	第2ターム	火,金	3	講義	山本　征法	自然科学系（工）	41	03
79	コア	B	242G6007	基礎数理Ａ Ⅰ	2	第1学期	第2ターム	火,金	3	講義	高橋　剛	自然科学系（工）	41	03
80	コア	B	243G5501	数学基礎A1	1	第1学期	第3ターム	水	1	講義	劉　雪峰	自然科学系（理）	41	03
81	コア	B	243G5503	数学基礎B1	1	第1学期	第3ターム	水	2	講義	田中　環	自然科学系（理）	41	03
82	コア	B	243G5505	数学基礎B1	1	第1学期	第3ターム	木	3	講義	橋詰　健太		41	03
83	コア	B	243G6501	数学の世界	2	第2学期	第3ターム	水	4,5	講義	鈴木　有祐	自然科学系（理）	41	03
84	コア	B	243G6502	基礎数理Ｂ	2	第2学期	第3ターム	火,金	4	講義	高橋　剛	自然科学系（工）	41	03
85	コア	B	243G6503	基礎数理Ｂ	2	第2学期	第3ターム	火,金	1	講義	永幡　幸生	自然科学系（工）	41	03
86	コア	B	243G6504	基礎数理Ｂ	2	第2学期	第3ターム	月,木	4	講義	酒匂　宏樹	自然科学系（工）	41	03
87	コア	B	243G6505	基礎数理Ｂ	2	第2学期	第3ターム	月,木	4	講義	管野　政明	自然科学系（工）	41	03
88	コア	B	243G6506	基礎数理Ｂ	2	第2学期	第3ターム	火,金	3	講義	山本　征法	自然科学系（工）	41	03
89	コア	B	244G5502	数学基礎A2	1	第2学期	第4ターム	水	1	講義	劉　雪峰	自然科学系（理）	41	03
90	コア	B	244G5504	数学基礎B2	1	第1学期	第4ターム	水	2	講義	田中　環	自然科学系（理）	41	03
91	コア	B	244G5506	数学基礎B2	1	第1学期	第4ターム	木	3	講義	橋詰　健太		41	03
92	コア	B	244G6513	基礎数理Ａ ⅠⅠ	2	第2学期	第4ターム	火,金	4	講義	高橋　剛	自然科学系（工）	41	03
93	コア	B	244G6514	基礎数理Ａ ⅠⅠ	2	第2学期	第4ターム	火,金	1	講義	永幡　幸生	自然科学系（工）	41	03
94	コア	B	244G6515	基礎数理Ａ ⅠⅠ	2	第2学期	第4ターム	月,木	4	講義	酒匂　宏樹	自然科学系（工）	41	03
95	コア	B	244G6516	基礎数理Ａ ⅠⅠ	2	第2学期	第4ターム	月,木	4	講義	管野　政明	自然科学系（工）	41	03
96	コア	B	244G6517	基礎数理Ａ ⅠⅠ	2	第2学期	第4ターム	火,金	3	講義	山本　征法	自然科学系（工）	41	03
97	コア	C	休講	基礎情報論	2					講義			10,38	03
98	コア	C	242K0475	教育情報論	1	第1学期	第2ターム	水	4	講義	後藤　康志	教育基盤機構	40	23
99	コア	C	243K0476	教育情報論	1	第2学期	第3ターム	水	4	講義	後藤　康志	教育基盤機構	40	23
100	コア	C	244K0385	教育情報論	1	第2学期	第4ターム	水	4	講義	下保　敏和	人文社会科学系（教育）	40	23

101	コア	C	休講	情報処理概論Ⅰ	2					講義			10	03
102	コア	C	休講	情報処理概論Ⅱ	2					講義			10	03
103	コア	C	240S0540	情報産業論	2	第2学期	第3,4ターム	金	3	講義	清野　和司	非常勤講師	10	04
104	コア	C	242S0541	情報社会論	2	第1学期	第2ターム	火,金	5	講義	田中　環	自然科学系（理）	10	03
105	コア	C	240M1402	医学情報学(応用)	0.5	第1学期	集中	-	-	講義	赤澤　宏平	医歯学総合病院	82	14
106	コア	C	242T4021	データ構造とアルゴリズム	2	第1学期	第2ターム	金	1,2	講義	高橋　俊彦	自然科学系（工）	10	04
107	コア	C	243T4050	人工知能基礎	2	第2学期	第3ターム	月,木	2	講義	山崎　達也	自然科学系（工）	10	04
108	コア	C	243T7061	人工知能基礎	2	第2学期	第1ターム	月,木	2	講義	山崎　達也	自然科学系（工）	10	04
109	コア	C	243T0202	知能情報システム概論	1	第2学期	第3ターム	木	2	講義	阿部　貴志	自然科学系（工）	49,10	13
110	コア	C	244T3048	ネットワーク工学	2	第2学期	第4ターム	月2,木1	-	講義	中野　敬介	自然科学系（工）	51	04
111	コア	C	244T4035	ネットワーク工学	2	第2学期	第4ターム	月2,木1	-	講義	中野　敬介	自然科学系（工）	51	04
112	コア	C	240G3044	情報処理概論Ａ Ⅰ	2	第1学期	第1,2ターム	水	5	講義	齋藤　裕	BDA研究センター	10	03
113	コア	C	240G3529	情報処理概論Ａ ⅠⅠ	2	第2学期	第3,4ターム	水	5	講義	齋藤　裕	BDA研究センター	10	03
114	コア	C	241G3023	情報リテラシー概論	2	第1学期	第1ターム	金	4,5	講義	須川　賢洋	人文社会科学系（法）	10	01
115	コア	C	240G3048	人工知能入門	2	第1学期	第1,2ターム	木	5	講義	山崎　達也	自然科学系（工）	10	03
116	コア	C	240S2546	計算物理学A	2	第2学期	第3,4ターム	月	3	講義	松尾　正之	自然科学系（理）	43	04
117	コア	D	240K1309	情報数学I	2	第1学期	第1,2ターム	月	2	講義	伏木　忠義	人文社会科学系（教育）	41	04
118	コア	D	240K1310	情報数学II	2	第2学期	第3,4ターム	月	2	講義	伏木　忠義	人文社会科学系（教育）	41	04
119	コア	D	240K2108	情報基礎及び実習	2	第2学期	第3,4ターム	水	4,5	実習	金子　岳史		15	14
120	コア	D	243M8341	医療情報学	1	第2学期	第3ターム	水	3	講義	近藤　世範	医歯学系（医保）	87	24
121	コア	D	240T0203	コンピュータ基礎	1	第1学期	第1,2ターム	火	4	演習・講義・実習	飯田　佑輔	自然科学系（工）	10	13
122	コア	D	240T0505	コンピュータ基礎	1	第1学期	第1,2ターム	木	2	演習・講義・実習	岩城　護	自然科学系（工）	10	13
123	コア	D	242T3022	ディジタル回路	2	第1学期	第2ターム	水	1,2	講義	鈴木　孝昌	自然科学系（工）	51	04
124	コア	D	242X2004	データサイエンス実践 B	2	第1学期	第2ターム	月,木	3	講義	熊野　英和	自然科学系(創生)	75	13
125	コア	D	（全科目）	データサイエンス基礎演習	2					演習			10	01
126	コア	D	240S2547	計算物理学B	2	第2学期	第3,4ターム	火	3	講義	江尻　信司	自然科学系（理）	43	04
127	コア	E	241S0554	計算機演習A	1	第1学期	第1ターム	月	1	演習	蛭川　潤一	自然科学系（理）	41	03
128	コア	E	242S0557	計算機演習B	1	第1学期	第2ターム	月	1	演習	蛭川　潤一	自然科学系（理）	41	03
129	コア	E	243S1506	プログラミング概論A	1	第2学期	第3ターム	木	4	講義	山田　修司	自然科学系（理）	41	03
130	コア	E	244S1512	プログラミング概論B	1	第2学期	第4ターム	木	4	講義	山田　修司	自然科学系（理）	41	03
131	コア	E	241T3020	プログラミングＢⅠ	2	第1学期	第1ターム	金	1,2	演習・講義・実習	村松　正吾	自然科学系（工）	51	04
132	コア	E	243T0205	プログラミング基礎Ⅰ	2	第2学期	第3ターム	火	3,4	演習・講義・実習	阿部　貴志	自然科学系（工）	10	13
133	コア	E	243T0506	プログラミング基礎Ⅰ	2	第2学期	第3ターム	火,金	1	演習・講義・実習	堀　潤一	自然科学系（工）	10	13
134	コア	E	休講	プログラミング基礎Ⅰ	2					演習・講義・実習			10	13
135	コア	E	244T0206	プログラミング基礎Ⅱ	2	第2学期	第4ターム	火	3,4	演習・講義・実習	金　ミンソク	自然科学系（工）	10	13
136	コア	E	244T0507	プログラミング基礎Ⅱ	2	第2学期	第4ターム	水	1,2	演習・講義・実習	堀　潤一	自然科学系（工）	10	13
137	コア	E	休講	プログラミング基礎Ⅱ	2					演習・講義・実習			10	13
138	コア	E	241X2003	データサイエンス実践 A	2	第1学期	第1ターム	月,木	3	講義	熊野　英和	自然科学系(創生)	75	13
139	コア	E	休講	データサイエンスのためのPython入門	1					演習			10	03
140	コア	E	休講	データサイエンスのためのPython入門	1					演習			10	03
141	コア	F	241S1520	プログラミング演習A	1	第1学期	第1ターム	木	5	演習	齋藤　裕	BDA研究センター	41	04
142	コア	F	242S1530	プログラミング演習B	1	第1学期	第2ターム	木	5	演習	齋藤　裕	BDA研究センター	41	04
143	コア	F	244S1547	オペレーションズ・リサーチ実習	1	第2学期	第4ターム	火,金	5	実習	山田　修司	自然科学系（理）	41	04
144	コア	F	241T4010	プログラミングＡⅠ	2	第1学期	第1ターム	水	1,2	演習・講義・実習	上野　雄大	自然科学系（工）	10	04
145	コア	F	241T7006	実践プログラミングI	2	第1学期	第1ターム	月3,金2	-	演習・講義・実習	堀　潤一	自然科学系（工）	10	13
146	コア	F	242T3021	プログラミングＢⅠⅠ	2	第1学期	第2ターム	木	1,2	演習・講義・実習	村松　正吾	自然科学系（工）	51	04
147	コア	F	242T4011	プログラミングＡⅠⅠ	2	第1学期	第2ターム	水	3,4	演習・講義・実習	上野　雄大	自然科学系（工）	10	04
148	コア	F	242T7007	実践プログラミングII	2	第1学期	第2ターム	火1,金2	-	演習・講義・実習	堀　潤一	自然科学系（工）	10	13
149	コア	G	242L3404	情報セキュリティと法Ⅰ	2	第1学期	第2ターム	水	3,4	講義	須川　賢洋	人文社会科学系（法）	34	04
150	コア	G	243L3405	情報セキュリティと法Ⅱ	2	第2学期	第3ターム	水	3,4	講義	須川　賢洋	人文社会科学系（法）	34	04
151	コア	G	243T0006	情報セキュリティ概論	1	第2学期	第3ターム	水	1	講義	佐々木　重信	自然科学系（工）	49	13
152	コア	G	241G3045	サイバーセキュリティと情報倫理	2	第1学期	第1ターム	他	-	講義	松本 多恵	DX推進機構	10	03
153	コア	G	241G3046	サイバーセキュリティと情報倫理	2	第1学期	第1ターム	他	-	講義	松本 多恵	DX推進機構	10	03
154	コア	G	休講	コンピュータセキュリティ入門	2					講義			10	03
155	コア	G	休講	コンピュータセキュリティ入門	2					講義			10	03
156	コア	H	240G3901	データサイエンス・インターンシップ（事前・事後指導）	2	第1学期	集中	-	-	演習	山田　修司	自然科学系（理）	10	05
157	コア	H	240G3902	データサイエンス・インターンシップ	6	第1学期	集中	-	-	実習	山田　修司	自然科学系（理）	10	05

【参考】

新潟大学「全学分野横断創生プログラム（NICEプログラム）」事業ロードマップ

事業内容区分		取組内容	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
1．事業基盤	（1）事業設計 事業実施体制 プログラム設計	準備（事例調査）	メジャー・マイナー制 に関する先進事例（国内・国外のグッド・プラクティス） の調査・分析	→			
		設備	新NBAS（仮称） 等のシステム改修及びオンライン授業の推進に関連する施設・設備等を準備する。	システムの改修	→	→	→
		人員配置		・事業推進のためのアカデミックコーディネーター3名（特任教員2名、特任専門職員1名）、ハイブリッド型大学教育システム構築担当の特任教員1名、教学マネジメント（IR） 担当の特任教員1名を配置する。	→	→	→
		事業ホームページ作成	事業ホームページ作成、プログラム説明用埋め込み動画作成	ホームページ更新	→	→	→
		情報発信			・シンポジウムまたはFD等を実施し、学内外に向けて事業成果・課題を広く共有する。	→	→
						・学生を中心とした情報発信活動により、高校生や初年次学生、社会や企業に向けた情報発信を行う。	→
							・最終総括シンポジウム及び書籍の刊行等を実施し、学内外に向けて事業成果・課題を広く共有する。
	（2）教育プログラムの内容	マイナー学修パッケージの整備	教務専門委員会において、具体的な「マイナー学修パッケージ」の提供の詳細を議論し、具体的な制度設計を進める。	・「マイナー学修パッケージ」の段階的導入の開始 ・マイナー学修登録者数の確認	・「マイナー学修パッケージ」の段階的導入を促進	・「マイナー学修パッケージ」の段階的導入を加速	・「マイナー学修パッケー・ジ」の本格展開
		学修創生型マイナーの実施、指導	学修創生型マイナー・プログラムの設計	実施、指導	→	→	→
	（3）改善点	IR分析による教学マネジメント			教育戦略統括室による教学IR分析と学内へのフィードバック（FD） を実施し、教学マネジメントサイクルの試行的な運用を行う。	教育戦略統括室による教学IR分析と学内へのフィードバック（FD） を実施し、教学マネジメントサイクルの運用を行う。	→
		自己評価		・当該年度の本事業の実施状況について自己評価を行い、学内外に報告後、次年度の計画にフィードバックする。	→	→	→
		外部評価			「外部評価委員会」を設置して外部評価を行う（中間評価）。	「外部評価委員会」による外部評価を行う（中間評価）。	「外部評価委員会」による外部評価を行う（最終評価）。
2.学修成果の評価	教学IR・学修成果の可視化	ディプロマサプリメント		ディプロマサプリメントの調査、準備	ディプロマサプリメントの設計、発行	ディプロマサプリメントの改善・継続	→
		成績・単位の可視化			GPAと取得単位数の可視化	GPAと取得単位数の可視化の改善	メジャーとマイナーに関するGPAと取得単位数の可視化
		学生へのアンケート・インタビュー			アンケート、インタビュー実施および分析結果の報告	→	→
3.学修支援	アカデミック・アドバイジング 学修デザイン相談	アカデミック・アドバイジング 学修デザイン相談			アカデミック・アドバイザーによる履修指導を定期的に実施	→	→
4.教育制度（授業内容）	学修創生型マイナー支援科目の開設と実施	プログラムのコア科目（分野横断デザイン、分野横断リフレクション）の開講	・「分野横断デザイン」の授業設計	・「分野横断デザイン」（1,2年次科目）の開講、ルーブリック作成	→	→	→
					・「分野横断リフレクション」の授業設計	・「分野横断リフレクション」（ 3,4年次・集大成科目） を開講	→
5.企業・社会との接続	大学教育と社会・企業との接続	大学教育と社会・企業との接続		ミニレクチャー準備	分野横断デザインにおいてミニレクチャー実施	→	→
						・学生を中心とした情報発信活動により、社会や企業に向けた情報発信を行う。	→
6.高大接続	高等学校、高校生、保護者等への広報	高等学校、高校生、保護者等への広報	・パンフレット配布	→	→	→	→
				・オープンキャンパス出展	・オープンキャンパス出展	・オープンキャンパス出展 ・学生を中心とした情報発信活動により、高校生に向けた情報発信を行う。	・オープンキャンパス出展 →

令和６年度外部評価結果

令和６年度新潟大学「全学分野横断創生プログラム（NICE プログラム)」事業
「外部評価委員会」日程

日 時：令和６年９月 18 日（水）10 時 00 分～12 時 00 分
会 場：新潟大学総合教育研究棟 D 棟１階　大会議室

次　第
１．開会挨拶

２．外部委員紹介

３．委員長の選出

４．事業実績報告
　１）事業基盤
　２）学修成果
　３）学修支援
　４）教育制度（授業内容）
　５）企業・社会との接続
　６）高大接続

５．意見交換（事業評価）

６．総合評価および評価委員講評

７．オブザーバーコメント

８．閉会挨拶

令和６年度　外部評価委員名簿

氏名	所属	職名
木村　治生	ベネッセ教育総合研究所	主席研究員
清水　栄子	愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室	准教授
田中　一孝	桜美林大学 リベラルアーツ学群	准教授
徳武　裕一	一般社団法人新潟県経営者協会	専務理事
鷲尾　雄慈	新潟明訓高等学校	新潟明訓高等学校進路指導 アドバイザー 元新潟県立長岡向陵高等学校長 大学教育等推進事業委員会短期大学部会委員

事業評価担当

１）事業基盤 ･･･････････････････ 全委員
２）学修成果 ･･･････････････････ 木村委員
３）学修支援 ･･･････････････････ 清水委員
４）教育制度 ･･･････････････････ 田中委員
５）企業・社会との接続･･･････ 徳武委員
６）高大接続 ･･･････････････････ 鷲尾委員

令和６年度新潟大学「全学分野横断創生プログラム（NICE プログラム）」事業
外部評価（実地審査全体評価）

外部評価委員会委員長　清水　栄子
（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）

実地審査全体評価：Ａ

コメント

評価できる点

・このプログラムの開始当初は、学内でもこのプログラムの位置づけ、認知度は高くはなかった。しかし現在では、入学式での学長・副学長による説明、HP での発信、また「六花」等の資料の最初に NICE プログラムが掲載されるなど、学内での認知度が上がっていることは評価できる。加えてホームページ等による学外への広報についても評価できる。
・当初のロードマップに書かれていることは達成できている。
・学修成果、教育制度、学修支援についてのシステムは構築できている。

より一層の改善・進展が望まれる点

・高大接続、企業との連携等については、来年度以降発足予定の「未来教育推進コア機構」による連携が期待される。
・上述の学修成果等のシステムの構築はできているが、活用に至っていない。構築して終わりにならないようどう活用していくのかを検討いただきたい。

その他、コメント

・対象学部を人文・経済・法・工・農学部をコアとするシフトにしてもよいのではないか。

学修成果　担当	木村　治生　委員

全体評価：A

学修成果：S

コメント

評価できる点

・本プログラムの取組は、中央教育審議会答申「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」や中央教育審議会大学分科会「教学マネジメント指針」「将来社会を見据えた高等教育の在り方（中間まとめ)」などで重要性が示されている分野横断の学びや多様な資質・能力の育成を実現する教育の推進に合致している。社会課題の解決に分野の枠を超えた専門知の組合せが求められる時代に必要な人材の育成を進めるうえで有益な取組であり、他大学のモデルにもなるプログラムだと評価できる。

・本プログラムは、「新潟大学将来ビジョン 2030」【目標 1-1】（社会とつながった学修者本位の教育システムの構築）や中期目標・中期計画（令和 4～9 年度）【⑥－1】（メジャー・マイナー制を利用した複眼的視野を持った人材養成）で具体的な目標が掲げられており、全学で取組むべき重要度の高い施策に位置づけられている。また、本事業を進める５年間で、大学ホームページや大学案内 2025 において最初のページに取組が紹介されるようになるなど、新潟大学の教育を特色づけるものになったと認められる。学長・担当副学長のリーダーシップの下で事業の整備が進められ、関係するスタッフが一体となって本プログラムを推進している。

・事業実施体制、教育プログラムの内容、アカデミックアドバイザー（AA）による学修支援、学修成果の可視化など、令和 5 年度から 6 年度にかけて一層の充実が図られた。課題を明確にし、PDCA を回して課題への対応を行っており、現行の努力を継続すれば、本事業の目的を達成することが可能だと考える。

・具体的な成果としては、令和 5 年度までと比べて履修者数が大幅に増加したことが挙げられる。令和 6 年度の入学式オリエンテーションで学長・副学長が入学生・保護者に広報したこと､それを受けて 900 名の新入生がガイダンスに参加したことなど、入学段階での施策が厚みを増した。また、学部単位で FD を実施し協力を得るなど、履修者増加のための工夫や努力が行われている。

・令和 6 年度においては、本プログラムに学生が積極的に参加する様子が顕著になった。SA として参加、学び合いの機会の創出、SNS などでの積極的な外部発信などが進展しているが、こうした学生自身による活動は学修者本位の教育の理念にも合致する。

・学修成果に関しては、令和 5 年度までの取組に加え、学務情報システム（NBAS）の改修やディプロマサプリメントの整備が進められた。学務情報システムは、令和 4 年度から段階的に整備され、運用がレベルアップしている。このシステムによってマイナ

ー・プログラムが管理されることで、学生が認定申請しやすくなるだけでなく、学務担当職員や教員の利便性も向上し、制度の持続可能性が高まった。また、「アセスメント・サポートシステム」の開発など、当初の予定には示されていなかった教学マネジメントのための取組が拡充された。学修成果の可視化に関する調査・分析は、着手して間もないが、成果を示すための型ができている。これらの取組は、学生の学修成果および本プロジェクトの成果を可視化するうえで十分な機能を果たし、一部に当初予定していた実行とその改善の枠を超えるものも含まれており、現行の努力を継続すれば事業の目標を達成できる見通しが立っていると判断できる。

より一層の改善・進展が望まれる点

・大学ホームページや大学案内、本プログラムのホームページやSNSでの発信など、関係者が広報を積極的に行っている様子は確認できる。しかし一方で、こうした取組を高校教育関係者がどの程度認知しているかに関しては、まだ十分とはいえない面もある。高大接続の観点から、高校教育の現場に向けた発信をさらに充実させてほしい。
・同様に、卒業生を受け入れる県内企業の認知度も、十分とは言えない。ディプロマサプリメントで記載されている内容は企業にとっても有益な情報であり、就職・採用などの活動にもっと活用してはどうかという声もある。今後、本プログラムを履修した卒業生が輩出されるので、学んだことが卒業後の活躍にどう生かされるのかを追跡するようなことも考えられる。学んだ成果を社会にどうつなげていくかという高大接続の観点での取組を検討してほしい。
・今後さらにマイナー・プログラムの質保証の仕組みを充実させるとのことだが、マイナーにおける学生の学びは多様であり、さまざまな困難も予想される。どのような目標を定め、評価を行うかはプログラム評価の在り方を考えるうえで参考になるので、積極的にプロセスと結果を開示してほしい。

その他

・以下は、これまでの成果を生かしたさらなる発展として期待する事項を記載する。
・ディプロマサプリメントの記載事項が大幅に増加し、マイナーの学修が別に表示されることで、マイナー履修の成果も把握しやすくなった。レーダーチャートでわかりやすく表示する工夫も良い点である。こうした学修成果の可視化に関しては、本事業のロードマップに掲げた目標を完遂していると見なすことができる。一方で、学生の成長という最終的な目的を考えると、こうしたツールをいかに利用するかが今後、重要になる。学生がこれらのツールを使って自らの学修を振り返るような活動を充実していただくことを期待する。
・学修創生型マイナーで行われている「分野横断デザイン」と「分野横断リフレクション」の取組は、学生が主体的に学修を進めるうえで有効な試みだと考える。この取組

を参考にして、学生自らが学習をデザインし・リフレクションする機会を学部単位にも広げられると素晴らしい。

・こうした学修者主体の学修成果を可視化することは、大学教育全体にとっても重要だと考える。学修成果の可視化に関する調査・分析では有意義な結果が得られており、継続して調査・分析を行い、その成果を発信してほしい。

・文部科学省の事業は最終年度となるが、本事業の終了後も、得られた知見や人材、仕組みや制度などを生かして、継続的に分野横断の学びの拡大を図り、学生の資質・能力の向上に努めていただくことを期待する。

学習支援　担当	清水　栄子　委員

全体評価：A

学修支援：A

コメント

評価できる点

当初計画に基づき事業が実施されており，全学的な取り組みへと徐々に発展してきている本プログラムのこれまでの取組みが他大学の今後の取組みの参考になるものと考えます。具体的に評価できる点は以下の通りです。

・実施体制について、「未来教育開発部門」の発足をはじめとして、事業の実施・推進体制が強化されている。
・学長・副学長をはじめとした全学的な取り組みに発展している。
・継続的な運用を視野に入れた規程等の整備が進んでいる。
・本プログラムの実践について，文部科学教育通信への連続投稿や日本アカデミック・アドバイジング協会誌などへの外部発信が行われている。
・NICE プログラムオフィスの移転により，学生の利便性を高めている。
・アカデミック・アドバイジングによる学習相談については、事前予約を優先としながらも、飛び込みの場合も柔軟に対応している。そのほか、相談者のニーズに基づいた支援を提供する工夫が見られる。
・アカデミック・アドバイジングについてもマニュアルの作成と改訂を行い，事業終了後の継続的な取り組みに向けて具体的に動いている。
・これまでの学修相談の事例をデータベース化しており，分類等について継続的に見直しを行うことで，今後活用できるよう取り組まれている。
・SA によるピアサポート体制による学びの支援が始まっており，マニュアルの検討も進められている。

より一層の改善・進展が望まれる点

・評価委員会でも報告されていましたが，学修成果，教育制度，学修支援についてのシステムは構築されていきている。今後は活用に向けて取り組んでいってほしい。
・アカデミック・アドバイジングについては既に活用の域に入っている。アドバイジングはあくまで学生の主体性を促進する支援であるため，最終的には学生自身が自律的に学習に向かえるような支援として今後発展していくような取り組みを期待したい。

教育制度（授業内容）　担当	田中　一孝　委員

全体評価：S

教育制度（授業内容）：A

コメント

評価できる点

【事業基盤について】

・メジャー・マイナー制の広報活動により、入学式のオリエンテーションや新入生向けガイダンスでの周知が功を奏し、履修者が増加していることは、広報と履修支援体制が機能している証拠です。HP のトップに広報が行われ、また学長が本プログラムに言及するなど、学内には十分浸透していると考えられます。

・工学部や経済科学部など、特定の学部での履修者増加は学部長や幹部教員の積極的な対応が寄与しており、学内の協力体制が構築されている点が評価されます。

・学内の各種ミーティングで成果や分析を共有する「教学マネジメントサイクル」が実行され、プログラムが着実に改善されています。

【教育制度】

・分野横断デザインの履修生が急増していることは、今後、学修創生型マイナーが飛躍的に発展することが予想でき、非常に楽しみです。

・分野横断リフレクションの導入により、学生の創造的思考力を高めることに成功しており、その成果が他大学との比較でも優れている点は、教育プログラムの質が向上していることを示しています。

より一層の改善・進展が望まれる点

【事業基盤について】

・ディプロマサプリメントなどの仕組みが企業に十分に周知されてない、また学内でも積極的な活用がされていない点は課題ですが、これは先進的な取り組みである以上仕方ないとも言えます。我が国の教育改善を今後も先導していただきたいと思います。

【教育制度】

・学修創生型マイナー学生が優れた学習成果を得ていることは、十分に説明されていると思います。おそらくパッケージ型マイナーの学生もまた、優れた学習成果を得ていると思いますので、そうした側面にも着目していただきたいと思います。

・メジャー・マイナー制度が当たり前になったとき、そうした仕組みに合わない学生、マイナープログラムにおいて学修不振の学生にも目を向けながら、制度を改善する必要があるかと思います。

企業・社会との接続　担当	徳武　裕一　委員

全体評価：A

企業・社会との接続：A

コメント

評価できる点

・全体として計画通りに態勢整備と取組みが行われるとともに、履修者数も増加しており、「新しい学びのかたち」が着実に創造されているものと思われます。
・そのうえで課題や今後の方針が明確化されており、これらに基づき取組みが継続されることにより本事業の目的が達成される事が期待されます。
・担当項目（大学教育と企業・社会の接続）についても、各取組みの内容や進捗状況について、所期の計画と同等の取組が行われているものと思われます。

より一層の改善・進展が望まれる点

・上記のとおり、本事業の実施態勢の整備や実施状況については計画通りの進捗や成果が現れていると思われる事から、特に大学教育と企業・社会の接続について次のような観点からの進展が望まれると考えます。

ⅰ　ディプロマ・サプリメントに関して事業説明書 10 ページの 1 行目に「就職活動の場面等において真に有効なものとなるよう学生にとっての利用法の周知も課題です」とありますが、企業においてもディプロマ・サプリメントに関する認知は進んでおらず、採用等に活用されている事例は少ないと思われます。

企業の採用や人材育成や人材活用（配置）の中に於いてもディプロマ・サプリメントが活用されれば、ミスマッチの防止や学生のキャリア開発、能力の発揮が促進され、学生・企業双方にとって大きなメリットとなるばかりでなく、本プログラムの成果が社会で発揮されることにも繋がると考えられます。

このため、ディプロマ・サプリメントやその活用方法について、社会や企業等にも周知を図るような取組みがあれば良いと思います。

ⅱ　本プログラムにより実社会において複眼的視野や長期的観点から地域社会や企業の課題の解決を牽引する人材が輩出されるものと期待されますが、そうした人材が十分に能力を発揮し活躍できるよう、受け入れる社会や企業にも場や環境が整備されている事が望まれるところであると考えます。

そのため、一般社会や企業に向けた本プログラムの周知や理解促進を図っていくような取組みの拡充についても検討して頂けると良いと思います。

その他

・本事業については冒頭にも記載したとおり「新しい学びのかたち」を創造するものであると理解していますが、大学と言う大きくなおかつ多数のステークホルダーが居る組織において、しかも伝統的に確立されたものがある中で新たにこうしたことを進める態勢を造り成果に結びつけていく事は大変なご苦労があったものと思います。
・そのような観点から、本事業を進めて来られた関係者の皆様のご努力・ご苦労に敬意を表すものであります。

高大接続　担当	鷲尾　雄慈　委員

全体評価：A

高大接続：A

コメント

評価できる点

文理横断で学修の幅を広げ、広さと深さを両立する教育プログラムが開発され、理解・修得した分野を融合・統合する学びのプロセスを重視するプログラムとなってきており、メジャー・マイナーのクロス効果により自発的で主体的な学びの姿勢が多数の学生に身につくよう評価方法を工夫する科目設定もされてきた。これらの取り組みが、全学一体の共通認識のもとに進められていることも評価できる。履修ガイダンスに約 900 人が参加するなど、本プログラムへの関心も高まっている。

これらの取り組みにより、マイナー履修者数㉑527→㉒501→㉓718→㉔1,488、マイナー履修登録者数㉑719→㉒666→㉓1,066→㉔2,716 と推移しており、学生への認知が進み、特に、人文・法・経・理・工学部などで、本プログラムを履修する学生が増加している。

より一層の改善・進展が望まれる点

履修の専門性が高い医・歯・教育学部以外の、人文・法・経・理・工学部などの学びに対して、本プログラムの履修が有効であり、今後はこれらの学部の学生が活用しやすい履修形態を開発し、履修を勧めていくことが現実的である。

本プログラムの周知を進める取り組み（出前講義、SNS、学内広報誌、オープンキャンパス、新大ＷｅｅＫ等）は行われているが、具体的な成果を数値化して評価されていないので、数値化できる事項は数値化して評価する必要がある。

高校現場では、未だに、高校生・高校教員・保護者の認知が進んでいると感じられない。特に、県外高校に対して、他の国立大学との差別化するアピールポイントとして、本プログラムは有効であることから、県外高校の高校生と教員に対しての広報活動を推進していただきたい。

＜参　考＞

知識集約型社会を支える人材育成事業（文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム）
新潟大学「全学分野横断創生プログラム（NICE プログラム）」事業　外部評価要項

新潟大学は、第４期中期目標期間にメジャー・マイナー制の全学的な普及を進めるべく教育改革を進めている。本事業はその推進力となるものであり、確実な成果が期待されているところである。そこで、本事業に関して多面的な評価体制を整備する。即ち、「外部評価」、「事業全体の評価」、「各副専攻プログラムの評価」である。それぞれの評価によって得られた知見を学長の意思決定に活用し、現場の教職員とトップレベルの意思決定の統合を図る。これにより事業の適切な運営・実施を目指す。

本評価要項は、このうち「外部評価」の実施方法について定めたものである。外部評価は、本学の学生において分野横断型教育システムの履修が一定程度進んだ時期が望ましいため、事業期間の中間年度となる令和４年度から開始する。

１．外部評価の概要

高等教育の専門家および県内の企業や高等学校の関係者等、本事業の各側面に関連して高い知見を有する外部有識者から構成される外部評価委員会を設置する。当該委員会は「事業説明書」に基づいて全体的な評価（「事業設計」、「教育プログラムの内容」、「改善点」の観点）と、事業の各側面（学修成果の評価、学修支援、教育制度、企業・社会との接続、高大接続）に関する評価を実施する。

「事業説明書」には、本事業の計画と実施状況等を熟知している本学教職員が説明書作成時点（令和６年８月）までの事業の実施状況を記載し、進捗状況の自己評価を明示する。

２．外部評価の方法

（１）事業説明書

事業説明書は、事業の実施内容とそれに基づく自己評価により構成される。事業を実施する本学担当教員は、事業説明書の中に、（２）に示す担当業務区分毎に事業の実施内容を記載し、その進捗状況について下表による４段階の自己評価を行う。

（２）事業内容区分

①事業基盤

事業設計（事業実施体制、プログラム設計）、教育プログラムの内容、改善点

②学修成果の評価

ディプロマ・サプリメント、成績・単位の可視化、学生へのアンケート・インタビュー

③学修支援

アカデミック・アドバイジング、学修デザイン相談

④教育制度（授業内容）

学修創生型マイナー支援科目の開設と実施

⑤企業・社会との接続

大学教育と社会・仕事との接続

⑥高大接続

高等学校、高校生、保護者等への広報

区分	自己評価
1	所期の計画以上の取り組みが行われている
2	所期の計画と同等の取り組みが行われている
3	所期の計画に比べ、全体の取り組みが遅れているが、一部は同等の取り組みが行われている
4	所期の計画に比べ、取り組みが遅れている

（3）外部評価委員会

外部評価委員会は、本学教職員が作成した「事業説明書」に基づき、事前コメント、および、実地審査での評価を行い、総合評価を行った上で、以下の区分により評価の結果を決定する。

区分	評価
S	計画を越えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。
A	計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。
B	一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組があり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。
C	取組に遅れが見られるなど、総じて計画を下回る取組であり、事業の目的を達成するためには、当初計画に基づく目標の早急な達成や事業規模の縮小等に向け、事業計画の抜本的な見直しが必要である。

４．評価結果の決定

外部評価委員による事前コメント及び実地審査の結果を基に総合評価を行う。評価結果において、総合評価が「C」とされた場合には、評価結果に対する本事業計画の見直し等の対応策を講じ、外部評価委員による再評価を行うこととする。

５．その他

（1）開示・公開等

①外部評価委員会の審議内容等の取り扱いについて

評価に係る審議は原則非公開とする。

②評価結果の公表等について

評価結果は、文部科学省へ報告されるとともに、新潟大学ホームページ本事業サイトへの掲

載等を行い社会へ周知するとともに、今後の事業推進等に活用する。

③委員等の氏名について

外部評価委員会の委員の氏名等については、評価結果の決定後に公表することとする。

（２）利害関係者の排除等

事業に以下の利害関係がある委員（以下の①～③に該当）は、事務局にその旨申し出ることとし、本事業の評価には参加させないこととする。

（利害関係があるとみなされる場合）

①委員が本学の専任又は兼任として在職（就任予定を含む）又は３年以内に在職していた場合

②委員が本学の役員として在職（(就任予定を含む）又は３年以内に在職していた場合

③その他、委員が中立・公正に評価を行うことが困難であると判断される場合

（３）情報の管理、守秘義務、事業結果報告書の使途制限

①評価の過程で知り得た個人情報及び本事業の評価内容に係る情報については、外部に漏らしてはならない。

②委員として取得した情報（「事業説明書」等の各種資料を含む）は、他の情報と区別し、「善良な管理者」の注意義務をもって管理する。

③評価にかかる資料等は、本事業の評価を行うことを目的とするものであり、その目的の範囲内で使用する。

（４）評価結果の活用

外部評価の結果は、他の評価の結果と合わせて教学 IR 体制のもとで分析するとともに、全学部・主専攻プログラムと教育基盤機構における未来教育開発部門と教学マネジメント部門が連携して、データに基づく議論を展開し、プログラム全体の改善を実施する。プログラムの現状と課題は迅速に大学執行部へ伝達され、教育及び経営の意思決定の指標として活用する。

以　上

【担当部署】
新潟大学教育基盤機構未来教育開発部門
NICE プログラム室
〒950-2181　新潟県新潟市西区五十嵐２の町8050
TEL：025-262-7168　FAX：025-262-6991
MAIL：kyoumu-minor@ge.niigata-u.ac.jp

おわりに

近年の高等教育における人材育成は、教育課程の柔軟化と、学生一人ひとりが明確な目的意識を持って学べる環境づくりが求められております。本学は、こうした動きに対応するため、早い段階で学位プログラム化を実現し、副専攻制度の展開を進めてまいりました。さらに、現在はメジャー・マイナー制という柔軟な学びの仕組みを整備し、運用を推進しております。

本事業は、この取り組みの要として、新たなマイナー・プログラムの開発やメジャー・マイナー制の学内定着に貢献してまいりました。学長・理事のリーダーシップのもと、事業スタッフ一丸となって取り組むことができましたのも、各学部長をはじめとする教職員の皆様のご理解とご協力のおかげであると深く感謝申し上げます。

本年度は、本事業に資金的支援をいただく最後の年度となります。これまでの成果を最大限に集約し、その成果を本学の教育のさらなる発展に生かしていけるよう、全力で取り組む所存です。最後の年度を悔いなく締めくくり、今後も新潟大学の教育の質を高め、学生たちの充実した学びに寄与してまいりたいと存じます。

令和６年 10 月

全学分野横断創生プログラム　プロジェクト実施責任者
教育基盤機構　教学マネジメント部門長　福島治

新潟大学教育基盤機構
未来教育開発部門
全学分野横断創生プログラム（NICE プログラム）
〒950-2181　新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町 8050 番地
TEL：025-262-7168　FAX：025-262-6991

新潟大学教育基盤機構
未来教育開発部門
全学分野横断創生プログラム（NICEプログラム）

〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地
TEL　025-262-7168
FAX　025-262-6991

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。